

國有林野 管理處分 (五) 產物賣拂

第一項ノ規定ニ依リ指定シタル期間内ニ收去ヲ終ラサル設備ハ之ヲ政府ノ所得トス

第六十條 賣拂ニ附帶シテ國有林野ノ使用又ハ貸付ヲ許可シタル場合ニ於テ賣拂契約ヲ變更又ハ解除シタルトキハ當該營林署長ハ其ノ使用ヲ禁止シ又ハ貸付ヲ解除スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ買受人ハ損害賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

附則

第六十一條 本令ハ大正四年九月一日ヨリ之ヲ施行ス
第六十二條 本令施行前締結シタル契約ニ付テハ仍從前ノ規定ヲ適用ス

第六十三條 國有林野產物賣拂規則、國有林野主產物年期賣拂規則、國有林野產物製品賣拂規則、國有林野產物製品年期賣拂規則、國有林野、產物及製品賣拂入札規則、國有林野、產物及製品賣拂代金延納規則、明治三十七年省令第三號、明治四十一年省令第二十一號及明治三十九年省令第二十五號中產物ノ賣拂ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

附則

(大正十年農商務省令第十三號)
本令ハ大正十年六月一日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行前提供シタル國債以外ノ有價證券ノ價格ノ算定及不足額ノ補充ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

附則

(大正十三年農商務省令第一號)
本令ハ大正十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行前締結シタル契約ニ付テハ仍從前ノ規定ヲ適用ス
附則 (大正十五年農林省令第二十三號)
本令ハ大正十五年十二月十五日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前締結シタル契約ニ付テハ仍從前ノ規定ヲ適用ス

國有林野產物賣拂手續

大正十五年十一月二十七日
林第三五九三號內訓

營林局署

第一章 通則

- 第一條 國有林野產物賣拂規則ニ依ル事務ハ別ニ定アルモノ外本手續ニ依リ之ヲ處理スベシ
- 第二條 賣拂單價ハ賣拂物件又ハ之ヲ原料トスル生產品ノ市場價格、事業費、利子、企業利益、生産歩合等ヲ因子トシ且既往賣拂ノ成果ヲ參酌シテ之ヲ評定スベシ
- 國有林野ノ地元住民ノ家用トシテ賣拂フベキ薪炭原木及副產物ニ付テハ特ニ必要ト認ムル場合ノ外既往三箇年ノ賣拂平均單價ニ依ルコトヲ得
- 採取ノ季節アル副產物ハ面積ヲ以テ賣拂フコトトシ既往ノ收穫ヲ參酌シテ數量ヲ見積リ之ニ依リ其ノ價格ヲ評定スベシ
- 前各項ノ賣拂單價又ハ價格算出ノ基礎ハ之ヲ賣拂決議書ニ明記スベシ
- 第三條 收穫豫定案ニ於テ一記入番號ニ掲上セルモノハ之ヲ分割シテ賣拂フコトヲ得ズ但シ特ニ分割賣拂ヲ有利トシ且殘存物件ノ賣拂ヲ困難ナラシムル虞ナキ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ
- 第四條 賣拂ニ當リテハ買受希望者ヲシテ成ルベク現場ニ

就キ物件ヲ熟覽セシムベシ

第五條 林道、貯木場等運材又ハ貯材ニ關スル設備ノ使用ハ之ヲ賣拂ノ條件ト爲スベシ但シ其ノ使用ヲ賣拂ノ條件ト爲シ難キ場合ニ在リテハ豫メ買受希望者ニ其ノ旨ヲ周知セシムベシ

第六條 部分林ノ木竹ヲ賣拂ハムトスルトキハ豫メ造林者ニ其ノ旨ヲ通知スベシ

第七條 部分林ノ木竹ヲ造林者以外ニ賣拂ヒタル場合ニ於テハ其ノ物件ノ所在地、種類、數量、價額其ノ他必要ナル事項ヲ造林者ニ通知スベシ

第八條 第六條ノ規定ハ委託林野ノ薪炭材又ハ社寺保管林ノ木竹ヲ賣拂フ場合ニ之ヲ準用ス

第九條 國有林野產物賣拂規則ニ規定シタル事項中重要ナル事項及契約ニ特約シタル事項ハ之ヲ契約書ニ明記スベシ

第十條 國有林野產物賣拂規則第十五條、第十八條第一項、第二十八條第一項、第四十一條第一項、第五十三條及第五十七條第一項ノ規定ニ依リ買受人ニ通知スル場合ニ於テハ配達證明郵便其ノ他適當ナル方法ニ依リ之ヲ爲スベシ

第二章 競争契約

第十一條 競争入札ニ依ル賣拂公告ニハ左ノ事項ヲ示スベシ
一 產物ノ所在箇所
二 賣拂番號(賣拂物件二口以上ナルトキ)
三 產物ノ種類及數量(採取ノ季節アル副產物ニ在リテハ採取面積)

國有林野產物賣拂手續

- 四 搬出又ハ採取ノ期間
- 五 入札並開札ノ場所及年月日時
- 六 郵便入札書ヲ送達スベキ場所及到達ヲ要スル年月日時
- 七 入札保證金及契約保證金ヲ定ムル率
- 八 代金延納ヲ許可スル場合ニ於テハ其ノ許可ヲ受ケル者ニ對スル保證金率及延納期間(分割引渡ノ場合ニ於テハ引渡物件毎ノ延納期間)
- 九 明細書、契約書案等閱覽ノ場所
- 十 郵便入札ヲ許サザル場合又ハ郵便入札ノミニ依ル場合ニ在リテハ其ノ旨
- 十一 前各號ノ外必要ト認ムル事項
- 第十二條 契約擔任官吏ハ豫メ郵便入札書受付簿ヲ備置キ郵便入札書ノ配達ヲ受ケタル都度其ノ到達日時及差出人ノ氏名又ハ名稱其ノ他必要ノ事項ヲ記載シ郵便爲替證書、日本銀行ノ預金部預金振込濟通知書、政府保管有價證券振込濟通知書又ハ營林局署ノ受託證書ヲ歳入歳出外現金出納官吏又ハ保管有價證券取扱主任官ニ交付シ入札書ハ封緘ノ儘保管シ入札ノ際郵便入札書受付簿ニ照合シテ之ヲ入札函ニ投入スベシ
- 第十三條 郵便入札ハ國有林野產物賣拂規則第十二條ノ條件ヲ具備セザル場合ト雖支障ナキ限り前條ノ取扱ヲ爲スベシ
- 第十四條 開札ノ場合ニ於テハ賣拂番號、入札金額及入札人ノ氏名又ハ名稱ヲ讀上ゲ之ヲ筆記スベシ
- 第十五條 落札人定マリタルトキハ即時契約ヲ締結スベシ落札人開札ニ立會ハズ其ノ他已ムヲ得ザル事由ニ依リ即時契約ヲ締結スルコト能ハザルトキハ相當ノ契約締結期

間ヲ定メ之ヲ落札人ニ通知スベシ
前項ノ期間ハ落札ノ日ヨリ二十日以内ニ於テ之ヲ定ムベシ

第十六條 落札人ノ入札書ハ契約書ニ之ヲ合綴スベシ
第十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ會計法第三十一條第二項ノ規定ニ依リ指名競争ニ付スルコトヲ得

一 當業者相連合シテ不當ノ競争ヲ爲サトスルノ虞アルトキ
二 不誠實又ハ不信用ノ者競争ニ加入シ不當ノ競争ヲ爲サトスルノ虞アルトキ
三 契約上ノ義務ニ違背アルトキハ政府ノ事業ニ著シキ支障ヲ來スノ虞アルトキ

第十八條 信用確實ト認メタル者ニ對シ指名競争入札ニ依リ賣拂フ場合ニ於テハ入札保證金又ハ契約保證金ヲ免除スルコトヲ得

第十九條 第二十二條ノ規定ハ指名競争契約ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三章 隨意契約

第二十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ會計法第三十一條第二項ノ規定ニ依リ隨意契約ニ依リ賣拂フ爲スコトヲ得

一 隨意契約ニ依ルトキハ時價ニ比シ著シク有利ナル價格ヲ以テ契約ヲ爲シ得ベキ見込アルトキ
二 第十七條ノ各號ノ場合ニ於テ指名競争ニ付スルコトヲ不利トスル特別ノ事由アルトキ

第二十一條 隨意契約ニ依リ賣拂フニシテ即時ニ代金ヲ納付スル場合又ハ契約ノ履行確實ナリト認メタル者ニ賣拂フ場合ニ於テハ契約保證金ヲ免除スルコトヲ得

シメ成ルベク物件引渡ニ關係ナキ者ヲシテ之ヲ爲サシムベシ

第三十一條 引渡又ハ跡地検査ヲ終リタルトキハ當該官吏ハ引渡領收證又ハ撤出若ハ採取済届書ノ餘白其ノ他ノ用紙ニ其ノ要領ヲ摘記捺印スベシ

第三十二條 事業施行上撤出又ハ採取ノ延期ヲ許可スルコト能ハザルコトヲ豫知シタル場合ニ於テハ賣拂契約ノ條件中ニ其ノ旨ヲ明示スベシ

第三十三條 營林署長必要ト認メタルトキハ撤出又ハ採取ノ爲入林スル者ニ對シ入林鑑札ヲ交付スベシ

第三十四條 營林局長契約擔任官吏タル場合ト雖營林署長ヲシテ左ノ事項ヲ處理セシムルコトヲ得

一 引渡ニ關スルコト
二 國有林野產物賣拂規則第二十九條第二項ノ規定ニ依ル處分ニ關スルコト
三 撤出又ハ採取ノ延期處分ニ關スルコト
四 國有林野產物賣拂規則第四十八條ノ承認ヲ爲スコト
五 國有林野產物賣拂規則第五十二條ノ規定ニ依ル處分ヲ爲スコト
六 國有林野產物賣拂規則第五十七條ノ規定ニ依リ斫伐又ハ採取ノ停止ヲ命ズルコト

國有林野產物賣拂規則第五十八條ノ規定ニ依リ斫伐又ハ採取ノ停止ヲ命ズルコト
國有林野產物賣拂規則第五十九條ノ規定ニ依リ斫伐又ハ採取ノ停止ヲ命ズルコト
國有林野產物賣拂規則第六十條ノ規定ニ依リ斫伐又ハ採取ノ停止ヲ命ズルコト

國有林野產物賣拂規則第六十一條ノ規定ニ依リ斫伐又ハ採取ノ停止ヲ命ズルコト
國有林野產物賣拂規則第六十二條ノ規定ニ依リ斫伐又ハ採取ノ停止ヲ命ズルコト
國有林野產物賣拂規則第六十三條ノ規定ニ依リ斫伐又ハ採取ノ停止ヲ命ズルコト

國有林野產物賣拂規則第六十四條ノ規定ニ依リ斫伐又ハ採取ノ停止ヲ命ズルコト
國有林野產物賣拂規則第六十五條ノ規定ニ依リ斫伐又ハ採取ノ停止ヲ命ズルコト
國有林野產物賣拂規則第六十六條ノ規定ニ依リ斫伐又ハ採取ノ停止ヲ命ズルコト

國有林野產物賣拂規則第六十七條ノ規定ニ依リ斫伐又ハ採取ノ停止ヲ命ズルコト
國有林野產物賣拂規則第六十八條ノ規定ニ依リ斫伐又ハ採取ノ停止ヲ命ズルコト
國有林野產物賣拂規則第六十九條ノ規定ニ依リ斫伐又ハ採取ノ停止ヲ命ズルコト

國有林野產物賣拂規則第七十條ノ規定ニ依リ斫伐又ハ採取ノ停止ヲ命ズルコト
國有林野產物賣拂規則第七十一條ノ規定ニ依リ斫伐又ハ採取ノ停止ヲ命ズルコト
國有林野產物賣拂規則第七十二條ノ規定ニ依リ斫伐又ハ採取ノ停止ヲ命ズルコト

國有林野產物賣拂規則第七十三條ノ規定ニ依リ斫伐又ハ採取ノ停止ヲ命ズルコト
國有林野產物賣拂規則第七十四條ノ規定ニ依リ斫伐又ハ採取ノ停止ヲ命ズルコト
國有林野產物賣拂規則第七十五條ノ規定ニ依リ斫伐又ハ採取ノ停止ヲ命ズルコト

國有林野產物賣拂規則第七十六條ノ規定ニ依リ斫伐又ハ採取ノ停止ヲ命ズルコト
國有林野產物賣拂規則第七十七條ノ規定ニ依リ斫伐又ハ採取ノ停止ヲ命ズルコト
國有林野產物賣拂規則第七十八條ノ規定ニ依リ斫伐又ハ採取ノ停止ヲ命ズルコト

國有林野產物賣拂規則第七十九條ノ規定ニ依リ斫伐又ハ採取ノ停止ヲ命ズルコト
國有林野產物賣拂規則第八十條ノ規定ニ依リ斫伐又ハ採取ノ停止ヲ命ズルコト
國有林野產物賣拂規則第八十一條ノ規定ニ依リ斫伐又ハ採取ノ停止ヲ命ズルコト

國有林野產物賣拂規則第八十二條ノ規定ニ依リ斫伐又ハ採取ノ停止ヲ命ズルコト
國有林野產物賣拂規則第八十三條ノ規定ニ依リ斫伐又ハ採取ノ停止ヲ命ズルコト
國有林野產物賣拂規則第八十四條ノ規定ニ依リ斫伐又ハ採取ノ停止ヲ命ズルコト

國有林野產物賣拂規則第八十五條ノ規定ニ依リ斫伐又ハ採取ノ停止ヲ命ズルコト
國有林野產物賣拂規則第八十六條ノ規定ニ依リ斫伐又ハ採取ノ停止ヲ命ズルコト
國有林野產物賣拂規則第八十七條ノ規定ニ依リ斫伐又ハ採取ノ停止ヲ命ズルコト

國有林野產物賣拂規則第八十八條ノ規定ニ依リ斫伐又ハ採取ノ停止ヲ命ズルコト
國有林野產物賣拂規則第八十九條ノ規定ニ依リ斫伐又ハ採取ノ停止ヲ命ズルコト
國有林野產物賣拂規則第九十條ノ規定ニ依リ斫伐又ハ採取ノ停止ヲ命ズルコト

國有林野產物賣拂規則第九十一條ノ規定ニ依リ斫伐又ハ採取ノ停止ヲ命ズルコト
國有林野產物賣拂規則第九十二條ノ規定ニ依リ斫伐又ハ採取ノ停止ヲ命ズルコト
國有林野產物賣拂規則第九十三條ノ規定ニ依リ斫伐又ハ採取ノ停止ヲ命ズルコト

國有林野產物賣拂規則第九十四條ノ規定ニ依リ斫伐又ハ採取ノ停止ヲ命ズルコト
國有林野產物賣拂規則第九十五條ノ規定ニ依リ斫伐又ハ採取ノ停止ヲ命ズルコト
國有林野產物賣拂規則第九十六條ノ規定ニ依リ斫伐又ハ採取ノ停止ヲ命ズルコト

國有林野產物賣拂規則第九十七條ノ規定ニ依リ斫伐又ハ採取ノ停止ヲ命ズルコト
國有林野產物賣拂規則第九十八條ノ規定ニ依リ斫伐又ハ採取ノ停止ヲ命ズルコト
國有林野產物賣拂規則第九十九條ノ規定ニ依リ斫伐又ハ採取ノ停止ヲ命ズルコト

國有林野產物賣拂規則第一百條ノ規定ニ依リ斫伐又ハ採取ノ停止ヲ命ズルコト
國有林野產物賣拂規則第一百零一條ノ規定ニ依リ斫伐又ハ採取ノ停止ヲ命ズルコト
國有林野產物賣拂規則第一百零二條ノ規定ニ依リ斫伐又ハ採取ノ停止ヲ命ズルコト

國有林野產物賣拂規則第一百零三條ノ規定ニ依リ斫伐又ハ採取ノ停止ヲ命ズルコト
國有林野產物賣拂規則第一百零四條ノ規定ニ依リ斫伐又ハ採取ノ停止ヲ命ズルコト
國有林野產物賣拂規則第一百零五條ノ規定ニ依リ斫伐又ハ採取ノ停止ヲ命ズルコト

國有林野產物賣拂規則第一百零六條ノ規定ニ依リ斫伐又ハ採取ノ停止ヲ命ズルコト
國有林野產物賣拂規則第一百零七條ノ規定ニ依リ斫伐又ハ採取ノ停止ヲ命ズルコト
國有林野產物賣拂規則第一百零八條ノ規定ニ依リ斫伐又ハ採取ノ停止ヲ命ズルコト

國有林野產物賣拂規則第一百零九條ノ規定ニ依リ斫伐又ハ採取ノ停止ヲ命ズルコト
國有林野產物賣拂規則第一百一十條ノ規定ニ依リ斫伐又ハ採取ノ停止ヲ命ズルコト
國有林野產物賣拂規則第一百一十一條ノ規定ニ依リ斫伐又ハ採取ノ停止ヲ命ズルコト

前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ保證人ヲ立テシムベシ

第二十二條 契約書ヲ作成セザル場合ニ於テ契約保證金ヲ必要トスルトキハ賣拂承諾ノ際之ヲ徵收スベシ

第二十三條 契約書ハ買受人確定ノ日ヨリ二十日以内ニ之ヲ作成スベシ

第二十四條 官公衙ヲ相手方トスル場合ニ於テハ條件ヲ具備シタル適宜ノ文書ニ依リ處分ヲ爲スコトヲ得

第二十五條 會計規則第一百五條又ハ第十六條ニ依ル賣拂ハ最後ノ競争入札ノ日ヨリ六箇月以後ニ於テハ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第四章 物件ノ引渡及撤出

第二十六條 引渡ハ代金完納又ハ擔保品提供濟ノ日ヨリ十五日以内ニ著手スベシ但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十七條 引渡ハ成ルベク其ノ物件ノ調査ニ關係ナキ者ヲシテ之ヲ爲サシムベシ

第二十八條 部分林ノ木竹ヲ賣拂ヒタル場合ニ於テハ買受人造林者ナルトキト雖官收民收ヲ通シタル全部ニ付撤出期間ヲ定ムベシ

第二十九條 部分林ノ木竹ヲ造林者以外ノ者ニ賣拂ヒタル場合ニ於テハ造林者ガ民收金ヲ領收セシコトヲ認メタル後其ノ引渡ヲ爲スベシ

第三十條 撤出又ハ採取ノ終了ヲ認メタルトキ、其ノ届出アリタルトキ又ハ撤出若ハ採取ノ期間經過シタルトキハ直ニ跡地検査ヲ爲スベシ

前項ノ検査ニハ成ルベク買受人又ハ其ノ代理人ヲ立會セ

隨意契約又ハ指名競争契約ニ依リ見積價格貳千圓ヲ超ユル木竹ノ賣拂ヲ爲サトスルトキ但シ會計規則第一百五條又ハ第十六條ノ規定ニ依リ賣拂フ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

隨意契約又ハ指名競争契約ニ依リ見積價格壹萬圓ヲ超ユル製品ノ賣拂ヲ爲サトスルトキ

土地ノ賣拂ヲ爲サトスルトキ見積價格百圓ヲ超ユル賣拂ヲ爲サトスルトキ

期間三箇年ヲ超ユル副產物ノ年期賣拂ヲ爲サトスルトキ

營林局長ノ認可ヲ受ケテ締結シタル賣拂契約ヲ變更又ハ解除セムトスルトキ但シ立木年期賣拂ノ場合ヲ除クノ外國有林野產物賣拂規則第五十三條ノ規定ニ依リ契約ヲ解除セムトスルトキハ此ノ限ニ在ラズ

國有林野產物賣拂規則第五十七條ノ規定ニ依リ契約ヲ變更又ハ解除セムトスルトキ

國有林野產物賣拂規則第五十四條第一項、第二項又ハ第五十八條第一項、第二項ノ規定ニ依リ代金ヲ還付又ハ控除セムトスルトキ

前項第一號乃至第五號ノ場合ニ於テハ何書ニ賣拂單價又ハ價格算出ノ基礎ヲ明記シ尙第一號ノ場合ニ在リテハ契約書案ヲ添附スベシ

第三十六條 營林署長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ之ヲ營林局長ニ報告スベシ

一 賣拂契約ヲ締結シタルトキ
二 賣拂契約ノ變更若ハ解除又ハ當初ノ契約數量ト異リタル數量ノ引渡ヲ爲シタルトキ但シ其ノ處理ニ付認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 營林署長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ之ヲ營林局長ニ報告スベシ

一 立木年期賣拂ヲ爲サトスルトキ

一 營林署長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ之ヲ營林局長ニ報告スベシ

一 立木年期賣拂ヲ爲サトスルトキ

一 營林署長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ之ヲ營林局長ニ報告スベシ

一 立木年期賣拂ヲ爲サトスルトキ

一 營林署長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ之ヲ營林局長ニ報告スベシ

一 立木年期賣拂ヲ爲サトスルトキ

一 營林署長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ之ヲ營林局長ニ報告スベシ

一 立木年期賣拂ヲ爲サトスルトキ

一 營林署長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ之ヲ營林局長ニ報告スベシ

國有林野 管理處分 (五) 產物賣拂

- 三 國有林野產物賣拂規則第十七條ノ規定ニ依リ入札ヲ取消シタルトキ
- 四 國有林野產物賣拂規則第五十二條ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シタルトキ
- 五 國有林野產物賣拂規則第五十七條ノ規定ニ依リ斫伐又ハ採取ノ停止ヲ命ジタルトキ
- 第三十六條ノ二 營林署長第三十四條第二項ノ規定ニ依リ處理シタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ當該國有林產物販賣所長ニ通知スベシ
- 第三十七條 營林局長ハ毎月二十日迄ニ、國有林產物販賣所長ハ毎月十日迄ニ左ノ事項ヲ農林大臣ニ報告スベシ
 - 一 前月末產物賣拂處分額及當年度處分額累計
 - 二 前月末製品現在高
- 第三十八條 當該國有林產物販賣所長ハ左ノ市場ニ於テ毎月木材及薪炭ノ相場及其ノ取引ニ關スル狀況ヲ調査シ翌月十日迄ニ之ヲ山林局長、各營林局長及國有林產物販賣所長ニ通報スベシ
 - 東京、大阪

國有林野產物賣拂規則改正竝

同手續制定ニ關スル件

大正十五年十一月二十七日
山第一五三八號山林局長通牒

一八〇

今般國有林野產物賣拂規則ノ改正竝同手續制定セラレ候處就中立木及製品年期賣拂ハ從來ノ方針ヲ改メ特ニ利用ヲ増進スル必要アル潤葉樹ニ付國有林經營上ノ見地ヨリ進テ之カ立木年期賣拂ヲ必要トスル場合ニ限定スルノ趣旨ニ依リ改正ヲ加ヘラレタルモノニ有之其ノ他一般賣拂實行ニ際シ營林署長ノ自發的活動ト公正ナル常識的裁量ニ委スルヲ適當ト認メ權限ノ擴張ヲ爲シタルモノ等ノ如キ執レモ一朝之カ適切ナル運用ヲ愆ルニ於テハ寒心スヘキ結果ヲ招來センヤモ難計候ニ付テハ諸般ノ監督ヲ周到嚴密ナラシムルト共ニ又濫リニ營林署長ノ權限ヲ束縛制時シテ規定ノ本旨ニ悖ルカ如キコトナキヲ期セラレ度此段及通牒候也

追テ左記通牒ハ新規程施行ト同時ニ廢止ノ儀ト御了知相成度申添候也

記

- 一 大正三十年十月一日山第一三九九號國有林野產物賣拂單價取調ノ件
- 一 大正十三年四月一日山第七二二號國有林野產物處分ニ關シ協議方ノ件

政府ニ於テ物品ノ販賣ヲ問屋業者ニ委託スルコトヲ得ル場合ニ關スル件

大正十二年六月七日
勅令第二百九十九號

政府ニ於テ物品ヲ販賣スルトキハ左ノ場合ニ限り問屋業者ニ其ノ販賣ヲ委託スルコトヲ得

- 一 輸出ノ目的ヲ以テ物品ヲ販賣スルトキ
- 二 專賣品又ハ其ノ副産物ヲ販賣スルトキ

三 林產物又ハ礦產物ヲ販賣スルトキ

附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
大正二年勅令第二百八十號ハ之ヲ廢止ス

營林局ヲシテ國有林野產物賣拂ニ關スル事務ノ一部ヲ施行セシムルノ件

昭和五年十二月二十六日
農林省訓令第七號

- (改正) 昭和十年三月農林省訓令第一號
- 營林局ヲシテ國有林產物賣拂ニ關スル事務ノ一部ヲ施行セシムルノ件左ノ通定ム
- 營林局ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ營林署ヲシテ施行セシムルヨリモ營林局ガ施行スルヲ特ニ有利且便宜ナリト認ムルトキハ國有林野產物賣拂ニ關スル事務ヲ施行スルコトヲ得
- 一 營林署ノ林產物ノ賣拂時期、數量及價格ニ關シ相互ノ連絡ヲ圖リ賣拂ヲ爲スノ必要アルトキ又ハ二以上ノ營林署ノ林產物ヲ取纏メ賣拂フトキ
 - 二 林產物ノ輸送販賣、委託販賣其ノ他特殊ノ賣拂ヲ必要トスルトキ

同件

昭和五年十二月二十六日
林四一〇號山林局長通牒

別途營林局ヲシテ國有林野產物賣拂ニ關スル事務ノ一部ヲ政府ニ於テ物品ノ販賣ヲ問屋業者ニ委託スルコトヲ得ル場合ニ關スル件

政府ニ於テ物品ノ販賣ヲ問屋業者ニ委託スルコトヲ得ル場合ニ關スル件

營林局ニ於テ行フ賣拂事務ニ關スル件

昭和十年五月十七日
山第一七三五號山林局長通牒

首題ノ件ニ關シ昭和十年農林省訓令第一號ヲ以テ昭和五年農林省訓令第七號ヲ改正セラレ國有林野產物ノ賣拂上其ノ時期數量及價格ニ關シ相互ノ連絡ヲ圖ル必要アルトキ又ハ二以上ノ營林署ノ林產物ヲ取纏メ賣拂フトキハ營林局ニ於テ其ノ賣拂事務ヲ施行シ得ルコトト相成候處右ハ差當リ別紙要綱ニ據リ實行相成度此段及通牒候也

(別紙)

營林局ニ於テ行フ賣拂事務取扱要綱

- 一 左ノ斫伐製品ノ賣拂事務ハ營林局ニ於テ之ヲ行フコト

(一) 素材中「何々」及上記ノ樹種ト同時ニ賣拂フヲ有利トスル樹種

- 註「」内ハ營林局別ニ次ノ通
- 青森 ヒバ、スギ、アカマツ
 - 秋田 スギ、ヒバ
 - 東京 アカマツ、モミ、ツガ
 - 大阪 スギ、ヒノキ、モミ、ツガ
 - 高知 モミ、ツガ、スギ

營林局ヲ 一八一

國有林野 管理處分 (五) 產物賣拂

- (一) 熊本 モミ、ツガ、スギ、アカマツ、カシ
- (二) 木炭
- (三) 其ノ他ノ製品ニシテ營林局ニ於テ賣拂フヲ特ニ適當ト認ムルモノ
- 二 前號ノ研代製品中左ニ該當スルモノノ賣拂事務ハ營林署ニ於テ之ヲ行フコト
- (一) 生産地方ノ需要ニ應ズルタメ營林署ニ於テ賣拂フヲ特ニ適當トスルモノ
- (二) 一事業箇所一ヶ年ノ生産量ガ素材ニアリテハ各樹種込ニテ一千立方米木炭ニアリテハ五萬疋ニ達セザルモノ但シ營林局ニ於テ賣拂フヲ特ニ適當ト認ムルモノハ此ノ限ニアラズ
- 三 青森貯木場ニ輸送シタル研代製品ノ賣拂事務ハ前二號ニ依ラズ青森營林局ニ於テ行フコト
- 四 營林局長第一號ノ研代製品ノ賣拂ニ付必要ト認ムルトキハ營林局ニ於テ販賣計畫ヲ樹テ營林署ヲシテ之ヲ施行セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ旨山林局長ニ報告スルコト

國有林野產物極印規則

大正七年一月四日 農商務省令第一號

第一條 國有林野產物ニ使用スル極印ハ左ノ二種トス

一 山極印



一八二

圓形徑一寸鋼鐵矢形彫

二 拂極印



- 第二條 處分ノ目的ヲ以テ立木、根株又ハ柚材ノ調査ヲ爲ス場合ニ於テハ左ノ區別ニ從ヒ山極印ヲ使用ス
 - 一 毎木調査ニ在リテハ其ノ直徑測定ノ位置、毎株調査ニ在リテハ其ノ側面
 - 二 區域調査ニ在リテハ其ノ區域ヲ表示スル外線立木ノ目通及根際又ハ標杭ノ見易キ位置並區域内存置立木ノ目通及根際、區域内存置根株ニ付テハ附近立木ノ目通又ハ標杭ノ見易キ位置
 - 三 柚材ニ在リテハ切口又ハ側面ノ見易キ位置

第八條 極印ノ誤押契約ノ變更其ノ他ノ事由ニ因リ既押ノ印影ヲ抹消スル場合ニ於テハ山極印ヲ使用ス

第九條 極印ハ黒肉ヲ以テ押捺ス但シ盜誤伐ノ場合ハ朱肉ヲ以テス

第十條 極印ハ營林局長、國有林產物販賣所長又ハ其ノ他ノ官吏ニ非サレハ使用スルコトヲ得ス但シ山極印ハ已ムヲ得サル場合ニ限り雇員ヲシテ之ヲ使用セシムルコトヲ得

第十一條 極印ハ營林局及國有林產物販賣所ニ在リテハ物品會計官吏、營林署ニ在リテハ署長之ヲ保管ス

國有林野產物極印規則制定ノ件

大正七年九月一日ヨリ之ヲ施行ス 林第一九六號山林局長通牒

國有林野產物極印規則 國有林野產物極印規則制定ノ件

- 前項第二號ノ場合ニ於テ存置立木カ他ノ立木ト樹種ヲ異ニシ其ノ判別容易ナルトキハ極印ノ使用ヲ省略スルコトヲ得
- 第三條 前條ノ規定ハ末木、轉倒木、伐倒木、挫折木、盜誤伐ニ係ル物件及其ノ伐根又ハ棄權ニ係ル製品ヲ調査スル場合ニ之ヲ準用ス
- 第四條 立木、根株、柚材又ハ第三條ニ掲グル物ノ引渡ヲ爲ス場合ニ於テハ左ノ區別ニ從ヒ拂極印ヲ使用ス但シ林產物品會計官吏ニ對スル引渡及保管轉換ニ依ル引渡ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス
 - 一 毎木引渡ニ在リテハ其ノ根際、毎株引渡ニ在リテハ其ノ側面
 - 二 區域引渡ニ在リテハ其ノ區域ノ内線ニ存在スル適當ナル拂下木ノ根際、根株ニ在リテハ其ノ側面
 - 三 柚材及第三條ニ掲グル物ニ在リテハ山極印近接ノ位置但シ轉倒木、挫折木ニ在リテハ其ノ根際
- 第五條 前條ノ規定ニ依リテ引渡シタル立木ノ伐跡検査ヲ爲ス場合ニ於テハ左ノ區別ニ從ヒ山極印ヲ使用ス
 - 一 毎木検査ニ在リテハ其ノ伐根ノ斷面
 - 二 區域検査ニ在リテハ前條第二號ノ規定ニ依リ拂極印ヲ押用セル立木ノ伐根ノ斷面
- 前項ノ場合ニ於テ存置立木又ハ棄權木アルトキハ第二條及前條ノ規定ニ依リ押捺シタル極印ヲ抹消スヘシ
- 第六條 前各條ニ掲グル場合ノ外極印ヲ押捺スル必要アルトキハ山極印ヲ使用ス
- 第七條 積雪其ノ他ノ事由ニ依リ所定ノ位置ニ極印ヲ押捺スルコト困難ナル場合ニ於テハ適當ノ位置ニ使用スルコトヲ得

國有林野 管理處分 (五) 產物賣拂

今回制定公布相成候國有林野產物極印規則施行ニ關シテハ左記事項特ニ留意相成度此段及通牒候也

一 毎木調査ヲ爲シタル立木ト雖皆伐箇所ニ在リテハ區域 (別紙)

右二

引渡ヲ爲ス儀ト承知相成度從テ賣拂產物ノ豫定調査ニ當リテハ慎重調査ノ上遺漏ナキヲ期スルヲ要ス
極印授受簿ハ別紙様式ニ準シ調製相成度

極印授受簿

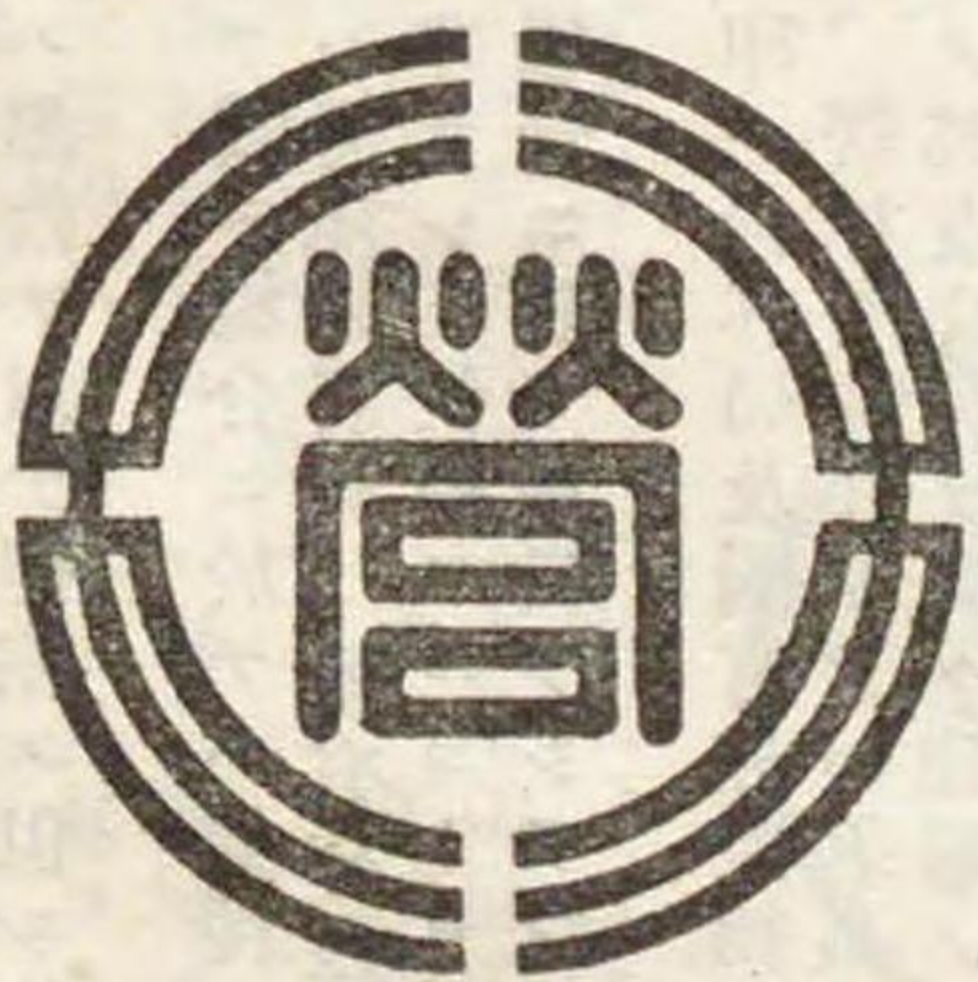
番 號	交 付		還 付		使 用 事 由	使 用 者 官 氏 名 印	備 考
	月 日	署 長 印	月 日	署 長 印			
第 號	何 何 月 日	何 何 月 日	何 何 月 日	何 何 月 日	何某ニ賣拂ノ何國有林立木引渡ノ爲	山林事務官補何某印	
第 號	何 何 月 日	何 何 月 日	何 何 月 日	何 何 月 日	何國有林立木調査ノ爲	森林主事何某印	

備考 拂極印ト山極印トハ其ノ授受簿ヲ各別ニ調製シ極印ノ番號毎ニ口座ヲ分チ記載スヘシ

國有林野產物ニ使用スル商標 制定ノ件

昭和九年十月二十九日 農林省告示第四百五號

國有林野產物ニ使用スル商標左ノ通定ム



國有林野產物商標制定ニ關スル件

昭和九年十月二十九日 山第四二三一號 山林局長通牒

昭和九年十月二十九日農林省告示第四百五號ヲ以テ商標制定相成候處左記了知ノ上使用相成度此段及通牒候也

- 一 一切判ニ依ル商標
摺込用切判ニ依リ商標作製ノ場合ハ其ノ「ツナギ」ノ位置ハ別紙見本ニ依ルコト
- 二 商標ノ大サ
(一) 製材 直徑一五糎又ハ五糎
但シ床板、羽目板ノ鉋削實矧材ハ直徑二・七糎ノモノトシ其ノ他ノ製材ニシテ前記寸法ノ商標押捺ヲ不便トスルモノハ適宜ノ寸法トスルコト
(二) 木炭、竹材及賣拂用種子 直徑二・七糎
(三) 商標各部ノ寸法ハ夫々直徑ニ對シ見本ニ示ス寸法ノ割合ニ依ルコト

同 件

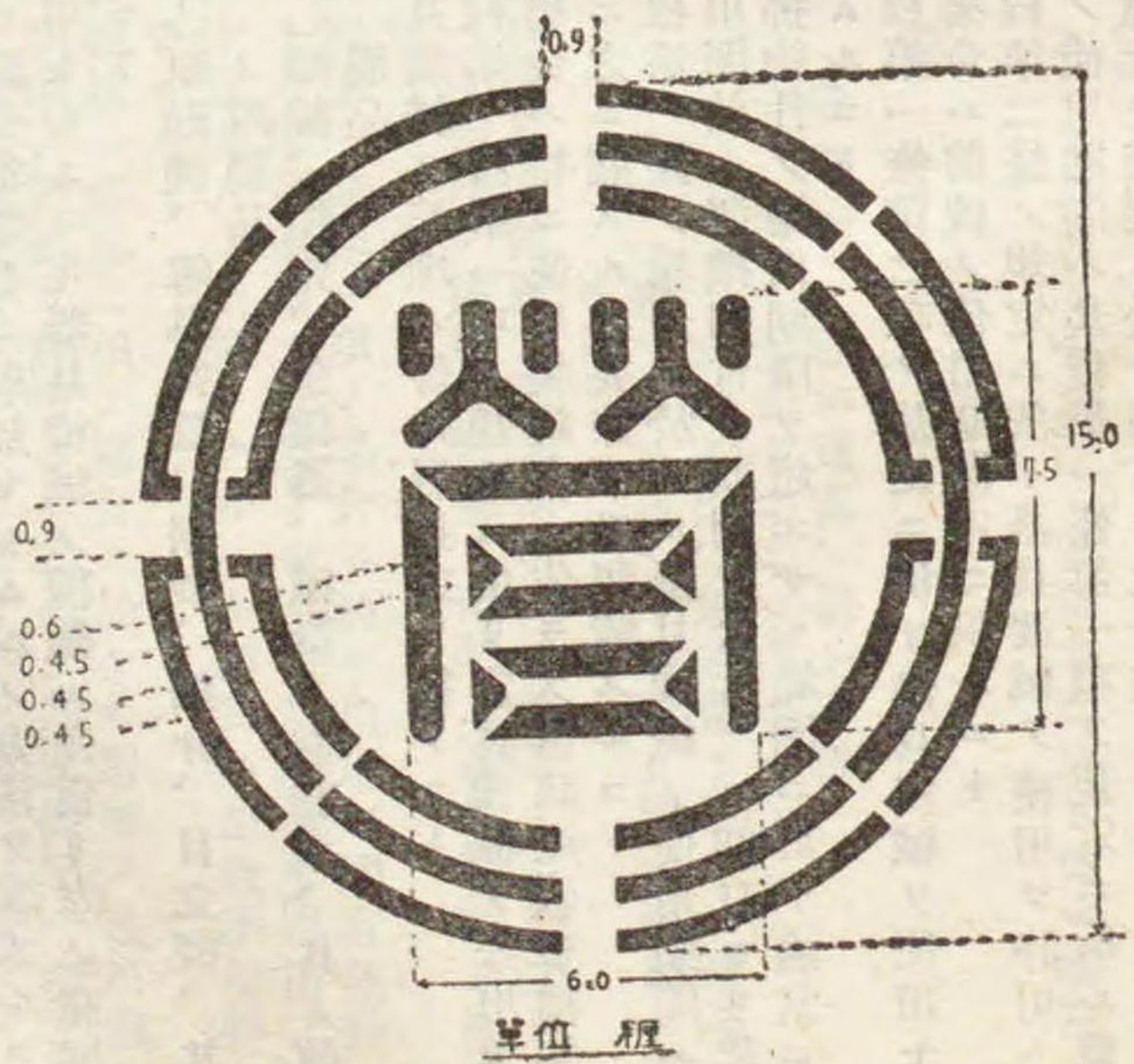
前同號通牒

明治三十九年五月林發第九十五號達本竹材商標ノ件ハ昭和九年十月二十九日限廢止シ同日農林省告示第四百五號ヲ以テ商標制定相成候條御了知相成度依命此段及通牒候也
追而 從來ノ商標ハ差當リ已ムヲ得ザル場合ニ限リ使用差支無之モ可成速ニ本件商標ヲ使用相成様致度申添候

國有林野產物極印規則 國有林野產物ニ使用スル商標制定ノ件

(別紙)

商標トナルベキ切判見本



林產物加工運搬用器具機械使用 規程

昭和九年九月四日 農林省訓令第四號

營林局署

林產物加工運搬用器具機械使用規程左ノ通定ム

- 第一條 國有林野產物ノ買受人ヲシテ賣拂物件ノ加工又ハ運搬ノ爲メ林産物加工運搬用器具機械又ハ其ノ用地ヲ使用セシムル場合ハ賣拂ノ約款中ニ之ヲ定ムベシ
- 前項ノ規定ニ依リ林産物加工運搬用器具機械ヲ使用セシムル場合ニ於テハ買受人ヲシテ賣拂物件以外ノ林産物ノ加工又ハ運搬ノ爲メ之ヲ使用セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ使用料ヲ徴スベシ
- 第二條 前條第一項ノ賣拂上支障ナシト認ムルトキハ林産物加工運搬用器具機械ノ使用ヲ許可スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ使用料ヲ徴スベシ
- 第三條 第一條第二項及前條ノ場合ニ於ケル使用料ハ器具機械ノ受クル損耗及借受人ノ受クル利益ヲ參酌シテ之ヲ定ムベシ
- 第四條 第一條及第二條ノ規定ニ依リ林産物加工運搬用器具機械ヲ使用セシムルトキハ器具機械ノ種類、數量、使用期間、使用方法又ハ其ノ制限、管理方法、修繕、運搬等ニ要スル費用ノ負擔、亡失又ハ毀損ノ場合ニ於ケル責任、其ノ他必要ナル條件、尙第一條第二項及第二條ノ場合ニ於テハ使用料及其ノ納付期限ヲ記載シタル契約書又ハ請書ヲ徴スベシ

林産物加工運搬用器具機械使用ニ關スル件

昭和九年九月四日 山第三四一四號山林局長通牒

今般林産物加工運搬用器具機械使用規程制定相成候處器具機械又ハ用地ヲ使用セシムルニ當リテハ左記ニ依リ取扱相成度此段及通牒候也

- 一 規程第一條第一項ノ規定ニ依リ器具機械又ハ其ノ用地ノ使用ヲ賣拂ノ約款ト爲ス場合ハ豫メ其ノ旨ヲ賣拂ニ際シ買受希望者ニ周知セシムルノ方法ヲ講ズルコト
- 二 使用セシムベキ器具機械ノ種類ハ差當リ左ノ範圍トスルコト
 - (イ) 原動機、傳導裝置、鋸機、鋸身、目立機、其ノ他ノ附屬品
 - (ロ) 鐵線、鐵索、張線器、搬器、制動機、其ノ他ノ附屬品
- 三 器具機械ノ管理ハ營林署長之ヲ行フコト
- 四 規程第一條第一項ノ規定ニ依リ器具機械ヲ使用セシムル場合ハ特ニ使用契約書ニ依ラズ當該產物賣拂契約書中ニ之ニ關スル必要條項ヲ記載スルコト
- 五 規程第一條ノ場合ニ於ケル器具機械ノ使用期間ハ其ノ使用開始(運搬据付ノ期間ヲ含ム)ノ期日ヨリ起算シ賣拂物件ノ搬出期限ヲ超エザル範圍ニ於テ適當ニ之ヲ定ムルコト
- 六 規程第一條第二項ノ規定ニ依リ器具機械ヲ使用セシムル場合ハ前條ノ使用期間内ニ限ルコト
- 七 規程第二條ノ規定ニ依リ器具機械ノ使用ヲ許可スル場合ノ使用期間ハ規程第一條第一項ノ規定ニ依リ賣拂上支障ナキ範圍ニ於テ適當ニ之ヲ定ムルコト
- 八 規程第一條第一項ノ場合ニ於テ器具機械ノ使用期間中ニ加工又ハ運搬ヲ了セザル爲メ使用期間延長ノ出願アリ

九

タルトキハ賣拂物件ノ搬出期限ヲ超エザル範圍ニ於テ相當ノ期間ヲ指定シ許可スルコトヲ得

規程第一條第一項ノ規定ニ依リ使用ヲ許可シタル場合買受人ガ搬出期限經過後尙加工又ハ運搬ヲ了セザル爲メ器具機械ノ繼續使用ヲ出願シタルトキ又ハ規程第一條第二項ノ規定ニ依リ林産物ノ加工又ハ運搬ノ爲メ使用期間ノ延長ヲ出願シタルトキハ規定第二條ニ依リ處理スルコト前項ノ場合ニ於テ使用ヲ許可セムトスルトキハ別ニ契約書又ハ請書ヲ徴シテ處理スルコト

規程第一條第一項ノ規定ニ依リ器具機械ヲ使用セシムル場合ハ之ヲ無償トシ産物賣拂豫定價格ノ評定ニ際シ之ヲ使用スルコトニ由ル賣拂物件ノ價格ノ値上リヲ見込ムコト

十

規程第一條第二項及第二條ノ場合ニ於ケル器具機械ノ使用料ハ加工又ハ運搬スベキ物件ノ數量單位當リ基準トシテ之ヲ算定スルコト

十一

營林局長ハ器具機械ノ標準使用料ヲ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ムル

$$\text{原料 } 1m^3 \text{ 當 (木炭ハ } 1kg \text{ 當) 使用料} \\ = \frac{A+B+(C-(A+B)) \times 0.1}{D}$$

- A ハ器具機械ノ年償還額
- B ハ器具機械一箇年ノ見込經常修繕費ニシテ器具機械購入費ノ五分ヲ標準トス
- C ハ器具機械ヲ無償ニテ使用シDニ相當スル數量ノ加工若ハ運搬ヲ爲シタル場合ニ於ケル借受人ノ受クル利益
- D ハ器具機械ノ一日ノ普通能力ニ一箇年間ノ運

林産物加工運搬用器具機械使用規程

行見込日數ヲ乘シ算定シタル一箇年間ニ於テ

ル加工若ハ運搬可能數量

0.1ハ一割ノ意

A ハ右限連年賃租ノ前價合計式ニ依リ算出スルコト

$$A = \frac{E \times 1.0P_n \times 0.0P}{1.0P_n - 1}$$

但シ E ハ器具機械ノ購入價格

P ハ利率年五分ヲ標準トス

n ハ償還年數、機械類ハ五年ヲ標準トス

其ノ他ノモノハ貸取ニ應ジ適當ニ定ムルコト

十三

營林署長ハ前條ノ標準使用料ヲ基準トシ加工又ハ運搬スベキ物件ノ種類、數量ヲ參酌シ器具機械ノ使用料ヲ決定スルコト

十四

規程第一條第一項ノ場合ニ於テ用地ガ國有林野内ナルトキハ用地使用ヲ無償トシ産物賣拂豫定價格ノ評定ニ際シ買受人ノ負擔トナルベキ經費ニ用地使用料ヲ見込マザルコト

十五

規程第一條第二項ノ場合ニ於ケル用地ノ使用關係ハ使用期間ノ延長ヲ許可スル場合ノ外同條第一項ノ場合ニ於テ包括處理セラルルニ依リ特ニ考慮ノ要ナキコト

十六

器具機械ノ設置箇所ヲ變更スルコトナク同一箇所ニ於テ引續キ賣拂フベキ物件ノ加工又ハ運搬ノ爲メ使用スルヲ得策ト認ムル場合ハ營林署長ハ豫メ器具機械ノ運搬、設置及之ニ附帶スル設備ヲ爲シ之ヲ使用セシムルコトヲ得ルコト

前項ノ場合ニ於テハ賣拂價格ノ評定又ハ使用料ノ決定

- 十七 二付設備費ヲ參酌スルコト
- 十八 營林署長ハ必要アリト認メタルトキハ使用ヲ許可シタル器具機械ノ使用ヲ終リタル後現狀ノ儘之ヲ返還セシメ借受人ノ設置シタル設備ヲ買收スルコトヲ得ルコト
- 十九 買收シタル設備ヲ使用セシムル場合ハ前號第二項ニ準ズルコト
- 二十 營林署長ハ借受人ニ對シ器具機械ノ管理及使用上ニ關シ必要ナル事項ヲ命ジ並ニ其ノ使用方法ヲ指導スルコト
- 二十一 左記各事項ハ之ヲ契約條件トスルコト
- (イ) 規程第一條ノ規定ニ依リ器具機械又ハ其ノ用地ノ使用ヲ許可セラレタル產物買受人ガ拂下物件ニ付正規ノ讓渡ヲ爲シタルトキハ器具機械又ハ用地使用ノ權利義務ハ產物讓渡人ニ於テ之ヲ承繼スルコト
- (ロ) 前號ニ依ル場合ノ外器具機械ノ借受人ハ營林署長ノ許可ヲ得テシテ器具機械又ハ用地ヲ轉貸シ若ハ他人ニ使用セシムルコトヲ得ザルコト
- (ハ) 規程第一條第二項及第二條ノ場合器具機械ノ借受人ハ使用料ヲ納付シタル後ニ非ザレバ器具機械ヲ使用スルコトヲ得ザルコト
- (ニ) 器具機械ノ設置箇所ハ營林署長ノ許可ヲ得テ之ヲ定ムルコト之ヲ變更セムトスル場合亦同シキコト
- (ホ) 器具機械ノ運搬、設置、使用、收去及返還等ニ要スル費用ハ借受人ニ於テ之ヲ負擔スルコト
- (ヘ) 器具機械(附帶設備アルトキハ之ヲ含ム)ノ亡失、毀損等アリタル場合ハ事由ヲ具シ遲滞ナク營林署長ニ届出ルコト

- (ト) 借受人器具機械(附帶設備アルトキハ之ヲ含ム)ヲ毀損シ又ハ亡失シタルトキハ天災其ノ他不可抗力ノ原因ニ因ル場合ノ外借受人之ヲ修繕シ若ハ賠償スルコト
- (チ) 借受人ノ家族、傭人又ハ代理人ノ行爲ニ付テハ借受人ニ於テ其ノ責任ズルコト
- (リ) 使用期間ノ滿了前ト雖加工又ハ運搬事業終了シタルトキハ其ノ旨遲滞ナク營林署長ニ届出ルコト
- (ヌ) 使用條件ニ違反シタルトキ、契約外ノ物件ノ加工又ハ運搬ノ爲器具機械ヲ使用シタルトキ其ノ他營林署ノ指揮ニ從ハザルトキハ營林署長ハ器具機械ノ使用ヲ取消シ又ハ違約金ヲ徵收スルコトアルベキコト
- (ル) 前項ニ依リ器具機械(附帶設備アルトキハ之ヲ含ム)ノ使用ヲ取消シタル場合既納ノ使用料ハ之ガ返還ヲ爲サザルコト
- (ル) 前號ノ場合借受人ハ損害賠償ヲ請求スルコトヲ得ザルコト
- (ヲ) 借受人加工又ハ運搬事業ヲ終了シタルトキ若ハ器具機械(附帶設備アルトキハ之ヲ含ム)ノ使用ノ取消ヲ命ゼラレタルトキハ借受人ハ器具機械(附帶設備アルトキハ之ヲ含ム)又ハ用地ヲ原狀ニ復シ返還スルコト
- 前項ノ場合借受人故意ニ返還ヲ遲延スルトキハ營林署ニ於テ之ヲ收去シ其ノ費用ハ借受人ヨリ之ヲ徵收スルコト
- (ワ) 其ノ他必要ト認ムル事項

農業倉庫業者ニ拂下ヘキ 林產物品適用條項ノ件

大正七年六月二十二日 林第一八三〇號山林局長通牒

左記甲號鹿兒島大林區署長ノ照會ニ對シ乙號ノ通回答候條及通牒候也

五月十四日付拂甲第二八九一號ヲ以テ照會ニ係ル農業倉庫業ハ營利ヲ目的トセス農業者ノ經濟上ノ利益増進ヲ目的トシ然カモ其利益ノ及フ處特定のニアラスシテ廣ク一地方農業者全般ニ互ルノミナラス進テ國民日常必需品ノ價格平準ヲ期セムトスルモノナルヲ以テ之カ倉庫敷地又ハ其建築用材ノ賣拂ハ國有林野法第八條第一號又ハ明治三十二年勅令第三百六十三號第一號ニ依リ處理相成可然候此段及回答候也

甲號

鹿兒島大林區署長照會 (大正七年五月十四日) 拂甲第二八九一號

農業倉庫業者ヨリ國有林野ヲ倉庫敷地トシテ又ハ國有林野產物ヲ倉庫建築用材ニアツル爲賣拂ヲ出願シタル場合ニ於テハ倉庫業者カ產業組合タル市町村農會其他ノ公共團體タルト問ハス公益事業ト認メ國有林野法第八條第一號又ハ明治三十二年勅令第三百六十三號第一號ヲ適用シテ處理差支ナキモノト思考セラレ候得共聊カ疑義有之候ニ付一應御意見承知致度此段及照會候也

林產物加工運搬用器具機械使用ニ關スル件

國有林野產物隨意契約賣拂

明治四十年十一月 林發第三六五號內訓

明治三十二年勅令第三百六十三號第一號ノ場合ニ於テハ自今直接企業者ニ限り隨意契約ヲ以テ賣拂フコトヲ得ル儀ト心得ヘシ

特定ノ目的ヲ以テ讓渡シタル 國有林野又ハ其ノ產物ニ關スル 監督ノ件

明治三十九年十一月 林發第一四九號內訓

國有林野法第八條第十五條又ハ明治三十二年勅令第三百六十三號ニ依リ特定ノ目的ニ供スル爲メ國有ノ林野若ハ產物ヲ讓渡シタル場合ニ於テハ左記ノ條項ニ準據シテ處理スヘシ

右內訓ス

第一條 大林區署長特定ノ目的ニ供スル爲國有ノ林野又ハ產物ヲ讓渡シタルトキハ其ノ目的ノ所在、面積、數量及讓受人ノ氏名、名稱住所ヲ林野ニ在リテハ其ノ所在ノ地ヲ管轄スル地方官及小林區署長ニ、產物ニ在リテハ其ノ目的ニ供用スヘキ地方ヲ管轄スル地方官及小林區署長ニ通知スヘシ

前項地方官ニ對スル通知ハ公共團體ニ讓渡シタル場合ヲ除クノ外特ニ監督ノ必要ナシト認ムル場合ハ之ヲ爲スヲ要セス

第二條 小林區署長前條ノ讓渡ヲ爲シタルトキハ前條ニ準シ之ヲ大林區署長ニ報告スヘシ
 大林區署長前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ前條ノ規定ニ準シ遲滞ナク之ヲ地方長官ニ通知スヘシ
第三條 林區署長ハ特定ノ目的ニ供スル爲國有ノ林野若ハ產物ヲ讓受ケタル者カ契約違反ノ事實ナキヤヲ注意シ若シ違反者アルコトヲ知りタルトキハ遲滞ナク相當ノ處置ヲ爲スヘシ
 (各府縣知事宛通牒)
 明治三十三年整第一〇〇二號ヲ以テ國有林野ヲ特定ノ目的ヲ以テ特賣シタルモノノ取締方ニ關シ曩ニ及御通牒置候處產物ノ賣拂ニ付テモ同シク之カ取締方爲スノ必要有之且林區署ノミニテハ右讓渡後ノ監督方法十分ナラサル次第ニ付爾今公共團體ニ賣拂ヒタルトキ及特ニ賣拂後ノ監督ヲ要スルトキハ其ノ讓渡ノ都度大林區署長ヨリ關係地方長官ヘ其ノ讓渡ニ關スル事項ヲ通知スヘキ旨大林區署長ニ對シ訓令可致候條貴官ニ於テモ夫々關係警察署長、分署長、又ハ郡市長、町村長ヲシテ讓受人ニ於テ其ノ讓受ノ目的ニ違反スル事實ナキヤ否ヤヲ注意セシメ若シ之レアリタルトキハ之ヲ大林區署長ニ報告セシメラルル様致度此段依命及通牒候也

貸付地上ノ產物賣拂ニ係ル搬出

期間ノ件

大正四年十一月
 林第二九三一號山林局長通牒
 貸付地上ノ產物賣拂ニ係ル搬出期間ノ件ニ付別紙寫ノ通東
 京大林區署ノ照會ニ對シ回答候間此段及通牒候也
 (別紙寫)

(東京大林區署長照會 四年十月六日 業第二四七六號)

國有林野產物賣拂ニ係ル搬出期間ノ件
 貸付地上ノ立木ヲ其土地ノ借受人ニ賣拂フ場合ニ於テハ植樹ノ目的ヲ以テ借受ケ居ルモノニ對シ樹木撫育ノ目的ヲ以テ賣拂フモノノ外搬出期間豫定ノ期間經過後ハ違約金ヲ徵收スヘキ義ニ有之候處當署ニ於テハ從來此ノ以外ノ場合ト雖モ土地ノ借受人タル買受人ノ都合ニ依リ借受期間中立木ヲ存置セムトスルトキハ元來買受人ニ土地ノ使用權アルモノナルヲ以テ貸付ノ目的變更ヲ認許シ得ル場合ニ於テハ之カ變更ヲ認メ違約金ヲ徵收セサルコトニ處理シ來リ候然ルニ此ノ結果ハ要スルニ最初ヨリ搬出期ヲ設ケサルニ等シキ事ニ相成候ヲ以テ自今貸付地上ノ立木ヲ其ノ土地ノ借受人ニ賣拂フ場合ニ於テモ必スシモ伐採セサレハ貸付目的ヲ遂行シ難キ支障木等ヲ除キ借受人ニ於テ借受期間中買受ケタル樹木ヲ存置スルモ林野ノ管理經營上特ニ支障ナキトキハ明治四十四年七月十三日林第一〇一五號通牒ノ御主旨ニ準シ搬出期間ヲ設定セシメ貸付期間滿了後ニ於ケル未搬出ノ立木ニ付テハ國有林野法施行規則第二十七條第二十八條ニ依リ處理ノ見込ニ有之右ハ差掛リタル義モ有之至急御意見御回示相成度此段及照會候也

(山林局長回答 四年十一月二十三日 林第二九三一號)

十月六日付業第二四七六號照會ノ貸付地上ノ產物賣拂ニ係ル搬出期間ノ件ハ其ノ借地者ニ賣拂フ場合ハ搬出期間ヲ設定セサルコトニ取扱相成差支無之候此段及回答候也

造林用種子拂下規則

昭和九年七月四日 農林省令第十五號

造林用種子拂下規則

第一條 本則ニ依ル種子ノ拂下ハ營林局ニ於テ之ヲ行フ
第二條 拂下ガベキ種子ノ種類、價格及配給區域(自給區域及移入區域)ハ農林大臣之ヲ定メ告示ス
第三條 種子ノ拂下ヲ受ケルコトヲ得ル者ハ法人タル山林會、市町村又ハ之ニ準ズベキモノ、森林組合其ノ他營林局長ノ適當ト認ムル法人ニ限ル
第四條 種子ノ拂下ヲ受ケントスル者ハ毎年八月三十一日迄ニ様式ニ依ル申込書ヲ其ノ種子ノ自給區域(北海道ニ在リテハ移入區域)ヲ管轄スル營林局長ニ提出スベシ
第五條 營林局長前條ノ申込書ヲ提出アリタル場合ニ於テ種子ノ拂下數量ニ不足ヲ認メタルトキハ其ノ種子ノ自給區域又ハ移入區域ヲ管轄スル他ノ營林局長ニ申込書ヲ移送スルコトアルベシ
第六條 營林局長ハ其ノ旨ヲ申込者ニ通知スベシ
第七條 營林局長前條ノ承認シタルトキハ左ノ事項ヲ申込者ニ通知スベシ
 一 拂下ガベキ種子ノ種類、數量、發芽效率及價額
 二 代金納付ノ期限
 三 引渡期限及引渡方法
 四 其ノ他拂下ニ關スル條件
第七條 營林局長必要アリト認ムルトキハ拂下ヲ受ケタル者ニ對シ造林成績ノ報告ヲ命ズルコトヲ得
 特定ノ目的ヲ以テ讓渡シタル國有林野又ハ其ノ產物ニ關スル監督ノ件 造林用種子 一九一

第八條 營林局長種子ノ拂下數量ニ餘裕ヲ認メタルトキハ
第三條ノ規定ニ拘ラズ拂下ヲ爲スコトヲ得
第四條、**第六條**及前條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
 附則
 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 様式

造林用種子拂下申込書

種類	數量	引渡期限	送	付	先
何 何庭(自家用)	何月何日	何縣何郡何町何番地	何 某		
何 何庭(販賣用)	何月何日	何縣何郡何村字何	何 某		

右造林用種子拂下規則ニ基キ拂下相成度此段及申込候也
 年 月 日
 申込者住所 名稱又ハ氏名印

何 營林局長 備考

- 一 申込書ハ種子ノ種類毎ニ別紙トスルコト
- 二 數量ハ自家用、販賣用別ニ記載スルコト

造林用種子採取及拂下事務取扱

二關スル件

昭和九年九月十九日 山第三七一三號山林局長通牒

本年七月農林省令第十五號造林用種子拂下規則施行相成候處賣拂用種子ノ採取及拂下ニ關シテハ左記ニ依リ處理相成

造林用種子拂下規則ニ依リ拂下
グベキ種子ノ種類、價格及配給
區域ノ件

昭和九年七月十日
農林省告示第二百三十九號

造林用種子拂下ニ依リ拂下グベキ種子ノ種類、價格及配給
區域左ノ通定ム
一 種類及價格

種類	發芽 效率 (一担 當)	基本價格	價格ノ算定方法
すぎ	二五・〇	二・〇〇	基本價格ニ對シ發芽效率ノ差一%ニ付金
ひの	三〇・〇	三・七〇	基本價格ニ對シ發芽效率ノ差一%ニ付金
あか	八五・〇	一・八〇	基本價格ニ對シ發芽效率ノ差一%ニ付金
まかつ	八五・〇	一・八〇	基本價格ニ對シ發芽效率ノ差一%ニ付金
まかつ	八五・〇	一・八〇	基本價格ニ對シ發芽效率ノ差一%ニ付金
から	四五・〇	六・三〇	基本價格ニ對シ發芽效率ノ差一%ニ付金

二 配給區域

種類名稱	自給區域	移入區域
第一區	青森縣、岩手縣、宮城縣、秋田縣、山形縣	第二區
第二區	山形縣、西置賜郡、若松市、大沼郡、北會津郡、南會津郡、耶麻郡、河沼郡	第一區
第三區	新潟縣、長野縣、富山縣、岐阜縣、福井縣	第五區
第四區	長野縣、上水内郡、上高井郡、更級郡、埴科郡、下水内郡、下高井郡、北安曇郡	第一區
第五區	富山縣、吉城市、大野郡、益田郡、福井市、坂井郡、吉田郡、大野郡、足羽郡、今立郡、丹生郡、南條郡、敦賀郡	第一區
第六區	埼玉縣、東京府、神奈川縣、靜岡縣、愛知縣	第七區
第七區	埼玉縣、東京府、神奈川縣、靜岡縣、愛知縣	第一區

區	縣	第一區	第二區
第三區	石川縣	福島市、郡山市、信夫郡、伊達郡、安達郡、安積郡、石川郡、田村郡、東白川郡、西白河郡、岩瀬郡	第一區
第四區	福島縣	福島市、郡山市、信夫郡、伊達郡、安達郡、安積郡、石川郡、田村郡、東白川郡、西白河郡、岩瀬郡	第一區
第五區	岐阜縣	岐阜市、大垣市、稻葉郡、羽島郡、海津郡、養老郡、不破郡、安八郡、揖斐郡、本巢郡、山縣郡、郡上郡、武儀郡、加茂郡、可兒郡、土岐郡、惠那郡	第一區
第六區	滋賀縣	三方郡、遠敷郡、大飯郡、伊香郡、高島郡、加佐郡、與謝郡、中郡、竹野郡、熊野郡、天田郡、何鹿郡、船井郡、北桑田郡、城崎郡、出石郡、養父郡、朝來郡、美方郡、氷上郡、安曇郡、佐用郡、鳥取縣、岡山縣、廣島縣	第一區
第七區	京都府	伊香郡、高島郡、加佐郡、與謝郡、中郡、竹野郡、熊野郡、天田郡、何鹿郡、船井郡、北桑田郡、城崎郡、出石郡、養父郡、朝來郡、美方郡、氷上郡、安曇郡、佐用郡、鳥取縣、岡山縣、廣島縣	第一區
第八區	京都府	伊香郡、高島郡、加佐郡、與謝郡、中郡、竹野郡、熊野郡、天田郡、何鹿郡、船井郡、北桑田郡、城崎郡、出石郡、養父郡、朝來郡、美方郡、氷上郡、安曇郡、佐用郡、鳥取縣、岡山縣、廣島縣	第一區

造林用種子拂下規則ニ依リ拂下グベキ種子ノ種類、價格及配給區域ノ件

第七區	三重縣 奈良縣 吉野郡、宇陀郡	乙訓郡、紀伊郡、久世郡、綴喜郡、相樂郡、南桑田郡 阿山郡、名賀郡 (吉野郡、宇陀郡ヲ除ク)	兵庫縣 大阪府	(城崎郡、出石郡、養老郡、朝來郡、美方郡、氷上郡、宍粟郡、佐用郡ヲ除ク)	岡山縣	(津山市、真庭郡、吉田郡、勝田郡、英田郡、久米郡、阿哲郡、上房郡ヲ除ク)	廣島縣	(比婆郡、雙三郡、高田郡、山縣郡ヲ除ク)	島根縣	鹿足郡	山口縣	香川縣	愛媛縣	北宇和郡、南宇和郡ヲ除ク)	宇和島市、西宇和郡、東宇和郡、
-----	-----------------------	---	------------	--------------------------------------	-----	--------------------------------------	-----	----------------------	-----	-----	-----	-----	-----	---------------	-----------------

第九區	和歌山縣 德島縣 高知縣 愛媛縣	宇和島市、西宇和郡、東宇和郡、北宇和郡、南宇和郡	第五區	第六區	第七區	第八區
第一區	青森縣 岩手縣 宮城縣 秋田縣	一圓 一圓 一圓 一圓	第一區	第二區	第一區	第二區

第二區	山形縣 福島縣 新潟縣 長野縣 富山縣 石川縣 福井縣	一圓 (石城郡ヲ除ク) 一圓 長野市、上水内郡、上高井郡、更級郡、埴科郡、下水内郡、下高井郡、北安曇郡 一圓 一圓 (三方郡、遠敷郡、大飯郡ヲ除ク)	石城郡	茨城縣 栃木縣 群馬縣 埼玉縣 千葉縣 東京府 神奈川縣 山梨縣 長野縣	一圓 一圓 一圓 一圓 一圓 一圓 一圓 一圓 一圓 一圓 一圓	上田市、松本市、小縣郡、北佐久
-----	---	--	-----	--	--	-----------------

第三區	福井縣 滋賀縣 三重縣 京都府 大阪府 奈良縣 和歌山縣 兵庫縣 鳥取縣 島根縣 岡山縣 廣島縣 山口縣	三方郡、遠敷郡、大飯郡 一圓 一圓 一圓 一圓 一圓 一圓 一圓 一圓 一圓 一圓 一圓 一圓	第二區	靜岡縣 愛知縣 岐阜縣	一圓 一圓 一圓	郡、南佐久郡、東筑摩郡、西筑摩郡、南安曇郡、下伊那郡、上伊那郡、諏訪郡
-----	--	---	-----	-------------------	----------------	-------------------------------------

造林用種子拂下規則ニ依リ拂下ケベキ種子ノ種類、價格及配給區域ノ件

香川縣	一圓	青森縣	(下北郡、上北郡、三戸郡ヲ除ク)	第二區
愛媛縣	一圓	秋田縣	一圓	
徳島縣	一圓	山形縣	一圓	
高知縣	一圓	福島縣	若松市、耶摩郡、河沼郡、大沼郡、北會津郡、南會津郡	
福岡縣	一圓	新潟縣	一圓	
佐賀縣	一圓	長野縣	長野市、下水内郡、下高井郡、上水内郡、上高井郡、更級郡、埴科	
長崎縣	一圓			
大分縣	一圓			
熊本縣	一圓			
宮崎縣	一圓			
鹿兒島縣	一圓			

富山縣	一圓	青森縣	上北郡、下北郡、三戸郡	
石川縣	一圓	岩手縣	一圓	
岐阜縣	吉城郡、大野郡、益田郡	宮城縣	一圓	
福井縣	(三方郡、遠敷郡、大飯郡ヲ除ク)	福島縣	福島市、郡山市、相馬郡、雙葉郡、石城郡、信夫郡、伊達郡、安達郡、安積郡、石川郡、田村郡、東白川郡、西白河郡、岩瀬郡	
		栃木縣	一圓	
		茨城縣	多賀郡、久慈郡	
		群馬縣	吾妻郡	
		長野縣	上田市、松本市、小縣郡、北佐久郡、南佐久郡、東筑摩郡、西筑摩郡、南安曇郡、下伊那郡、上伊那郡	第二區

山梨縣	郡、諏訪郡	茨城縣	(多賀郡、久慈郡ヲ除ク)	第二區
岐阜縣	(吉城郡、大野郡、益田郡ヲ除ク)	千葉縣	一圓	第三區
		群馬縣	(吾妻郡ヲ除ク)	第七區
		埼玉縣	一圓	
		東京府	一圓	
		神奈川縣	一圓	
		静岡縣	一圓	
		愛知縣	一圓	
		第五區	福井縣	三方郡、遠敷郡、大飯郡
			滋賀縣	伊香郡、高島郡
			京都府	加佐郡、與謝郡、中郡、竹野郡、熊野郡、天田郡、何鹿郡、船井郡、北桑田郡
			兵庫縣	城崎郡、出石郡、養父郡、朝來郡、美方郡、氷上郡、宍粟郡、佐用郡、

鳥取縣	一圓	滋賀縣	(伊香郡、高島郡ヲ除ク)	第三區
鳥根縣	(鹿足郡ヲ除ク)	三重縣	一圓	第五區
岡山縣	津山市、眞庭郡、苫田郡、勝田郡、英田郡、久米郡、阿哲郡、上房郡、比婆郡、雙三郡、高田郡、山縣郡	奈良縣	一圓	第七區
廣島縣		京都府	京都市、愛宕郡、葛野郡、宇治郡、乙訓郡、紀伊郡、久世郡、綴喜郡、相樂郡、南桑田郡	
		大阪府	一圓	
		兵庫縣	(城崎郡、出石郡、養父郡、朝來郡、美方郡、氷上郡、宍粟郡、佐用郡ヲ除ク)	
		岡山縣	(津山市、眞庭郡、苫田郡、勝田郡、英田郡、久米郡、阿哲郡、上房郡ヲ除ク)	
		廣島縣	(比婆郡、雙三郡、高田郡、山縣郡ヲ除ク)	

造林用種子拂下規則ニ依リ拂下ガベキ種子ノ種類、價格及配給區域ノ件

第七區	和歌山縣	一圓	第三區
	德島縣	一圓	
	高知縣	一圓	
	愛媛縣	宇和島市、西宇和郡、東宇和郡、北宇和郡、南宇和郡	
	福岡縣	一圓	
	佐賀縣	一圓	
	長崎縣	一圓	
	大分縣	一圓	
	熊本縣	一圓	
	宮崎縣	一圓	
	鹿兒島縣	一圓	

第八區	青森縣	一圓	第二區
	岩手縣	一圓	第三區
	宮城縣	一圓	
	秋田縣	一圓	
	山形縣	一圓	
	福島縣	若松市、耶麻郡、河沼郡、大沼郡、北會津郡、南會津郡	
	新潟縣	一圓	
	長野縣	長野市、下水内郡、上水内郡、上高井郡、下高井郡、更科郡、埴科郡、北安曇郡	
	富山縣	一圓	
	石川縣	一圓	
	岐阜縣	吉城郡、大野郡、益田郡	
	福井縣	福井市、坂井郡、吉田郡、大野郡、足羽郡、今立郡、丹生郡、南條郡、敦賀郡	

第二區	福島縣	福島市、郡山市、相馬郡、雙葉郡、石城郡、信夫郡、伊達郡、安達郡、安積郡、石川郡、田村郡、東白川郡、西白河郡、岩瀬郡	第一區
	栃木縣	一圓	
	茨城縣	一圓	
	千葉縣	一圓	
	群馬縣	一圓	
	埼玉縣	一圓	
	東京府	一圓	
	神奈川縣	一圓	
	山梨縣	一圓	
	長野縣	上田市、松本市、小縣郡、北佐久郡、南佐久郡、東筑摩郡、西筑摩郡、南安曇郡、下伊那郡、上伊那郡、諏訪郡	
	静岡縣	一圓	
	愛知縣	一圓	
	岐阜縣	(吉城郡、大野郡、益田郡ヲ除ク)	

第三區	福井縣	三方郡、遠敷郡、大飯郡	第一區
	滋賀縣	伊香郡、高島郡	
	京都府	加佐郡、與謝郡、中郡、竹野郡、熊野郡、天田郡、何鹿郡、船井郡、北桑田郡	
	兵庫縣	城崎郡、出石郡、養父郡、朝來郡、美方郡、氷上郡、宍粟郡、佐用郡、鳥取縣	
	鳥根縣	(鹿足郡ヲ除ク)	
	岡山縣	津山市、真庭郡、苦田郡、勝田郡、英田郡、久米郡、阿哲郡、上房郡、比婆郡、雙三郡、高田郡、山縣郡	
	廣島縣		
第四區	滋賀縣	(伊香郡、高島郡ヲ除ク)	第二區
	三重縣	一圓	第三區
	京都府	京都市、愛宕郡、葛野郡、宇治郡、乙訓郡、紀伊郡、久世郡、綴喜郡、相樂郡、南桑田郡	
	奈良縣	一圓	
	大阪府	一圓	

造林用種子拂下規則ニ依リ拂下ケベキ種子ノ種類、價格及配給區域ノ件

和歌山縣	一圓
兵庫縣	(城崎郡、出石郡、養父郡、朝來郡、美方郡、氷上郡、宍粟郡、佐用郡ヲ除ク)
岡山縣	(津山市、眞庭郡、苫田郡、勝田郡、英田郡、久米郡、阿哲郡、上房郡ヲ除ク)
廣島縣	(比婆郡、雙三郡、高田郡、山縣郡ヲ除ク)
島根縣	鹿足郡
山口縣	一圓
香川縣	一圓
愛媛縣	一圓
德島縣	一圓
高知縣	一圓
福岡縣	一圓
佐賀縣	一圓
長崎縣	一圓
大分縣	一圓

第五區 (北海)	熊本縣 一圓
	宮崎縣 一圓
	鹿兒島縣 一圓
第一區	

から
ま
つ
特ニ配給區域ヲ劃定セズ

備考 移入區域欄ノ區域ハ各其ノ自給區域トス

造林用種子配給ニ關スル件

昭和九年七月十四日
山第二八九六號山林局長通牒

今般農林省令第十五號ヲ以テ造林用種子拂下規則ヲ公布施行セラレ之ニ伴ヒ昭和九年七月農林省告示第二百三十九號ヲ以テ告示相成候處本施設ハ既ニ營林局長會議、造林課長會議等ニ於テ說示、協議ヲ重ネ候通リ民有造林ノ成績ノ向上ヲ圖ラントスルモノニシテ規則第三條ニ於テ山林會ヲ首位トシタルハ廣ク個人ニ對シ供給ノ目的ヲ以テ便宜府縣山林會ヲシテ之ガ取纏ニ當ラシムル次第ナレバ事業ノ實行ニ當リテハ左記各項了知ノ上地方廳、山林會等ト密接ナル連絡ヲ執リ以テ優良種子ノ普及ニ努メ本趣旨徹底候様實施上遺憾ナキヲ期セラレ度此段及通牒候也

追テ本件ニ關シテハ地方長官ニ別紙ノ通牒致候條御合置相成度申添候

- 記
- 種子ノ採取等ニ關スル事項
(一) 種子ノ凶作年ニ於テモ需要ニ應ジ得ル様豫メ需要量ヲ考慮シ豐年ニ當リ可成多量ニ採取、貯藏ノ方法ヲ講ズルコト
 - 種子ノ生産保續ノ爲メ母樹及母樹林ノ設定等ニ付キ適當ナル計畫ヲ樹ツルコト
 - 營林署ニ於テ種子ノ精選ヲ了シタルトキハ直ニ必要數量ヲ林業試驗場ニ送付シ發芽效率、鑑定ヲ受ケ其ノ效率及之ニ該當スル精選數量ヲ營林局ニ通知スルコト
前年産以前ノ種子ヲ拂下ケル場合ハ再鑑定ヲ受ケルコト
 - 營林署本種子ノ鑑定ヲ受ケル爲メ林業試驗場ニ供試材料ヲ送付セントスルトキハ鑑定依頼書、封筒及供試材包ノ表面ニ標章(標章ハ追テ通知ノ見込)ノ朱印ヲ押捺スルコト
 - 種子採取木ノ選定、種子ノ採取及精選等ニ付テハ豫メ計畫ヲ樹テ他事業ノ實行トノ連絡ヲ保チ極力旅費等經費ノ節約ヲ圖ルコト
- 二 種子ノ拂下ニ關スル事項
- 拂下ニ關スル事務ハ營林局ニ於テ之ヲ行フモ引渡等ニ關シテハ營林署ヲシテ之ヲ行ハシメ得ルコト
 - 種子ノ拂下ハ自給區域ニ於テ行ヒ自給區域ヨリ生産スル數量ガ申込數量ニ達セザル場合ハ不足分ヲ移入區域ヨリ補給スルコト

造林用種子配給ニ關スル件

- 個人ノ申込ハ山林會ニ於テ取纏メ申込マシムルコトトシ契約ハ山林會ト締結スルコト
- 拂下申込書ノ提出期限適當ノ時期ニ於テ種子ノ豐凶見込及貯藏數量等ヲ營林局ヨリ地方廳又ハ山林會等ニ通知スルノ外一般ニ周知セシムル方法ヲ講ズルコト
- 拂下ノ申込ニ對シ供給量不足スルトキハ個人ノ自家用ニ對シ優先的ニ拂下ケ其他ノ自家用ヲ次位トシ販賣用(苗木商ヲ含ム)ヲ末位ノ順位トスルコト
- 拂下ノ申込ニ對シ其ノ全部又ハ一部應諾シ得ザル見込トキハ可成速ニ其ノ旨ヲ拂下申込書ニ依ル申込者ニ通知シ其ノ承認ヲ求メ置クコト
- 自局管内ニ於テ供給不能ナルモ同一自給區域又ハ移入區域ヲ管轄スル他局ニ於テ供給力アリテ拂下申込書ヲ便宜之ニ移送スル場合移送ヲ受ケタル局ハ申込者ヨリ申込ヲ受ケタルモノトシテ處理スルコト
申込數量ノ一部ニ對シ供給シ難キ場合ハ其ノ不足分ニ對シテハ別ニ供給ノ見込アル他ノ營林局ヲ指定シ之ニ申込書ヲ提出セシムル様取計ヲコト
- 自給及移入區域ノ關係營林局ハ種子ノ生産及需要狀況ヲ相互ニ通報シ前項ノ場合ニ應ジ得ル様連絡ヲ緊密ニスルコト
- 引渡ノ營林署名、發送方法及發送ノ郵便局名又ハ驛名等ハ拂下承諾書中引渡方法ノ項ニ記載ノコト
- 拂下ニ關スル條件トシテ左記事項ヲ記載スルコト
(イ) 拂受人代金納付期限迄ニ代金ヲ納付セザルトキハ營林局長ハ拂下許可ヲ取消スコトアルベキコト
(ロ) 郵便又ハ鐵道便ニ依リ發送スルトキハ其ノ委託ヲ

國有林野 管理處分 (五) 產物賣拂

二〇四

- 以テ拂受人ニ對シ種子ノ引渡ヲ爲シタルモノト看做スコト
- (一) 拂受人申込數量ノ全部又ハ一部ニ付種子ノ引渡ヲ受ケタルトキハ引渡ヲ受ケタル種子ニ付テハ如何ナル事由アルモ代金ノ返還若ハ減額、代物ノ交付又ハ損害ノ賠償ヲ求ムルコトヲ得ザルコト
 - (二) 拂下規則ノ趣旨及拂下ノ手續等ヲ一般ニ周知セシムル爲「造林用種子ノ拂下案内」ヲ別途送付スベキヲ以テ貴管内ニ於ケル拂下希望見込先ニ廣ク配布セラレタキコト
 - 三 種子ノ荷造、引渡等ニ關スル事項
 - (一) 山林會ニシテ個人ノ希望ヲ取纏メ申込ミ送付先ヲ記載シタルモノニ對シテハ便宜直接其ノ需要者宛送付スルコト
 - (二) 種子ノ包裝ハ大體次ノ方法ニ依ルコト
 - (イ) 郵便ニ依ルトキハハラフイン紙袋ヲ以テ内包ト爲シ之ヲ木綿袋ニ入ルルコト
 - (ロ) 鐵道小荷物ニ依ルトキハ木綿袋ニ入レ更ニ南京袋又ハ菰、菰ヲ以テ外包トスルコト
 - (ハ) 木綿袋ノ地質ハ緻密丈夫ナルモノヲ選ビ縫目ハ一度縫タル上更ニ折返シ二重縫トスルコト
 - (ニ) 包裝外面ニハ見易キ所ニ標章(標章ハ追テ通知ノ見込)ヲ押捺シ又ハ押捺シタル荷札ヲ添付スルコト
 - (四) 種子ニ添付スベキ傳票ハ第一號様式ニ依ルコト
 - (三) 尙種子ノ取扱ニ關スル說明ヲ包ニ同封スルコト (說明參考案第二號様式參照)
 - (五) 發送ハ郵便又ハ鐵道小荷物ノ方法ニ依ルコト

- 郵便ニ依ルトキハ小包又ハ通常郵便物 (第五種) トシ何レモ書留トスルコト
- 右託送シタルトキハ直ニ種子ノ種類、數量、發送ノ日、發送ノ方法、郵便局名及驛名等ヲ送付先ニ通知スルコト
- (六) 前項ノ荷造及運賃ハ國ノ負擔トスルコト
 - (七) 郵便又ハ鐵道便ニ依リ送付シタル場合、林區署會計事務規程第三十九條ニ依ル領收證ハ便宜書留又ハ小荷物ノ受領證ヲ以テ代用シ得ルコト
 - 四 其他事務ノ處理ニ關スル事項
 - (一) 種子ノ採取、精選、發芽效率ノ鑑定、貯藏、荷造、運搬及引渡ニ必要ナル經費ハ森林費造林費支辨トシ種子ノ拂下代金ハ研伐製品拂下代トスルコト
 - (二) 規則第七條ノ規定ハ主トシテ後年ニ種々ナル調査研究ノ資料タラシムル場合アルベキヲ豫期シタルモノナルヲ以テ必要ト認メタルトキハ造林箇所、造林方法、造林面積及造林成績等ノ報告ヲ求メ之ト拂下ゲタル種子トノ關係ヲ記帳整理シ置クコト
 - (三) 本事業ニ關シテハ會計事務ヲ除クノ外便宜造林課ニ於テ取扱フコト
- 尙研伐實行簿ノ製品ニ關スル記入整理ハ造林課、其ノ實行總括ノ事務ハ利用課ニ於テ之ヲ行フコト
- 註 昭和九年十一月八日山第四三六三號山林局長通牒ニヨリ第一項第四號並第三項第三號ノ標章ハ十月二十九日農林省告示第四百五號制定商標ヲ使用

様式

第一號

紙質は厚目の模造紙を用ふ。

10cm X 7cm

7 cm

昭和 年	No. _____	昭和 年	林 業 署
樹 種	_____	採取年	_____
數量	_____ 疋	備 考	一坪當蒔付適量ハ 約一トス
發芽效率	_____ %	產地	_____ 國有林

10cm

〇〇 營林署

第二號

說明書 (參考案)

一 著荷ノ時ハ
種子ガ著イタナラバ可成濕氣ノ來ナイ様ニ又低溫ノ所ニ置ク様ニ氣ヲツケテ下サイ、マシテ貯藏種子ノ場合デアルト著荷後一刻モ猶豫ナク適當ノ措置ヲ講シナケレバ發芽效率ガ悪クナリマスカラ若シ著荷ノ時ガ既ニ蒔付ノ季節デアレバ勿論直グ蒔付ケタ方ガヨイカ未ダ蒔付迄ニ相當時日ガアル様ナラバ夫レ迄完全ナル貯藏方法ヲ行ハネバナリマセン、即チ濕氣ヲ防グ爲ニ硝子瓶、木箱又ハアリキ罐等ニ容レテ口元ヲ蠟テ密封スルトカ接ヤ目ヲ厚目

ニ目張スルトイフ風ニ嚴重ニ密封シテソレヲ最寄ノ風穴、冷藏庫、氷室、地下室、穴藏等ノ冷所ニ置イテ保存シ蒔付時季ガ來タナラバ取り出シテ即日蒔付ケル様ニシテ下サイ。

二 造林ニ適當ノ地方ハ
種子ノ產地ト其ノ種子ニ依テ造林スルノニ適當スル地方トノ關係ハ別紙ノ表ニ從フコトガ造林ノ成績ヲ舉グル上ニ先ヅ第一ニ必要ノコトデアリマシテ此ノ種子ハ右表ノ内對照表ノ所テ〇印ヲ付ケタモノニ當リマスカラ造林ノ時ニ間違ノナイ様ニシテ下サイ (カラマツハ例外トシテ區域ヲ決メテアリマセン)

造林用種子配給ニ關スル件

二〇五

種子産地ト造林適地對照表(省略)

山林局長ヨリ地方長官宛通牒
七月四日付農林省令第十五號ヲ以テ造林用種子拂下規則公布施行セラレ之ニ伴ヒ昭和九年七月農林省告示第二百三十九號ヲ以テ告示相成候處本施設ハ國有林ニ於テ造林用種子ヲ採取シ之ヲ廣ク民間ニ供給シ以テ民有林造林ノ成績ノ向上ヲ圖ラントスルモノニシテ規則第三條ニ於テ山林會ヲ首位トシタルハ廣ク個人ニ對シ供給ノ目的ヲ以テ便宜山林會ヲシテ之ガ取纏ニ當ラシムル次第ナルニ付テハ左記各項ヲモ御了知ノ上關係營林局ト密接ナル連絡ヲ保チ貴管下一般ニ本趣旨ノ徹底候様御配意相成度此段及通牒候也
追テ本件ニ付テハ山林會等ノ活動ニ俟テ處多大ナルヲ以テ山林會等ニ於テ格別ノ盡力相成候様御配意相成度特ニ及御依頼候

- 一 種子ノ拂下ニ關スル事務ハ營林局ニ於テ行ヒ其ノ引渡ハ營林署ニ於テ行フモノトス
二 拂下價格ハ告示ニ從ヒ樹種毎ニ一定ノ基本價格ニ對シ當該種子ノ發芽效率ニ應ジ算定スルモノトシ右價格ヲ以テ拂下申込書記載ノ送付先迄送付スルモノトス
三 種子ノ配給ハ自給區域ニ於テ行フ原則トシ自給量不足ナルトキハ移入區域ヨリ補給ス
四 個人ノ拂下希望ニ對シテハ努メテ之ニ應ズル意向ナルヲ以テ其ノ希望ニ對シテハ山林會ニ於テ之ヲ取纏メ山林會之ニ代リテ申込及代金ノ納入ヲ爲スコト
五 前項ノ場合便宜希望者ニ直接送付スルノ必要上山林會ハ申込ノ際各希望者毎ニ送付先、數量ヲ記載スルコト

- 六 拂下申込書ノ提出期限前適當ノ時期ニ於テ種子ノ豐凶見込、貯藏數量等ヲ營林局ヨリ地方廳又ハ山林會ニ通知ノ見込ナリ
七 拂下ノ申込ニ對シ供給量不足スルトキハ個人ノ家用ニ對シ優先的ニ拂下シ其ノ家用ヲ次位トシ販賣用(苗木商ヲ含ム)ヲ末位ノ順位トス
八 拂下ノ申込ニ對シ其ノ全部又ハ一部應諾シ得ザル見込ノトキハ營林局ハ可成速ニ其ノ旨ヲ拂下申込書ニ依ル申込者ニ通知スベキヲ以テ申込者ニ於テ其ノ通知ニ對シ承認シ得ザルトキハ直ニ其ノ旨ヲ申出ヅルコト
九 拂下規則第五條ニ依リ申込ヲ受ケタル營林局ヨリ他ノ營林局ニ拂下申込書ヲ移送シタル場合移送ヲ受ケタル營林局ハ申込者ヨリ申込ヲ受ケタルモノトシテ處理ス申込數量ノ一部ニ對シ供給シ難キ場合ハ其ノ不足分ニ對シテハ別ニ供給ノ見込アル他ノ營林局ヲ指定シ申込者ニ通知スベキニ付之ニ申込書ヲ提出セシムベシ
一〇 種子ハ代金ノ納入アリタル上送付スベキヲ以テ代金納付期限ノ通知アリタルトキハ必ず期日迄ニ納入アリタキコト
一 賣拂代金ノ延納ハ大正十年九月農商務省令第二十八號ノ規定ニ依リ之ヲ許可ス
二 拂下承諾書中ニハ引渡ノ營林署名又發送ノ方法ト其ノ郵便局名又ハ驛名ヲ記載ス
三 種子ノ包ニハ營林局ノ印章ヲ附シ尙取扱ノ番號、樹種、數量、發芽效率、採取年、産地、蒔付ノ適量等ヲ記載シタル傳票並種子取扱ニ付テノ説明及當該種子ニ依リ造林ヲ行フニ適當スル區域表等ヲモ同封添附ノ見込ナリ

- 一三 種子ハ直接營林署ニ出頭受領スルモノノ外書留郵便又ハ鐵道小荷物便ニ依リ送付ス
一四 種子ノ引渡ハ直接引渡ヲ爲ス場合ノ外郵便局又ハ驛ニ發送ヲ委託シタル時ヲ以テ之ヲ完了シタルモノト看做ス
一五 拂下規則第七條ニ依ル報告ハ主トシテ後年ニ於ケル種々ノ調査研究ノ資料トシタルノ目的ニシテ營林局ニ於テ必要ト認ムル場合ハ種子ト之ガ造林地トノ關係ヲ記載整理スル爲其ノ造林箇所、造林方法、造林面積及造林成績等ノ報告ヲ求ムルコトアルベキヲ以テ豫メ了知セラレタキコト
一六 拂下規則ノ趣旨及拂下手續等ヲ印刷シタル「造林用種子案内」ヲ送付スベキヲ以テ貴管内山林會、市町村、森林組合等適當ノ先へ配布方御配慮アリタキコト

產物賣拂處分狀況報告ニ關スル件

大正六年十一月二十八日 山第一五六三號山林局長通牒

國有林野産物賣拂代金一廉五千圓ヲ超ユルモノニ付テハ賣拂狀況報告ノ附屬トシテ賣拂單價取調表提出ノ處自今各官廳ニ賣拂タルモノニ限リ一廉五千圓未滿ノモノト雖右取調表添付相成度此段及通牒候也
追テ十一月分報告ノ際ハ本年度四月ヨリ十月末日迄ニ供給セシ分モ掲記相成度申添候

潤葉樹製材規格

昭和九年八月三十日 山第三三九一號山林局長通牒

造林用種子配給ニ關スル件 產物賣拂處分狀況報告ニ關スル件 潤葉樹製材規格

- 第一 本規格ハぶな、ならノ製材ニ之ヲ適用ス但シ其ノ他ノ樹種ノ製材ニシテ本規格ニ依ルコトヲ得ルモノニハ之ヲ適用ス
第二 本規格ニ於テ製材ト稱スルハ含水率一〇%以内ニ乾燥シタルモノヲ謂フ
第三 本規格ヲ適用スル製材ノ種類左ノ如シ
一 粗挽材
(一) 床板
(二) 羽目板
(三) 厚板
二 鉋削實材
(一) 床板
(二) 羽目板
第四 製材出來合品ノ厚、幅及長ノ寸法ハ左ノ標準ニ依ル
一 厚 ○・一種ノ倍數
○・一種ノ倍數
長 一・〇種ノ倍數
二 主ナル製材出來合品ノ標準寸法左ノ如シ
(一) 粗挽材
種別 厚 幅 長
床板 二・二(種) 一・〇(種) 一・〇(種)以上一・〇(種)上リ
(二) 鉋削材
種別 厚 幅 長
床板 二・〇(種) 一・〇(種) 一・〇(種)以上一・〇(種)上リ
(三) 厚板
種別 厚 幅 長
羽目板 一・一(種) 一・〇(種) 一・〇(種)以上一・〇(種)上リ
厚板 二・一(種) 一・〇(種) 一・〇(種)以上一・〇(種)上リ

二・六 一〇以上三六上リ一〇〇以上 三〇〇上リ
 三・二 一〇以上三六上リ一〇〇以上 三〇〇上リ
 三・九 二七以上三六上リ一〇〇以上 三〇〇上リ

(二) 鉋削實材
 種別 厚 幅 長

床板 二〇(〇) 九〇(〇)以上一〇上リ

一・八 七九(〇) 九〇(〇)以上一〇上リ

羽目板 〇・九 七九(〇) 六〇(〇)以上五〇上リ

三 製材出來合品ノ長ガ標準寸法ヲ超ユル端數ヲ有スル
 トキハ其ノ端數ハ之ヲ切捨計算ス

四 粗挽材ノ長ニハ適當ナル延寸ヲ附スルコトヲ要ス

五 製材ノ品等ヲ區分スルニ用ウル缺點左ノ如シ但シ延寸ノ
 部分ニ於ケルモノハ之ヲ缺點ト看做サズ

一 丸身ハ材ノ最大丸身厚ノ材厚ニ對スル百分率ヲ以テ之
 ヲ表ハシ粗挽材ニ在リテハ丸身一〇%以下ノモノハ丸
 身ナキモノト看做ス

二 曲トハ厚ノ面ノ弓狀ニ灣曲セルモノヲ謂ヒ其ノ内曲面
 ノ最大矢高ノ其ノ弦ノ長ニ對スル百分率ヲ以テ之ヲ表
 ハス

三 曲〇・五%以下ノモノハ曲ナキモノト看做ス

木口割

木口割ハ割ノ長ノ材ノ長ニ對スル百分率ヲ以テ之ヲ表
 ハシ粗挽材ニ在リテハ木口割三%以下ノモノハ木口割
 ナキモノト看做ス

木口割ニシテ材ノ同一端ニ二箇以上アルモノハ其
 ノ最長ノモノニ依リ兩端ニアルモノノ長ハ各端ニ於ケ
 ル最長ノモノノ和ニ依ル

四 節及之ニ準ズベキ缺點
 (一) 節
 節ノ大ハ其ノ長徑ヲ以テ之ヲ表ハシ拔クル虞ナキ死
 節ハ生節ト看做シ拔節、腐節及拔クル虞アル死節ニ
 シテ他面ニ通ラザルモノハ各其ノ長徑ノ一・五倍ノ
 生節ト看做シ節ノ痕跡ハ缺點ト看做サズ

(二) 節ニ準ズベキ缺點
 しみ、入皮及偽心材ニシテ線狀ヲ爲スモノハ各其ノ
 長ノ五分ノ一、斑狀ヲ爲スモノハ各其ノ長ノ二分
 ノ一ノ生節ト看做ス但シ輕微ニシテ目立タザル程度
 ノモノハ之ヲ缺點ト看做サズ

腐、齧疵、孔、蟲喰及材面ニ於ケル缺ニシテ他面ニ通
 ラザルモノハ各其ノ長徑ノ一・五倍ノ生節ト看做ス

五 重大ナル缺點
 (一) 拔節、腐節、拔クル虞アル死節、腐、齧疵、孔及材
 面ニ於ケル缺ニシテ他面ニ通レルモノ

(二) しみ、入皮、偽心材、蟲喰、あて、そり、波曲及
 振ノ顯著ナルモノ

(三) 逆目及變色ノ極メテ著シキモノ

第六 製材ノ仕譯標準

一 粗挽材
 (一) 床板

下ノ節一箇及曲一%以内ニシテ裏面ニ重大ナル
 缺點ナキモノ

三 木理ノ狀況ニ依リ柾目、板目及柾目ノ三種ニ又心材
 ノ程度ニ依リ赤、白、交ニ區分シ前記ノ品等ト併稱
 スルコトヲ得

柾目トハ柾目ガ板面ノ八〇%以上ヲ占ムルモノヲ謂
 ヒ赤又ハ白トハ赤身又ハ白太ノ最小ノ幅ガ夫々板幅
 ノ九〇%以上ヲ占ムルモノヲ謂ヒ交トハ赤身、白太
 ノ最小ノ幅ガ夫々板幅ノ九〇%未滿ノモノヲ謂フ

品等ハ東取シタルモノニ對シ一東毎ニ之ヲ定ム

品等ノ稱呼並ニ各品等ノ内容左ノ如シ

一 粗挽材
 (一) 床板、羽目板

イ ぶな 柾目取赤白交込一等材

上 柾目取赤白交込二等材但シ板目取赤白交込
 一等材及二等材三〇%以内ヲ含ムコトヲ得

並 柾目取板目取込赤白交込三等材

ロ なら 柾目取赤白交込一等材但シ板目取赤白交込
 一等材二〇%以内ヲ含ムコトヲ得

上 柾目取板目取込赤白交込二等材

並 同上三等材

(二) 厚板
 イ ぶな 柾目取一等材

極上 柾目取一等材

二〇九

潤葉樹製材規格

二〇九

二・六 一〇以上三六上リ一〇〇以上 三〇〇上リ
 三・二 一〇以上三六上リ一〇〇以上 三〇〇上リ
 三・九 二七以上三六上リ一〇〇以上 三〇〇上リ

(二) 鉋削實材
 種別 厚 幅 長

床板 二〇(〇) 九〇(〇)以上一〇上リ

一・八 七九(〇) 九〇(〇)以上一〇上リ

羽目板 〇・九 七九(〇) 六〇(〇)以上五〇上リ

三 製材出來合品ノ長ガ標準寸法ヲ超ユル端數ヲ有スル
 トキハ其ノ端數ハ之ヲ切捨計算ス

四 粗挽材ノ長ニハ適當ナル延寸ヲ附スルコトヲ要ス

五 製材ノ品等ヲ區分スルニ用ウル缺點左ノ如シ但シ延寸ノ
 部分ニ於ケルモノハ之ヲ缺點ト看做サズ

一 丸身ハ材ノ最大丸身厚ノ材厚ニ對スル百分率ヲ以テ之
 ヲ表ハシ粗挽材ニ在リテハ丸身一〇%以下ノモノハ丸
 身ナキモノト看做ス

二 曲トハ厚ノ面ノ弓狀ニ灣曲セルモノヲ謂ヒ其ノ内曲面
 ノ最大矢高ノ其ノ弦ノ長ニ對スル百分率ヲ以テ之ヲ表
 ハス

三 曲〇・五%以下ノモノハ曲ナキモノト看做ス

木口割

木口割ハ割ノ長ノ材ノ長ニ對スル百分率ヲ以テ之ヲ表
 ハシ粗挽材ニ在リテハ木口割三%以下ノモノハ木口割
 ナキモノト看做ス

木口割ニシテ材ノ同一端ニ二箇以上アルモノハ其
 ノ最長ノモノニ依リ兩端ニアルモノノ長ハ各端ニ於ケ
 ル最長ノモノノ和ニ依ル

四 節及之ニ準ズベキ缺點
 (一) 節
 節ノ大ハ其ノ長徑ヲ以テ之ヲ表ハシ拔クル虞ナキ死
 節ハ生節ト看做シ拔節、腐節及拔クル虞アル死節ニ
 シテ他面ニ通ラザルモノハ各其ノ長徑ノ一・五倍ノ
 生節ト看做シ節ノ痕跡ハ缺點ト看做サズ

(二) 節ニ準ズベキ缺點
 しみ、入皮及偽心材ニシテ線狀ヲ爲スモノハ各其ノ
 長ノ五分ノ一、斑狀ヲ爲スモノハ各其ノ長ノ二分
 ノ一ノ生節ト看做ス但シ輕微ニシテ目立タザル程度
 ノモノハ之ヲ缺點ト看做サズ

腐、齧疵、孔、蟲喰及材面ニ於ケル缺ニシテ他面ニ通
 ラザルモノハ各其ノ長徑ノ一・五倍ノ生節ト看做ス

五 重大ナル缺點
 (一) 拔節、腐節、拔クル虞アル死節、腐、齧疵、孔及材
 面ニ於ケル缺ニシテ他面ニ通レルモノ

(二) しみ、入皮、偽心材、蟲喰、あて、そり、波曲及
 振ノ顯著ナルモノ

(三) 逆目及變色ノ極メテ著シキモノ

第六 製材ノ仕譯標準

一 粗挽材
 (一) 床板

下ノ節一箇及曲一%以内ニシテ裏面ニ重大ナル
 缺點ナキモノ

三 木理ノ狀況ニ依リ柾目、板目及柾目ノ三種ニ又心材
 ノ程度ニ依リ赤、白、交ニ區分シ前記ノ品等ト併稱
 スルコトヲ得

柾目トハ柾目ガ板面ノ八〇%以上ヲ占ムルモノヲ謂
 ヒ赤又ハ白トハ赤身又ハ白太ノ最小ノ幅ガ夫々板幅
 ノ九〇%以上ヲ占ムルモノヲ謂ヒ交トハ赤身、白太
 ノ最小ノ幅ガ夫々板幅ノ九〇%未滿ノモノヲ謂フ

品等ハ東取シタルモノニ對シ一東毎ニ之ヲ定ム

品等ノ稱呼並ニ各品等ノ内容左ノ如シ

一 粗挽材
 (一) 床板、羽目板

イ ぶな 柾目取赤白交込一等材

上 柾目取赤白交込二等材但シ板目取赤白交込
 一等材及二等材三〇%以内ヲ含ムコトヲ得

並 柾目取板目取込赤白交込三等材

ロ なら 柾目取赤白交込一等材但シ板目取赤白交込
 一等材二〇%以内ヲ含ムコトヲ得

上 柾目取板目取込赤白交込二等材

並 同上三等材

(二) 厚板
 イ ぶな 柾目取一等材

極上 柾目取一等材

二〇九

潤葉樹製材規格

二〇九

長 (尺)	厚 (寸)				
	二	三	四	五	六
一二・七	八	七	六	五	四
一五・三	七	六	五	四	三
一七・九	六	五	四	三	二
二〇・五	五	四	三	二	一
二三・一	五	四	三	二	一
二五・七	四	三	二	一	一
二八・三	四	三	二	一	一
三〇・九	四	三	二	一	一

長 (尺)	厚 (寸)				
	二	三	四	五	六
四〇〇	二	二	二	二	二
四三〇	二	二	二	二	二
四六〇	二	二	二	二	二
四九〇	二	二	二	二	二
五二〇	二	二	二	二	二

長 (尺)	厚 (寸)				
	二	三	四	五	六
二〇・五	三	三	三	三	三
二三・一	三	三	三	三	三
二五・七	三	三	三	三	三
二八・三	二	二	二	二	二
三〇・九	二	二	二	二	二

長 (尺)	厚 (寸)				
	二	三	四	五	六
五五〇	二	二	二	二	二
五八〇	二	二	二	二	二

(二) 鉋削實矧材

長 (寸)	一五〇未満	一五〇以上
厚 (寸)	二・〇	一・八
幅 (寸)	二・〇枚	二・〇枚
七・五	二・〇	一・〇
九・〇	二・〇枚	一・〇枚
七・五	二・〇	一・〇

但シ長ニ於テ一〇糎以内ノ差アル不揃材ヲ取纏メテ一團トシ其ノ最長ノモノニ枚ヲ中心トシ其ノ兩側ニ順次短キモノヲ配シテ結束ス

長 (寸)	一五〇未満	一五〇以上
厚 (寸)	〇・九	〇・九
幅 (寸)	〇・九	〇・九
七・五	三・〇	二・〇
九・〇	三・〇枚	二・〇枚
七・五	三・〇	二・〇

二 結束
(一) 粗挽材
結束箇所ハ長一五〇糎未満ノモノハ二箇所トシ一五〇糎以上ノモノハ一〇〇糎以内ヲ増ス毎ニ一箇所ヲ増ス

三 保管林、委託林、部分林

(一) 保管林

社寺保管林規則

明治三十二年八月三日
勅令第三百六十一號

(改正) 大正六年六月勅令第六七號

第一條 社寺上地ノ森林保管ヲ其ノ社寺ノ願出ニ依リ許可スルハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 保管林ノ區域ハ農商務大臣之ヲ定ム

第三條 保管林ノ保管期間ハ五十年ヲ超ユルコトヲ得ス

第四條 前項ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得

第五條 社寺ニシテ保管林地ヲ使用セントスルトキハ大林區署長ノ許可ヲ受クヘシ但シ祭典又ハ法用ノ爲一時之ヲ使用スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六條 社寺ハ保管林地ノ使用ニ付林地ノ資質ヲ害シ又ハ風致ヲ損スルコトヲ得ス

第七條 社寺其ノ保管林ノ植栽ヲ願出テタルトキハ大林區署長ハ條件ヲ定メ之ヲ許可スルコトヲ得

第八條 社寺ハ保管林ニ關シ左ノ義務ヲ負フ

一 火災ノ豫防及消防

二 盜伐、誤伐、冒認、侵襲其ノ他ノ加害行爲ノ豫防及防止

三 有害動物ノ豫防及驅除

社寺保管林規則

二二五

結束ニハ徑約一糎ノ藁繩ヲ用ヒ結束箇所中最上部及最下部ハ各四回廻シ其ノ他ハ三回廻シトス

(二) 鉋削實矧材
結束箇所ハ最短材ノ長一五〇糎未満ノモノハ二箇所、一五〇糎以上ノモノハ三箇所トス

結束ニハ徑約一糎ノ藁繩ヲ用ヒ各箇所三回廻シトス

第十 標示

一 製材ニハ材毎ニ生産管林署及仕譯標準ニ依ル等級ヲ標示スル別紙見本ノ記號ヲ捺スモノトス

二 結束ノ表板ニハ左ノ例ニ倣ヒ商標、樹種、人工乾燥、品等、寸法、數量及官行製品タルコトヲ表示スルモノトス但シ表示ニ使用スル色ハ粗挽材ニ在リテハ黑色、鉋削實矧材ニ在リテハ紫色ヲ用フ

(標示例及附屬圖別册 五)

四 境界標其ノ他ノ標識ノ保存

五 大林區署長ノ命ニ依リ看守人ヲ配置スルコト

六 大林區署長ノ指定シタル方法ニ從ヒ稚樹ノ保育及成林撫育ニ必要ナル行爲ヲ爲スコト

七 前條ノ規定ニ依リ植栽ヲ爲シタル場合ニ於テ大林區署長ノ指定シタル方法ニ從ヒ手入ヲ爲スコト

第六條 主產物ハ大林區署長ノ指定ニ依リ其ノ伐採量ノ價格ノ三分ノ二ニ相當スル部分ヲ社寺ニ於テ採取スルコトヲ得但シ明治二十年以後國ノ植栽シタル樹木ニ付テハ三分ノ一、第四條ノ二ノ規定ニ依リ社寺ノ植栽シタル樹木ニ付テハ十分ノ八トス

第七條 社寺ハ大林區署長ノ許可ヲ得タル場合ニ限り根株ヲ採取スルコトヲ得

第八條 社寺ハ林地ノ資質ヲ爲ササル副產物ヲ採取スルコトヲ得

第九條 社寺ハ大林區署長ノ指定シタル期間内ニ其ノ採取產物ノ搬出ヲ終ルヘシ

第十條 前項ノ期間内ニ搬出ヲ終ラサルトキハ其ノ產物ヲ採取スル權利ヲ失フ

第十一條 左ノ場合ニ於テハ農商務大臣ハ保管ヲ解除スルコトヲ得

一 社寺ノ管理者第四條ノ規定ニ違背シタルトキ

二 社寺ノ管理者第五條ノ義務ヲ怠リタルトキ

三 社寺ノ管理者其ノ保管林ニ關シ罪ヲ犯シタルトキ

四 保管林ヲ公用又ハ公益事業ニ供スル必要生シタルトキ

五 本令ニ依ル許可ノ條件ニ違背シタルトキ

(大正六年本令)

二二五

前項ノ規定ニ依リテ保管ヲ解除シタル場合ニ於テハ損害ヲ賠償セズ
第十條 社寺ノ管理者許可ヲ得シテ保管林地ヲ使用シタルトキハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス社寺ノ管理者保管林ヲ他人ニ貸付シ又ハ使用セシメタルトキ亦同シ

第十一條 本令施行前ニ社寺ニ委託シタル上地官林ハ從前ノ例ニ依ル
第十二條 本令施行前ニ社寺ニ委託シタル上地官林ハ其ノ社寺ノ出願ニ依リ本令ニ定ムル保管林ト爲スコトヲ得

附則 (大正六年六月勅令第六十七號)
從前ノ規定ニ依リ許可シタル保管林ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル但シ社寺ノ出願アルトキハ本令ニ依リ保管ヲ許可スルコトヲ得

社寺保管林規則改正ニ伴フ取扱方ニ關スル件

大正六年八月一日 林第二一六九號山林局長通牒

今般社寺保管林規則一部改正相成候ニ付テハ別ニ定メタル規定ニ依ルノ外尙左記事項ニ準據シ出願ニ對シテハ可成速ニ保管林ノ設定ヲ了セラレ度依命此段及通牒候也

- 一 保管林ハ左ノ場合ニ於テハ之ヲ許可セサルコトヲ得
(イ) 現ニ公用又ハ公益事業ニ供セルモノ
(ロ) 部分林、貸地等現ニ他人ノ權利ノ目的トナレルモノ

- (ニ) 保管林設定ノ願書ヲ受理シタルトキハ其ノ設定ニ關スル處分ヲ爲ス迄公用又ハ公益事業ノ爲已ムヲ得サル場合ノ外立木ノ賣拂又ハ官行斫伐事業ノ根伐ヲ停止スルコト但シ斫伐事業ノ根伐ヲ停止スルニ依リ作業上重大ナル支障ヲ生スル場合ニ於テハ經伺ノ上處分スヘキコト
(ホ) 社寺ノ採取部合ヲ異ニスル林分ハ之ヲ各別ノ小班ニ區劃シ其ノ成因ハ之ヲ森林調査簿ニ採取部分ハ之ヲ森林調査簿及收穫基案ニ記載スルコト
(ヘ) 收穫基案第一及第二施業期材積欄ニ於テハ國ノ採取スヘキ材積ノミヲ掲記シ第一施業期ニ於テ社寺ノ採取スヘキ材積ハ之ヲ當該小班ノ備考欄ニ記載スルコト
(ト) 社寺ニ於テ施行スヘキ造林事業ノ面積、數量及回数ハ造林基案當該欄ニ之ヲ朱書シ國ニ於テ施行スルモノト區別スルコト
(チ) 前各項ノ外保管林ノ施業ニ關係アリト認ムル事項ハ遺漏ナク調査シ其ノ計畫ヲ樹ツルコト
(別紙省略)

保管林ニ關スル取扱方ニ關スル件

大正六年九月一日 林庶第二二五號山林局長通牒

保管林ニ關スル取扱方ニ付テハ曩ニ詳細及通牒置候處從來ノ例ニ徴スルトキハ此種ノ出願ニ付テハ往々代理者等介立ノ爲徒ニ關係ヲ紛雜ナラシムルノミナラス却テ社寺ノ不利益ヲ來スニ至ル虞有之ニ由リ直接社寺ヲシテ出願セシムルコトニ致度候間此主旨ヲ徹底セシムル様御留意相成度爲念

保管林ニ關スル取扱方ニ關スル件 社寺保管林規則改正ニ伴フ取扱方ニ關スル件 二一七

- (ハ) 現ニ林道、貯木場、苗圃トシテ使用中ノモノ
二 保護方法書及保管許可ノ場合ニ於ケル請書ハ大體別紙様式ニ依ラシムルコト
三 保管林臺帳摘要欄ニハ別紙請書ニ表示シタル面積ノ内譯事項ヲ記載シ且少其ノ圖面ヲ添付スルコト
四 不要存置上地林ハ從前ノ通賣拂處分ヲ續行スヘキモ社寺ニ於テ買受資力ナキトキハ保管林設定ノ取扱ヲ爲シ其ノ資力充實ヲ俟テ賣拂ヲ實行スルコト
五 數個ノ社寺ニ關係アル上地林ニシテ各社寺ノ關係區域不明ナル場合ニ於テ共同保管ヲ出願シタルトキハ願書ニ連帶責任タルコトヲ明記セシムルコト
六 社寺ニ保管林ノ植栽ヲ許可スルトキハ其ノ植栽地以外ノ林木ト混同セサル様特ニ植栽ノ區域ヲ判明ナラシムルコト
七 植栽ノ出願ニ對シ許可又ハ不許可ノ處分ヲ爲シタルトキハ其ノ都度報告スヘキコト
八 保管林ノ產物ニ付テハ經伺スルコト
九 保管林ノ施業關係ニ付テハ左記各號ニ準據スルコト
(イ) 保管林ハ施業案規程第四條ノ施業制限地トシテ取扱ヒ新ニ其ノ設定ヲ爲シタルモノニ付テハ速ニ施業案ノ修正又ハ檢定ヲ爲スコト
(ロ) 樹種、作業種及輪伐期ノ選定並施業ノ實行ニ當リテハ一般國有林ニ對スル注意ノ外營繕用木材生産ノ要否ヲ稽査スルコト
(ハ) 年伐面積ノ比較的小ナル場合ト雖施業上支障ナキ限リハ可成連年作業ヲ採リ社寺ノ利便ヲ圖ルコト

此段及通牒候也

社寺保管林規則改正ニ伴フ取扱方ニ關スル件

大正六年十二月十二日 山第一五九三號山林局長回答

十二月一日附業第一三三九三號ヲ以テ上地林中ノ開墾適地處理ノ件ニ關シ照會ノ趣了承御申出ノ如ク要存置林ナルニ於テハ保管林設定ノ方針ヲ以テ處理相成度但シ現況耕地又ハ社寺ニ於テ開墾ノ爲貸下ヲ希望スル箇所ハ保管林トハ分離シ耕地トシテ利用セシムル様取扱ハレ度此段及回答候也
(大正六年十二月一日業第一三三九三號大阪大林區署長照會)
這回御改正ノ社寺保管林規則ニ據リ既ニ保管ヲ出願シ若ハ將來出願スヘキ要存置國有林内ニ存スル比較的大面積ノ開墾適地及該社寺上地林ノ全部又ハ大部分カ適地トシテ調査セラレタルモノノ内左記各項ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ實況上開墾ニ適スルモノ之ヲ適地ヨリ削除シ要存置ノ儘保管林設定支障無之哉至急何分ノ御回示相煩度此段及照會候也

- 一 社寺カ開墾ヲ條件トスル拂受ヲ欲セス保管林設定ヲ希望スル場合
二 社寺並地元民ニ於テ相當ノ資力ヲ缺キ從テ開墾ヲ條件トスル拂受ヲ希望セサル場合

社寺保管林設定ノ場合請書條項ノ件

大正七年四月十九日 山第二八一號山林局長通牒

社寺保管林許可ノ場合ニ於ケル請書條項ニ關シ別紙甲號大阪大林區署ノ申出ニ對シ乙號ノ通り回答致置候條右ニ準シ處理相成度此段及通牒候也

(別紙)

〔甲號〕 (大正七年二月二十二日務第五二號大阪大林區署長協議)

社寺保管林ヲ許可スル場合社寺ヨリ提出セシムヘキ請書ノ條項ニ付テハ曩ニ大正六年八月一日附林第二一六九號ヲ以テ御通牒ノ次第モ有之候處當署ニ於テハ大體別記ノ通り處理致度候處差支無之候哉至急何分ノ御指示相成度此段及御協議候也

追テ請書條項中第六、一、一三ノ三號ハ左記事由ニ依リタル義ニ付御了知相成度尙左記第二號ノ收入科目ハ如何ニ處理スヘキヤ併テ御指示相成度候

- 一 國有林野法施行規則第四十四條ノ四ニ於ケル「區域ヲ劃シテ植栽シタル地域」トハ主トシテ新植シタル地域ヲ意味スルカ如キモ殆ト新植ト選フコトナキ天然生育植栽ヲ爲シタル地域ヲモ之ニ包含セシムルヲ相當トスヘキモ稚樹發生ノ狀況補植歩合ノ如何等查察ノ上豫メ其地域ヲ限定スルヲ可ト認メ請書條項第六號ヲ設ケタルモノナリ
- 二 社寺ヲシテ保管林ノ產物ヲ採取セシムルニ當リテ產物其ノモノヲ採取セシムルハ其採取分ニ相當スル產物ヲ指

定スルコト困難ニシテ多クノ場合ニ於テ至難ノ事ニ屬ス仍テ別記請書條項第九號ニ記述スル如ク便宜林區署ニ於テ伐採量ノ全部ヲ賣拂處分ニ附シ採取分ニ應シ其代金ヲ分收スルヲ得ルコトニ社寺ヲシテ承諾セシムル見込ノ處林區署ノ施設スル林道其ノ他ノ產物搬出設備アル上地林ニアリテハ自ラ其產物賣拂價格昇騰スヘク爲ニ社寺ヲシテ林區署ノ施設セル設備ニ因リテ利益ヲ得セシムルノ結果トナルヘキヲ以テ該搬出設備アルモノニ付テハ前述スルトコロニ依リ代金ヲ分收スルノ都度林區署ノ指定ニ依リ社寺ノ取得スヘキ採取分ニ對シテ該設備ノ使用料金ニ相當スル金額ヲ社寺ニ負擔セシムルヲ相當ト思料ス(此場合ニ於テ產物ノ買受人等ハ使用料金ヲ徵收セサルモノナルコト勿論ナリ) 此場合該金額ノ收入科目ハ如何ニ處理スヘキモノナリヤ(請書條項第十一號)

三 社寺保管林規則第九條ノ「管理者」ハ神職住職ハ勿論氏子惣代、檀徒惣代、信徒惣代ヲモ包含スルモノト解釋スルヲ正當ト認ムルモ明瞭ヲ缺クカ故ニ請書條項第十三號ニ之ヲ明記セシメントスルモノナリ

- 保管林設定ニ關スル請書條項
- 一 保管林ニハ境界標ノ外林區署ノ指揮ヲ受ケ國有林名、保管林面積、保管期間及保管者名ヲ記載シタル標識ヲモ建設スヘキコト
- 二 社寺保管林規則第四條但書ノ規定ニ依リ林地ヲ使用セムトスルトキハ十日以内ニ所轄小林區署ニ届出ツヘキコト
- 三 林地ノ使用ヲ了リタルトキハ遲滞ナク所轄小林區署ニ届出ツヘキコト
- 四 社寺保管林規則第五條ノ義務履行ニ付テハ林區署ノ指

- 五 揮ニ從フヘキコト
- 六 許可ヲ得スシテ植栽シタル樹木ハ天然木ト看做サルルモ異議ナキコト
- 七 天然生育植栽地ヲ國有林野法施行規則第四十四條ノ四ニ規定セル區域ヲ劃シテ植栽シタル地域トシテ取扱ハムトスルトキハ社寺ニ於テ補植セムトスルトキハ豫メ林區署ノ承認ヲ受ケ林區署ニ於テ補植セムトスルトキハ自ラ決定シテ社寺ニ通知スヘキコト
- 八 根株ハ大林區署長ノ許可アリタル場合ニ限リ他ノ主產物トシテ採取分ノ割合ニ依リ採取スヘキコト
- 九 保管林内ニ於ケル國有植栽木力明治二十年以後ノ植栽ニ係ルモノナリヤ否ヤハ林區署ノ認定ニ依リヘキコト
- 一〇 主產物ノ採取法ニ付テハ林區署ノ便宜ニ依リ林區署ニ於テ伐採量ノ全部ヲ賣拂處分ニ付シ採取分ニ應シ其代金ヲ分收スルモ異議ナキコト
- 一一 前項ノ場合ニ於テ賣買契約ノ不締結若ハ不履行ニ基ク違約金ニ付テハ分收ヲ請求セサルヘキコト
- 一二 副產物ノ採取ニ付テハ豫メ其種類、採取ノ時期方法等ヲ定メ大林區署長ノ承認ヲ受ケヘキコト
- 一三 產物ノ搬出ヲ了リタルトキハ遲滞ナク所轄小林區署ヘ届出ツヘキコト
- 一四 林區署ノ施設セル林道其他ノ產物搬出設備アルモノニ付テハ第九號ニ依リ代金ヲ分收スル都度林區署ノ指定ニ依リ社寺ノ所得スヘキ採取分ニ對シテ該設備ノ使用料金ニ相當スル金額ヲ林區署ニ納付スヘキコト
- 一五 神職、住職ニ於テ已ムヲ得サル故障アルトキハ保管林ノ事務ニ關シ代理人ヲ定メ大林區署長ニ届出ツヘキコト

社寺保管林設定ノ場合請書條項ノ件

- 一三 管理(神職、住職、氏子惣代、檀徒惣代、信徒惣代)又其ノ氏名ノ變更ハ直ニ大林區署長ニ届出ツヘキコト
- 一四 前項ノ届出ヲ爲サス又ハ代理人ノ代理權變更若クハ消滅ヲ届出テサルトキハ其變更又ハ消滅ヲ以テ林區署ニ對シテ之ヲ得サルヘキコト
- 一五 保管林ニ關シ官廳ヨリスル處分其他ノ行爲ハ神職、住職又ハ第十二號ノ代理人ノミニ對シテ爲スモ異議ナキコト
- 一六 前項ノ行爲ハ神職、住職第十二號ノ代理人共ニ欠缺セル場合ニ於テハ氏子檀徒若クハ信徒惣代ノ一人ノミニ對シテ之ヲ爲スモ異議ナキコト
- 一七 看守人、產物ノ買受人(轉買人ヲ含ム)其使用人並事業施行ノ爲入林セシムル者ニ對シテハ豫メ林區署ニ届出タル章標ヲ携帶セシムヘキコト但章標ノ交付ヲ省略アルトキハ之ヲ示サシムヘキコト但章標ノ交付ヲ省略セシムルトキハ豫メ林區署ノ承認ヲ受ケヘキコト
- 一八 保管林地及歩道其他ノ附帶設備ニ對シテ輕易ナル天然被害アリタルトキハ林區署ノ指揮ニ依リ其回復ヲ圖ルヘキコト
- 一九 保管林ヨリ收入ヲ得タルトキハ直ニ之ヲ主務官廳ニ届出ツルコト
- 二〇 前項ノ收入ノ處理ニ付テハ主務官廳ノ指揮ニ從フヘキコト若シ違背シタルトキハ保管林ヲ解除セララルモ異議ナキコト

〔乙號〕 (大正七年四月十九日山第二八一號山林局長回答) 二月二十二日付務第五八二號ヲ以テ申出ニ係ル保管林許可

國有林野 保管林、委託林、部分林

ノ場合ニ於ケル請書條項ノ件ハ左記ノ通削除又ハ改定ノ上
施行相成度此段及回答候也
追テ新設條項ハ曩ニ本局ヨリ配付致置シ請書用紙ニ追加
記入セシムル様致度爲念申添候也

- 一 境界標ノミニテ充分ト認メ候ニ付第一號ハ削除相成度
- 二 第二號ノ届出ハ小林區署又ハ保護區官舎ニ爲サシムル
コトニ改メラレ度
- 三 第三號ハ十日以上ノ使用ニノミ適用スルコトニ改メラ
レ度
- 四 林野法施行規則第四十四條ノ四ノ前段ノ規程ハ天然生
育ニハ適用セサル方針ナルヲ以テ第六號ハ削除相成度
尙天然生育地ニシテ多數ノ補植ヲ爲スニアラサレハ成
林ノ見込ナキ箇所ハ保管林規則ノ適用上植栽地トシテ
處理相成度
- 六五 第九號中「林區署ノ便宜ニ依リ」ヲ削除相成度
第十一號ハ保管林内ノ林道（軌道以上ノ設備ニ對シテ
ハ其利用區間全部ノ）修繕費ノミヲ使用料金トシテ徵
收スルコトニ改メラレ度
- 六七 第十五號ニ項ハ削除相成度
第十七號ハ保管林地内ニ於ケル修繕ノミヲ爲サシムル
コトニ改メラレ度

社寺保管林設定許可稟伺様式ノ件

大正七年五月一日
林第一一八五號山林局長通牒

二二〇

社寺保管林設定許可見込ノモノニ付テハ別紙様式ニ依リ稟
伺相成度此段及通牒候也
追テ稟伺事項等ニ關シ調査ヲ要スル場合ハ貴署自ラ行フ
カ若ハ地方廳ニ照會ノ上調査ヲ遂ケラレ度申添候也
（様式別冊 六）

不要存置上地林ニ係ル保管林
設定ノ件

大正七年五月二十四日
林第一五五八號山林局長通牒

不要存置上地林ニ係ル保管林設定ノ件ハ客年八月林第二一
六九號通牒第四項ヲ以テ申進置候處早晚資力充實ノ望アル
社寺ニ對シテハ右設定ヲ見合セ適當ノ時期ニ於テ其社寺ヘ
賣拂ヲ爲スコトトシ又同第四項ニ依リ保管林設定ヲ要スル
モノノ内國ノ自營ニ適スヘキ見込ノ分ハ之ヲ要存置ニ變更
スルコトニ取扱相成度此段及通牒候也

保管林ノ產物搬出ノ爲林道使用ノ
場合其料金修繕費ノ算率並保管竹
林除草施肥ニ關スル件

大正七年七月十三日
山第七九九號山林局長通牒

社寺保管林ノ設定ニ關シ別紙甲號大阪大林區署長ノ照會ニ
對シ乙號ノ通り回答致置候條右ニ準シ處理相成度此段及通
牒候也

〔甲 號〕
（大正七年五月十五日務第五八二號大阪大林區署長照會）
社寺保管林設定ニ關シ左記ノ廉疑義有之候ニ付至急何分御
指示相成度此段及照會候也

- 一 社寺ヨリ提出スヘキ請書條項ニ付四月十九日付山第二
八一號御回答第六項林道其他產物搬出設備ノ使用料金算
定ノ基礎トスヘキ修繕費ノ算率等
（一）林道使用料ハ保管林内ノ林道（軌道以上ノ設備ニ對
シテハ其利用區間全部ノ）修繕費全部ヲ徵收スヘキヤ
將又社寺等ノ分收分ニ對スル修繕費ヲ徵收スヘキヤ
（二）前號修繕費ノ計算ハ
（イ）年度ノ始メニ當リ使用料金ヲ徵收スル場合ニハ其
年度修繕見込額ニ據ルヘキヤ
（ロ）年度ノ中途ニ當リ使用料金ヲ徵收スル場合ニハ其
年度修繕實行濟額ト將來年度内修繕見込額トヲ合
算シタルモノニ據ルヘキヤ
（ハ）年度ノ終リニ當リ使用料金ヲ徵收スル場合ニハ其年
度修繕實行濟額ニ據ルヘキヤ
（ニ）使用料金徵收ニ當リ修繕費中非常災害ニ基クモノ
ハ之ヲ控除スヘキヤ
- 二 竹林ノ除草施肥
保管林ニ於テ國ハ其伐採量ノ價格ノ三分ノ一ヲ分收シ尙
且其除草施肥ヲ施行スルニ於テハ收支相償ハサルヘク且
竹林ニ於ケル除草施肥ハ畢竟新竹ノ發生保育及成林撫育
上必要ナル行爲ニ外ナラサレハ社寺ヲシテ實行セシムル
見込ナリ差支ナキヤ

〔乙 號〕
社寺保管林設定許可稟伺様式ノ件 不要存置上地林ニ係ル
社寺保管林中官行斫伐事業施行箇所取扱方ノ件

（大正七年七月十三日山第七九九號山林局長回答）
五月十五日付務第五八二號ヲ以テ照會ニ係ル社寺保管林設
定ニ關スル疑義ノ件ハ左記ノ通り了知相成度此段及回答候
也

- 一 林道使用料ハ後段見解ノ通り社寺ノ分收分ニ對スル修
繕費ノミヲ徵收相成可然追テ前通牒ハ保管林内ニ於ケ
ル林道使用ノ場合ヲ定メタルモノニシテ保管林外ノ林
道ニ就テハ一般ノ標準ニ依リ取扱ハルルノ外軌道以上
ノ設備アルモノニ對スル使用料金算定ニ付テハ本月十
三日林第二〇〇六號通牒官行斫伐ヲ行フ場合ニ於ケル
經費算定標準參照相成度
- 二 修繕費ノ計算ハ非常災害ニ基クモノヲ除外シ他ハ貴見
ノ通り處理相成可然
- 三 竹林ノ除草及施肥ハ新竹ノ發生保育及成林撫育ニ必要
ナル行爲ノ方法トシテ之カ施行ヲ指定相成可然

社寺保管林中官行斫伐事業施行
箇所取扱方ノ件

大正七年七月林第二〇〇六號
大阪大林區署長宛山林局長通牒

社寺保管林中官行斫伐事業ヲ施行スル必要アル箇所ニ付テ
ハ保管林契約ノ附帶條項トシテ別紙ノ通り約定セシメタル
上從來ノ通之ヲ施行シ其製品ノ賣拂代金ニ付社寺ノ採取ス
ヘキ金額ヲ右約定ノ通り社寺ニ取得セシムルコトニ取扱相
成度依命此段及通牒候也
追テ右附帶契約第五項ニ依リ林區署長ノ定ムヘキ經費ハ

二二二

別紙ノ標準ニ基キ毎回ノ製品賣拂處分ニ際シ豫メ算定相成度右經費トシテ控除シタル金額ハ全部所代製品拂下代トシテ調定スル義ニ有之候條申添候也

(別紙) 保管林ノ官行所代實行ノ場合ニ於ケル附帶契約案本保管林ノ木竹ニ對シテハ林區署ニ於テ所代、造材搬出貯材及處分ヲ行フコト但シ國有林施業ノ都合ニ依リ必要アルトキハ何時ニテモ官行事業ヲ廢止スルヲ得ヘキコト此ノ場合ニ於テ社寺ハ何等損害ノ賠償ヲ請求スルヲ得サルコト

二 社寺ノ自用ニ充ツル爲メ現品ヲ必要トスルトキハ年度開始前其數量ヲ林區署長ニ申出テ承認ヲ受クヘキコト但シ非常災害ノ爲必要アルトキハ臨時申出ヲ爲スヲ得ヘキコト

三 社寺ノ取得スヘキ金額ハ生産品ノ總賣拂代金ヨリ其ノ生産ニ要シタル經費ヲ控除シタル金額ニ付社寺ノ採取分ニ相當スル金額タルヘキコト

四 第二號ニ依リ現品ヲ引渡シタルモノアルトキハ其ノ見積價格ニ他ノ生産品ノ賣拂代金額ヲ加ヘ之ヨリ總生産品ノ總生産費ヲ控除シタルモノニ付社寺ノ採取分ニ相當スル金額ヲ定メ之ヨリ已ニ採取セシメタル現品ノ見積價格ヲ控除シタル金額ヲ以テ社寺ノ取得スヘキ金額トスヘキコト

五 前二號ノ計算上必要ナル經費及見積價格ハ林區署長之ヲ定ムルコト

六 社寺ノ取得スヘキ金額ハ生産品ノ買受人ヨリ直接社寺ニ支拂ハシムルコト

七 賣拂代金ノ延納ヲ許可シタル場合ニ於テハ擔保品ハ林區署ニ於テ保管シ代金不納ニ依リ之ヲ處分シタルトキ

ハ其ノ賣得金ヲ代金ト看做シテ計算シタル社寺ノ取得金額ヲ林區署ヨリ社寺ニ交付スルコト

八 社寺ハ林區署ノ作業及製品ノ賣拂ニ關シ異議ヲ述ヘ又ハ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得サルコト

九 製品ノ賣拂處分ニ關シ契約ノ不締結又ハ不履行ニ依リ取得シタル保證金、違約金ハ國ノ收入タルヘキコト

十 保管林ノ產物カ官行事業中滅失又ハ毀損シタルトキハ其ノ損失ハ國及社寺ニ於テ採取分ノ割合ニ依リ分擔スヘキコト此場合ニ於テ滅失シタル部分ニ對スル官行事業經費ハ國ノ負擔タルヘキコト

(別紙) 經費算定標準

一 社寺ノ生産品ノ處分ニ先チ一事業ヲ通シ左ノ因子ニ依リテ算定ス

二 當該作業ニ對スル所代作業費

三 但シ事業實行ノ現況ニ鑑ミ豫メ一石當リ單價ヲ定メテ計算ス

四 作業費ニ對スル流動資本ハ其ノ半額ト看做シ之ニ對スル年五分ノ利息

五 林道貯木場等ノ設備費ニ對スル年五分ノ利息及一ケ年ノ修繕費

保管林設定ニ關シ上地林内ノ補植木取扱方ノ件

大正七年七月十七日 林第一一五九號山林局長通牒

社寺上地林内ニ於ケル補植木取扱方ノ件ニ關シ別紙甲號東京大林區署長ノ照會ニ對シ乙號ノ通り回答致置候條右ニ準シ處理相成度此段及通牒候也

[甲 號]

(大正七年四月十七日林第六三七九號東京大林區署長照會)

大正七年七月二十四日 山第一一九二號山林局長回答

七月十五日付林第三六七四號ヲ以テ社寺保管林ニ關スル疑義照會有之候處保管林規則第五條第六號中「稚樹ノ保育」義務ハ人工植栽ニハ適用セサル義ト了知相成度此段及回答候也

保管林内ノ補植木ハ在來樹ト看做スヘキヤ

解釋ニ關スル件

保管林出願ニ當リ其在來樹ト否トヲ實査候處左記ノ如キ補植樹アリ人工造林樹ト認メ難キ様認メ候得共疑義有之候ニ付御指揮相成度右及御照會候也

左記

林相 林齡七十年乃至百年、赤松、杉、花柏、扁柏、雜ノ混交林ニシテ材積一町步當リ本數三百九十五本、五百二十七十

補植 右ノ在來樹林地ニ對シ四年前林相ノ疎開ヲ防止スル目的ヲ以テ全區域ニ亘リ扁柏ヲ點點補植ス群狀補植ノ個所ナシ補植扁柏現在長サ約三尺、一町步宛百七十一本

將來ノ施業方法 本林地ノ地質上赤松ノ天然更新法ヲ採ラントス從テ將來ノ林相ハ赤松ヲ主木トシ扁柏ハ林分比較的少ナキニ至ルヘシ

大正七年七月十五日林第三六七四號東京大林區署長照會)

社寺保管林規則第五條第六號中稚樹ノ保育ナル意義ニ付テハ其第七號ト對照シ國ノ植栽ニ係ルモノノ手入刈拂ハ之ヲ含マサルモノノ如クニ思料セラレ候得共元來稚樹ノ保育タル語ハ廣ク天然造林ト人工造林トヲ問ハス苟モ稚樹ヲ保育スル必要ナル行爲ヲ指稱スルモノナルヲ以テ國ノ植栽シタル手入刈拂ト雖モ之ヲ含ムモノト解スルヲ至當ナリトモ思料セラレ疑義ニ涉リ候間何分ノ義御指示相成度候也

保管林設定取扱上上地ノ意義ニ關スル件

大正七年八月三日 山第一〇八六號山林局長通牒

(大正七年七月十七日山林局長回答)

四月十七日付第六三七九號ヲ以テ照會ニ係ル上地林内ノ補植木取扱ノ件ハ貴見ノ通り在來樹トシテ處理相成可然經同ノ上此段及回答候也

保管林稚樹保育義務範圍ニ關スル件

保管林設定ニ關シ上地林内ノ補植木取扱方ノ件

保管林設定取扱上上地ノ意義ニ關スル件

社寺保管林設定取扱方ノ件ニ關シ別紙甲號東京大林區署長ノ照會ニ對シ乙號ノ通り回答候條了知相成度爲念此段及通牒候也

[甲 號]

(大正七年七月六日林第三六二五號東京大林區署長照會)

國有林野法第十七條ニ所謂上地ノ意義ハ明治八年地租改正

事務局乙第四號達社寺境内外區畫取調規則ニ基キ取調タル
境外上地ヲ指稱スルモノニシテ明治四年太政官布告ニ基キ
タル社寺領ノ上知ヲ含マサルモノトノ説モ有之哉ニ候處元
來保管林設定ノ趣旨ヨリ見ルトキハ其社寺領ノ上知タルト
境外上地タルトヲ問ハス設定許可ヲ爲シ得ルモノト解スル
ヲ穩當ト思料セラレ候得共聊カ疑義相生シ候條何分ノ義御
指示相成度
右及照會候也

〔乙〕號

(大正七年八月三日山第一〇八六號山林局長回答)

七月六日附林第三六二五號ヲ以テ保管林設定取扱方ノ件ニ
關シ照會有之候處林野法ニ於ケル上地森林ノ意義ハ舊境内
地即チ社寺境内外區別處分(明治四年五月二十四日同年七
月四日付太政官達及明治八年地租改正事務局乙第四號達等
參照)ニ依リ上地シタル森林ニ限ル義ト了知相成度此段及
回答候也

保管林稚樹保育ノ解釋ニ關スル件

大正七年十月三十日

山第一六五三號山林局長回答

十月十二日付務第三一五六號ヲ以テ保管林規則第五條中疑
義ノ件照會有之候處手入ハ稚樹ノ成育ヲ助成スヘキ保育事
業ナルモ其稚樹ノ發生ヲ促進セシムル爲ニスル播起シ又ハ
地拵等ノ準備事業ヲ保管林規則ノ所謂稚樹ノ保育ト認メ難
キ義ニ付了知相成度此段及回答候也

(大正七年十月十二日務第三一五六號大阪大林區署長照會)

社寺保管林規則第五條第六號申「稚樹ノ保育」ノ意義ニ
付テハ本年七月二十四日附山第一一九二號東京大林區署

長宛御回答ニ依リ同義務カ人工植栽地ニ適用セラレサルコ
トハ明瞭ニ候得共「稚樹ノ保育」ノ範圍内ニ天然下種事業
及手入ヲ包含スルヤ否ヤニ付テハ同條第七號トノ對照上尙
疑義ニ涉リ候間何分ノ義御指示相成度候也

社寺保管林ヨリ得ル寺院ノ收得金

處分ニ關スル件

大正八年四月八日

林第三五一三號山林、宗教兩局長通牒

社寺保管林規則ニ依リ社寺上地ノ國有林ヲ其ノ社寺ニ保管
セシムル場合ニ於テハ許可ノ條件トシテ一般ニ左記事項ヲ
遵守セシムルコトニ相成居候條保管林ヨリ享ケル當該寺院
ノ收入金處理ニ付テハ特ニ嚴重ナル指揮監督ヲ爲シ因テ保
管林設定許可ノ精神ヲ徹底セシムル様致度依命此段及通牒
候也

追テ保管林設定許可ノ上ハ當該大林區署長ヨリ通知可致
候條爲念申添候也

記

八、保管林ヨリ收入ヲ得タルトキハ直ニ之ヲ主務官廳(地
方長官)ニ届出ツルコト
前項ノ收入ノ處理ニ付テハ主務官廳(地方長官)ノ指揮
ニ從フヘキコト若シ違背シタルトキハ保管林ヲ解除セラ
ルルモ異議ナキコト

社寺保管林設定許可ノ場合通知方

大正八年四月八日
林第三五一三號山林局長通牒

社寺保管林設定許可ノ上ハ可成速ニ當該社寺ヨリ提出スル
保護方法及書寫並社寺ノ享ケヘキ利益見込額(推定額)
調書ヲ添付其ノ旨地方長官へ通知相成度此段及通牒候也

神社上地林保管ニ關スル件

大正八年四月十二日

林第九五五號山林、神社兩局長通牒

各府縣知事宛

神社上地ノ森林ヲ其ノ神社ニ保管認許ノ場合ハ社寺保管林
規則其ノ他ニ依リ種々ノ義務ヲ負擔スルコトニ相成候條之
カ履行ニ付テハ特ニ遺漏ナカラシムル様御配慮相成度尙保
管林ヨリ臨時ニ多額ノ收入ヲ得タル場合ニ於テハ營繕其ノ
他特別ノ事情ニ依ル費用ニ充ツルノ外ハ可成基本財産等ニ
積立テシメ依テ保管林設定認許ノ精神ヲ貫徹セシムル様致
度依命此段及通牒候也

追テ保管林設定許可ノ上ハ所管大林區署長ヨリ其ノ旨御
通知致スヘキ管ニ候間爲念申添候也

社寺保管規則第五條第六號成林

撫育ノ解釋ニ關スル件

大正八年十一月十三日

山第一六四七號山林局長通牒

社寺保管林規則ニ關スル別紙甲號照會ニ對シ乙號ノ通牒
致候條此段爲念及通牒候也

〔甲〕號

(大正八年十月二十八日務甲第五四五五號鹿兒島大林區
署長照會)

保管林稚樹保育ノ解釋ニ關スル件 社寺保管規則第五條
關スル件 社寺保管林ノ主產物採取分區別取扱方ノ件

社寺保管林規則第五條第六號ニ依リ保管者ハ明治二十年以
後國ノ植栽シタル樹林地ニ對シテモ成林撫育ノ義務アルモ
ノト被存候處保管者ノ負擔スヘキ成林撫育ハ現ニ林區署ニ
於テ手入トシテ處理シツツアル行爲ヲ除キ掃除伐、蔓切、
枝打、間伐等一切ノ撫育行爲ヲ包含スルモノト解釋シ可然
哉聊カ疑義有之候條何分ノ御指示相成度此段及照會候也

〔乙〕號

社寺保管林ノ主產物採取分區別

取扱方ノ件

大正九年八月十三日

山第八八九號山林局長通牒

社寺保管林ノ主產物採取分區別取扱方ノ件ニ關シ別紙甲號
大阪大林區署長ノ照會ニ對シ乙號ノ通牒ヲ通リ回答候條右ニ準シ
處理相成度此段及通牒候也

〔甲〕號

(大正九年五月二十八日務第一九五二號大阪大林區署長
照會)

社寺上地林中從來擇伐作業ヲ採レル箇所ニシテ壯齡又ハ老
齡ナル天然生林木ノ下ニ國ニ於テ苗木ヲ植栽シ其ノ本數ノ
比較的多數ナル林分ニ在テハ二段林ヲ形成シ上段ノ天然林
ト下段ノ植栽林トノ區別明確ニシテ且ツ全然其ノ收穫時期
ヲ異ニスルモノ有之是等ハ在來樹林ト植栽林トガ同一林地

國有林野 保管林、委託林、部分林

ニ重ルモノナルヲ以テ斯クノ如キ林分ニ對シテ保管林ヲ
設定シタルトキハ上段ノ在來樹ト下段ノ植栽樹トハ採取分
ヲ異ニスルモノトシテ取扱フヲ社寺保管林規則第六條規定
ノ精神ニ合致スルモノト思料候處國有林野法施行規則第四
十四條ノ四ノ規定ニ依レハ同一林地ノ上ニ採取分ヲ異ニス
ル林木ノ存在スルコトヲ認ムル能ハサルヤニ被存疑義有之
候條何分ノ御回示相成度此段及照會候也
追テ從來保管林設定濟ノ箇所ニ於ケル前述ノ如キ林分ハ
林相ヲ構成スル主タル林木ニ依リ區分シ多クハ保管林設
定請書ニ於テ在來樹林地ニ算入致居候ヘハ御回示ノ如何
ニ依リテハ相當更訂ヲ爲スヘキ見込ニ付申添候
〔乙 號〕
(大正九年八月十三日山林局長回答)
五月二十八日附務第一九五二號ヲ以テ照會ニ係ル保管林主
產物ノ採取分區別取扱ノ件ハ前段御見解ノ通處理相成度此
段及回答候也

社寺上地官林委託規則

明治二十四年四月八日
農商務省令第五號

第一條 社寺ニ於テ上地官林ノ委託ヲ請ケント欲スルトキ
ハ願書ニ其ノ創立ノ年代由緒資格出願地ノ字名區域段別
樹種別木數(竹ハ三寸回リ以上ノ數量)維持方法氏子檀
徒信徒ノ概數等ヲ詳記シ年限ヲ定メ圖面ヲ添ヘ神職住職
及氏子檀徒總代ノ(檀徒總代)三名以上連署シ寺院ハ管長ノ
與書ヲ經テ管轄大林區署長ニ差出スヘシ
第二條 社寺上地官林ノ委託ハ此規則中特ニ定メタル場合

前項ノ境界標ハ委託許可ノ日ヨリ十日以内ニ之ヲ建設シ
委託官林ノ段別境界ノ方位許可ノ年月日及ヒ某社寺ノ請
ケタル委託官林タルコトヲ明瞭ニ表記スヘシ
第八條 社寺ハ第四條ニ據リ委託官林内ニ竹木栽植ノ許可
ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ其ノ栽植地ノ四至ニ標杭ヲ
建設シ栽植地ノ段別境界ノ方位許可ノ年月日及ヒ某社寺ノ
請ケタル委託官林内ノ栽植地タルコトヲ明瞭ニ表記スヘ
シ
第九條 社寺ニ於テ委託官林内ノ竹木ヲ斫伐シ副產物ヲ採
取スルトキハ凡テ大林區署長ノ指示スル方法ニ據ルヘシ
第十條 社寺ニ於テ委託官林ノ手入ヲナサムトスルトキハ
所轄大林區署長ノ許可ヲ受クヘシ
第十一條 第四條第五條第六條第十條ニ依リ差出スヘキ願
書ニハ神官住職及ヒ氏子檀徒若クハ信徒總代ノ連署ヲ要
ス
第十二條 斫伐ノ許可ヲ受ケタル竹木ハ所轄大林區署長ノ
引渡ヲ受ケルニアラサレハ之ヲ伐採スルコトヲ得ス
但引渡ヲ受ケタル竹木ト雖モ其根株ハ特ニ許可シタル
モノノ外掘採スルコトヲ得ス
第十三條 社寺ハ其委託官林ヲ他ニ轉貸スルコトヲ得ス
第十四條 左ノ場合ニ於テハ社寺ハ事由ヲ認メ速ニ所轄大
林區署長ニ届出ツヘシ
但第二第三第四及第五ノ場合ニ於テハ所轄大林區署長
ノ檢査ヲ受クヘシ
一 看守人ヲ置キ又ハ廢シタルトキ
二 委託官林ニ係ル犯罪其ノ他異狀ノ事故アリタルトキ
三 道路電線耕地地家屋等ニ對スル障害木アリタルト
キ
社寺上地官林委託規則 國有林野委託規則

ノ外十五年ヲ以テ限度トス委託年限ヲ經過シ尙ホ引續キ
其委託ヲ請ケント欲スルトキハ更ニ第一條ノ手續ヲ爲ス
ヘシ
第三條 社寺ハ委託前他人ニ於テ採取ノ許可ヲ得其ノ期限
内ニ係ルモノヲ除クノ外委託官林内ノ副產物(即チ樹實
菓實落枝落葉下草晚節ノ類)ヲ無代價ニテ收得スルコト
ヲ得
第四條 社寺ハ所轄大林區署長ノ許可ヲ得テ委託官林内ニ
建造物ヲ設ケ又ハ竹木ヲ栽植シ若クハ林地ヲ使用スルコ
トヲ得
前項ニ據リ竹木ノ栽植ヲ爲シタルトキハ其ノ栽植地ノ委
託ハ新植ノ年度ヨリ起算シ八十年ヲ以テ限度トス其ノ補
植ニ就テモ新植ノ年度ヨリ起算シ該限度ヲ超過スルヲ許
サス
第五條 社寺ハ風致其ノ他水源涵養土砂并止等總テ公共ノ
利益ニ關スルモノヲ除キ所轄大林區署長ノ許可ヲ得テ其
栽植ニ係ル竹木ヲ伐採スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ社
寺ハ其ノ伐採シタル竹木相當價格ノ二分ノ一ヲ所轄大林
區署ニ納付スヘシ
第六條 社寺ハ其ノ建築又ハ修繕用ニ併セントスルトキハ
委託官林内ニ在來ノ竹木ニシテ風致其ノ他水源涵養土砂并
止等總テ公共ノ利益ニ關スルモノヲ除キ相當代價ヲ以テ
特賣ヲ所轄大林區署長ニ請求スルコトヲ得
前項ニ據リ賣渡ヲ受ケタル竹木ヲ目的外ニ使用シ又ハ轉
賣シ若クハ讓與シタルトキハ其ノ賣渡代價ノ二倍ヲ徵收
スヘシ
第七條 社寺ハ其委託官林保護ノ責ニ任シ且ツ四至ニ境界
標ヲ建設スヘシ

四 林地ノ使用若クハ栽植ヲ終リタルトキ但竹木ノ栽植
ヲナシタルトキハ其ノ栽植費取調書ヲ添附スヘシ
五 竹木ヲ斫伐シ及運搬ヲ終リタルトキ
第十五條 左ノ場合ニ於テハ所轄大林區署長ハ委託期限中
ト雖モ其ノ委託ヲ解クコトヲ得
一 官用又ハ公用ノ爲メ必要アルトキ但此ノ場合ニ於テ
ハ委託中社寺ノ費用ヲ以テ栽植シタル竹木ニ就テハ其
ノ栽植費取調書ヲ添付ス
二 此ノ規則ニ定メタル制限及條件ニ違背シタルトキ但
社寺ノ栽植ニ係ル竹木ハ之ヲ官沒ス
第十六條 竹木及副產物ノ斫伐採取其他官地使用ノ爲メ若
クハ故意怠慢ニ依リ委託官林ニ傷害ヲ生シ又ハ生セムト
スルトキハ所轄大林區署長ハ其斫伐採取使用ヲ停止若ク
ハ禁止シ尙ホ其ノ委託ヲ解クコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ損害アルトキハ社寺ニ於テ其ノ賠償ノ
責ニ任スヘシ
第十七條 社寺ニ於テ此ノ規則ヲ履行スルニ因リテ生スル
費用ハ社寺ノ負擔トス

(二) 委託林

國有林野委託規則

明治三十二年八月三日
勅令第三百六十四號

第一條 市町村又ハ市町村内ノ一部ニ國有林野ノ保護ヲ委
託スルハ本令ノ定ムル所ニ依ル
第二條 委託林野ノ區域ハ市町村ノ位置、緣故及其ノ地方
ノ狀況ヲ參酌シテ農商務大臣之ヲ定ム

國有林野 保管林、委託林、部分林

第三條 委託林野ノ委託期間ハ五年ヲ超ユルコトヲ得ス

第四條 委託者ハ委託林野ニ關シ左ノ義務ヲ負フ

一 火災ノ豫防及消防

二 盜伐、誤伐、冒認、侵墾其ノ他ノ加害行為ノ豫防及防止

三 有害動物ノ豫防及驅除

四 境界標其ノ他ノ標識ノ保存

五 雜樹ノ保育

六 大林區署長ノ命ニ依リ手入ヲ爲シ又ハ看守人ヲ配置スルコト

第五條 左ノ委託林野產物ハ之ヲ受託者ニ讓與スルコトヲ得

一 末木、枝條及枯倒木

二 手入ノ爲伐採スル樹木

三 自家用薪炭材

四 土地ノ資質ヲ爲ササル副產物

第六條 左ノ場合ニ於テハ農商務大臣ハ委託ヲ解除スルコトヲ得

一 受託者第四條ノ義務ヲ怠リタルトキ

二 受託者其ノ委託林野ニ關シ罪ヲ犯シタルトキ

三 委託林野ヲ公用又ハ公益事業ニ供スル必要生シタルトキ

前項ノ規定ニ依リテ委託ヲ解除シタル場合ニ於テハ損害ヲ賠償セス

第七條 受託者タル市町村又ハ市町村ノ一部ノ住民委託林野ニ損害ヲ加ヘタルトキハ受託者ハ之ヲ賠償スルノ責ニ任ス

附則

第八條 本令施行前ニ副產物ノ無料採取ヲ許可シタル森林ニ關シテハ從前ノ例ニ依ル

第九條 本令施行前ニ副產物ノ無料採取ヲ許可シタル森林ハ其ノ採取者ノ出願ニ依リ委託林野ト爲スコトヲ得

委託林設定方針

大正九年十二月 林第三五八四號山林局長通牒

(改正) 昭和七年十月林第四七五二號

第一 委託林ハ左記各號ニ該當スル林野ニ之ヲ設定スルモノトス

(1) 國有林野多ク公私有林野少キ地方ニ於テ從來國有林野ニ林產物ヲ仰ク慣行アリシ地元ノ林野ニシテ地元ト密接ノ關係ヲ有スルモノ

(2) 國有林野ニシテ地元住民ノ生活狀態ニ依リ其ノ保護ヲ委託スルノ必要アルモノ

(3) 前二號ノ外國有林野ノ保護上特ニ必要ナルモノ

委託林設定ノ區域ハ左ノ標準ニ依リ決定ス

委託林設定面積ハ第一(1)ニ依ルモノニ在リテハ地元ニ於ケル國有林面積ノ十分ノ一ヲ標準トシ地元ニ於ケル自家用薪炭材ノ需要量ヲ參酌シテ決定ス但シ特別ノ事由アルモノヲ除ク外一市町村五百町歩ヲ超エサルコトヲ程度トス

前項ノ設定箇所ハ地元住民ノ產物採取ニ便宜ナル箇

(2) 所ヲ選定スルモノトス

(3) 第一(2)ニ依ルモノハ地元住民ノ副產物採取ニ必要ナル區域

(4) 第一(3)ニ依ルモノハ其ノ全部

第三 受託者ニ讓與スヘキ產物ハ地元住民ノ自家用薪炭材ノ補充ヲ考慮シ左記各號ニ該ルモノト定ム

(1) 末木枝條及枯倒木

(2) 其ノ全部但シ特殊ノモノヲ除ク

(3) 手入ノ爲伐採スル樹木

(4) 手入及成林撫育ノ爲除伐スル樹木全部

(5) 自家用薪炭材

(6) 當該委託林薪炭材生產量ノ半額以內

(7) 土地ノ資質ヲ爲ササル副產物

(8) 其ノ全部但シ特殊ノモノハ制限スルコトヲ得

第四 第一(2)ニ依ル委託林ノ產物ノ賣拂ヲ會計規則第百十四條第一項第二十一號及國有林野產物賣拂規則第十九條第四項第四號ニ依リ行フコトハ之ヲ差控フルモノトス

第五 委託林ハ可成地元住民ノ便宜ナル施業方法ニ依ルモノトス

第六 受託者ノ義務ハ普通ノ看守保護ヲ主トシ多大ノ費用ヲ要セサルモノニ限ルモノトス

第七 委託林ノ設定ハ前記ノ標準ニ基キ營林局ニ於テ府縣毎ニ豫備調査ヲ爲シ本局ト協議ヲ經タル上其ノ出願ヲ爲サシムルモノトス

第八 委託林設定ニ附帶シテ委託林以外ノ國有林ノ火災ノ豫防其ノ他保護ニ注意スルコト官行事業ノ人夫出役ニ應

委託林設定方針 委託林設定方針ノ改正並國有林ノ保護ヲ地元部落ニ委託ノ件 二二九

第九 受託者タル市町村ノ一部トハ部落又ハ之ニ準スヘキモノトス

委託林設定方針ノ改正並國有林ノ保護ヲ地元部落ニ委託ノ件

昭和七年十月一日 林第四七五二號山林局長通牒

大正九年十二月林第三五八四號內牒委託林設定ノ方針中別紙ノ通改正相成同方針第一(2)號ニ依ル委託林設定方針新ニ追加セラレ候處右ハ從前ノ方針ニ依リ委託林設定ヲ認メタルモノノ外實官ニ於テ國有林野内ニ存スル輕易ナル副產物ノ讓與ヲ條件トスル程度ノ保護ヲ地元部落ノ住民ニ委託スルノ必要ヲ認メラレ且地元住民モ進テ其ノ保護委託ヲ受ケル希望アル場合之ニ對シ一定ノ地域(讓與副產物ノ採取可能ノ地域)ヲ限リ委託認許相成ル趣旨ニ有之候條之カ實施ニ付テハ左記各項ニ準據處理相成度依命此段及通牒候也

委託林設定ノ方針第一(2)ニ依ル委託林ノ取扱心得

一 委託及讓與產物採取許可區域 地元所在ノ國有林野中委託林設定方針第一(1)又ハ(3)ニ依リ設定シタル委託林若クハ今後設定セラルヘキ區域、部分林、社寺保管林、貸付又ハ使用許可地、放牧採草地等ヲ除キタル林野ニシテ副產物ノ採取ヲ許スモ管理經營上支障ナキ區域ニ限ル

二 讓與スヘキ產物ノ種類、數量

委託林設定ノ方針第一(2)ニ依ル委託林ノ取扱心得

委託及讓與產物採取許可區域

國有林野 保管林、委託林、部分林

蔬菜、樹實、菌茸（松茸、椎茸、ナメコノ類ヲ除ク）、落葉落枝（管理上支障ナキモノニ限ル）、雜草、萱、笹、桑葉等

讓與副産物ノ數量ヲ限定スルノ必要アルモノニ付テハ委託許可ノ際其ノ採取スヘキ數量ヲ指定スルコト
從來ノ慣行等ニ依リ副産物ノ拂下ヲ受ケ來リタル者ノ利益ハ充分斟酌ノ上讓與副産物ノ種類ノ制限又ハ拂下區域ノ變更ヲ爲スコト

三 出願ノ形式及讓與産物採取方法ノ取締

(1) 出願ハ區長又ハ惣代人名義（營林局長ニ於テ支障ナシト認メタルトキハ惣代人ノ届出又ハ委任狀ノ添附ヲ省略セシムルモ可）ヲ以テシ願書ニハ委託スヘキ國有林ヲ表示セシムル外保護ノ方法及義務履行ノ旨ヲ記載セシメ別ニ保護方法書及規約書等ノ添附提出ハ之ヲ省略セシムルコトヲ得

(2) 委託期間ハ一ケ年トシ毎年一定ノ時期ニ出願セシムルコト

(3) 許可書ニハ讓與スヘキ副産物ノ種類、數量（制限ヲ要スル場合）及採取ノ時期、方法等ヲ附記スルコト

(4) 讓與産物採取ノ爲入林スル者ノ取締上必要アルトキハ營林署長又ハ當該擔當區員ノ承認ヲ經タル入林票ヲ區長又ハ惣代人ヨリ交付セシメ入林ノ際必ス携帯セシムルコト

(5) 其ノ他取締上必要アル事項ハ豫メ區長又ハ惣代人ニ指示遵守セシムルコト

四

委託ヲ必要トスル國有林野ニ對スル委託林設定ノ方針第七ニ依ル協議ハ左ノ事項ヲ調査ノ上之ヲ爲スコト
(1) 委託セントスル林野ノ位置、地況、林況及一ケ年平均

終ルヘシ

大林區署長ハ已ムヲ得サル事由アリト認ムル場合ニ限り造林者ノ請求ニ依リ二年以内ニ於テ植樹期間ノ延長ヲ許可スルコトヲ得

第六條 造林者植樹準備又ハ手入ノ爲部分林ニ耕作ヲナサントスルトキハ大林區署長ノ許可ヲ受ケヘシ

第七條 造林者ハ左ノ事項ニ關シ部分林ヲ保護スル義務ヲ負フ

一 火災ノ豫防及消防
二 盜伐、誤伐、冒認、侵襲其ノ他ノ加害行爲ノ豫防及防止

三 有害動物ノ豫防及驅除
四 境界標其ノ他ノ標識ノ保存

五 雜樹ノ保育
六 大林區署長ノ命ニ依リ看守人ヲ配置スルコト

第八條 造林者ハ左ノ産物ヲ採取スルコトヲ得
一 下草、落葉及落枝
二 樹實及菌茸ノ類

三 部分林設定後天然ニ生育シタル雜木
四 植樹後二十年内ニ於テ手入ノ爲伐採スル樹木

第九條 部分林設定後天然ニ生育シタル樹木ニシテ雜木ニ非サルモノハ之ヲ部分林ノ樹木ト看做ス

第十條 根株ハ特別ノ契約アル場合ヲ除ク外國ノ所有トスルモノハ其ノ收益ハ其ノ樹木ノ賣拂代金ヲ以テ分收ス但シ國ノ分收スヘキ樹木ヲ保存スル必要アルトキハ材積ヲ以テ分收ヲ爲スコトヲ得

第十二條 代金ヲ以テ分收スルトキハ樹木ノ賣拂ハ當該官廳之ヲ行フ

國有林野部分林規則

副産物ノ生産量

- (2) 設定見込部落ノ戸數、人口、生業及生活ノ狀態
 - (3) 設定見込部落ト委託セントスル林野トノ關係及委託ヲ必要トスル事由
 - (4) 讓與見込副産物ノ種類、數量及價額
 - (5) 關係圖面
 - (6) 其ノ他必要ト認メラルル事項
- 五 前項ニ依リ協議ノ上決定シタル箇所ニ付テハ營林局長限專行（期間更新ノ場合共）處理ノ上其ノ旨申報スルコト

(三) 部分林

國有林野部分林規則

明治三十二年八月三日
勅令第三百六十二號

(改正) 大正十年五月勅令第一九一號

第一條 國有林野ニ部分林ヲ設定スルハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 部分林ノ收益分收ノ部合ハ地代及造林費ヲ參酌シテ農商務大臣之ヲ定ム

第三條 造林者ノ分收部合ハ十分ノ八ヲ超ユルコトヲ得ス

第四條 造林者ハ大林區署長ノ許可ヲ得ルニ非サルハ其ノ權利ヲ處分スルコトヲ得ス

第五條 造林者ハ部分林ノ植樹、補植、手入其ノ他造林ニ必要ナル行爲ヲ爲スヘシ

第六條 造林者ハ大林區署長ノ指定シタル期間内ニ植樹ヲ材積ヲ以テ分收スルトキハ造林者ハ大林區署長ノ指定シタル期間内ニ其ノ分收樹木ノ搬出ヲ終ルヘシ前項ノ搬出期間ハ三年ヲ超ユルコトヲ得ス

第七條 大林區署長ハ已ムヲ得サル事由アリト認ムル場合ニ於テハ二年以内ヲ限リ搬出期間ノ延長ヲ許可スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ延長期間ニ對スル地代ヲ前納セシメ又ハ其ノ擔保トシテ國債證券ヲ提供セシムヘシ

第十三條 造林者搬出期間内ニ分收樹木ノ搬出ヲ終ラサルトキハ其ノ搬出セサル樹木ハ國ノ所有ニ歸ス

第十四條 大林區署長ハ森林經濟上利益ナリト認ムル場合ニ限リ造林者ノ請求ニ因リ十年以内ニ於テ部分林ノ存續期間又ハ伐期ヲ變更スルコトヲ得

第十五條 部分林ニ損害ヲ加ヘタル第三者ヨリ賠償トシテ得タル金額ハ分收部合ニ依リ之ヲ分收ス

第十六條 天災其ノ他避クヘカラサル事變ニ因リ契約無効ト爲リタル場合ニ於テハ現存ノ樹木ハ分收部合ニ依リ之ヲ分收ス已ムヲ得サル事由ニ因リ造林者契約ノ解除ヲ願出テ之ヲ許可シタル場合亦同シ

第十七條 造林者左ノ諸項ニ該當スルトキハ農商務大臣ハ部分林設定契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但シ造林者ノ責ニ歸スヘカラサル事由アルトキハ此ノ限ニ在ラス

一 植樹期間ノ始期ヨリ一年ヲ經過スルモ植樹ニ著手セサルトキ

二 植樹期間内ニ植樹シタル面積カ總面積ノ二分ノ一ニ及ハサルトキ

三 植樹期間延長ノ許可ヲ得タル場合ニ於テ其ノ期間内ニ植樹ヲ終ラサルトキ

四 植樹ヲ終リタル後五年ヲ過クルモ成林ノ見込ナキト

五 造林者其ノ部分林ニ關シ罪ヲ犯シタルトキ
第十八條 前條ノ規定ニ依リ部分林設定契約ノ解除ヲ爲シ
タルトキハ部分林設定ノ日ニ遡リ地代ヲ徵收シ既植ノ樹
木ハ國ノ所有ニ歸ス
第十九條 造林者部分林ヲ他ノ目的ニ使用シタルトキハ五
十圓以下ノ罰金ニ處ス部分林ヲ他人ニ貸付シ又ハ使用セ
シメタルトキ亦同シ

第二十條 明治十一年三月內務省甲第四號布達部分木仕付
條例ハ之ヲ廢止ス
第二十一條 第二條ノ規定ハ國有林野法第十九條第二項ノ
規定ニ依ル部分林ニハ之ヲ適用セス
第二十二條 國有林野法第十九條第二項ノ規定ニ依ル部分
林ニシテ存續期間ノ定ナキモノ又ハ其ノ期間本令施行ノ
日ヨリ起算シテ八十年ヲ超ユルモノニ付テハ其ノ部分林
ノ存續期間及伐期ハ現存スル樹木ノ年齡ヲ參酌シテ農商
務大臣之ヲ定ム
第二十三條 國有林野法第十九條第二項ノ規定ニ依ル部分
林ニシテ天然ニ生育シタル雜木ノ分收ヲ目的トスルモノ
ナルトキハ其ノ雜木ハ部分林ノ樹木ト看做ス

國有林野法施行前設定ノ部分林ヲ
臺帳へ登録方ノ件

明治三十六年十二月
林發第一九一三號山林局長通牒

一 牛馬放牧柴草拂下等ノ慣行其ノ他特殊ノ關係ニ因リ
林業經營上國ニ於テ造林ヲ行ヒ難キ事情アリト認ム
ル林野
二 林業經營上國ニ於テ急速造林ヲ行フノ必要ナク且管
理其ノ他ノ關係上部分林ノ設定ヲ許可スルヲ利益ナ
リト認ムル林野
三 國ニ於テ造林ヲ獎勵スル工藝原料樹種ノ植栽ニ適シ
且其ノ植栽ヲ利益ナリト認ムル林野
施業案既成事業區内及事業區組成込區域内ノ林野ニ付
テハ特別ノ事由アル場合ノ外部分林ノ設定ヲ許可スルコ
トヲ得ス
第二條 部分林ノ設定面積ハ一起業者ニ付一箇所五十町步
ヲ下ルコトヲ得ス但シ特別ノ事由アル場合ハ此ノ限ニ在
ラス
第三條 部分林設定ノ出願競合スルトキハ左ノ順位ニ依リ
許可スヘキモノヲ定ム但シ地元府縣又ハ地元郡ノ出願ニ
シテ特別ノ事由アリト認ムルトキハ此ノ順位ニ據ラス他
ニ先チテ之ヲ許可スルコトヲ得
一 地元市町村
二 地元郡
三 地元府縣
四 地元部落ノ住民
五 地元市町村ノ住民
六 前各號以外ノ者
第四條 部分林ノ設定ヲ許可セムトスルトキハ豫メ其ノ管
理及保護ノ方法ヲ記載セル書面ヲ提出セシムヘシ
第五條 第一條ニ依リ部分林ノ設定ヲ許可スヘキ林野ハ豫
メ其ノ區域ヲ調査シ本大臣ノ認可ヲ受クヘシ

國有林野法施行前設定ノ部分林ヲ臺帳へ登録方ノ件 部分林設定標準ニ關スル件
部分林設定ニ關スル件 國有部分林造林者ニ對シ造林獎勵規則適用ノ件

國有林野法施行以前ノ設定ニ係ル部分林ヲ部分林臺帳ニ登
録セラルルニ當リ實地調査ノ結果契約樹種ヲ植栽セスシテ
天然生ノ樹木ノミ生立セルモノ或ハ契約以外ノ樹種ヲ植栽
セルモノ多々有之趣ニ有之候處右ハ左記ノ區別ニ依リ御處
理相成可然候依命此段及通牒候也
一 契約以外ノ樹種ヲ植栽セルモノ又ハ天然生ノ立木ヲ
保護セル事跡アルモノニシテ現ニ成林シ又ハ將來成林
見込確實ナル分ニ付テハ契約樹種ヲ變更シ尙ホ之カタ
メ伐期又ハ保存期間ニ影響ヲ及ボスヘキモノハ適宜契
約ヲ變更シテ部分林ノ登録ヲ了セラレ可然候
右契約ノ變更ハ林區署事務章程第八條九號ノ制限外ニ
付貴官限リ專決相成可然候
二 天然生ノ立木ニシテ保護ノ事跡ナキモノハ成林ノ見
込アルト否トヲ問ハス又契約以外ノ樹種ヲ植栽セルモ
ノニシテ成林ノ見込ナキトキハ何レモ契約解除ノ手續
御運相成可然候

部分林設定標準ニ關スル件

明治三十八年五月
林發第五三號內訓

(改正) 明治四十三年十月林發第五〇二號內訓
部分林ノ設定ハ左記標準ニ依リ之ヲ許可スルコトヲ得右內
訓ス
第一條 部分林ハ要存置林野中特別經營造林計畫以外ノ無
立木地ニシテ左記各號ノ一ニ該當スル箇所ニ付之カ設定
ヲ許可スルコトヲ得明治三十一年度以前ノ伐採跡地ニ關
シテモ亦同シ

部分林設定ニ關スル件

明治三十五年八月
山發第三五八號山林局長通牒

本日林發第五三號ヲ以テ部分林設定ノ義ニ付內訓相成候處
右ニ關スル調査及實施ニ當リテハ充分慎重ノ注意ヲ加フヘ
キハ勿論猶ホ之カ爲メ不要存置林野ノ賣拂處分ニ對シ影響
ヲ及ボスカ如キコト無之様御考慮相成度然シテ調査ノ結果
之カ設定ヲ許可スヘキ林野ニ對シテハ左記ノ通御取扱可相
成此段及通牒候也
一 內訓第五號ノ認可上申書ニハ部分林設定區域圖及設定
調査書ヲ添附スヘシ
設定區域圖ニハ附近國有林野及部落ノ位置ヲ記入シ設定
調査書ニハ設定ヲ要スル理由ヲ附記スヘシ
二 設定區域ノ認可ヲ受ケタルトキハ部分林設定許可豫定
地調査ヲ作ルヘシ
前項調査ニハ位置、面積其ノ他ノ要件ヲ、造林設計ヲ指
定スルノ必要アルモノニ付テハ其ノ設計ヲ詳記シ之ヲ所
轄小林區署ニ備置キ出願希望者ノ閱覽ニ供シ且ツ其ノ寫
ヲ府縣廳ニ回付スヘシ

國有部分林造林者ニ對シ造林獎勵
規則適用ノ件

昭和五年一月二十九日
公私林課長ヨリ林務主任官宛

部分林造林ニ關スル宮崎縣知事ノ照會ニ對シ左記ノ通り回答相成候ニ付爲念御通知申上候

(昭和四年十一月五日林第七三四號宮崎縣知事照會)
農ニ公布相成候造林獎勵規則ノ適用ヲ受クヘキモノノ範圍ニ付テハ十月二十一日付山第一二六一號通牒ヲ以テ御明示ノ次第モ有之規則第一條該當ノモノニ於テ國有地ニ對シ部分林ヲ設定シ造林ヲ爲ス場合モ當然之カ適用ヲ受クヘキモノト思料致候然ルニ管下南那珂郡内部分林設定區ノ所在地方ニ於ケル緣故部落民ハ左記ニ依リ實質造林者タルノ權利ヲ取得スルコトニ取扱ハレ居リ候處右ハ設定許可ノ御方針ニ基クモノニ有之候ニ付テハ當該部落民ニ造林獎勵規則ノ適用ヲ受クヘキモノト解シ可然ト存セラレ候得共御意見承知致度此段及照會候也

記

飯肥小林區地方部分林整理標準拔萃
四、新設定區内ニ於ケル部分林ノ設定ハ主トシテ舊慣部落民ノ利益ヲ目的トスルモノナレトモ政府ニ對スル交渉上ノ煩累ヲ省略スル爲一旦之ヲ所屬町村名義ヲ以テ許可シ町村ハ更ニ其ノ造林手入保護等ニ關スル事業ノ實行ヲ關係部落民ニ委託シ町村所得民收分ノ内ヨリ相當收益ヲ部落民ニ分收セシムルコト(以下省略)
(昭和五年一月二十五日林第一三三四號山林局長回答)
客年十一月五日付林第七三四號標記ニ關スル御照會ノ件左記及回答候也

部分林造林者ニ對シテハ造林獎勵規則ニ依リ獎勵金ヲ交付セス

及回答候

(大正十三年四月十六日林第九五三號東京大林區署長照會)

部分木ノ賣拂立木ニ對シ國有林野產物賣拂規則適用上疑義ノ件
部分林存續期間内ニ於テ該部分林ノ賣拂立木(間伐木、被害木、數回伐期林ニ於ケル中途伐採ノ類)ニ對シ國有林野產物賣拂規則第五十條ヲ適用スル場合ハ買受人カ造林者ナルト否トニ拘ラス搬出未済ノ物件ハ部分林ニ復歸シタルモノト解スヲ妥當ト思料致候モ聊カ疑義ニ亘リ候ニ付何分ノ御指示ヲ仰キ度此段及御照會候也
各營林局長(東京ヲ除ク)宛山林局長通牒
部分林搬出未済物件ノ取扱ニ關シ別紙甲號ノ通照會有之乙號ノ通照會致置候ニ付此段及通知候也

(別紙)
〔甲〕號 (前揭照會ノ通)
〔乙〕號 (前掲回答ノ通)

國有林野部分林規則ニ依リ徵收スル地代ニ關スル件

明治三十三年十二月林第九八三二號本省達

國有林野部分林規則ニ依リ徵收スル地代ノ計算及其收入科目ハ左ノ通心得ヘシ
一 地代ハ年額ヲ定メ年數ニ應シ計算ス十二箇月未滿ハ月割トシ始期若ハ終期ニ於ケル一箇月未滿ノ分ハ各當該月ノ現日數ニ依リ日割トシ計算ス(單位未滿ノ端數ハ積)
二 第十二條第四項ノ場合ニ於ケル始期ハ同條第二項搬出期間滿了ノ翌日ヨリ終期ハ延長期間滿了ノ日マテ解除シタルトキハ其前日マテ第十八條ノ場合ニ於ケル始期ハ設定ノ日ヨリ終期ハ解除ノ前日マテノ地代ヲ徵收スヘシ
三 收入科目ハ官業及官有財產收入(款) 森林收入(項) 地所貸付料(目)トス

部分林搬出未済物件ノ取扱ニ關スル件

大正十四年九月二十九日 山第八五七號

東京營林局長宛山林局長回答
大正十三年四月十六日付林第九五三號ヲ以テ照會ノ件ハ現木分收ニ非サル場合ハ中途ノ伐採ナルト終局ノ伐採タルトヲ問ハス共有ニ歸屬スヘキモノニ有之從テ跡地整理等ノ爲國ノ所有ト爲ス必要アル場合ハ造林者ト特約相成可然此段

國有林野部分林規則ニ依リ徵收スル地代ニ關スル件
部分林搬出未済物件ノ取扱ニ關スル件

四 施業案

國有林施業案規程

大正三年八月二十二日
農商務省訓令第九號

(改正) 大正一五年三月農林省訓令第一號

第一章 總則

- 第一條 要存置國有林ニ付テハ之ヲ法正ナル狀態ニ導キ其ノ利用ヲ永遠ニ保シ國土ノ保安其ノ他公益ヲ保持スルノ趣旨ヲ以テ事業區毎ニ施業案ヲ編成スヘシ
- 第二條 施業案ハ一施業期ノ最終年度ノ前年度ニ於テ之ヲ檢訂スヘシ但シ特別ノ事由アルトキハ臨時之ヲ行フコトヲ得
- 第三條 本規程ニ於テ除地ト稱スルハ道路、河川、池沼、溝渠、固定防火線、區劃線、土場、貯木場、不毛地、建物敷地、苗圃、貸付地、賣拂豫約地、採草放牧專用地等國ノ林木育成ノ用ニ供セサル土地ヲ謂フ
- 第四條 本規程ニ於テ施業制限地ト稱スルハ保安林、砂防法第二條ニ依ル指定地、部分林、混牧又ハ混農ノ林地等法令、契約又ハ慣行ニ依リ施業上ノ制限アル土地ヲ謂フ
- 第五條 本規程ニ於テ準施業制限地ト稱スルハ施業制限地及除地ヲ除クノ外特設試驗林、參考林及國土ノ保安其ノ他公益ノ爲施業ノ制限ヲ要スル土地ヲ謂フ
- 第六條 面積ハヘクタールヲ單位トシテ平方メートル迄ヲ

國有林施業案規程

示スヘシ

- 第七條 材積ハ實積ニ依リ四捨五入シテ單位ニ止ムヘシ
- 第八條 本規程ニ於テ主伐ト稱スルハ左ノ各號ノ一ニ該當スル伐採ヲ謂フ
 - 一 更新ノ爲行フ伐採
 - 二 林地ヲ林木育成以外ノ用ニ供スル爲行フ伐採
 - 三 被害ニ基ク伐採ニシテ跡地ニ造林ヲ要スルモノ
- 第九條 本規程ニ於テ間伐ト稱スルハ主伐以外ノ伐採ヲ謂フ

第二章 施業案ノ編成

第一節 豫業

- 第十條 施業案編成ノ豫業ニ屬スル業務左ノ如シ
 - 一 森林ノ區劃
 - 二 地況ノ調査
 - 三 林況ノ調査
 - 四 將來施業見込ノ調査
 - 五 其ノ他施業關係事項ノ調査
- 前項各號ノ事項ハ之ヲ第一號様式ノ森林調査簿ニ記載スヘシ
- 第一款 森林ノ區劃
- 第十一條 事業區ハ森林配置ノ狀況、產物利用ノ程度、交通ノ便否及產物搬出ノ關係等ニ鑑ミ森林經營上適當ナル區域ニ依リ之ヲ散クヘシ
- 第十二條 事業區ノ名稱ハ地名ニ依ルヘシ
- 第十三條 事業區ハ森林ノ狀況及施業上ノ關係ニ鑑ミ之ヲ若干ノ林班ニ區劃スヘシ
- 林班ノ面積ハ成ルヘク均等ナラシムルヲ旨トシ其ノ過大ニ失スルヲ避クヘシ

第十四條 區劃線ハ成ルヘク河川、峯、谷等天然ノ地形又ハ既設ノ道路、防火線等ニ依リテ之ヲ設クヘシ

第十五條 前條第一項ノ區劃線ニ在リテハ道路又ハ防火線等ニ兼用スヘキ場合ヲ除ク外伐開ヲ行ハサルモノトス

第十六條 前條第二項ノ區劃線ニ在リテハ伐開ヲ行フヘシ但シ道路防火線等ニ兼用スヘキ場合ノ外其ノ幅ハ四メートルヲ超ユルコトヲ得ス

第十七條 伐開ハ當該林分ノ伐期ニ至ル迄視透線ヲ設ケテ之ニ代フルコトヲ得

第十八條 林班境界ノ要所ニハ保存ニ耐ユヘキ標識ヲ設ケ

第十九條 林班番號ハ亞刺比亞數字ヲ用キ成ルヘク伐採方向ニ從ヒ順次之ヲ附スヘシ

第二十條 一班内ニ於テ施業上取扱ヲ異ニスヘキ部分アルトキハ各之ヲ小班ニ區劃スヘシ但シ固定防火線、河川及伐開ヲ爲セル區劃線等ハ小班ヲ設ケスシテ別ニ其ノ區域ヲ劃スヘシ

第二十一條 小班ノ記號ハ林班毎ニ平假名ヲ用キ第十七條ニ準シ先ツ林地ヨリ之ヲ附シ次に除地ニ及フヘシ但シ小班ニ孕在又ハ鄰接セル小面積ノ小班ニシテ將來施業上ノ取扱ヲ同一ニ爲シ得ル見込ノモノハ主タル小班ノ記號ニ亞刺比亞數字ヲ附記シテ(1、2等)其ノ記號ト爲スヘシ

第二十二條 境界明瞭ナラサルモノハ適宜ノ方法ニ依リテ之ヲ表示スヘシ

第二十三條 事業區、林班、小班及小班ト爲ササル除地ハ其ノ境界及面積ヲ測定スヘシ

第二十四條 前條ノ測定ヲ終リタルトキハ周圍測量圖ニ基キ第三號様式ニ依リ基本圖ヲ調製スヘシ

第二十五條 基本圖ヲ分圖ト爲ス場合ニ於テハ適宜ノ縮尺ニ依リ別ニ全事業區ヲ通覽シ得ヘキ縮圖ヲ調製スヘシ但シ林相圖ニ依リ全事業區ヲ通覽シ得ル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第二十六條 地況ノ調査

第二十七條 地況ハ氣象、地勢、土地及地位ニ付其ノ概要ヲ調査スヘシ

第二十八條 氣象ハ一事業區ヲ通シ氣溫、溫度、雨量、霜雪、常風及暴風等ニ付調査スヘシ

第二十九條 地勢ハ一事業區ヲ通シテ位置、海面高、海岸ヨリノ距離、山脈ノ走向、傾斜ノ概要、河川ノ狀態及比鄰ノ狀況等ニ付調査シ小班毎ニ方位、傾斜及比鄰ノ狀況ニ付調査スヘシ

第三十條 傾斜ハ平坦(五度未滿)緩斜(二十度未滿)急斜(三十度未滿)險阻(四十五度未滿)絶險(四十五度以上)ノ五種ニ分ツヘシ

第三十一條 土地ハ一事業區ヲ通シ基岩ニ付調査シ小班毎ニ土質、深度(淺、中、深)結合度(堅、軟、鬆)及濕度(乾、潤、濕)ニ付調査スヘシ

第三十二條 地位ハ氣象及土地ノ狀態略同一ナル地方ヲ通シ五級(第一級乃至第五級)ニ分チテ之ヲ定ムヘシ但シ場合ニ依リ上中下ノ三級ニ分ツコトヲ得

第三十三條 前項ノ地位ハ一事業區ヲ通シテ之ヲ定ムルコトヲ得

第三十四條 地位ハ小班毎ニ之ヲ調査スヘシ

第三十五條 林況ノ調査

第三十六條 林況ハ小班毎ニ樹種、作業種、疎密度、林齡、

第三十七條 齡級、成立、材積、平均生長量及林位ニ付調査スヘシ

第三十八條 疎密度ハ十分率ヲ用キ之ヲ示スヘシ但シ疎中、密ノ三ニ分チテ之ヲ示スコトヲ得

第三十九條 前項ニ依リ適切ニ疎密度ヲ表ハスコト能ハサルトキハ一ヘクタール當リ本數ヲ示スヘシ

第四十條 全部立木ナキモノ又ハ立木アルモ之ヲ爲造林上影響ナキモノハ之ヲ未立木トス

第四十一條 異齡林ノ林齡ハ平均齡ヲ以テ之ヲ示スヘシ此ノ場合ニ於テハ樹齡ノ範圍ヲモ示スヘシ

第四十二條 樹齡ニ著シキ差異アルトキハ其ノ範圍ノミヲ示スヘシ

第四十三條 數段喬林及中林ニ在リテハ上木ト下木、前更喬林ノ更新期間ニ屬スル林分ニ在リテハ老木ト幼木トノ林齡ハ各別ニ之ヲ調査スヘシ

第四十四條 擇伐喬林及竹林ニ在リテハ其ノ樹齡ノ範圍ノミヲ示スヘシ

第四十五條 一齡級ハ喬林ニ在リテハ二十年、矮林及中林ニ在リテハ五年トス

第四十六條 齡級ハ羅馬數字ヲ用キ最幼級ヲIトス

第四十七條 數段喬林及中林ノ上木、擇伐喬林並竹林ニ在リテハ齡級ヲ分ツコトヲ要セス

第四十八條 前更喬林ノ更新期間ニ屬スル林分ノ老木ト幼木トノ齡級ハ各別ニ之ヲ調査スヘシ

第四十九條 森林ノ成立ニ關シテハ更新及手入ノ方法、生育及被害ノ狀況並作業ノ沿革等ニ付其ノ概要ヲ調査スヘシ

第五十條 材積ハ林相及利用程度ニ鑑ミ適當ノ方法ニ依リ之ヲ調査シ第一施業期ニ伐採スヘキ林分ハ特ニ精細ナ

第五十一條 方法ニ依リ之ヲ調査スヘシ

第五十二條 樹種ノ混淆セルモノニ在リテハ各樹種ニ付其ノ材積ヲ調査スヘシ但シ施業案實行上其ノ必要ナキトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十三條 數段喬林及中林ニ在リテハ上木ト下木ト各別ニ、前更喬林ノ更新期間ニ屬スル林分ニ在リテハ老木ト幼木トノ材積ヲ調査スヘシ

第五十四條 平均生長量ハ一ヘクタールノ現在材積ヲ林齡ニテ除シタル商ヲ以テ之ヲ示シ四捨五入シテ單位以下二位ニ止ムヘシ但シ樹齡ノ範圍ノミヲ示セルモノ、生長ノ休止セルモノ又ハ休止ニ近キモノニ付テハ生長量ノ調査ヲ省略スルコトヲ得

第五十五條 竹林ノ平均生長量ハ既往ニ於ケル一年平均發生ノ新竹束數ヲ以テ之ヲ示スヘシ

第五十六條 第二十七條ノ規定ハ林位ニ付之ヲ準用ス

第五十七條 林況調査ヲ終リタルトキハ其ノ成績ニ基キ第四號様式ニ依リ林相圖ヲ調製スヘシ

第五十八條 第四款 將來施業見込ノ調査

第五十九條 將來ノ施業見込ニ付テハ地況及林況調査ニ基キ小班毎ニ左ニ掲ケル事項ノ概要ヲ調査シ一事業區ニ對スル將來ノ施業方針ヲ定ムヘシ

第六十條 一 斫伐ニ關スルコト

第六十一條 二 播種ニ關スルコト

第六十二條 三 手入及撫育ニ關スルコト

第六十三條 四 保護ニ關スルコト

第六十四條 五 其ノ他施業上必要ナルコト

第六十五條 第五款 施業關係事項ノ調査

第六十六條 施業關係事項ノ調査ハ左ノ各號ノ事項ニ付之

- 一 森林行政ニ關スルコト
- 二 土地所有ノ沿革ニ關スルコト
- 三 境界及接續地ノ狀況ニ關スルコト
- 四 森林ニ對スル民情及山稼ノ狀況ニ關スルコト
- 五 森林保護ニ關スルコト
- 六 林產物ノ需要供給ニ關スルコト
- 七 國有林以外ノ林業及他ノ産業トノ關係ニ關スルコト
- 八 交通及運搬ニ關スルコト
- 九 勞働者ノ需要供給、賃金及技能ニ關スルコト
- 十 林產物ノ價格及其ノ販賣上ノ慣習ニ關スルコト
- 十一 森林ノ作業ニ關スルコト
- 十二 施業制限ニ關スルコト
- 十三 既往ノ收支ニ關スルコト
- 十四 存廢區別變更ノ必要アリト認ムルトキハ其ノ決定ニ關シ必要ナルコト
- 十五 其他參考上必要ナルコト

第四十四條 施業案編成ノ本業ニ屬スル業務左ノ如シ

- 一 樹種及作業種ノ確定
- 二 作業級及伐採列區ノ設置
- 三 輪伐期、回歸年、更新期及整理期ノ確定
- 四 施業期編入
- 五 伐採量ノ算定
- 六 伐採順序ノ確定
- 七 造林方法ノ確定
- 八 施業上必要ナル施設ノ計畫
- 九 收穫及造林基案ノ調製

十 施業案說明書ノ調製

- 第一款 樹種及作業種ノ確定
- 第四十五條 樹種ハ地況及林況ノ現狀、第四十二條及第四十三條調査ノ結果並左ノ各號ニ付考量ノ上之ヲ定ムヘシ
- 一 當該地方又ハ類似ノ土地氣候ヲ有スル他ノ地方ニ於ケル造林ノ成績及天然生ノ生長狀態
- 二 材積生長及價格生長ノ良否
- 三 造林及保護ノ難易
- 四 作業級設置ノ關係
- 第四十六條 作業種ハ左ノ七種ニ分ツ
- 一 皆伐喬林作業
- 二 數段喬林作業
- 三 前更喬林作業
- 四 擇伐喬林作業
- 五 矮林作業
- 六 中林作業
- 七 竹林作業

第四十七條 作業種ハ地況及林況ノ現狀、第四十五條ニ依リ確定シタル樹種、林業ノ集約度並施業制限ノ事項等ニ鑑ミ之ヲ定ムヘシ

- 第二款 作業級及伐採列區ノ設置
- 第四十八條 作業級ハ一事業區中同一ノ作業種及同一ノ輪伐期ニ依リ施業シ得ヘキ林分ヲ集合シテ之ヲ設クヘシ但シ作業級組成ノ要素ニ大差アル數種ノ林分交互錯綜セルモノ又ハ獨立ノ伐採順序ヲ設クルコト能ハサルカ如キ小面積ノ林分ニ付テハ各別ニ作業級ヲ設クルコトヲ要セス

- 施業制限地及準施業制限地ニ於ケル作業級ハ森林法施行手續第十一條ノ規定ニ準シ之ヲ設クヘシ
- 第四十九條 伐採列區ハ齡級配置ノ整理、木材ノ需要供給產物搬出ノ關係及森林間接ノ效用等ニ鑑ミ設クヘシ
- 第五十條 伐採列區ノ番號ハ一事業區ヲ通シ羅馬數字ヲ用キテ之ヲ附スヘシ
- 第三款 輪伐期、回歸年及整理期ノ確定
- 第五十一條 輪伐期ハ最多ノ純益ヲ得ルヲ目的トシテ之ヲ定ムヘシ但シ特ニ國ニ必要ナル材種ノ生産及間接ノ效用ヲ目的トスル森林ニ付テハ之ニ適應スル輪伐期ヲ選定スヘシ
- 第五十二條 數段喬林及中林ノ上木ノ輪伐期ハ下水輪伐期ノ數倍トスヘシ
- 第五十三條 擇伐喬林ノ回歸年ハ其ノ輪伐期ノ整分トスヘシ
- 第五十四條 林相ノ改良ヲ要スル爲輪伐期ヲ以テ取扱フヲ不得策トスル森林ニ在リテハ特ニ整理期ニ依リ施業スヘシ
- 前項ノ整理期ハ現在林ノ整理後收穫ノ中斷セサル範圍内ニ於テ更新上及經濟上最有利ナルコトヲ期シ之ヲ定ムヘシ
- 第四款 施業期編入
- 第五十五條 一施業期ハ十年トシ各施業期ニハ第一期ヨリ順次ニ羅馬數字ヲ用キテ番號ヲ附スヘシ
- 第五十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル林分ハ成ルヘテ第一期施業期ニ編入スヘシ
- 一 既ニ輪伐期ニ達シタルモノ及今後一施業期間ニ輪伐期ニ達スヘキモノ

- 二 林相及齡級配置ヲ整理スル爲速ニ伐採スヘキモノ
- 三 區劃線及防火線設置、防風豫備其ノ他施業ノ必要ニ依リ速ニ伐採スヘキモノ
- 第五十七條 伐採順序又ハ林相改良ノ必要ニ依リ一輪伐期又ハ整理期ノ始ニ於テ伐採シ同期間ニ於テ更ニ伐採スヘキ林分ハ之ヲ相當施業期ニ編入スヘシ
- 第五十八條 一輪伐期間又ハ整理期間ニ伐採スルヲ不利ト認ムル林分ハ當該期間ノ施業期ニ編入スヘカラス
- 第五款 伐採量ノ算定
- 第五十九條 伐採量ハ第一施業期ニ限り主伐ト間伐トニ區別スヘシ
- 第六十條 主伐ニ係ル伐採量ハ主トシテ面積ヲ標準トシ各施業期ノ收入ニ大差ナカラシムルヲ期シ之ヲ定ムヘシ
- 施業上特別ノ事由アル場合ニ於テハ材積ヲ標準トシ其ノ伐採量ヲ定ムルコトヲ得
- 第六十一條 一施業期ノ面積ハ當該作業級各施業期編入面積合計ヲ輪伐期、回歸年又ハ整理期ニテ除シタル商ノ十倍ヲ標準トスヘシ但シ輪伐期、回歸年又ハ整理期ニシテ十年未滿ノ端數アル場合ニ於テハ最終ノ施業期ノ面積ハ此ノ商ノ端數倍ヲ標準トスヘシ
- 大面積ノ散生地ハ之ヲ控除シテ前項標準面積ヲ算定スヘシ
- 第六十二條 第六十條第二項ニ依リ材積ヲ標準トシテ伐採量ヲ定ムル場合ニ於テハ第一施業期ノ主伐材積ハ當該作業級總材積ヲ輪伐期又ハ整理期ニテ除シタル商ニ其ノ最近連年生長量ノ半數ヲ加ヘタルモノノ十倍ヲ標準トスヘシ
- 第六十七條ニ依リ調査セル臨時伐採量ニシテ材積平分上著シキ影響アリト認ムルトキハ當該作業級ニ屬スル相當

分量ヲ前項ノ標準量ヨリ控除スヘシ
第六十三條 各施業期ニ編入セル合計面積カ第六十一條ノ標準面積ニ比シ著シキ過不足アルトキハ適當ノ林分ヲ後施業期ニ繰下ケ又ハ前施業期ニ繰上ケ標準面積ニ近カラシムヘシ但シ施業上必要アル場合ニ於テハ標準面積ノ百分ノ二十ヲ超エサル面積ヲ増減スルコトヲ得
第六十四條 竹林ニ於ケル毎年ノ伐採量ハ法正蓄積ヲ推算シ之ヲ輪伐期ニテ除シタル商ヲ標準トシ現在林相及新竹發生ノ狀況ヲ參酌シテ之ヲ定ムヘシ
第六十五條 第一及第二施業期ニ編入セル林分ノ主伐材積ハ平均伐期齡ニ依リ之ヲ算定スヘシ但シ第三十九條第一項但書ニ依リ平均生長量ノ計算ヲ省略セル林分ニ在リテハ現在材積ヲ以テ主伐材積ト看做スヘシ
第六十六條 間伐ニ係ル伐採量ハ第四十二條第一號、第三號及第四號ノ調査ニ基キ第一施業期ニ於テ其ノ實行ヲ要スヘキ林分ヲ調査シテ之ヲ定メ其ノ面積ハ實行區域ヲ以テ之ヲ示スヘシ
第六十七條 第一施業期ニ於ケル豫見シ難キ臨時ノ伐採量ハ既往ニ於ケル平均額ノ十倍ヲ標準トシ一事業區ヲ通シテ之ヲ定ムヘシ
第六十八條 伐採ノ順序ハ左ノ事項ヲ調査シテ之ヲ定ムヘシ
 一 齡級配置ノ整理
 二 研伐及運材事業ノ便益
 三 造林上ノ便益
 四 各種危害ノ豫防

第七款 造林方法ノ確定
第六十九條 造林方法ハ左ノ事項ヲ調査シ作業級毎ニ之ヲ定ムヘシ
 一 種苗供給ニ關スルコト
 二 地拵ニ關スルコト
 三 播種ニ關スルコト
 四 補植ニ關スルコト
 五 手入れ及撫育ニ關スルコト
第八款 施業上必要ナル施設ノ計畫
第七十條 左ノ事項ニ關スル設備又ハ工事ニシテ第一施業期ニ必要アルモノハ其ノ大體ノ計畫ヲ立ツヘシ
 一 管理及保護ニ關スルコト
 二 造林ニ關スルコト
 三 利用ニ關スルコト
 四 國土保安及治水ニ關スルコト
 五 其ノ他施業上必要ナルコト
第七十一條 前條第三號ニ關スル計畫ハ左ノ各號ニ付概略ノ調査ヲ爲シ全般ニ關スル計畫ヲ豫定シタル後第一施業期ニ實行ヲ要スル分ニ付之ヲ爲スヘシ
 一 利用區域内ニ於ケル林地ノ面積、年伐量及材種別搬出量(貯木場ニ付テハ材種別貯木量)
 二 事業ノ種類、程度、數量及經費
 三 森林利用上ニ及ボス影響
 四 損益計算
 五 事業種類選定ノ理由
第九款 收穫及造林基案ノ調製
第七十二條 收穫基案ハ第四十五條乃至第六十八條ノ調査ニ基キ第五號様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第七十三條 造林基案ハ森林調査簿收穫基案及第六十九條ノ調査ニ基キ作業級毎ニ第一施業期ニ於ケル造林事業ヲ定メ第六號様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ
第十款 施業案說明書ノ調製
第七十四條 施業案說明書ニ於テハ左ノ各項ニ付記述スヘシ
 一 地況及林況並其ノ調査ノ方法
 二 施業關係事項
 三 森林區劃
 一 (イ)事業區ノ面積、林班數、林班ノ各面積及區劃設計ノ理由
 二 (ロ)伐採列區設定ノ理由
 三 (ハ)伐採順序確定ノ理由
 四 (ニ)造林方法及其ノ確定、造林面積並造林費概定額
 五 (ホ)通路、撒路、貯木場、防火線、苗圃、砂防植栽其ノ他施業上必要ナル施設ノ計畫
 六 (ヘ)將來ノ收支見込
 七 (ト)施業案實行ニ關スル意見
 八 (チ)其ノ他必要ナル事項
 五 施業案編成ノ功程及經費
 五 施業案說明書ニハ事業區ノ位置ヲ明ニシ且行政區劃及地形ヲ略知シ得ヘキ地圖ヲ添付スヘシ
第三章 施業案實行ノ照査

第七十五條 研伐及造林實行ノ結果ハ第七號及第八號様式ニ依リテ照査簿ヲ調製シ之ヲ記入シ事業豫定案編成及施業案檢訂ノ資料ト爲スヘシ
第七十六條 施業案實行ノ結果施業案說明書記載ノ事項ニ關シ訂正又ハ追補ヲ要スル事項及其ノ他施業案ノ檢訂上必要ナル事項ハ第九號様式ニ依リ施業沿革史ヲ調製シ之ヲ記入スヘシ
第七十七條 研伐照査簿、造林照査簿及施業沿革史ハ事業區毎ニ之ヲ調製スヘシ
第四章 施業案ノ檢訂
第七十八條 施業案ノ檢訂ニ關シ本章ニ別段ノ規定ナキ事項ニ付テハ第二章ノ規定ヲ準用ス
第七十九條 施業案ノ檢訂ニ付テハ研伐照査簿、造林照査簿、施業沿革史、豫定案實行簿其ノ他必要ナル參考資料ニ依リ當該施業期間ニ於ケル研伐、造林及第七十條ニ依リ施設ニ關スル計畫ノ實行狀況ヲ調査シ施業案ノ適否ヲ審査スヘシ
第八十條 森林區劃及基本圖ノ補修方法ハ左ノ各號ニ依リシ
 一 森林區劃ニ變更ヲ要スルモノアルトキハ其ノ部分ニ對シ區劃設計ヲ爲シ之ヲ測定ヲ爲スヘシ
 二 林班中分割シタルモノノ番號ハ原番號ノ支番號(7172等)ヲ附シ刪除シタルモノハ缺番號トシ追加増設シタルモノハ終尾ノ次番號ヨリ順次ニ之ヲ附スヘシ但シ全般ニ互リテ補習ヲ要スルトキハ總テ林班番號ノ改訂ヲ爲スヘシ
 三 基本圖ハ森林區劃中小部分ノ變更ヲ爲シタルトキハ其ノ部分ニ對シ之ヲ補修シ大部分ノ變更ヲ爲シタル

トキハ新ニ之ヲ調製スヘシ
第八十一條 檢訂ニ關スル事項ノ調査ヲ終リタルトキハ新
ニ森林調査簿、林相圖、收穫基案及造林基案ヲ調製スヘシ
第八十二條 施業案説明書ニハ從前ノ記載事項中異動アリ
タルモノ及變更又ハ追補シタルモノヲ記載スヘシ

第五章 雜則

第八十三條 營林局長ハ施業案ノ編成ニ關スル業務實行ニ
付其ノ局員中ヨリ編成員ヲ選定シ施業案ニ關スル業務ヲ
處理セシムヘシ

第八十四條 營林局長ハ各課長及造林、利用並土木業務擔
任ノ各上官吏ヲシテ其ノ擔任業務ニ關スル事項ニ付施
業案編成ニ參與セシムヘシ

第八十五條 營林局長ハ施業案編成審議員ニ命ジ施業案
編成ニ關スル事項ヲ審議セシムヘシ

第八十六條 營林局長ハ施業案編成審議員ヲシテ施業案編
成ニ關スル事項ヲ審議セシムヘシ

第八十七條 營林局長前條ニ依リ施業ノ方針ヲ決定シタル
トキハ直ニ之ヲ報告シ編成員ヲシテ其ノ方針ニ基キ編成
ノ業務ヲ續行セシムヘシ

第八十八條 前二條ノ規定ハ施業案編成中施業方針ヲ變更
スルノ必要ヲ生シタル場合ニ之ヲ準用ス

第八十九條 一事業區ノ施業案編成ヲ終リタルトキハ營林
局長ハ直ニ之ニ關スル圖案簿表(基本圖ヲ除ク)ノ謄本
ヲ進達シ認可ヲ受ケヘシ

第九十條 營林局長ハ施業案ノ檢訂ニ從事スル官吏ヲシテ
左ノ各號ニ付補修又ハ變更ノ要否及其ノ結果ニ基キ伐採
量ノ増減ヲ調査シ指揮ヲ受ケシムヘシ

第九十一條 第八十三條、第八十四條及第八十六條乃至第
八十九條ノ規定ハ施業案ノ檢訂ニ之ヲ準用ス但シ前條各
號ノ事項ニ異動ナキ場合ニ於テハ第八十七條ノ規定ニ依
ル報告ヲ要セス

第九十二條 斫伐照査簿、造林照査簿及施業沿革史ノ記載
ハ營林署長ヲシテ之ヲ爲サシムヘシ

第九十三條 施業案ノ臨時檢訂ヲ行ハムトスルトキハ其ノ
事由ヲ具シ第十號様式ニ準シタル事業豫定表ヲ添ヘ認可
ヲ受ケヘシ

第九十四條 施業案ノ實行上一部ノ修正ヲ必要トスル場合
ニ於テハ其ノ修正ヲ要スル事由ヲ具シ修正圖案簿表ヲ添
ヘ認可ヲ受ケヘシ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於
テハ此ノ限ニ在ラス

第九十五條 施業案ノ實行ニ依リ第七十條各號ノ計畫ヲ變更
ルトキ
一 收穫豫定案ノ不實行箇所ヲ後施業期ニ繰下ケムトス
ルトキ
二 施業案實行ノ都合ニ依リ第七十條各號ノ計畫ヲ變更
セムトスルトキ
三 施業案ノ實行ニ必要ナル注意事項ヲ追補セムトスル
トキ

第九十六條 施業案編成及檢訂業務ノ成績ハ第十一號様式
ニ依リ一年度分ヲ取纏メ翌年度六月末日迄ニ之ヲ報告ス
ヘシ

第九十七條 本令ハ大正三年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

第九十八條 明治三十五年訓令第六號、明治三十九年訓令
第四號、明治四十一年訓令第一號及明治四十三年訓令第
二百八十八號ノ規定ハ施行ス

第九十九條 國有林施業案編成未濟林取扱準則

第十條 施業案編成未濟ノ供用林ニ係ル主產物處分豫定案
ヲ調製セムトスルトキハ豫メ此ノ準則ニ據リ調査ヲ爲ス
ヘシ

第十一條 施業案編成未濟ノ供用林ニ係ル主產物處分豫定案
ニ保護シ獨立ノ經營ヲ爲スニ足ルヘキ森林ヲ包含スル區
域ヲ以テ豫察事業區ト爲シ之ヲ行フヘシ

第十二條 豫察事業區ノ面積ハ小ニ失スルコトヲ避ケヘシ

第十三條 豫察事業區内ノ森林ニ對シ調査スヘキ事項概ネ左
ノ如シ

一 森林ノ配置

二 地 勢

三 見込面積

四 立木地見込面積但シ著大ナル散生地又ハ施業制限
地アルトキ若ハ第六號ニ依リ材積ノ區分ヲ要スル
トキハ各其ノ見込面積

五 著大ナル未立木地若ハ除地ノ各見込面積

六 主要樹種

七 輪伐齡(ウ)

八 現在見込材積

九 取扱ヲ異ニスヘキ主要樹種ノ單純林アルトキハ之
ノ見込材積

十 國有林施業案編成未濟林取扱準則

第九十條 營林局長ハ施業案ノ檢訂ニ從事スル官吏ヲシテ
左ノ各號ニ付補修又ハ變更ノ要否及其ノ結果ニ基キ伐採
量ノ増減ヲ調査シ指揮ヲ受ケシムヘシ

第九十一條 第八十三條、第八十四條及第八十六條乃至第
八十九條ノ規定ハ施業案ノ檢訂ニ之ヲ準用ス但シ前條各
號ノ事項ニ異動ナキ場合ニ於テハ第八十七條ノ規定ニ依
ル報告ヲ要セス

第九十二條 斫伐照査簿、造林照査簿及施業沿革史ノ記載
ハ營林署長ヲシテ之ヲ爲サシムヘシ

第九十三條 施業案ノ臨時檢訂ヲ行ハムトスルトキハ其ノ
事由ヲ具シ第十號様式ニ準シタル事業豫定表ヲ添ヘ認可
ヲ受ケヘシ

第九十四條 施業案ノ實行上一部ノ修正ヲ必要トスル場合
ニ於テハ其ノ修正ヲ要スル事由ヲ具シ修正圖案簿表ヲ添
ヘ認可ヲ受ケヘシ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於
テハ此ノ限ニ在ラス

第九十五條 施業案ノ實行ニ依リ第七十條各號ノ計畫ヲ變更
ルトキ
一 收穫豫定案ノ不實行箇所ヲ後施業期ニ繰下ケムトス
ルトキ
二 施業案實行ノ都合ニ依リ第七十條各號ノ計畫ヲ變更
セムトスルトキ
三 施業案ノ實行ニ必要ナル注意事項ヲ追補セムトスル
トキ

第九十六條 施業案編成及檢訂業務ノ成績ハ第十一號様式
ニ依リ一年度分ヲ取纏メ翌年度六月末日迄ニ之ヲ報告ス
ヘシ

第九十七條 本令ハ大正三年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

第九十八條 明治三十五年訓令第六號、明治三十九年訓令
第四號、明治四十一年訓令第一號及明治四十三年訓令第
二百八十八號ノ規定ハ施行ス

第九十九條 國有林施業案編成未濟林取扱準則

第十條 施業案編成未濟ノ供用林ニ係ル主產物處分豫定案
ヲ調製セムトスルトキハ豫メ此ノ準則ニ據リ調査ヲ爲ス
ヘシ

第十一條 施業案編成未濟ノ供用林ニ係ル主產物處分豫定案
ニ保護シ獨立ノ經營ヲ爲スニ足ルヘキ森林ヲ包含スル區
域ヲ以テ豫察事業區ト爲シ之ヲ行フヘシ

第十二條 豫察事業區ノ面積ハ小ニ失スルコトヲ避ケヘシ

第十三條 豫察事業區内ノ森林ニ對シ調査スヘキ事項概ネ左
ノ如シ

一 森林ノ配置

二 地 勢

三 見込面積

四 立木地見込面積但シ著大ナル散生地又ハ施業制限
地アルトキ若ハ第六號ニ依リ材積ノ區分ヲ要スル
トキハ各其ノ見込面積

五 著大ナル未立木地若ハ除地ノ各見込面積

六 主要樹種

七 輪伐齡(ウ)

八 現在見込材積

九 取扱ヲ異ニスヘキ主要樹種ノ單純林アルトキハ之
ノ見込材積

十 國有林施業案編成未濟林取扱準則

第十條 施業案編成未濟ノ供用林ニ係ル主產物處分豫定案
ヲ調製セムトスルトキハ豫メ此ノ準則ニ據リ調査ヲ爲ス
ヘシ

第十一條 施業案編成未濟ノ供用林ニ係ル主產物處分豫定案
ニ保護シ獨立ノ經營ヲ爲スニ足ルヘキ森林ヲ包含スル區
域ヲ以テ豫察事業區ト爲シ之ヲ行フヘシ

第十二條 豫察事業區ノ面積ハ小ニ失スルコトヲ避ケヘシ

第十三條 豫察事業區内ノ森林ニ對シ調査スヘキ事項概ネ左
ノ如シ

一 森林ノ配置

二 地 勢

三 見込面積

四 立木地見込面積但シ著大ナル散生地又ハ施業制限
地アルトキ若ハ第六號ニ依リ材積ノ區分ヲ要スル
トキハ各其ノ見込面積

五 著大ナル未立木地若ハ除地ノ各見込面積

- カ各見込材積
- 混浴林若ハ合同施業ヲ便利トスル異樹種單純林ニ在リテハ全樹種ノ合併見込材積但區分ノ必要アル樹種ニ付テハ十分率ヲ以テ其ノ材積ノ部合ヲ見積ルヘシ
- 混浴林ニ於テ特殊ノ取扱ヲ要スル樹種ニ對シテハ之カ見込材積
- 現在林齡ノ關係但シ前號ノ區分ニ依リ各見込面積ニ對シ輪伐齡ノ半數ヲ超エタル林分ノ見込面積ノ十分率ヲ以テ必ス算出スヘシ
- 伐木及運搬上ノ關係
- 產物ノ賣行其ノ他經濟上ノ關係
- 從來ノ慣行並將來ニ於ケル管理上ノ關係
- 將來ニ於ケル作業方針ノ大要
- 豫察事業區中同一ノ作業種及同一ノ輪伐齡ニ依リテ施業シ獨立ノ伐採順序ヲ設クルコトヲ得ヘキ森林ヲ集合シテ豫察作業級ヲ設クヘシ
- 但シ取扱ヲ異ニスヘキ主要樹種ノ單純林ニ付テハ別ニ作業級ヲ設クヘシ
- 作業種ヲ別テ左ノ四種トス
- 皆伐喬林作業
- 擇伐喬林作業
- 矮林作業
- 中林作業
- 輪伐齡ハ主トシテ現在立木ニ基キテ定ムヘキモ將來ニ於ケル作業方針ノ著シク異ナルヘキ場合ニ於テハ之カ見込伐期ヲ參酌スルヲ要ス
- 擇伐喬林作業ニ在リテハ第三條調査ノ結果ヲ參酌

- シ適當ナル回歸年(1)ヲ定ムヘシ但有價樹種ノミヲ撰伐スル場合ニ在リテハ回歸年ヲ定メス之ヲ代ユルニ伐採期間ノ年數(2)ヲ以テスヘシ
- 第八條 作業級年伐面積(3)ノ算定ハ式記ノ標準ニ依ルヘシ但シ施業上ノ必要其ノ他止ムヲ得サル場合ニ限り百分ノ三十以內ニ於テ之ヲ増減スルコトヲ得
- 皆伐喬林作業矮林作業及中林作業ニ在リテハ輪伐(中林作業ニ在リテハ輪伐齡)ヲ以テ立木地面積(F)ヲ除シタル商トス其ノ算式左ノ如シ
- $$\frac{F \times P}{100} \times \frac{1}{P} = \frac{F}{100}$$
- 輪伐齡ノ半數ヲ超エタル林分面積カ立木地面積ニ對シ
- 5(10)以下(其ノ十分率ヲPトス)ナルトキハ前式ノ商
- ニP(5)ヲ乘スヘシ其ノ算式左ノ如シ
- $$\frac{F \times P}{100} \times P = \frac{F \times P^2}{100}$$
- 擇伐喬林作業ニ在リテハ回歸年又ハ伐採期間ノ年數ヲ以テ立木地面積ヲ除シタル商トス其ノ算式左ノ如シ
- $$\frac{F \times P}{100} \times \frac{1}{P} = \frac{F}{100}$$
- $$\frac{F \times P}{100} \times P = \frac{F \times P^2}{100}$$
- 隔年作業ノ場合ニ在リテハ前二號ノ算式ニ隔年數ヲ乘スヘシ
- 第九條 立木地面積中著大ナル散生地若ハ施業制限地アルトキハ其ノ面積ヲ控除シテ前條ノ年伐面積ヲ算定スヘシ施業制限地ノ立木ニシテ斫伐シ得ヘキモノ並散生地ノ立木ハ伐採順序上適當ナル時期ニ於テ斫伐スヘシ
- 第十條 擇伐喬林作業ニ於テ年伐區域中斫伐スヘキ材積ハ

- 更新ノ便宜ヲ旨トシ年々大差ナカラシムル様注意スヘシ有價樹種ノミヲ擇伐スル擇伐喬林作業ニ在リテハ前項ニ依ルヲ要セ
- 第十一條 過熟ノ林分大部ヲ占メ若ハ更新ノ速成ヲ利アリト認ムル作業級ニ在リテハ他ノ作業級ノ狀況ヲ斟酌シ輪伐齡ノ半數以內短縮シタル年數ヲ以テ其ノ年伐面積ヲ算定スルコトヲ得
- 第十二條 國土保安上危害ノ虞アリ若ハ地勢、樹種、賣行其ノ他ノ關係ニ因リ一箇所ニ於テ廣大ナル面積ノ斫伐ヲ不利ナリト認ムル場合ノ外各作業級ノ年伐箇所ハ可成接續若ハ接近セシムルヲ要ス
- 第十三條 年伐慣例ノ存スル森林ニシテ施業上ノ都合若クハ需用者ノ關係等ニ基キ此ノ準則ニ據ル調査ノ結果ヲ直ニ實行シ能ハサル場合ニ於テハ可成漸次之ヲ修正スルノ方針ヲ採ルヘシ
- 第十四條 第二條乃至第十三條ノ結果ニ基キ豫察事業區毎ニ主產物處分豫定基案(別紙様式)說明書並見取林況圖ヲ調製スヘシ
- 說明書ニハ左ノ事項ヲ簡明ニ記載スヘシ
- 一 豫察事業區設定ノ理由
- 二 森林配置ノ狀況並地勢
- 三 著大ナル未立木地、散生地、施業制限地若ハ除地ノ關係
- 四 森林ノ成立、樹種及林相ノ大要並現在林齡ノ關係
- 五 主要樹種ノ用途
- 六 輪伐齡並回歸年撰定ノ理由
- 七 伐木及運搬上ノ關係
- 八 豫察作業級設定ノ理由

- 九 年伐額並收入ノ見込
- 十 產物ノ賣行其ノ他經濟上ノ關係
- 十一 從來ノ慣行並將來ニ於ケル管理上ノ關係
- 十二 將來ニ於ケル作業上ノ方針
- 見取林況圖ニハ左記ノ事項ヲ表示スヘシ
- 一 國有林ノ位置並交通運搬其ノ他森林經營上ニ關係アル附近ノ狀況
- 二 作業級ノ區分(適宜色分ケヲ爲スヘシ)
- 三 著大ナル未立木地、散生地、施業制限地、及除地ノ區分(同上)
- 四 主產物處分豫定基案調製ノ年ヨリ向十箇年間ニ於ケル年度別斫伐見込箇所ノ區分
- 第十五條 本調査ノ檢訂ハ必要ニ應ジ隨時之ヲ行フモノトス
- 第十六條 此ノ準則ノ規定ハ國有原野ノ主產物處分豫定案ニ之ヲ準用ス
- 第十七條 此ノ準則ハ明治三十九年度事業豫定案ニ係ル分ヨリ施行ス
- 第十八條 施業上ノ基礎ヲ定ムル目的ヲ以テ既ニ調査ヲ終了シタル森林ニ在リテハ此ノ準則ニ照シ不備ト認ムル點ニ付キ漸次之ヲ補修スヘシ
- 第十九條 明治二十七年戊第一五二號內訓官林主產物收額豫算簿調製内規ハ此ノ準則施行ト同時ニ廢止ス(様式別冊ハ)

利用未利用林區別標準ニ關スル件

大正六年五月十八日
五山第五四一號山林局長通牒

昨年四月大林區署長會議ノ際協議ニ附セラレタル利用至難ナル樹種ヲ混淆セル國有林ノ施業方法改善事項ニ關スル件ニ付各署ヨリ申報セラレタル所ヲ綜合スルニ概略左記ノ通ニ歸着セラルル様認メラルルニ付了知相成度爲念此段及通牒候也

記

甲 未利用林ニ編入スヘキ森林

(イ) 現在各般ノ事情ニ鑑ミ全然林木利用ノ見込ナキモノ

全然伐採セシテ利用期ヲ待ツ

(ロ) 現在ニ於ケル利用林木ハ點狀混淆ヲナシ利用林木伐採後ノ更新困難ナルモノ

一 利用林木ヲ伐採スル跡地林相ヲ疎開セシメサル程度ニ混淆セル場合

收入ノ多寡又ハ事情ノ如何ニヨリ利用林木ヲ選伐スルカ又ハ全然伐採セシメサル程度ニ混淆セル場合

二 利用林木ヲ選伐スルカ又ハ全然伐採セシメサル程度ニ混淆セル場合

收入ノ多寡又ハ事情ノ如何ニヨリ疎開セシメサル程度ニ混淆セル場合

乙 利用林木ニ編入スヘキ森林

(イ) 現在ニ於ケル利用林木ノ混淆程度ハ甲ノ(ロ)各號ノ

一ニ等シキモ群狀混淆ヲナシ利用林木伐採後更新力比較的障害ナク行ハルルモノ

一 利用林木伐採後ノ殘存林木ハ用材生産見込アル場合一定ノ作業法ニヨリ利用ノ上跡地ノ更新ヲ講シ殘存林分ハ之ヲ保育ス

二 利用林木伐採後ノ殘存林分ハ用材生産ノ見込ナク而モ立地ノ關係上優級樹種ノ造林ヲ著シク有利ナリトスル場合

一定ノ作業法ニヨリ利用林木ヲ伐採シ劣級林木ヲ地明ケノ上造林ス

甲級前項以外ノモノ

相當ノ方案ニ依リ更新ヲ講ス

(ロ)

保護林設定ニ關スル件

大正四年六月九日
林第一四四四號山林局長通牒

左記各號ニ該當スル森林又ハ特種ノ產物ニ對シ特別ノ保護ヲ加フルハ國有林ノ經營其ノ他公共ノ利益増進上必要ト認ムル儀ニ付施業案ノ編成又ハ檢訂ニ際シテ周到ナル稽査ヲ爲スハ勿論當時管理經營上ニ於テモ遺漏ナク注意ヲ加ヘラレ別紙保護林設定ニ關スル注意事項參照ノ上之カ設定計畫ニ付遺憾ナキヲ期セラレ度尤保安林ニ編入スルヲ至當トスルカ如キ程度ノモノハ左記各號ニ包含セサル儀ト了知相成度有依命及通牒候也

追テ第一號第六號及第七號ニ該當スルモノニ付テハ施業案ノ編成又ハ檢訂ヲ待タス此際管内ニ涉リ一應調査ノ上別紙様式ニ依リ豫メ本官ヘ打合相成度

一、原生林又ハ之ニ準スヘキ林相ヲ有スル森林若ハ其ノ他

ケル地況林況ノ變化及其他參考トナルヘキ事項ヲ記載セシムルコト
一、保護林ノ設定ハ施業案ノ編成又ハ檢訂ニ際シテ之ヲ爲スルカ如キモノアリトセハ相當手續ヲ經テ伐採見合ノ手段ヲ採ルコト
一、保護林設定ニ關スル各種ノ事項ハ詳細之ヲ施業案說明書ニ掲記スルコト

ノ箇所ニシテ學術又ハ森林施業上ノ考證トシテ必要ナルモノ

二、汽車汽船其ノ他主要ナル道路又ハ地點ヨリ望見シ得ル林分ニシテ著名ナル勝景地ノ風致ヲ保持助長スルカ爲必要ナルモノ

三、名所舊蹟ノ風致ヲ保持助長スルカ爲必要ナルモノ

四、公衆ノ享樂地又ハ將來公衆ノ享樂地トナルヘキ見込充分ナル箇所ノ風致ヲ保持助長スルカ爲必要ナルモノ

五、舊記傳説ニ依ル名木及未タ人口ニ膾炙セサルモ其ノ形態、大サ、樹齡又ハ樹種等ニ於テ名木ニ準スヘキモノニシテ風教又ハ學術ノ考證上必要ナルモノ

六、高山植物ノ生育セル區域ニシテ學術ノ研究上必要ナルモノ

七、學術研究又ハ其ノ他ノ目的ニ依リ保護ヲ要スル鳥獸ノ蕃殖上必要ナルモノ

八、醫藥又ハ工業用ノ特種ノ植物及學術又ハ經濟上最必要ナル土石ノ保存若ハ淡水生物動物養殖上必要ナルモノ

保護林設定ニ關スル注意事項

一、各號ニ該當ノ箇所選定ニ付テハ其ノ事由ノ顯著ナルモノノミニ限ルハ勿論慎重考慮ノ上疎漫ニ流レズ濫設ニ陥ラサル様注意スルコト

一、面積ハ其ノ目的ヲ達スルニ差支ナキ範圍内ニ於テ最小限ヲラシムルコト

一、第一號、第六號及第七號ニ該當スル保護林ノ如キハ可成未利用林、餘地又ハ他ノ事由ニ依リ施業ノ制限ヲ要スル部分ニ選定シ普通施業地ノ減少ヲ避クルニ努ムルコト

一、保護林裏帳ヲ所轄小林區署ニ備付ケシメ設定ノ目的、設定ノ年月、設定當時ノ現況、施業ノ沿革、設定後ニ於

利用未利用林區別標準ニ關スル件 保護林設定ニ關スル件

桃ノ三樹種ニ付テハ一層此點ニ注意セラルルハ勿論新ニ増殖ニ適スル個所アル場合ニ於テハ之ヲ更新樹種中ニ加ヘテ能ク前述ノ趣旨ヲ徹底セシムル様處理相成度此段及通牒候也

大材生産保續ニ關スル取扱方ノ件

大正八年二月七日
山第一三七號山林局長通牒

國有林ノ施業按編成上大材ノ生産保續ニ關シテハ自今左記ニ依リ取扱相成度此段及通牒候也

第一 大材ノ生産保續ヲ計ルカ爲左記各號ニ依リ長期輪伐作業級ヲ設置スヘシ

一、作業級ノ組織ハ次ノ如ク爲スコト
長期輪伐作業級ハ一事業區ニ於テ一定齡階以上ノ特定林分ト普通作業級中ニ包含セララル左ノ一定齡階以下ノ不特定林分ヨリ成リ特定林分ノ更新ニ伴ヒ當該林分ト之ニ相當スル面積ノ不特定林分ト相互ニ繰替アルモノトス因テ法正年伐量ノ關係次ノ如シ
長期輪伐作業級中ノ特定林分面積ヲ F_1 、輪伐期ヲ u_1 、年伐面積ヲ f_1 、不特定林分ノ限界齡階ヲ m トシ又普通作業級面積ヲ F_2 、輪伐期ヲ u_2 、年伐面積ヲ f_2 トスレハ次ノ算式ヲ得

$$u_1 = \frac{F_1}{u_1 - m}$$
$$u_2 = \frac{F_2 - m u_1}{u_2}$$

前式ニ於テ $m = u_2$ トスレバ

$$u_1 = \frac{F_1}{u_1 - u_2}$$
$$u_2 = \frac{F_2}{u_2 - u_1}$$

- 二、作業級ノ取扱ハ檢訂期ニ於テ次ノ如ク爲スコト
(イ) 特定林分中當該施業期間ニ於テ更新セル林分ヲ普通作業級ニ歸屬セシムルコト
(ロ) 普通作業級中豫メ前檢訂期ニ於テ選定セル林分ヲ特定林分ニ編入スルコト
(ハ) 普通作業級中次檢訂期ニ於テ特定林分ニ編入スヘキ林分ヲ豫選スルコト
(ニ) 特定林分中被害其他ノ事由ニ因リ大材生産ノ目的ヲ達シ能ハサル林分ヲ普通作業級中之ニ替ルヘキ適當ナル林分ト繰替フルコト
- 三、作業級ノ樹種ハ杉、扁柏、松及樺ト爲スコト
- 四、作業級ノ輪伐期ハ大凡次ノ如キ標準ニ依ルコト
杉 二〇〇年
扁 二五〇年
松 二〇〇年
樺 二五〇年
- 五、作業級ノ面積ハ一事業區ニ於テ成ルヘク杉、松ハ二百町歩以上扁柏、樺ハ三百町歩以上ト爲スコト
- 六、作業級ノ總面積ハ全大林區署通シテ杉二萬町歩扁柏松樺各一萬町歩ヲ最小限度トシ各大林區ニ於ケル面積ノ分配ハ大凡次ノ如キ標準ニ依ルコト

大林區	杉	扁柏	松	樺	計
青森	三、〇〇〇町	一、一〇〇町	一、一〇〇町	一〇、〇〇〇町	一六、五〇〇町
秋田	五、〇〇〇	九〇〇	一、九〇〇	—	七、六〇〇
東京	六、五〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇	—	一三、一〇〇
大阪	一、八〇〇	九〇〇	一、九〇〇	—	四、六〇〇
高知	九〇〇	九〇〇	九〇〇	—	二、七〇〇
熊本	八〇〇	八〇〇	四〇〇	—	二、〇〇〇
鹿兒島	一、〇〇〇	一、〇〇〇	五〇〇	—	二、五〇〇
計	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇

七、一事業區ニ於ケル作業級ノ面積ハ檢訂期ニ於テ之ヲ決定シ當該事業區ノ施業仕組ニ稽ヘ年伐量ノ激減ヲ來ササラシムル程度ニ於テ成ルヘク短期間ニ漸次作業級ノ設置ヲ完了スルコト
八、長期輪伐作業級中ノ特定林分ハ差向次ノ如キ林齡ヲ有スル林分中ヨリ之ヲ選定スルコト

- 杉 七〇年以上
- 扁 八〇年以上
- 松 六〇年以上
- 樺 一、二〇年以上

第二 樺、櫛、胡桃、鹽地、檜等ノ特殊潤葉樹ニ在リテハ

大材生産保續ニ關スル取扱方ノ件 施業按ニ於ケル材積調査及立地調査方ニ關スル件 二五三

施業按ニ於テ大體上大材生産ノ計畫ヲ樹テツアルヲ以テ新ニ長期輪伐作業級ノ設置ヲ要セサルモ大材生産ノ見込アル林分ハ左記各號ニ依リ之ヲ取扱フヘシ
一、林分ノ保存ニ關スル計畫ハ檢訂期ニ於テ之ヲ樹ツルコト
二、伐採順序ハ成ルヘク現實林木ヲ保存スルノ趣旨ヲ以テ之ヲ定ムルコト
三、未熟林木ハ施業按ノ實行ニ當リテ伐採ヲ見合セ其ノ保存方法ヲ講スルコト

施業按ニ於ケル材積調査及立地調査方ニ關スル件

大正九年九月二十五日
山第一五一〇號山林局長通牒

國有林施業按ニ於ケル材積調査及立地調査方ニ關シテハ自今左記ニ依リ取扱相成度尙九年度以前ニ編成又ハ檢訂セル施業按ノ事業區別樹種別蓄積ハ九年度乃至十二年度ニ涉リ本調査ノ要急ナル分ヨリ順次見込調査ニ著手シ毎年三月末迄ニ當該年度分ヲ取纏メ報告相成度此段及通牒候也

- 一、特殊潤葉樹トシテハ少クモ次ノ樹種ヲ區分スルコト
(イ) 落葉樹
アベマキ、イタヤカヘデ、イモノキ、オニグルミ、ヲノラレカンバ、カシハ、カツラ、キハダ、クリ、ケヤキ、ゴンゼツ、サハグルミ、シホザ、シテ類、センノキ、トチノキ、トネリコ、ドロノキ、ナラ類、ブナ、

國有林野 施業案

ホホノキ、ミザキ、ミヅメ、ヤマガキ、ヤマグハ、ヤマザクラ、ヤマナラシ等

(ロ) 常緑樹

アカギ、イスノキ、カン類、クスノキ、クロキ、シヒ類、シヤリンバイ、ダブ、ツゲ、ツバキ、モチノキ等

二

第一施業期編入林分ノ材積調査ニ當リテハ樹種毎ニ普通用材ト薪炭材トヲ區別スルコト
前記ノ用薪材別材積ハ收穫基案第一施業期伐積欄ニ記入シテ作業級毎ニ作業級材積ト共ニ樹種別再掲ヲ爲シ又用材樹種ノ直徑範圍、樹形、品質、枝下部分等ハ收穫基案ノ備考欄ニ記入スルコト

天然更新ニ對スル施業計畫並之カ實施ニ關スル件

昭和六年十月二十七日
山第一三〇三號山林局長通牒

天然更新ヲ主トスル森林ニ對スル施業按ニ於ケル蓄積及生長量ノ調査並天然更新施業ノ實行ニ當リテハ自今成ル可ク左記ニ依リ取扱相成度此段及通牒候也
追テ本件ニ關シテハ此際經費ノ増額致兼候ニ付既配賦豫

算内ニテ適當ニ按配スル様御配慮相成度申添候

第一 施業案ニ於ケル取扱

一、天然更新ヲ主トスル森林ニ對スル施業案ニ於ケル蓄積及生長量ニ關スル調査ハ次ノ標準ニ依ル

(一) 杉、樺、檜、松等ニシテ優位ナルモノニ就テハ全林ノ毎木調査ヲ行フコト

(二) 前項以外ノ優位針葉樹林ニ就テハ標準地調査ニ依ルコト、標準地ノ面積ハ集約度及林況ニ應シ作業級面積(施業期編入外面積ヲ除ク)ノ一〇—三〇%トスルコト

(三) 其ノ他ノ針闊混溶林及闊葉樹林テモ亦標準地調査ニ依ルコト、標準地ノ面積ハ針闊混溶林及優位闊葉樹林ニ在リテハ作業級面積(施業期編入外面積ヲ除ク)ノ約五—一〇%其ノ他ノ闊葉樹林ニ在リテハ一—二%トスルコト但シ施業ノ經濟效果低キ林分並當分未利用ノ狀況ニアル林分ニ對シテハ適當ニ調査ノ程度ヲ低下スルコトヲ得

(四) 第一項及第二項ノ優位針葉樹林ニ就テハ努メテ定期檢定期ノ中間ニ於テ實行跡地ノ調査ヲ行ヒ收穫量ノ規整ヲ行フコト

(五) 前各項調査ノ一部ハ一定期間ニ配分シ營林署ヲシテ其ノ測定ヲ行ハシメ得ルコト
二、施業按ニ於ケル間伐計畫ハ次ノ取扱ニ依ル
利用間伐ニ就テハ施業案ニ於テ其ノ標準量ヲ指示シ實行上ノ基準トスルコト

第二 收穫實行ニ關スル取扱
天然更新ニ依ル施業ノ實行ニ關シテハ左ノ取扱ニ依ル

(一) 營林署ニ於ケル天然更新ヲ主トスル林分ノ收穫豫定調査ノ場合ニハ各小班毎ニ「收穫豫定調査標準地」ヲ設ケ(但施業按中ノ調査標準地ヲモ利用スルコト)

全林木ヲ測定シテ蓄積林分構成狀態生長量等ヲ査定シテ伐採歩合ヲ決定シ以テ當該小班ノ收穫調査ノ標準トスルコト標準地ノ大イサニ就テハ各局ニ於テ適當ニ之ヲ定ムルコト

(二) 營林署ノ「收穫豫定調査標準地」ハ其ノ實地ヲ保存シ調査資料ハ一定ノ形式ニヨリ整理シ置キ生長量ノ査定其ノ他ニ利用スルコト

(三) 研伐照査ハ小班毎ニ打切り計算ヲナシ他ノ小班ニ影響ヲ及ボササルヤリ取扱ヒ之ニヨリ年伐標準量ヲ求ムルコト

(四) 營林局長ニ於テ適當ナル技術員ヲ指名シ營林署ニ對スル實地ノ指導監督ニ從事セシムルコト

(イ) 收穫豫定箇所ニ就テハ毎年各伐採列區(施業團)毎ニ一箇所以上ノ標準地ヲ選定シ營林署調査ノ適否ヲ實査スルコト

(ロ) 實行跡地ニ就テハ毎年一作業級毎ニ一ヶ所以上ノ標準地ヲ選定シ營林署實行ノ適否ヲ實査スルコト
前段ノ指導監督ノ實施ハ各局中最モ集約ナル施業ヲ行フ要アリト認ムル優位事業區ヲ第一次トシ漸次他ニ及ボスコト

(五) 實査復命書ハ當該營林署ニ廻附スルコト
營林署ノ調査ニシテ更正ヲ要スト認ムル事項及實行ニ關スル警告事項ハ局議ヲ經テ夫々通牒スルコト

天然更新ニ對スル施業計畫並之カ實施ニ關スル件

五 事業、工事

國有林野事業規程

大正十五年四月十二日 農林省訓令第二號

(改正) 昭和七年十月八日農林省訓令第三號、昭和十年五月十八日農林省訓令第二號

營林局 署 國有林產物販賣所

國有林野事業規程左ノ通定ム

第一章 總則

第一條 國有林野ノ事業ハ別ニ定アルモノヲ除クノ外本規程ニ依リ之ヲ行フベシ

第二章 總則

第二條 國有林野ノ事業ニ關スル單位ハ左ノ各號ノ定ムル所ニ依ルベシ但シ特別ノ事由アルモノハ此ノ限ニ在ラズ

一 面積ハヘクタールヲ單位トシアルニ止メアル未滿ハ四捨五入ノコト但シ苗圃ニ在リテハ平方メートルニ止メ平方メートル未滿ハ四捨五入ノコト

二 材積中用材ニ在リテハ立方メートル、薪材ニ在リテハ立木ハ立方メートル、其ノ他ハ層積立方メートル、枝條、粗葉及竹ニ在リテハ束(一メートル繩バ)ヲ單位トシ單位未滿ハ四捨五入ノコト但シ實行ニ付テハ製品ノ材積ハ單位以下二位ニ止メ二位未滿ハ四捨五入ノコト

三 木炭ハキログラムヲ單位トシ單位未滿ハ四捨五入ノコト

四 種子ハキログラムヲ單位トシ單位以下一位ニ止メ一位未滿ハ切捨ノコト

五 延長ハメートルヲ單位トシ單位ニ止メ單位未滿ハ切捨ノコト

六 幅員ハメートルヲ單位トシ單位以下一位ニ止メ一位未滿ハ切捨ノコト

七 價額總額及經費總額ハ圓ニ止メ圓未滿ハ四捨五入ノコト但シ實行ニ付テハ厘ニ止メ一厘ノ計ハ錢ニ止メ各其ノ端數ハ切捨ノコト

八 副産物ハ山林局長ノ定ムル所ニ依ルコト

第三條 本規程ニ於テ製品ト稱スルハ研伐事業ノ資材ニ加工シタルモノ及研伐事業ノ副産品ニシテ處分ノ目的ヲ以テ之ヲ貯藏所(貯藏所トハ加工品ヲ貯藏スル倉庫、工場、土場其ノ他ノ積置場ヲ謂フ)ニ受入レタルモノヲ謂フ

第二章 豫定案編成

第一節 通則

第四條 營林局長ハ毎年度執行スベキ事業ニ付左ノ豫定案ヲ編成スベシ

一 收穫豫定案

二 研伐豫定案

三 造林豫定案

四 土木豫定案

五 國有林產物販賣所長ハ毎年度執行スベキ事業ニ付左ノ豫定案ヲ編成スベシ

一 研伐豫定案

二 土木豫定案

三 營林局長及國有林產物販賣所長第九條ノ規程ニ依リ豫定案ヲ確定シタル後新ニ事業ヲ執行シ又ハ豫定案ヲ變更スル必要アリト認メタルトキハ追加豫定案又ハ變更豫定案ヲ編成スベシ

第九條 營林局長前二條ノ認可ヲ受ケタルトキハ營林局長ノ編成シタル豫定案、追加豫定案及變更豫定案ハ營林局長ヲシテ之ヲ確定セシメ其ノ他ノモノハ自ラ之ヲ確定スベシ

國有林產物販賣所長前二條ノ認可ヲ受ケタルトキハ其ノ豫定案ヲ確定スベシ

追加豫定案及變更豫定案ハ第一項ノ場合ヲ除クノ外之ヲ編成シタル者之ヲ確定スベシ但シ營林局長ノ編成シタル追加豫定案又ハ變更豫定案ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ之ヲ營林局長ニ提出シ其ノ認可ヲ受ケルニ非サレハ確定スルコトヲ得ス

一 第十三條但書ノ制限ヲ超ユル増伐ヲ豫定シタルトキ

二 簡易製板場ノ設置又ハ新規企畫ニ係ル研伐(間伐ヲ除ク)ヲ豫定シタルトキ

三 用地ノ買上ヲ要スル苗圃又ハ新規企畫ニ係ル砂防植栽ヲ豫定シタルトキ

四 鐵道、軌道、索道及車道ノ新設(既設鐵道ノ種類變更及修繕、電線、電話等ノ新設ヲ除ク)並シ砂防設備ノ新設(工也)

五 貯木場ノ新設(電線、電話等ノ新設ヲ除ク)

六 試驗ヲ豫定シタルトキ

七 其ノ經費力當該營林署所屬ノ各豫定案ノ不用總額(及不實行ノ經費)ヲ超ユルトキ

八 收穫豫定案ノ變更ニシテ當初ノ豫定ニ對シ價額ノ減少又ハ一割ヲ超ユル面積若ハ材積ノ増加ヲ生スルト

第二章 豫定案編成

第一節 通則

第四條 營林局長ハ毎年度執行スベキ事業ニ付左ノ豫定案ヲ編成スベシ

一 收穫豫定案

二 研伐豫定案

三 造林豫定案

四 土木豫定案

五 國有林產物販賣所長ハ毎年度執行スベキ事業ニ付左ノ豫定案ヲ編成スベシ

一 研伐豫定案

二 土木豫定案

三 營林局長及國有林產物販賣所長第九條ノ規程ニ依リ豫定案ヲ確定シタル後新ニ事業ヲ執行シ又ハ豫定案ヲ變更スル必要アリト認メタルトキハ追加豫定案又ハ變更豫定案ヲ編成スベシ

第九條 營林局長前二條ノ認可ヲ受ケタルトキハ營林局長ノ編成シタル豫定案、追加豫定案及變更豫定案ハ營林局長ヲシテ之ヲ確定セシメ其ノ他ノモノハ自ラ之ヲ確定スベシ

國有林產物販賣所長前二條ノ認可ヲ受ケタルトキハ其ノ豫定案ヲ確定スベシ

追加豫定案及變更豫定案ハ第一項ノ場合ヲ除クノ外之ヲ編成シタル者之ヲ確定スベシ但シ營林局長ノ編成シタル追加豫定案又ハ變更豫定案ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ之ヲ營林局長ニ提出シ其ノ認可ヲ受ケルニ非サレハ確定スルコトヲ得ス

一 第十三條但書ノ制限ヲ超ユル増伐ヲ豫定シタルトキ

二 簡易製板場ノ設置又ハ新規企畫ニ係ル研伐(間伐ヲ除ク)ヲ豫定シタルトキ

三 用地ノ買上ヲ要スル苗圃又ハ新規企畫ニ係ル砂防植栽ヲ豫定シタルトキ

四 鐵道、軌道、索道及車道ノ新設(既設鐵道ノ種類變更及修繕、電線、電話等ノ新設ヲ除ク)並シ砂防設備ノ新設(工也)

五 貯木場ノ新設(電線、電話等ノ新設ヲ除ク)

六 試驗ヲ豫定シタルトキ

七 其ノ經費力當該營林署所屬ノ各豫定案ノ不用總額(及不實行ノ經費)ヲ超ユルトキ

八 收穫豫定案ノ變更ニシテ當初ノ豫定ニ對シ價額ノ減少又ハ一割ヲ超ユル面積若ハ材積ノ増加ヲ生スルト

國有林野事業規程

案ヲ編成スベシ

第五條 收穫及造林ノ豫定案、追加豫定案及變更豫定案ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ヲ除クノ外施業案所定ノ計畫ニ基キ之ヲ編成スベシ

一 第十四條第一項各號ノ一ニ該當スルトキ

二 撫育上必要ナル間伐ヲ行フトキ

三 施業案所定ノ作業數ノ組成ニ支障ナキ限度ニ於テ造林計畫ヲ變更セムトスルトキ

第六條 第四條第一項ノ規定ニ依ル收穫、研伐及造林ノ豫定案ハ營林局長之ヲ編成シ前年度十二月二十日迄ニ營林局長ニ之ヲ提出スベシ但シ特別ノ事情アル場合ニ於テハ造林豫定案ニシテ試驗ニ關スルモノ又ハ研伐豫定案ハ營林局長之ヲ編成スルコトヲ得

第四條第一項ノ規定ニ依ル土木豫定案ハ營林局長之ヲ編成スベシ但シ特別ノ事情アル場合ニ於テハ營林局長ヲシテ之ヲ編成セシムルコトヲ得

前二項ノ規定ハ追加豫定案及變更豫定案ノ編成ニ付之ヲ準用ス

第七條 營林局長及國有林產物販賣所長ハ各豫定案ノ總括表ヲ左ノ期日迄ニ農林大臣ニ提出シ其ノ認可ヲ受ケヘシ

一 土木豫定案ノ總括表ニ在リテハ前年度一月三十一日

第二章 豫定案編成

第一節 通則

第四條 營林局長ハ毎年度執行スベキ事業ニ付左ノ豫定案ヲ編成スベシ

一 收穫豫定案

二 研伐豫定案

三 造林豫定案

四 土木豫定案

五 國有林產物販賣所長ハ毎年度執行スベキ事業ニ付左ノ豫定案ヲ編成スベシ

一 研伐豫定案

二 土木豫定案

三 營林局長及國有林產物販賣所長第九條ノ規程ニ依リ豫定案ヲ確定シタル後新ニ事業ヲ執行シ又ハ豫定案ヲ變更スル必要アリト認メタルトキハ追加豫定案又ハ變更豫定案ヲ編成スベシ

第二章 豫定案編成

第一節 通則

第四條 營林局長ハ毎年度執行スベキ事業ニ付左ノ豫定案ヲ編成スベシ

一 收穫豫定案

二 研伐豫定案

三 造林豫定案

四 土木豫定案

五 國有林產物販賣所長ハ毎年度執行スベキ事業ニ付左ノ豫定案ヲ編成スベシ

一 研伐豫定案

二 土木豫定案

三 營林局長及國有林產物販賣所長第九條ノ規程ニ依リ豫定案ヲ確定シタル後新ニ事業ヲ執行シ又ハ豫定案ヲ變更スル必要アリト認メタルトキハ追加豫定案又ハ變更豫定案ヲ編成スベシ

第二章 豫定案編成

第一節 通則

第四條 營林局長ハ毎年度執行スベキ事業ニ付左ノ豫定案ヲ編成スベシ

一 收穫豫定案

二 研伐豫定案

三 造林豫定案

四 土木豫定案

五 國有林產物販賣所長ハ毎年度執行スベキ事業ニ付左ノ豫定案ヲ編成スベシ

一 研伐豫定案

二 土木豫定案

三 營林局長及國有林產物販賣所長第九條ノ規程ニ依リ豫定案ヲ確定シタル後新ニ事業ヲ執行シ又ハ豫定案ヲ變更スル必要アリト認メタルトキハ追加豫定案又ハ變更豫定案ヲ編成スベシ

キ及其ノ追加ニシテ更新ニ影響ヲ及ホストキ但シ前年度不實行箇所ノ伐採ヲ除ク

第十條 第六條第一項及前條第三項但書ニ依リ營林署長ノ提出スル豫定案、追加豫定案又ハ變更豫定案中ニ前條第三項第一號ニ該當スル事業ヲ豫定シタルトキハ其ノ事由書ヲ、前條第三項第二號乃至第五號ノ事業ヲ豫定シタルトキハ其ノ説明書及圖面ヲ添附提出スヘシ

第十一條 營林署長第九條第三項ノ規定ニ依リ追加豫定案ヲ確定シタルトキハ遲滞ナク營林局長ニ之ヲ報告スヘシ

第十二條 收穫豫定案(追加案及變更案)ハ所伐事業ノ資材ニ供シ又ハ賣拂其ノ他ノ處分ヲ行フヘキ木竹(主林木タル小葉ヲ含ム以下同シ)ノ收穫ヲ豫定スルモノトス

第十三條 毎年度ノ主伐面積又ハ主伐材積(材積ヲ標準トシテ伐採ルハ施業案所伐照査簿ニ於テ算定シタル當該年度所伐標準量ニ依リ之ヲ定ムヘシ但シ施業上已ムヲ得サル場合ハ標準量ニ對シ減伐又ハ百分ノ二十以内ノ増伐ヲ爲スコトヲ得

第十四條 木竹ノ伐採又ハ處分ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當シ既定ノ施業計畫ヲ案サス且豫見シ難カリシ場合ニ於テハ追加豫定案ヲ編成スルコトヲ要セス

生シタル加工品ニ係ルトキ
十八 營林局署ノ行フ事業又ハ調査ニ必要ナル材料ニ供スルトキ

十九 檢證、標本ノ製作、試驗又ハ林野ニ關スル調査ノ爲ナルトキ

二十 水火災ノ防禦又ハ軍服用ノ爲ナルトキ

二十一 不要存置林野ノ木竹ニ係ルトキ

前項ニ依ル處分ハ編成年前三年度ノ平均額ヲ參酌シタル見積額ヲ一括シテ豫定外トシテ豫定案ニ計上スヘシ

第十五條 所伐豫定案ハ左ノ項ニ分チ豫定スルモノトス

第一項 生産

第二項 處分

第三項 試驗

第四項 共通

第十六條 造林豫定案ハ左ノ項目ニ分チ豫定スルモノトス

第一項 更新

第二項 新植

第三項 人工下種

第四項 天然下種

第五項 萌芽

第六項 補植

第七項 撫育

第八項 保護設備

第九項 防火線

第十項 雜

第十一項 苗圃

國有林野事業規程

三 國有林野内又ハ其ノ附近ニ開坑セル鑛業人ニ鑛業用材ヲ賣拂フトキ

四 國有林野ヲ借受ケ又ハ使用スル者ニ其ノ目的遂行上必要ナル用材又ハ薪炭ノ材料ヲ賣拂フトキ

五 國有林野附近ノ住民ニ其ノ副業ノ材料又ハ家用ノ用材若ハ薪炭ノ材料ヲ賣拂フトキ

六 國有林野ノ事業請負人又ハ國有林野ノ產物買受人ニ其ノ目的遂行上必要ナル材料ヲ賣拂フトキ

七 國有林野ノ讓與又ハ組替ノ爲ナルトキ

八 國有林野ヲ組替ヘタル場合ニ於テ其ノ地上ニ保留シタル木竹ニ係ルトキ

九 民地官木竹ニ係ルトキ

十 部分林ノ產物ヲ賣拂フトキ

十一 社寺上地林ノ產物ヲ其ノ社寺ノ修繕材料トシテ其ノ社寺ニ賣拂フトキ

十二 國有林野ノ貸付、使用又ハ豫約開墾ニシテ其ノ地上ノ木竹ヲ伐採スルニ非ザレバ其ノ目的ヲ達スルコト能ハサルトキ

十三 造林豫定地又ハ造林地ニ存スル支障木竹ニ係ルトキ

十四 測量又ハ境界査定ノ支障木竹ニ係ルトキ

十五 道路、鐵道、軌道、河川、溝渠、堤塘、溜池等ノ新設ノ場合ニ於テ其ノ敷地ニ存スル木竹ニ係ルトキ

十六 道路、鐵道、軌道、電線、家屋、耕地、造林地等ニ對スル支障木竹又ハ危險木竹ニ係ルトキ

十七 燒木竹、枯木竹、轉倒木竹、盜伐木竹、誤伐木竹、挫折木竹其ノ他ノ損傷木竹、伐倒木竹、末木、枝條、根株、棄捐木竹又ハ盜伐若ハ誤伐其ノ他ノ事由ニ因リ

第十七條 土木豫定案ハ左ノ項目ニ分チ豫定スルモノトス

第一項 林道

第二項 新設

第三項 修繕

第四項 河川

第五項 新設

第六項 修繕

第七項 貯木場

第八項 新設

第九項 修繕

第十項 砂防設備

第十一章 實行

第十八條 營林局長ハ特別ノ事情アル場合ニ於テハ營林署長ヲシテ土木豫定案ヲ實行セシムルコトヲ得

營林局長ハ第六條第一項但書ノ規定ニ依ル豫定案ヲ實行

スルコトヲ得
第十九條 營林署長第十四條第一項第二十一號ニ該當スル伐採又ハ處分ヲ行フ場合ニ於テハ營林局長ノ認可ヲ受クヘシ

第二十條 豫定案ハ技術上若ハ經濟上其ノ實行ヲ不得策ト認ムル場合又ハ已ムヲ得サル事由アル場合ニ非サレハ之ヲ不實行ニ歸セシムルコトヲ得ス

第二十一條 營林署長左ノ各號ノ一ニ該當スル事業ノ豫定案ヲ不實行ニ歸セシメタルトキハ遲滯ナク營林局長ニ之ヲ報告スヘシ

一 收穫
二 研伐
三 更新
四 砂防植栽ノ植栽
五 土木ノ新設
第二十條 事業實行上災害其ノ他ノ事故發生シタルトキハ國有林野及產物管理規程ニ依リ報告ヲ爲ス場合ヲ除クノ外左ノ事項ヲ具シ遲滯ナク營林署長ハ營林局長ニ、營林局長又ハ國有林產物販賣所長ハ農林大臣ニ之ヲ報告スヘシ但シ事輕微ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

一 事故ノ種類、程度、發生ノ日時、場所、原因等
二 發生當時ノ措置
三 損害額及事業ノ功程ニ及ホス影響
四 善後ノ方法
前項ノ場合ニ於テ事重大ナルトキハ其ノ概況ヲ急報スヘシ
第二十三條 研伐、造林及土木ノ豫定案ノ當年度實行殘部ヲ翌年度ニ繰越シタルトキハ營林署長ハ翌年度四月十日迄ニ營林局長及國有林產物販賣所長ハ遲滯ナク農林大臣ニ之ヲ報告スヘシ

迄ニ營林局長ニ、營林局長及國有林產物販賣所長ハ翌年度四月二十日迄ニ農林大臣ニ之ヲ報告スベシ

第二十四條 繰越事業ハ當年度豫定案ニ併合シテ豫定ヲ要スルモノヲ除クノ外前年度ノ當該豫定案ニ依リ之ヲ實行スヘシ

第二十五條 營林局長及國有林產物販賣所長ハ毎年度事業ノ實行ニ關スル事項ヲ實行簿ニ記載スヘシ
製品以外ノ加工品ヲ林產物品ニ受入レタルトキハ研伐實行簿ニ之ヲ記載スヘシ

第二十六條 實行簿ハ左ノ區分ニ依リ之ヲ調製スヘシ
一 收穫實行簿
二 研伐實行簿
三 造林實行簿
四 土木實行簿
五 副產物處分簿

第二十七條 營林署長ハ左ノ事項ヲ毎月十日迄ニ營林局長ニ報告スヘシ
一 前月中ニ於ケル產物ノ賣拂處分狀況、處分額及當年度處分額累計
二 貯藏所別製品ノ前月末現在高

第二十八條 營林署長ハ毎年度實行シタル事業ノ總括表ヲ翌年度六月三十日迄ニ營林局長ニ提出スヘシ
營林局長ハ毎年度實行シタル事業及前項ノ總括表ニ付總括表ヲ作り、國有林產物販賣所長ハ毎年度實行シタル事業ニ付總括表ヲ作り翌年度八月三十一日迄ニ農林大臣ニ之ヲ提出スベシ
第二十九條 營林署長試驗ヲ完了シタルトキハ其ノ經過及成績ヲ營林局長ニ報告スヘシ

第三十條 研伐事業ノ成績不良ナルモノヲ生シタルトキハ營林署長ハ左ノ事項ヲ具シ遲滯ナク營林局長ニ之ヲ報告スヘシ

一 事業ノ經過
二 事業ノ成績
三 成績不良トナリタル事由
製品ノ處分著シク遲延シタルトキハ營林署長ハ左ノ事項ヲ具シ營林局長ニ之ヲ報告スヘシ
一 處分遲延シタル製品ノ種類及數量
二 處分遲延ノ事由
三 善後ノ方法

第三十一條 造林事業ノ成績不良ナルモノヲ生シタルトキハ營林署長ハ左ノ事項ヲ具シ遲滯ナク營林局長ニ之ヲ報告スヘシ

一 面積、樹種、數量、經費及損害額
二 造林ノ狀況
三 成績不良トナリタル事由
四 改善ノ方法及時期
第三十二條 營林局長處理上ノ缺陷ニ因リ前二條ノ事業ノ成績著シク不良トナリタルモノト認メタルトキハ農林大臣ニ之ヲ報告スヘシ

第三十三條 土木事業ノ成績不良ナルモノヲ生シタルトキハ營林署長ハ營林局長ニ、營林局長ハ農林大臣ニ左ノ事項ヲ具シ遲滯ナク之ヲ報告スヘシ
一 利用ノ狀況(砂防設備ニ在リ、運搬量及運搬費)
二 成績不良トナリタル事由
三 改善ノ方法及時期
第三十四條 事業ノ成績著シク不良ナルモノヲ生シタルトキハ營林署長ハ左ノ事項ヲ具シ遲滯ナク營林局長ニ之ヲ報告スヘシ

國有林野事業規程 國有林野事業規程施行ニ關スル件

キハ營林局長又ハ國有林產物販賣所長ハ遲滯ナク農林大臣ニ之ヲ報告スベシ
附則
大正三年農商務省訓令第五號國有林野事業規程ハ之ヲ廢止ス
從前ノ規程ニ依リ編成シタル貯材豫定案ハ研伐豫定案ニ併合シテ之ヲ實行スヘシ
附則(昭和十年五月十八日農林省訓令第二號)
第七條ノ改正規定ニ依リ國有林產物販賣所長各豫定案ノ總括表ヲ農林大臣ニ提出スベキ期日ハ昭和十年度ニ限り六月三十日迄トス

國有林野事業規程施行ニ關スル件

大正十五年四月十二日
山第五一二號山林局長通牒

(改正) 昭和十年五月山第一七四七號通牒

營林局關係職員ノ素質智能ノ向上發達ハ之ヲ從來ノ國有林野事業規程制定當時ニ比スレハ蓋シ隔世ノ感ナキ能ハサルヘク而モ時勢ノ進運ニ伴フ事業ノ發展ニ連レ規定ノ事項ヲ簡約ニスルノ要切ナルノ際偶々遺次制定サレタル官制ノ結果ハ定員ノ減少サレタル外事業實行ノ大半營林署長ヲ主體トスルニ至リタルト一方度量衡法ノ改正、製材所ノ廢止等必然的ニ從來ノ規程ヲ廢止シ新ニ規程ヲ制定スルノ要アルニ至リタルト依リ茲ニ營林局長ノ權限ヲ擴張シ又ハ各種處理上ノ規定ヲ簡約ニシテ根本的ニ事業執行ノ敏活ト事務ノ簡捷ヲ圖ルト共ニ實行當局者ニ技術ニ對スル刷新能率ノ増進ヲ期スルノ目的ヲ以テ新ニ國有林野事業規程ヲ制定ス

- 一 各收穫豫定案ニ於ケル官行斫伐立木處分別主間伐別再掲ノ官行斫伐及立木處分ヲ夫々集計シタル總括事項ヲ主伐間伐別ニ記入シ主伐間伐毎ニ計、最後ニ合計ヲ爲スヘシ但シ合計ハ官行斫伐及立木處分ニ分記シ更ニ其ノ計ヲ爲スモトス
- 二 備考欄ニハ更新關係及標準年伐量ヲ記入スヘシ但シ更新關係ハ收穫豫定案ニ於ケル更新別面積、標準年伐量ハ同標準年伐量ヲ各總括シタルモノトス
- 三 收穫實行簿
 - 一 事業區毎ニ官行斫伐、立木處分ノ二部ニ分チ豫定案記入番號毎ニ官行斫伐ハ事業着手ノ都度、立木處分ハ處分(實買)ノ都度記入スヘシ但シ規程第十四條ノ處分ハ各部ニ於テ別ニ口取ヲ設ケ其ノ都度記入スヘシ
 - 二 一記入番號ノ處分(規程第十四條第一)ニシテ一部ナルトキハ内、殘部ナルトキハ殘ノ字ヲ記入番號右下ニ記入スヘシ
 - 三 燒木竹、枯木竹、轉倒木竹、盜誤伐木竹、挫折木竹、其ノ他ノ損傷木竹、伐倒木竹、支障木竹、棄捐木竹等ノ處分ニ付テハ樹種欄ニ各其ノ種別ノ頭字ヲ附記スヘシ
 - 四 賣拂事由欄ニハ公特賣別、特賣ノ目的等ヲ記入スヘシ

- 五 官行斫伐ニ在リテハ一記入番號毎ニ小計、終リニ計ヲ爲スヘシ
- 六 立木處分ニ在リテハ一廉毎ニ小計、毎月計及累計ヲ爲スヘシ
- 七 各事業實行ノ記入ヲ了リタルトキハ作業級別再掲(作業級別ニ集計シタルモノヲ記入) 次ニ官行斫伐立木處分別樹種別再掲(樹種別ハ針葉樹、闊葉樹及竹類ニ小計、針葉樹ヲ通シ其ノ合計ヲ爲スコト) 末尾ニ營林署總計ヲ爲スヘシ
- 八 實測圖、測樹野帳及單價調等豫定案編成ノ資料ハ備考欄ニ其ノ附屬番號ヲ附記スヘシ
- 九 收穫豫定案總括表
 - 一 各收穫豫定案ニ於ケル官行斫伐立木處分別主間伐別再掲ノ官行斫伐及立木處分ヲ夫々集計シタル總括事項ヲ主伐間伐別ニ記入シ主伐間伐毎ニ計、最後ニ合計ヲ爲スヘシ但シ合計ハ官行斫伐及立木處分ニ分記シ更ニ其ノ計ヲ爲スモトス
 - 二 備考欄ニハ更新關係及標準年伐量ヲ記入スヘシ但シ更新關係ハ收穫豫定案ニ於ケル更新別面積、標準年伐量ハ同標準年伐量ヲ各總括シタルモノトス
 - 三 收穫實行簿
 - 一 事業區毎ニ官行斫伐、立木處分ノ二部ニ分チ豫定案記入番號毎ニ官行斫伐ハ事業着手ノ都度、立木處分ハ處分(實買)ノ都度記入スヘシ但シ規程第十四條ノ處分ハ各部ニ於テ別ニ口取ヲ設ケ其ノ都度記入スヘシ
 - 二 一記入番號ノ處分(規程第十四條第一)ニシテ一部ナルトキハ内、殘部ナルトキハ殘ノ字ヲ記入番號右下ニ記入スヘシ
 - 三 燒木竹、枯木竹、轉倒木竹、盜誤伐木竹、挫折木竹、其ノ他ノ損傷木竹、伐倒木竹、支障木竹、棄捐木竹等ノ處分ニ付テハ樹種欄ニ各其ノ種別ノ頭字ヲ附記スヘシ
 - 四 賣拂事由欄ニハ公特賣別、特賣ノ目的等ヲ記入スヘシ

- 一 營林局長ニ提出スヘキ總括表ハ事業區毎ニ收穫實行簿ニ於ケル作業級別再掲ノ作業級別ノ事項及其ノ合計次ニ官行斫伐立木處分別樹種別再掲及營林署總計ヲ移記スヘシ
- 二 農林大臣ニ提出スヘキ總括表ハ前項總括表ニ於ケル作業級別ノ事項ヲ各事業區ヲ通シ作業種別ニ總括シタルモノヲ記入シ其ノ合計ヲ爲シ次ニ官行斫伐立木處分別樹種別再掲、末尾ニ左記ニ依ル府縣別樹種別再掲ヲ爲スヘシ

府縣	面積	樹種	用材		價格計	備考
			材積價格	材積價格		
何	ヘキ
...
計

- 注意
 - 面積ハ計ニ於テノニ記入ノコト
 - 樹種ハ農商務統計報告規則ノ定ムル處ニ依ルモノトス
 - 一事業區カ二府縣以上ニ互ル場合ハ便宜其ノ主ナル府縣ニ合併スルモ妨ケナク
 - 各總括表ノ備考欄ニハ左ノ事項ヲ記入スヘシ
 - 立木處分ノ總價格ト歳入決算額トノ對照
- 國有林野事業規程施行ニ關スル件

- 一 事業區所毎ニ記入番號ヲ附スベシ但シ實行上區分ノ必要ヲ認メザル場合ハ數個所一記入番號トシテ取扱フコトヲ妨ケズ
- 二 追加豫定案ノ記入番號ハ追字ヲ冠シ現豫定案ノ番號ヲ受ケ繼グモノトス
- 三 記入番號毎ニ資材ノ加工ヨリ搬出終了迄ノ豫定事業ヲ記入スヘシ
- 四 記入番號毎ニ計、一國有林產物販賣所又ハ一營林署ヲ通シ合計ヲ爲スベシ
- 五 前項ノ計及合計ニ於テハ概括材種別(薪材、製材、)ニ分チ計上スベシ
- 六 對照記入番號欄ニハ當該年度收穫豫定案及前年度斫伐豫定案關係記入番號ヲ記入スベシ但シ前年度ノ豫定案ニ關スル記入番號ナルトキハ其ノ左側ニ年度ヲ併セ記入スベシ
- 七 資材及生産欄ハ樹種、材種毎ニ豫定事項ヲ分記スベシ
- 八 資材欄當年度ニ在リテハ當年度收穫豫定案ノ當該事項ヲ、前年度ヨリ越ニ在リテハ前年度斫伐豫定案ノ未了翌年度へ越欄相當事項ヲ移記一致セシムベシ
- 九 生産欄ニハ左ノ如ク記入スベシ
 - 材種欄ニハ薪材ハ穂付丸太、丸太、柚角等、製材ハ挽角、挽割、薄板(羽目板、床板等)、厚板、盤等、薪材ハ丸、割、込等、木炭ハ白炭、黑炭等、副品ハ...

- (日)貯藏所欄ニハ生産ノ終了スベキ貯藏所名ヲ記入スルコト但シ輸送販賣ニ在リテハ其ノ送先地名ヲ記入スルモノトス
- (ハ)作業目的欄ニハ普通販賣、輸送販賣、他局署又ハ他國有林産物販賣所へ轉換等ニ區分スルコト
- (ニ)生産價格及翌年度越價格ハ資材價及經費ヲ合算シタル費用價ヲ記入スルコト
- (ホ)摘要欄ニハ當年度資材ニ對スル造材ノ歩合其ノ他生産ニ關スル事項ヲ説明スルコト但シ説明書ニ記載アルモノハ之ヲ省略スルコト
- 八 經費欄ニハ左ノ如ク記入スベシ
 - (イ)材種ハ概括材種別ニ記入スルコト
 - (ロ)科目ハ左ノ順序區分ニ依リ記入スルコト
 - 「製作費」伐倒、玉切、角取、木寄、製材、製炭、造材、検査等ニ要スル費用
 - 「運搬費」搬出又ハ輸送ニ要スル費用
 - 「處理費」旅費、雇員及傭人ノ給料、職員以下ニ給スル諸手当、諸給與、廣告料其ノ他ノ雜費、運搬ニ關スル損害手当、定夫被服、器具機械材料、倉庫、事務所、簡易工作物、需要物品、通信運搬、職工人夫ノ獎勵保護、試験等ニ要スル費用
 - (ハ)摘要欄ニハ各種目經費算出ノ基礎ヲ記入スルコト但シ既往實行成果ヲ標準トスル場合ハ其ノ要領ヲ説明シ之ヲ省略スルモ妨ゲナシ
 - (ニ)着手終了年度ノ異ナル毎ニ豫定ヲ分記シ各小計ヲナスコト
 - (ホ)翌年度欄經費ト翌年度豫定案ノ當年度欄該當經費ト

- ハ之ヲ一致セシメ翌年度豫定案ノ當年度經費ハ科目別ノ記載ニ止メ備考欄ニ前年度揚上ノ分ト記入スルコト
- (ハ)製材事業其ノ他記載ノ複雜ニ亙ルモノハ科目別經費ノ記載ニ止メ別表ニ依リ補足スルモ妨ゲナシ此ノ場合ハ備考欄ニ其ノ旨記入スルコト
- 九 追加又ハ變更豫定案ニハ追加又ハ變更ヲ要スル事由及經費關係等ニ付説明スベシ
- 十 簡易製材場設置又ハ新規企畫ニ係ル斫伐事業説明書ニハ概ネ左記事項ヲ記入スベシ
 - (イ)事業豫定ノ理由
 - (ロ)面積、地況、林況、樹種別蓄積、年伐量
 - (ハ)既往ニ於ケル産物ノ處分及利用ノ狀況
 - (ニ)事業繼續年數及各年度斫伐箇所ノ配置
 - (ホ)運搬方法及距離ヲ示シタル運搬線路圖
 - (ヘ)資材ノ品質、製材ノ方法及歩止リ
 - (ト)労働者ノ關係
 - (チ)事業擔當員及定夫ノ配置
 - (リ)伐木造材其ノ他ノ加工及各種ノ運搬ニ對スル労働者一人又ハ一組當リノ功程及賃金
 - (ヌ)製作運搬其ノ他ニ要スル設備費並附帶雜費
 - (ル)製品ノ搬路及價格
 - (ヲ)事業執行ノ最モ容易ナル箇所ト最モ困難ナル箇所トヲ基礎トシテ計算セル收支
 - (ワ)國有林ノ施業並保護ニ及ボス影響
 - (カ)地方産業ニ及ボス影響ト地方民一般ノ意嚮
- 十一 營林局長ニ提出スベキ豫定案ハ記入番號毎ニ對照記入番號、事業區、林小班ヲ記入シ面積以下各欄ニハ計及

- 合計ヲ移記スベシ
- 前項豫定案ノ控ハ營林署ニ備付ヲ要セズ
- 一 當年度生産豫定及前年度處分豫定ノ一記入番號毎ニ記入番號ヲ附スベシ但シ實行上區分ノ必要ヲ認めザル場合ハ數記入番號ヲ一記入番號トシテ取扱フコトヲ妨ゲズ
- 二 追加豫定案ノ記入番號ニ付テハ生産ニ準ズベシ
- 三 記入番號毎ニ製品又ハ製品ニ受入未済ノモノノ受入、保管、輸送、處分等ニ關スル豫定事業ヲ記入スベシ
- 四 計及合計ニ付テハ生産ニ準ジ記入スベシ
- 五 受入及處分欄ハ樹種、材種毎ニ豫定事項ヲ分記スベシ
- 六 受入欄ニハ左ノ如ク記入スベシ
 - (イ)營林局署欄ニハ轉換ヲ受クル營林局署名ヲ記入スルコト但シ自署生産ニ在リテハ記入ヲ要セズ
 - (ロ)對照記入番號欄ニハ生産營林局署又ハ國有林産物販賣所ニ於ケル當年度斫伐豫定案(生産)及前年度斫伐豫定案(處分)關係記入番號ヲ記入スルコト但シ前年度ノ豫定案ニ關スル記入番號ナルトキハ其ノ左側ニ年度ヲ併シ記入スルモノトス
 - (ハ)貯藏所欄ニハ生産ノ終了セル貯藏所名ヲ記入スルコト但シ他局署ヨリ轉換ニ在リテハ受入貯藏所又ハ簡所名ヲ記入スルモノトス
 - (ニ)當年度ニ在リテハ當該生産事業生産豫定毎ニ、前年度ヨリ越ニ在リテハ前年度處分事業ノ翌年度豫定毎ニ材積價格ヲ移記一致セシムルコト
 - 六 處分欄ニハ左ノ如ク記入スベシ
 - (イ)貯藏所欄ニハ處分ノ終了スベキ貯藏所名ヲ記入スルコト但シ輸送販賣ニ在リテハ其ノ送先地名ヲ記入スル

- ルモノトス
- (ロ)處分方法欄ニハ普通販賣、輸送販賣、他營林局署又ハ他國有林産物販賣所へ轉換等ニ區分スルコト
- 七 經費欄記入方ニ付テハ生産ニ準ズベシ
- 八 追加又ハ變更豫定案ニハ追加又ハ變更ヲ要スル事由及經費關係等ニ付説明スベシ
- 九 營林局長ニ提出スベキ豫定案ニ付テハ生産ニ準ズ
- 一 試驗場所及試驗種類ノ異ナル毎ニ記入番號ヲ附スベシ
- 二 追加豫定案ノ記入番號ニ付テハ生産ニ準ズベシ
- 三 經費欄記入方ニ付テハ生産ニ準ズベシ
- 四 計及合計ニ付テハ生産ニ準ジ計上スベシ
- 五 共通及總計
 - 一 共通ニ於テハ雇員、旅費、手当、通信運搬、廣告等各事業共通ノ性質ヲ有スル經費ヲ生産經費欄記入方ニ準ジ記入スベシ
 - 二 共通ノ次ニ一國有林産物販賣所又ハ一營林署ヲ通ジタル總計ヲ計上スベシ
 - 三 總計ニ於テハ收支計算上重複スル材積價格ハ之ヲ省キ計上スベシ但シ營林局管内營林署間轉換(處分、受入)ノ材積、價格ハ括弧ヲ附スルモノトス
 - 四 材種ハ概括材種別ニ掲記スベシ
 - 五 收支計算ハ左記ニ依リ記入スベシ
 - (イ)當年度處分品ノ總價額及翌年度へ越品(生産、處分)總價額ヲ收入トス
 - (ロ)資材價額又ハ受入價額及經費總額ヲ支出トス
 - (ハ)收入ト支出トノ差ヲ利益又ハ損失トス
 - (ニ)利益又ハ損失ヲ支出ニテ除シタル商ヲ利益又ハ損失トス

歩合トス

斫伐豫定案總括表

- 一 材種ハ概括材種別ニ掲記スヘシ
- 二 翌年度經費ハ當年度豫定案ニ計上セラレタル分ノミヲ記入スヘシ
- 三 一營林局又ハ一國有林產物販賣所ヲ通シタル收支計算ヲ斫伐豫定案(共通及總計)記入方ニ準シ記入スベシ

斫伐實行簿

- 一 記入番號毎ニ製品生産ノ實行ニ關スル事項ヲ記入スヘシ
- 二 記入番號、事業箇所及面積(面積ノ豫定ト實行ト異ナルトキハ各別ニ分記スルコト)ハ當年度豫定案ヨリ確定ノ都度之ヲ移記スヘシ
- 三 資材ノ樹種、本數、材積及價格ハ造林摘要欄ニ記入スヘシ但シ前年度ヨリ繰越ノ資材(立木、半製品、山)ハ前年度實行簿ニ依リ之ヲ移記シ其ノ旨記入スルモノトス
- 四 造林摘要欄ニハ山元ニ於テ仕成シタル檢知済造材ヲ功程調査ノ都度順次記入シ毎月計及累計ヲ爲スヘシ但シ前年度ヨリ繰越資材ニ係ル造材ハ摘要欄ニ其ノ旨記入スルモノトス
- 五 前年度ヨリ繰越ノ山仕成檢知済造材アルトキハ前年度實行簿ニ依リ最初ニ之ヲ朱ニテ移記シ其ノ次ニ當年度山仕成檢知済ノモノヲ順次記入スヘシ
- 六 生産欄ハ生産終了ノ都度順次記入シ毎月計及累計ヲ爲スヘシ價格ハ費用價(資材價及經費ヲ合算シタリ)ニ依ルモノトス
- 七 經費欄ニ關シテハ左ノ如ク記入スヘシ
- 八 (イ)豫定案確定ノ都度月日番號ヲ摘要欄ニ、其ノ金額ヲ殘額欄ニ、實行ニ對シテハ支拂決議ノ都度經費ノ科

目別内課(種目又ハ品名等)數量、材積及受取人氏名等ヲ摘要欄ニ記入スルコト

- (イ)經費ハ累加累減ノ法ニ依リ常ニ現在高ヲ明ニシ且毎月計及累計ヲ爲スコト
- (ロ)實行ノ結果ニ依ル不用又ハ豫定案ノ變更増減等ニ依リ經費ヲ減額又ハ増額セントスルトキハ其ノ金額ヲ殘額欄ニ、其ノ事由ヲ摘要欄ニ朱書又ハ墨書スルコト
- 七 當年度末尾累計ノ次ニ左ノ如ク記入スヘシ
- (イ)當年度資材ノ樹種別再掲ヲ爲シ次ニ前年度ヨリ繰越資材ヲ加ヘタル樹種別再掲ヲ爲スコト
- (ロ)當年度山仕成檢知済造材ノ樹種別再掲ヲ爲シ次ニ前年度ヨリ繰越ニ係ルモノヲ加ヘタル樹種別再掲ヲ爲スコト
- (ハ)當年度生産済樹種別再掲ヲ爲シ次ニ生産未了翌年度へ繰越トシテ立木、半製品、造材(檢知済)トニ區分樹種別再掲ヲ爲スコト但シ生産未了ニ係ルモノノ價格ハ費用價ヲ概算記入スルモノトス
- 八 本簿記載後ノ異動又ハ訂正ニ付テハ左ノ如ク記入スヘシ
- (イ)山仕成檢知済造材ニシテ亡失ニ係ルモノアル場合ニハ造林摘要欄ニ之ニ關スル事項ヲ朱書スルコト
- (ロ)誤謬違算等ノ結果ニ依リ訂正ヲ要スル場合ニハ各相當欄ニ其ノ増減ハ墨書減差ハ朱書シ摘要ニ其ノ事由ヲ記入スルコト
- (ハ)(イ)(ロ)ニ依ル朱書ニ對シテハ計ニ於テハ之ヲ朱書シ累計及樹種別再掲ニ於テハ之ヲ控除(イ)ニ關スル再掲スルコト

九

項ノ異動ニ付テハ年度經過後ト雖之ヲ記入整理スヘシ豫定案變更ノ結果記帳資材ニ異動ヲ生シタル場合ニハ更正資材ヲ造材摘要欄ニ、變更要領ヲ備考欄ニ記入スヘシ

十

豫定案不實行ノ場合ニ於テハ備考欄ニ其ノ事由ヲ朱書シ記入番號欄ニハ不實行ノ印ヲ捺捺スヘシ

一

記入番號毎ニ製品處分ノ實行ニ關スル事項ヲ記入スヘシ

二

規程第二十五條第二項該當ノモノハ別ニ口取ヲ設ケ受入拂出及越品ニ關スル事項ヲ記入スヘシ

國有林野事業規程施行ニ關スル件

- (イ)前年度ヨリ越品ハ前年度實行簿ノ「翌年度へ越」處分殘ヲ越價額ニ依リ受入欄ニ移記シ摘要欄ニ其ノ旨記入スルコト
- (ロ)當年度受入ハ受入決議ノ都度貯藏所毎ニ製品ノ受入(自製生産ノモノハ生産價格他)ニ關スル事項ヲ記入スルコト
- (ハ)處分欄ニ在リテハ收入(普通販賣)ニ屬スルモノハ賣買契約(受入未済ノ製品ヲ註文ニヨリ賣)ノ都度、轉換其ノ他ニ屬スルモノハ引渡決議ノ都度、拂出引渡欄ニ在リテハ引渡ノ都度貯藏所毎ニ製品ノ拂出ニ關スル事項ヲ記入スルコト
- 引渡欄ノ價格ハ受入價格ニ依リ計算スルコト
- 賣買契約ヲ爲シタルモノハ拂受人ノ住所氏名及材木商挽材業等其ノ主ナル職業名ヲ又轉換其ノ他ニ關スル

- 五 經費欄記入方ニ付テハ生産ニ準スヘシ
- 六 本簿記入後ノ異動又ハ訂正ニ付テハ左ノ如ク記入スヘシ
 - (イ) 亡失又ハ毀損ノ爲減損セシモノハ受入欄ニ之ニ關スル事項ヲ朱書シ摘要欄ニ其ノ事由ヲ記入スルコト
 - (ロ) 誤謬、違算等ノ結果ニ依リ訂正ヲ要スル場合ニハ各相當欄ニ其ノ増差ハ墨書、減差ハ朱書シ摘要欄ニ其ノ事由ヲ記入スルコト
 - (ハ) (イ)(ロ)ニ依ル朱書ニ對シテハ計ニ於テハ之ヲ朱書シ累計ニ於テハ(ロ)ニ屬スルモノハ控除シ(イ)ニ屬スルモノノミ朱書スルコト
- 七 撤出期限ノ延期ヲ許可シタル場合ニハ期限其ノ他必要事項ヲ摘要欄ニ記入スヘシ
- 八 本簿ノ末尾ニハ全記入番號實行ノ合計ヲ爲シ次ニ樹種材種別再掲及其ノ他ノ再掲(第三ノニ依リ)ヲ相當欄ニ記入スヘシ
- 九 豫定案不實行ノ場合ニ於ケル記入方ハ生産ニ準ス
 - 一 生産經費欄記入方ニ準シ試驗實行ニ關スル事項ヲ記入スヘシ
 - 共 通
 - 一 生産經費欄記入方ニ準シ記入スヘシ
 - 一 研伐實行總括表
 - 一 營林署、一營林局又ハ一國有林產物販賣所ヲ通シ研伐實行簿各項ノ總括ヲ記入スヘシ
 - 二 收支計算ニ付テハ研伐豫定案(共通及總計)調製方第五號ニ依リ記入スヘシ
 - 三 營林局管内轉換ニ依ル處分ハ收支計算ニ於テ重複ヲ避

- 四 ヲ朱書スルコト
- 五 盜伐其ノ他ニ依ル製品ニ付テハ其ノ當年度處分數量及金額ヲ概括材種別ニ備考欄末尾ニ記入スヘシ
- 六 製品賣拂總額及實行經費總額ト歳入決算額及歳出決算額トノ對照ヲ備考欄ニ記入スヘシ
- 七 造林豫定案
 - 一 事業區毎ニ記入シ各事業區ノ記入ヲ了リタル後ニ試驗及共通ヲ記入スヘシ
 - 二 事業區編成未済箇所ハ附近適當ノ事業區ニ包含セシメ作業級欄ニ雜ト記入スヘシ
 - 三 作業級欄及字、小字欄ハ收穫豫定案ニ準スヘシ
 - 四 一事業毎ニ順次記入番號ヲ附スヘシ
 - 五 更新(國ノ支出ニ係ラ)ハ箇所ノ異ナル毎ニ一事業トシテ記入スヘシ
 - 六 補植、撫育ハ更新年度及箇所ノ異ナル毎ニ、防火線ハ箇所ノ異ナル毎ニ二分記シ一擔當區ヲ以テ一事業トシテ記入スヘシ
 - 七 施業案檢訂ノ結果小班分合シタルトキハ其ノ小班ヲ以テ一箇所ト看做ス
 - 八 苗圃ハ播種、床替ノ樹種及年度ノ異ナル毎ニ二分記シ苗圃毎ニ雜ヲ設ケ一苗圃ヲ以テ一事業トシテ記入スヘシ
 - 九 但シ數箇所ノ苗圃ヲ取纏メ一事業ト爲スヲ妨ケス
 - 十 砂防植栽ノ植栽ハ箇所ノ異ナル毎ニ一事業トシ補修ハ箇所ノ異ナル毎ニ二分記シ一擔當區ヲ以テ一事業トシテ記入スヘシ
 - 十一 保護設備ノ雜及共通ハ各一事業トシテ記入スヘシ
 - 十二 試驗ハ數箇所取纏メ一事業トナスヲ妨ケス
 - 十三 國ノ支出ニ係ラサル保管林、委託林ノ更新、補植、撫育

- 四 等ノ記入方ハ前各號ニ準ス但シ經費ハ記入ヲ要セス
- 五 更新ハ日別區域面積、補植及撫育ハ更新ノ區域面積、保護設備及苗圃ハ施行面積、砂防植栽ハ區域面積ヲ記入スヘシ
- 六 保護設備雜ハ火災豫防、動物防止、藩籬、林野巡守、火見臺、番小屋、電話設備等ノ經費トス
- 七 苗圃雜ハ器具機械、藩籬、溝渠、番小屋、定夫、借地、開墾、用地買上、保護等ノ經費トス
- 八 共通ハ雇員、定夫、旅費、手當、通信運搬、廣告、支消品、器具機械等各事業共通ノ性質ヲ有スルモノノ經費トス
- 九 補播ハ補植ニ準シ取扱フヘシ
- 十 播種ハ種子採集又ハ購入ヨリ第一回床替前迄ノ事業ヲ含ム
- 十一 床替ハ第一回床替ヨリ林地移植前迄ノ事業ヲ含ム補穂ハ床替ニ準スヘシ
- 十二 砂防植栽ノ植栽ハ工事ノ新設ヲ含ム同補修ハ補植、手入ヲ含ム
- 十三 當初實行年月欄ニハ更新ニ在リテハ其ノ伐採ノ年月(未立木地)補植又ハ撫育ニ在リテハ更新年月又ハ林齡(下キ)播種、床替ハ其ノ播種年月ヲ記入スヘシ
- 十四 砂防植栽ノ工事ノ種類ハ樹種欄ニ記入スヘシ
- 十五 數量及面積欄ニハ左ノ如ク記入スヘシ
 - (イ) 更新、補植、砂防植栽ニ在リテハ當年度採集又ハ購入スル種苗ノ數量ハ墨書シ官苗圃養成ノ苗木及前年度採集又ハ購入セル種苗ノ數量ハ朱書スルコト
 - (ロ) 苗圃ニ在リテハ一記入番號ニ於テ日別數量、面積ニ重複豫定スルモノアルトキハ年度後半期ニ屬スル分

- 一 ヲ朱書スルコト
- 二 (ハ) 翌年度準備ノ爲メ豫定スル事業ノ數量、面積ハ括弧ヲ附スルコト
- 三 (ニ) 苗木本數ハ特殊ノ場合ヲ除クノ外百位ニ止ムルコト
- 四 (ホ) 防火線ノ延長、幅員、砂防植栽ノ工事ノ延長又ハ面積ハ數量欄ニ記入スルコト
- 五 (イ) 更新、砂防植栽各目及補植、撫育ノ施行面積
- 六 (ロ) 種子ノ產地、苗木ノ產地及年輪
- 七 (ハ) 經費算率ノ基礎(記事欄ニ互ルモノハ別段ニ依リ補正スヘシ既往實行同シト記入スルモノハ何ナシ)
- 八 (ニ) 地籍ニシテ前年度實行セルモノ及種苗ニシテ前年度購入ニ係ルモノハ其ノ旨
- 九 (ホ) 保護設備雜、苗圃雜及共通ハ主要ナル用途別經費小計及項目別ニ於テ算出記入スヘシ但シ更新、苗圃ニ在リテハ一記入番號ノ日毎ニ算出記入シ小計、計及合計ニ於テ算出スルコト本文ニ同シ
- 十 備考欄ニハ左ノ事項ヲ記入スヘシ
 - (イ) 收穫豫定案記入番號(輸出未済ノ箇所)
 - (ロ) 事業實行ノ時季
 - (ハ) 保護設備、天然生雜樹アル場合ハ之カ取扱要領
 - (ニ) 植栽樹種ノ配置(區別等)及一ヘクタール當植栽本數又ハ播種量
 - (ホ) 補植ノ回数、撫育(除去、倒木)ノ種類別及其ノ回数並施行ノ程度
 - (ヘ) 撫育實行上注意スヘキ事項

國有林野 事業、工事

- (ト) 苗圃ニ於ケル病蟲害ノ驅除豫防ニ關スル計畫要領
- (チ) 苗圃ニ於ケル旱害、寒害ノ豫防對策
- (リ) 入夫供給關係、直營、請負別
- (ヌ) 防火線ノ仕様並新設、修繕ノ區分
- (ル) 苗圃床地面積及一平方メートル當リ播種、床替數量
- (ヲ) 保管林ノ保管者又ハ委託林ノ受託者カ造林行爲ヲ爲ス場合ハ其ノ旨
- (ワ) 義務補植又ハ雜草木ノ賣拂等ニヨリ經費ヲ要セサルモノハ其ノ事由
- (カ) 當年度山行苗木種類別見込數量
- (コ) 其ノ他事業施行上必要ナル事項
- (ク) 實測圖、測量野帳、説明書等豫定案編成資料ノ附屬番號

- 於テ合計、其ノ他ハ日毎ニ計、項毎ニ合計、各項ノ記入ヲ了リ事業區計、各事業區ノ記入ヲ了リ試驗及共通ヲ記入シ營林署通計、末尾ニ項目別再掲ヲ爲スヘシ
- 十六 豫定案ヲ不實行ニ歸セシメタルトキハ其ノ事由ヲ説明スヘシ
- 追加豫定案ハ記入番號ニ追字ヲ冠シ現豫定案ノ番號ヲ受ケ繼キ追加ヲ要スル事由及經費ノ流用關係ヲ説明スヘシ
- 變更豫定案ハ原記入番號ニ變字ヲ冠シ變更豫定ヲ記入シ其ノ事由及經費流用關係ヲ説明スヘシ
- 十七 豫定案ヲ實行、不實行又ハ變更セルトキハ當該記入番號欄ニ相當印ヲ押捺スヘシ
- 十八 豫定案末尾ニハ左記ニ依リ更新關係豫定ヲ記入スヘシ

事業區	作業級	年度	區別	更新			新			芽	面積			差引殘	備考
				要更新	新	人下	工種	天下	餘種		計	其他	合計		
		13	年度未定	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	
		14	現	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	
		15	定	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	
		小計		ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	

注意

1. 事業區別作業級別ニ記入スルコト
 2. 更新區域欄ノ各年度豫定ノ面積カ收穫豫定案ノ要更新區域面積ト一致セサル場合ハ其ノ事由別説明ヲ備考欄ニ記入スルコト
 3. 未立木地面積ハ括弧ヲ附シ伐採箇所ト區別スルコト
 4. 作業級毎ニ小計、事業區毎ニ計、最後ニ合計ヲ爲スルコト
 5. 其ノ他欄ニ記入セル面積ノ種類ハ備考欄ニ説明スルコト
- 十九 營林局長ニ提出スヘキ豫定案ハ左記ノ如ク記入スヘシ
- (イ) 事業區毎ニ記入シ更新、苗圃及砂防植栽ノ植栽ハ豫定案ノ各記入番號ノ項目毎ニ、其ノ他ハ項目毎ニ記入シ通計ヲ爲スルコト
 - (ロ) 更新、苗圃及砂防植栽ノ植栽以外ノ記入番號ハ何レノ何レト記入スルコト
 - (ハ) 摘要欄及單價欄ハ記入ヲ要セス
 - (ニ) 撫育ハ手入、蔓切、枝打、除伐、倒木起ノ種類別面積、經費ヲ備考欄ニ記入スルコト
 - (ホ) 苗圃雜、保護設備雜及共通ニ於テ前年度ニ比シ著シク増加セル場合ハ其ノ事由ヲ備考欄ニ記入スルコト
 - (ハ) 豫定案末尾ニハ第十八號ニ依リ更新關係豫定ヲ記入スルコト
- 二十 營林局長ニ提出スヘキ豫定案ノ控ハ營林署ニ備付ラ要セス
- 造林豫定案總括表
- 一 豫定案ノ項目別再掲ヲ總括記入スヘシ
 - 二 備考欄ニハ更新關係豫定ノ營林局通計ヲ記入スヘシ
- 造林實行簿
- 一 事業區毎ニ繰越及當年度豫定經費ヲ豫定案確定ノ都度

- 二 記入番號順ニ經費殘額欄ニ記入シ實行ハ其ノ都度記入スヘシ
- 三 豫定案ヲ不實行ニ歸セシメタルトキハ記入番號欄ニ不實行ノ印ヲ押捺スヘシ
- 四 一事業實行ノ記入ヲ了リタルトキハ小計ヲ爲スヘシ
- 五 一事業ニ二個以上ノ目ヲ有スル場合ハ小計ノ次ニ目別再掲ヲナスヘシ
- 六 官苗圃養成苗木及前年度ニ於テ當年度ノ準備ノ爲實行セルモノノ經費ハ朱書スヘシ但シ苗圃ヲ除ク
- 七 當年度内ニ事業ヲ完了セサルトキハ當年度分ニ付小計ヲ爲シ繰越シタル分ヲ適宜記入スヘシ
- 八 繰越事業ノ前年度實行濟額ハ經費欄ニ朱書シ繰越シタル面積數量ハ備考欄ニ記入スヘシ
- 九 豫定經費ニ増減アリタルトキハ増減ハ(中)減差ハ(下)符號ヲ附シ殘額欄ニ記入シ備考欄ニ其ノ事由ヲ説明スヘシ
- 十 實行剩餘金ヲ減額スル場合ハ小計ノ次ニ前項ニ準シ記入スヘシ
- 十一 年度經過後決算期迄ノ當該年度分經費ノ支拂ニ付テハ年度經過後ト雖之ヲ記入スヘシ
- 十二 苗圃ノ目別再掲ノ次ニ苗木養成費内譯(前年度迄ノ經費ハ朱書シ當年度ノ經費ハ墨書ス)ヲ記入スヘシ

七 苗木養成費ハ目別再掲ノ雜ヲ適宜配算算出スルモノトス
 各事業實行ノ記入ヲ了リタルトキハ更新ニ在リテハ作
 業級毎ニ計、項ニ於テ合計、補植、撫育、苗圃ニ在リ
 テハ項ニ於テ合計、其ノ他ハ目毎ニ計、項毎ニ合計、
 事業區計ヲ爲シ次ニ項目別再掲(更新ニ在リテハ別
 各事業區ニ付項目別再掲ノ記入ヲ了リタルトキハ試驗
 及共通ヲ記入シ營林署通計ヲ爲スヘシ
 九 造林豫定案調製方第十一號第十二號(イ)(ロ)(ニ)(ホ)
 及第十四號(ヲ)(ヅ)ハ本簿記入方ニ準用ス
 造林實行總括表
 一 營林局長ニ提出スヘキ總括表ハ實行簿調製方第七號ノ
 項目別再掲(更新ノ作業級)及試驗、共通、營林署通計ヲ移記
 養成濟苗木樹種別再掲

スヘシ
 農林大臣ニ提出スヘキ總括表ハ前項ニ付營林局ヲ通シ
 項目別(更新ノ別種別)ニ總括ヲ爲シ目毎ニ計、項毎ニ合計ヲ
 爲シ末尾ニ總計ヲ爲スヘシ
 二 備考欄ニハ左ノ事項ヲ記入スヘシ
 (イ)撫育ノ手入、蔓切、枝打、除伐、倒木起ノ種類別面
 積、經費
 (ロ)翌年度準備ノ爲要セシ經費
 三 總計ニ於ケル經費ト當年度支出決算額トノ對照ヲ備考
 欄ニ説明スヘシ
 四 總計ノ次ニ左記ニ依リ當年度養成濟苗木ノ樹種別再掲
 ヲ爲スヘシ

樹種	養成濟數	單價	養成費	内		備考
				當年度山行	翌年度山行	
				其	他	

五 前項ノ記載ヲ終リタル後左記ニ依リ更新關係ヲ記入スルコト
 注意 他署ノ轉換、讓與、賣渡等ニ附セルモノハ其ノ數量ヲ其ノ他トシテ合併記入シ備考欄ニ説明スルコト

事業區	作業級	更新			新實			差引更新未濟地			備考
		前年度ヨリ	新當伐	其他	新天下	實其他	未木	伐採地	計	更新未濟地	
		未立	伐採地	度採	計	其他	計	計	更新未濟地		

注意 1. 前年度未現在造林未濟地面積ト當年度伐採、更新各實行面積ニ依リ更新未濟地面積ヲ取調ヘ
 造林照査簿ニ於ケル殘存面積ノ總計ト對照スルコト
 2. 其ノ他ノ内課ハ備考欄ニ説明スルコト
 3. 農林大臣ニ提出スルキ總括表ニハ營林局通計ヲ記入スルコト
 六 營林局ニ於テハ左記ニ依リ更新樹種別府縣別再掲ヲ記
 入スヘシ但シ管轄區域ニ府縣以上ニ互ル場合ハ便宜其
 更新樹種別府縣別再掲

府縣	類別	項目	目別	樹種	面積	數量	備考

土木豫定案
 一 項目、箇所ノ異ナル毎ニ記入番號ヲ附シ目毎ニ小計、
 項毎ニ計、一營林署又ハ一國有林產物販賣所ヲ通シテ
 合計ヲ爲スヘシ但シ試驗ニ付テハ數箇所ヲ取纏メ一記
 入番號ト爲スヲ妨ケス
 追加豫定案ニ在リテハ追字ヲ冠シ現豫定案ノ番號ヲ受
 ケ繼キ變更豫定案ニ在リテハ原豫定案ノ番號ニ變字ヲ
 冠スヘシ
 二 位置欄ニハ林道ハ線路ノ起終兩端、河川ハ運材區域ノ
 兩端、貯木場及砂防設備ハ施行箇所ノ地名ヲ記入スヘシ
 數量欄ニハ左ノ如ク記入スヘシ
 (イ)河川ハ運材區域ノ延長ヲ記入スルコト
 (ロ)複線又ハ附屬工事ノ數量ハ之ヲ加算セサルコト
 四 改修ニ依リ既設備ノ數量ニ變更ヲ及ボスモノハ原數
 量及其ノ差ヲ備考欄ニ記入スヘシ
 五 共通ハ設計、雇員、定夫、器具機械、移動軌條、支消

品、通信運搬、廣告、手當、旅費、借地料等ノ經費トス
 六 規程第十條ノ圖書ハ左記ニ依ルヘシ
 (イ)説明書(事業施行ヲ要スル事由、事業ノ分限、程度)
 (ロ)經費明細書
 (ハ)位置圖、平面圖(林道ニ在リテハ)及縱斷圖(林道ニ在リテハ)及
 (ニ)特殊ノ工事ニ付テハ構造圖及仕様書
 土木豫定案總括表
 一 營林局又ハ國有林產物販賣所ヲ通シテ項目別、種類別
 ニ總括記入スヘシ
 二 規程第十條ノ圖書ハ左記ニ依ルヘシ
 (イ)説明書(經費及損益計算等ニ付説明スルヲ要ス、程度)
 (ロ)位置圖、平面圖(林道ニ在リテハ)及縱斷圖(林道ニ在リテハ)及
 (ハ)特殊ノ工事ニ付テハ構造圖及仕様書
 土木實行簿
 一 豫定案確定ノ都度記入番號順ニ繰越及當年度豫定經費
 ヲ經費殘額欄ニ、豫定數量ヲ備考欄ニ記入スヘシ

- 二 實行ハ其ノ都度記入スヘシ
年度經過後決算期迄ニ當該年度分ノ經費ヲ支拂ヒタルトキハ年度經過後ト雖之ヲ記入スヘシ
- 三 豫定案ヲ不實行ニ歸セシメタルトキハ記入番號欄ニ不實行ノ印ヲ捺スヘシ
- 四 豫定經費ニ増減アリタルトキハ増減ハ(中)減差ハ(右)符號ヲ附シ之ヲ經費殘額欄ニ記入シ其ノ事由ヲ備考欄ニ記入スヘシ
- 五 豫定數量ヲ變更シタルトキハ備考欄ニ之ヲ記入スヘシ
- 六 一事業實行ノ記入ヲ了リタルトキハ小計ヲ爲シ實行數量ヲ備考欄ニ記入スヘシ
- 七 當年度内ニ事業ヲ完了セサルモノアルトキハ當年度分ニ付小計ヲ爲シ翌年度ヘ繰越ノ旨備考欄ニ記入スヘシ
- 八 繰越事業ノ前年度實行濟額ハ經費欄ニ朱書スヘシ
- 一 各事業實行ノ記入ヲ了リタルトキハ總計ヲ爲シ末尾ニ項目別種類別再掲ヲ爲スヘシ
- 一 土實行總括表
本表ハ土實行簿調製方第八號ノ項目別種類別再掲ニ付目毎ニ計、項毎ニ合計、末尾ニ總計ヲ爲スヘシ
- 二 總計經費ト當年度支出決算額トノ對照ヲ備考欄ニ記入スヘシ
- 一 副産物處分簿
副産物ノ賣拂ニ關スル事項ヲ實行ノ都度記入スヘシ
- 二 副産物ヲ類別シテ左ノ四類トス
I 類 柴 草 (主キ木タルヘ)
II 類 菌 草 (キ小葉ヲ除ク)
III 類 土 石 (樹皮、樹葉、肥料、其ノ他)
IV 類 雜 類

- 三 數量ハ左ノ單位ヲ用キテ記入スヘシ但シ石(轉石ヲ除ク)ハ單位以下一位ニ止メ其ノ他ハ單位ニ止メ各其ノ端數ハ四捨五入ノコト
- I 類 ハ 東(繩、ト)又ハキログラム
- II 類 ハ キログラム
- III 類 ハ 立方メートル但シ轉石ハ個
- IV 類 ハ 樹實、脂液、蔬菜、藥料、竹皮及筍ニ在リテハキログラム、樹葉、樹皮ニ在リテハ東(繩、ト)又ハキログラム其ノ他ニ在リテハ別ニ單位ヲ定メス
- 四 採取ノ季節アル產物ヲ賣拂ヒタル場合ニ在リテハ物件引渡ノ月欄ニ採取許可ノ月日ヲ記入スヘシ
- 五 公賣ニ在リテハ適用條項欄ニ「公賣」ト記入スヘシ
- 六 年期拂下ニ係ルモノハ其ノ期限ヲ備考欄ニ記入スヘシ
- 七 毎月計及累計ヲ爲シ年度末累計ハ之ヲ一時賣ト年期賣トニ分記シ次ニ類別再掲ヲ爲スヘシ
- 八 其ノ他ノ事項ニ付テハ收穫實行簿調製方ニ準スヘシ
- 一 副産物處分總括表
一營林署、一營林局又ハ一國有林產物販賣所ヲ通シタル類別再掲ヲ記入シ其ノ合計ヲ爲スヘシ
- 二 價格ノ合計ト當年度歳入決算額トノ對照ヲ備考欄ニ説明スヘシ
- 一 事業繰越報告
一 種類欄ニハ斫伐事業ニ在リテハ材種別、共通費ニ、造林事業ニ在リテハ項別ニ、土木事業ニ在リテハ項目別、種類別、用地費ニ區分記入スヘシ
- 二 繰越總計經費ハ繰越計算書ト一致スルヲ要ス(様式別冊 九)

軌道ノ使用許可取扱方ノ件

明治四十一年十月十日
林發第三四二號山林局長通牒

林道ノ性質及其ノ使用許可取扱方竝ニ其ノ使用料收入科目ノ義ニ付疑義ノ向モ有之候ニ付テハ左記ノ通り省議決定相成候條自今右ニ依リ御取扱相成度依命此段及通牒候也

- 一 林道(軌道、木馬道、)ハ林野ノ附屬設備ナリ
 - 二 林道ノ貸付、使用ハ國有林野法第十一條第五號ニ依リ取扱フヘキモノトス
 - 三 林道ノ貸付料、使用料ハ歳入經常部官業及官有財産收入(款)森林收入(項)地所貸下料(目)ニ收入整理スヘキモノトス
- 以上
追テ本文ノ次第二付林道ニ關スルモノハ官有營造物臺帳ニ登錄セサル事ニ御取扱相成度此段申添候也

木材々積單位改定ノ件

大正十五年三月三十日
農林省告示第五十五號

國有林野ニ於ケル立木及木材ノ材積單位ハ大正十五年四月一日ヨリ立方メートルヲ用フ但シ特別ノ事由アルトキハ當分ノ内從前ノ單位ヲ用フルコトアルヘシ
大正十五年農商務省告示第八十六號ハ大正十五年三月三十一日限リ之ヲ廢止ス

軌道ノ使用許可取扱方ノ件 木材々積單位改定ノ件
木材ノ材積單位ニ關スル件

國有林野ニ於ケル立木及木材ノ材積單位ニ關スル件

大正十五年四月二十日
林第一四三七號山林局長通牒

三月三十日日本省告示第五十五號ヲ以テ國有林野ニ於ケル立木及木材ノ材積單位ハ立方メートルヲ用フルコトニ改正相成候處右ハ法令ノ規定ニ因リメートル法ニ依リ難キモノ及不要存置林野ノ整理處分ニ關シテハ同告示但書ニ依リ當分ノ内從前ノ單位ヲ使用相成可然依命此段及通牒候也

林道、貯木場、土場等林野ノ附帶設備ノ貸付又ハ使用取扱ニ關スル件

大正十二年四月十六日
林第七九一號山林局長通牒

林道、貯木場、土場等林野ノ附帶設備ノ貸付又ハ使用ノ許可ハ從來國有林野法第十一條ノ規定ヲ適用シテ處理相成居候處自今右附帶設備ニ付貸付若ハ使用ノ出願アリタルトキハ會計規則第十四條第一項第一號ノ規定ニ準據シ若シ貯木場、土場等ニシテ同號ニ準據シ難キ場合ハ同第六號ニ依リ又使用者官廳ナルトキハ同第十一號ヲ適用シテ處理相成度依命此段及通牒候也
追テ貸付若ハ使用料金ノ收入科目ハ從前ノ通地所貸下料トシテ測定相成可然爲念申添候也

六 林業試驗

林業試驗場分析、鑑定及試驗規則

昭和二年十一月十日
農林省令第二十四號

第一條 林業試驗場分析、鑑定及試驗規則

ハ様式第一號乃至第三號ニ依ル依頼書ニ供試品ヲ添ヘテ之ヲ差出スベシ

第二條 分析、鑑定又ハ試驗一件毎ニ差出スベキ供試品ノ分量左ノ如シ但シ林業試驗場長必要ト認ムルトキハ之ヲ增加セシムルコトアルベシ

一 定性分析又ハ定量分析

林産物(乾燥セルモノ)

林産物(乾燥セザルモノ)

林産製造品(液状ヲナセルモノ)

林産製造品(液状ヲナサザルモノ)

苗圃土壤又ハ林地土壤

林業用販賣肥料

販賣肥料以外ノ林業用肥料

林業用肥料ノ原料

機械的分析

苗圃土壤又ハ林地土壤

窒素又ハ磷酸吸收力ノ檢定ノ爲ニスル分析

苗圃土壤又ハ林地土壤

比重及硬度、發火點及發熱量又ハ發

- 五百グラム
- 一キログラム
- 五リットル
- 五百グラム
- 二キログラム
- 二百グラム
- 一キログラム
- 二キログラム
- 二キログラム
- 二キログラム

熱溫度及其ノ保持時間ノ試驗

木炭又ハ代用炭

五 吸水力及吸濕力、瓦斯吸着力又ハ脱色力ノ試驗

木炭

六 比重、粘度、凝點、融點、屈折率、旋光度、沃素價、酸價若ハ鹼化價ノ試驗

又ハ酸若ハ「アルカリ」ノ作用ノ試驗

林産物又ハ林産製造品タル油脂、蠟又ハ精油

七 實重及效率鑑定

林業用種子

小粒種子

サハラ、ネヅコ、ハゲシバリ

ハンノキ、カバ等

ヒノキ、ヒバ、ツガ等

スギ、カラマツ等

アララギ、アカマツ、クロマツ、タウヒ、モミ、カウヤマ

キ、ケヤキ等

ニセアカシヤ、ネム、ミヅキ等

大粒種子

クス、サクラ、ウルシ、ハゼ、カヘデ、ヤチダモ等

ヒメコマツ、テウセンマツ、ブナ、ホノノキ等

カヤ、カシ等

クリ、クヌギ、ナラ、カシハ、

- 二キログラム
- 一キログラム
- 五十グラム
- 七十五グラム
- 三百グラム
- 五百グラム
- 三十グラム
- 五十グラム
- 七十五グラム
- 百グラム
- 百五十グラム
- 千粒
- 六百粒
- 四百粒

八 應曲力ノ試驗

木材

アブラギリ、ツバキ等
クルミ、トナ等

三百粒
二百粒

九 應張力ノ試驗

木材

六センチメートル
トル角八センチメートル
トル角三十五センチメートル
長ノモノ十箇

十 應壓力又ハ硬性ノ試驗

木材

三センチメートル
トル角三十五センチメートル
長ノモノ十箇

十一 應剪力ノ試驗

木材

六センチメートル
トル立方ノモノ十箇

十二 應振力ノ試驗

木材

五センチメートル
トル角四十センチメートル
長ノモノ十箇

十三 靱性ノ試驗

木材

三センチメートル

林業試驗場分析、鑑定及試驗規則

十四 割裂性ノ試驗

木材

トル角二十七センチメートル
長ノモノ十箇

十五 伸縮ノ試驗

木材

七センチメートル
トル角二十センチメートル
長ノモノ十箇

十六 反張ノ試驗

木材

六センチメートル
トル角二センチメートル
長ノモノ十箇

十七 耐朽ノ試驗

木材

三センチメートル
トル角十センチメートル
長ノモノ六箇

十八 前各號ニ掲グルモノノ外 林業ニ關係アル物料ノ分析、 鑑定又ハ試驗

前各號ニ準シ
林業試驗場長
ノ定ムル分量

第三條 鑑定ヲ受ケタル林業用種子ニ付封緘 場合ニハ様式第四號ニ依ル依頼書ヲ差出スベシ

國有林野 林業試驗

封緘ヲ爲スベキ一包裝ノ數量ハ百リットルヲ超エザルモ
ノトス

第四條 林業用種子ノ効率ハ發芽率ト純量率トニ依リ之ヲ
決定ス
前項ノ發芽率ト純量率トハ各別ニ之ヲ鑑定セザルモノト
ス

第五條 林業用種子鑑定ノ公表左ノ如シ

- 一 純量率
 - 百分ノ九十七以上ノモノ 百分ノ一
 - 百分ノ九十以上ノ九十未滿ノモノ 百分ノ二
 - 百分ノ九十未滿ノモノ 百分ノ三
- 二 發芽率
 - 百分ノ十未滿ノモノ及百分ノ九十以上ノモノ 百分ノ六
 - 百分ノ十以上ノ二十未滿ノモノ及百分ノ八十以上ノ九十未滿ノモノ 百分ノ七
 - 百分ノ二十以上ノ三十未滿ノモノ及百分ノ七十以上ノ八十未滿ノモノ 百分ノ八
 - 百分ノ三十以上ノ四十未滿ノモノ及百分ノ四十以上ノ六十未滿ノモノ 百分ノ九
 - 百分ノ六十以上ノ七十未滿ノモノ 百分ノ十

第六條

林業試驗場長分析、鑑定、試驗若ハ封緘ヲ爲スコ
ト能ハザルトキ又ハ其ノ必要ナシト認ムルトキハ依頼ニ
應ゼザルコトアルベシ

第七條

前項ノ場合ニ於テハ依頼書ヲ依頼者ニ還付ス
林業試驗場長分析、鑑定、試驗又ハ封緘ノ依頼ニ
應ズル場合ニ於テハ依頼書ニ貼附シタル收入印紙ニ消印
ヲ押捺ス

第二號

依頼書ハ一件毎ニ之ヲ作成スベシ

林業用種子鑑定依頼書

貼附シタル收入印紙ノ額

- 一 品名及番號
- 二 數量
- 三 鑑定ヲ要スル事項
- 四 供試品發送ノ日附及送達ノ方法
- 五 供試品ノ剩餘ノ返還ノ要否
- 六 參考事項

- (一) 產地名
- (二) 採取年月日
- (三) 供試品ヲ採取シタル種子ノ總量
- (四) 何々

住所

名(名稱)印

林業試驗場長 殿 氏

注意 依頼書ハ一件毎ニ之ヲ作成スベシ

第三號

試驗(鑑定)依頼書

貼附シタル收入印紙ノ額

林業試驗場分析、鑑定及試驗規則

林業試驗場分析、鑑定及試驗手數料令

第八條

供試品ハ之ヲ返還セズ但シ分析、鑑定又ハ試驗ノ
依頼ニ應ゼザルモノニ付テハ其ノ旨ノ通知アリタルヨ
リ二週間以内ニ請求シタル場合ニ限り之ヲ返還ス林業用
種子ノ供試品ノ剩餘ニ付豫メ申出アリタル場合亦同シ
前項但書ノ場合ニ於テ返還ニ要スル費用ハ依頼者ノ負擔
トス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第二條第一號乃至第六
號及第八號乃至第十八號ニ掲グル分析、鑑定又ハ試驗ハ昭
和二年十二月三十一日迄之ヲ行ハズ
林業試驗場種子鑑定規則ハ之ヲ廢止ス

第一號

分析依頼書

貼附シタル收入印紙ノ額

- 一 品名
- 二 數量
- 三 產地名又ハ製造地名及製造者名
- 四 分析ノ種別
- 五 定性又ハ定量分析ノ場合ニ於テハ檢出スベキ成分

住所

名(名稱)印

林業試驗場長 殿 氏

注意

- 一 品名
- 二 數量
- 三 產地名又ハ製造地名及製造者名
- 四 試驗(鑑定)ヲ要スル事項

住所

名(名稱)印

林業試驗場長 殿 氏

注意

依頼書ハ一件毎ニ之ヲ作成スベシ

第四號

封緘依頼書

貼附シタル收入印紙ノ額

- 一 品名及番號
- 二 封緘スベキ包裝筒數及包裝ノ容量

住所

名(名稱)印

林業試驗場長 殿 氏

林業試驗場分析、鑑定及試驗手數料令

昭和二年十一月十日
勅令第三百二十四號

林業試驗場分析、鑑定及試驗手數料令

國有林野 林業試驗

第一條

林業試驗場ニ分析、鑑定又ハ試驗ノ依頼ヲ爲ス者ハ左ノ區別ニ從ヒ手數料ヲ納ムベシ

- 一 定性分析
 - 林產物、林產製造品、苗圃土壤、林地土壤又ハ林業用肥料若ハ其ノ原料
 - 右ニ掲グル物料ノ普通含有セザル成分
 - 二 定量分析
 - 林產物、林產製造品、苗圃土壤又ハ林地土壤

每一件一成分一圓

每一件一成分三圓

林業用肥料又ハ其ノ原料

每一件一成分二圓一成分ヲ増ス毎ニ二圓ヲ加

水分、可燃物及灰分ハ各五十錢トス

每一件一成分十圓

每一件二十圓

- 右ニ掲グル物料ノ普通含有セザル成分
- 三 苗圃土壤又ハ林地土壤ノ機械的分析
- 四 苗圃土壤又ハ林地土壤ノ窒素又ハ磷酸吸收力ノ檢定ノ爲ニスル分析
- 五 木炭又ハ代用炭ノ比重及硬

每一件五圓

度、發火點及發熱量又ハ發熱溫度及其ノ保持時間ノ試驗

每一件二圓

木炭ノ吸水力及吸濕力、瓦斯吸着力又ハ脫色力ノ試驗

每一件三圓

林產物又ハ林產製造品タル油脂、蠟又ハ精油ノ比重、粘度、凝點、融點、屈折率又ハ旋光度ノ試驗

每一件二圓

林產物又ハ林產製造品タル油脂、蠟又ハ精油ノ沃素價、酸價若ハ鹼化價ノ試驗又ハ酸若ハアルカリノ作用ノ試驗

每一件三圓

林業用種子ノ鑑定

每一件五十錢

小粒種子

每一件二圓

大粒種子

每一件一圓五十錢

木材ノ應曲力、應張力、應壓力、應剪力、應振力、硬性、韌性又ハ割裂性ノ試驗

每一件三圓

木材ノ伸縮又ハ反張ノ試驗

每一件三圓

木材ノ腐朽ノ試驗

每一件十圓以上三十圓以下

其ノ他ノ木材

每一件五圓以上十圓以下

前各號ニ掲グルモノノ外

追テ林業試驗場長ニ對シ別紙ノ通り通牒致置候ニ付申添候

段及通牒候也

一 長期ニ亘ル試驗又ハ相當設備ヲ要スル試驗ハ成ル可ク營林局ニ於テ施行スルコト

二 固定試驗地(存續期間五年以上ニ亘ル見込ノモノ)ヲ設定シタル場合ニハ種類別箇所毎ニ番號ヲ附シ夫々營林局林業試驗地臺帳又ハ營林署林業試驗地臺帳ニ登錄スルコト

三 試驗地臺帳ハ種類別ニ口座ヲ設ケ箇所毎ニ試驗地ノ所在面積、設定年月並試驗ノ目的及要旨ヲ記載シ位置圖及實測圖ヲ添付スルコト尙臺帳ニハ施行業務ノ種類及使用經費ヲ記入スルコト

四 固定試驗地ヲ設定シタル場合ニハ關係局署ニ臺帳ノ副本ヲ備付ケ林業試驗場ニハ試驗地ノ番號、所在地(位置圖添付)面積並試驗ノ目的及要旨ヲ通知スルコト

五 重要ナル試驗ノ新規計畫ニ就テハ成可ク各課長及關係ノ高等官營林署長其ノ他ノ職員ヲシテ審議セシメタル上豫定案編成前ニ林業試驗場長ト協議スルコト

六 必要ナル場合ニハ試驗地ヲ國有林以外ノ土地ニ設定スルヲ妨ゲザルコト

七 重要ナル試驗ノ新規計畫ニ就テハ成可ク各課長及關係ノ高等官營林署長其ノ他ノ職員ヲシテ審議セシメタル上豫定案編成前ニ林業試驗場長ト協議スルコト

八 必要ナル場合ニハ試驗地ヲ國有林以外ノ土地ニ設定スルヲ妨ゲザルコト

九 重要ナル試驗ノ新規計畫ニ就テハ成可ク各課長及關係ノ高等官營林署長其ノ他ノ職員ヲシテ審議セシメタル上豫定案編成前ニ林業試驗場長ト協議スルコト

十 必要ナル場合ニハ試驗地ヲ國有林以外ノ土地ニ設定スルヲ妨ゲザルコト

林業ニ關係アル物料ノ分析、鑑定又ハ試驗

前各號ニ準シ林業試驗場長ノ定ムル額

第二條

林業試驗場ニ分析、鑑定又ハ試驗ノ依頼ヲ爲ス者其ノ分析、鑑定又ハ試驗ノ報告書ヲ複本ヲ請求スルトキハ一通毎ニ二十錢、歐文ニ依ル複本ヲ請求スルトキハ一通毎ニ五十錢以上十圓以下ノ手數料ヲ納ムベシ

第三條

林業試驗場ニ於テ鑑定ヲ受ケタル林業用種子ニ對シ封緘ヲ依頼スル者ハ一包裝毎ニ二十錢ノ手數料ヲ納ムベシ

第四條

手數料中最高及最低ノ限度ヲ定メタルモノニ付テハ林業試驗場長其ノ額ヲ定ム

第五條

手數料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納ムベシ

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第一條第一號乃至第八號及第十號乃至第十三號ニ掲グル分析、鑑定又ハ試驗ハ昭和二年十二月三十一日迄之ヲ行ハズ

國有林野林業試驗業務施行ニ關スル件

關スル件

昭和七年十月十三日 山第一五三七號山林局長通牒

今回國有林野事業規程ノ一部改正セラレ試驗業務ニ關シテハ營林局ニ於テモ施行シ得ルコトニ相成候處右ハ林業試驗ノ振興ヲ圖リ以テ國有林野經營ノ改善ニ資セントスル趣旨ニ有之候條御了知相成度尙營林局署ニ於ケル林業試驗ノ施行ニ關シテハ左記ニ準據シ所期ノ目的達成ニ努メラレ度此

林業試驗場分析、鑑定及試驗手數料令 國有林野林業試驗業務施行ニ關スル件

國有林野 林業試驗

- 六 民間ノ希望ニ係ル試驗事項ニシテ國有林經營上ニモ資スル所アリト認メラレタル場合ニハ成ル可ク便宜ヲ計ルコト
- 七 試驗成績ノ發表ニ際シテハ實施シタル旨ヲ明記スルコト
ト尙林業試驗成績ヲ發表シタル場合ニハ林業試驗場ニ通知スルコト
- 八 林業試驗地ノ種類ハ次ノ如ク之ヲ分類スルコト
 - (一) 天然林試驗地
 - (二) 天然林ニ對スル各種作業法、生長、收穫、其他關係事項ニ關スル試驗ヲ行フモノ
 - (三) 人工林試驗地
 - (四) 人工播種ニ依ル各種樹種(漆、櫨、油桐、栗其他工藝樹種ヲ含ム)別適地造林、手入及撫育法、人工林、成長、收穫其他關係事項(外國及地方產樹種ノ適應性、海岸砂防造林ニ關スル事項ヲ含ム)ニ關スル試驗ヲ行フモノ
 - (五) 採種試驗地
 - (六) 採種林ニシテ母樹ノ遺傳及種子ノ產地ニ關スル試驗ニ必要ナルモノ
 - (七) 副產物利用試驗地
 - (八) 落葉採取、林野採草、林野放牧、牧野火入、菌茸増殖藥用物栽培、樹脂採取等ニ關スル試驗ヲ行フモノ
 - (九) 水源涵養及治水試驗地
 - (十) 森林ノ水源涵養、土砂打止等ニ關スル試驗ヲ行フモノ
 - (十一) 利用試驗地
 - (十二) 木材ノ利用、運搬等ニ關スル試驗ヲ行フモノ
 - (十三) 其ノ他ノ試驗地

營林局署ニ於ケル林業試驗ニ關スル件

昭和九年十月十二日
八山第五二一四號山林局長通牒

營林局署ニ於ケル林業試驗ノ施行方針ニ付テハ今春ノ實驗係員打合せニ於テ篤ト協議ノ通りニ有之候處其ノ際打合ノ事項ニ付テハ左記ニ依リ處理相成度此段及通牒候也
追テ打合せノ結果ニ基ク局署間ニ於ケル林業試驗ノ配分關係ハ別冊(一)ノ通りトナル見込ニ付一應考査相成度申添候(別冊一省略)

記

- 一 林業試驗ハ別紙分類項目ニ依リ適當ニ整備シ當局宛ニ部提出スルコト
- 二 收穫試驗ハ別冊(二)收穫試驗施行方法書ニ依リ施行スルコト
- 三 森林土壤調査方法書中營林局署ニ於テ施行スヘキ事項ハ次ノ如クスルコト
 - (一) 土壤縱斷面ノ調査
(土壤色相原圖、Ridgway: "Colour standards and nomenclature" Washington, D, C. 1912.ノ記載ニ依ルコト)
 - (二) 土壤試料ノ採取
(理學の調査上土壤試料採取用圓筒ハ斷面積一〇〇平方糎高サ四糎トスルコト)
 - (三) 土壤ノ理學的調査
 - (四) 土壤ノ化學的調査中(1)乃至(6)、(14)乃至(16)、(18)乃至

- (19)ノ各項
- (五) 土壤ノ微生物化學的調査中必要ニ應シ(1)乃至(5)ノ各項
- 四 局署事業トシテ氣象觀測ヲ常時施行シツアルモノニ付(實行豫定ヲ含ム)其ノ場所、觀測ノ目的、觀測事項

(別紙)

營林局署ニ於ケル林業試驗分類項目

項	日	種	類	試驗地名	位	置
一 天然林試驗	A種收穫試驗	(出來ル丈ケ試驗ノ内容ヲ簡單ニ表ス名稱)	目ニ地名若クハ必要ニ應シ地名番號ヲ冠ス	例 霧積山B種收穫試驗地	營林署	事業區 林小班
	B種收穫試驗	從來ノ作業種試驗ニシテB種收穫試驗方法書ニ依ラサルモノヲ含ム		長倉山第一號天然更新試驗地		
二 人工林試驗	A種收穫試驗					
	B種收穫試驗	從來ノ作業種試驗ニシテB種收穫試驗方法書ニ依ラサルモノヲ含ム				
	人工更新試驗					
	間伐及撫育試驗					
	砂防造林試驗					

觀測回数及時刻、觀測開始年月等ヲ當局ニ報告スルコト
(山林局長ヨリ林業試驗場長(通牒))
今回首題ノ件ニ關シ別紙ノ通り各營林局長ニ通牒致候條御了知相成度此段及通牒候也

六 生長量ノ計算ハ次ノ式ニ依ル

生長量 = $V_t - V_0 + V_2$
 V_0 = 今期調査ヲ了セル總材積ニシテ殘存木及伐採木ノ材積ノ合計
 V_t = 前回調査ノ際ノ殘存木
 V_2 = 調査期間内ノ收穫
 生長率ノ算定ハブレスレル氏式ニ依リ前記生長量ヨリ求ム即チ次ノ如シ

$$P = \frac{\text{生長量}}{V_0 + V_t} \times \frac{200}{n}$$

按ヒ P = 次ニ定ムル所ノ經過年數トシテ
 定期連年生長量ハ上記ノ生長量ノ期間中ノ經過年數ヲ以テ除シテ求ム此處ニ經過年數トハ全生長期間ヲ滿了セシ回數ノ意ニシテ若シ調査力生長期間ノ端數ニ互ル時ハ生長期間ノ及ミ其以上ヲ經過セシ場合ハ之レヲ一生長期間ト見做シテ計算ス

- 七 標準地内ニ生立セル胸高直徑七〇cm以上ノ林木ニハ總テ胸高帶ヲ附シ標準地ノ一隅ヨリ順次追番號ヲ附ス第二回ノ調査以降新ニ直徑七〇cm以上ノ太サニ達セル林木ニハ前回ノ番號ヲ繼承シテ逐次追番號ヲ附ス
- 八 胸高帶ハ樹幹ニ沿ヒ地面ヨリ一・二mノ位置ヲトリ其處ヲ中央トシ「ペンキ」ニテ幅約三cmノ帶ヲ樹幹ニ畫キテ附ス但シ傾斜地ニ於テハ幹足部カ傾斜ノ上方ニ於テ傾斜面ト接觸スル點ヲ地面ト看做ス
- 胸高直徑ハ胸高帶ノ中央ニ沿ヒ直徑卷尺ヲ以テ測定シ目ヲ單位トシ單位以下一位マテ讀ミ以下四捨五入ス又木ニシテ胸高以下ニ於テ分岐セルモノハ夫々一本宛トシテ直徑ヲ測定シ胸高附近又ハ夫以上ニ於テ分岐セルモノハ之

ヲ一本ト看做シ胸高附近ノ著シキ不正斷面ヲ避ケテ法正ナル部位ニ於テ測定ス尙幹形複雜ニシテ上記ノ方法ニ依リ難キモノハ適當ノ位置ニ依リ測定ス尙卷尺ハ使用ノ都度檢訂スル事ヲ要ス胸高直徑ノ測定値ハ取扱上ノ便宜ノ爲直徑階及直徑級ニ編成ス其ノ區分ハ次ノ如シ

直徑階 (cm)	直徑ノ範圍 (cm)	直徑級	直徑階ノ範圍 (cm)
八	七・〇—八・九	細徑木	八一—一四
一〇	九・〇—一〇・九	小徑木	一六一—二四
一二	一一・〇—一二・九	中徑木	二六一—三六
一四	一三・〇—一四・九	大徑木	三八—五〇
一六	一五・〇—一六・九	特大徑木	五二—七〇
一八	一七・〇—一八・九	極大徑木	七二—

- 九 樹高ハ米ヲ單位トシ立木ノ場合ハ〇・五m毎ニ括約シ伐採木ノ場合ハ單位以下一位マテ讀ミ以下四捨五入ス測定ハ胸高帶ヲ基點トシ此處ヨリ梢頭マテノ長サヲ測定シ之ニ胸高帶マテノ高サ一・二mヲ加フル事ニ依ツテ求ム
- 一〇 枝下高ハ樹冠ノ形成ニ與レル最下生枝ノ分岐點ト胸高帶トノ間ノ長ニ一・二mヲ加フル事ニ依ツテ求ム
- 一一 樹冠ノ擴張ハ豫メ調製セル立木位置圖ニ樹冠ノ投影

圖ヲ作製シ之ヨリ「ブランチメーター」ニ依ツテ測定セル面積ト其ノ平均直徑トニ依ツテ示ス擴張面積ハ平方米ヲ單位トシ單位以下一位マテ讀ミ以下四捨五入ス直徑ハ米ヲ單位トシ單位以下一位ニ止メ以下四捨五入ス

投影圖作製ニハ比隣ノ樹木ニ對スル見透線上ニ投影ス可キ樹冠ノ外廓點ヲ竹竿ヲ垂直ニ立テテ圖示シ其各點ヲ樹冠ノ形狀ニ類似セル曲線ヲ以テ結フ

一二 形狀商ハ次ノ式ニ依ツテ求ム

$$\text{形狀商} = \frac{\text{樹高} \times \text{胸高直徑}}{\text{胸高直徑}^2}$$

- 一三 人工植栽林ニ於ケル幹級區分ハ次ニ定ムル所ニ從ツテ之ヲ行フ
 - I 優木(優勢木) 優木トハ上層林冠ヲ組成スルモノヲ謂フ
 - 第一級木1、樹冠ノ發達隣接木ノ爲ニ妨ケラレル事ナク又其ノ擴張偏倚スル事ナキ林木
 - 第二級木2、樹冠ノ發達隣接木ノ爲ニ妨ケラレ又其ノ生長偏倚セル林木
 - 上記ノ第一級木及第二級木ハ尙之レヲ樹冠ノ形ニ依ツテ細分シ適宜省略セル記載ヲ以テ之レヲ示ス(記載例五)
 - II 劣木(劣勢木) 劣木トハ上層林冠ヲ組成セサルモノヲ謂フ
 - 第三級木3、育チ遅レタルモ樹冠ハ尙未タ壓セララルニ至ラサルモノ
 - 第四級木4、被壓ノ状態ニアルモ尙生存可能ナルモノ
 - 第五級木5、瀕死枯死例外ノ諸木
- 營林局署ニ於ケル林業試驗ニ關スル件

- 一四 標準木ハ試驗地内ノ伐採木中ヨリ直徑階毎ニ五本ヲ選定ス但シ選定困難ナル場合ハ連續セル二三ノ直徑階ヲ通シテ適宜ノ本數ヲ選定スルモ支障ナシ
- 標準木ハ其ノ階ノ中央木ニ相當スル直徑ヲ有スル事ヲ要セス如何ナル直徑階ヲ有スルモノヨリ選定スルモ支障ナシ但シ其ノ林木ハ之ト同シ直徑ヲ有スル林木ヲ代表シ得ルニ足ル樹高ト幹形トヲ有スルモノナラサル可ラス針葉樹ニテハ特ニ林分ヲ通シテ求メラレタル直徑階別平均樹高直徑階別形狀商ニ照シ其ノ林木ノ樹高ト形狀商トカ此ノ平均値ニ近似セルヤ否ヤヲ檢シテ選定スル様ニ努ム可シ
- 針葉樹ノ標準木ニ就テハ胸高直徑、樹高、枝下高、期間ノ伸長(前回調査以降今回ノ調査マテノ高サノ生長量)ノ樹高ノ位置ノ直徑伐採ノ高サ(地面ノ傾斜ノ上方ヨリノ高サ)ヲ測定シ伐根斷面ニ於ケル年輪數(天然林ニ於テハ伐根斷面ノ中心部ニ於ケル年輪密度極端ニ大ナル部分ヲ除キタル部分ニ存スル年輪數ヲモ)ヲ算ヘ又枝條量ヲ測定シ區分求積ヲ行フ、測定ノ結果ヨリ形狀高、胸高形狀商、形狀高(Vg)ヲ算出ス此ノ場合單位以下三位マテ讀ミ以下四捨五入ス、枝條量ハ全重量ヲ測定ス單位ハ斤、單位以下一位マテ讀ムモノトス此ノ際枝條ノ中之カ標準トナル可キ若干束ノ重量ヲ空中竝ニ水中ニ於テ秤リ其ノ比重ヲ算出シ置クヲ要ス但シ常綠樹ハ葉付ノ儘落葉樹ハ葉ヲ除キタル比重トス
- 潤葉樹ノ標準木ニ就テハ胸高直徑、樹高、成林部ノ長サ枝下高、伐採ノ高サヲ測定シ伐根面ニ於ケル年輪數ヲ算ヘ(天然林ノ場合ハ伐根斷面中心部ニ於ケル年輪密度大ナル部分ヲ除キタル部分ノ年輪數ヲモ算フル事針葉樹ノ

場合ニ同シ)又粗朶材ヲ測定シ區分求積ヲ行フ測定ノ結果ヨリ成材胸高形數及形狀高ヲ算出ス單位ハ針葉樹ノ場合ニ同シ茲ニ樹高トハ樹冠ノ頂點ヨリ胸高帶ニ至ル長サニ一・二mヲ加ヘタルモ(最モ能ク發育セルモ)ニ就キ太軸ト認メラルルモ(所ヨリ胸高帶ニ至ル長サニ一・二mヲ加ヘタルモ)ヲ以テ示シタルモトス粗朶材トハ皮付直徑七・cm未滿ノ太サヲ有スル部分全部ノ名稱ニシテ之カ測定ハ針葉樹枝條量ノ測定法ニ準ス

成材胸高形數ハ區分求積ニ依ツテ得タル第一種材第二種材ノ合計材積ト胸高直徑ト同シ太サヲ有シ成材部ノ長サニ等シキ長サヲ有スル圓柱體ノ體積トヨリ求メ形狀高ハ第一種材第二種材ノ合計材積ト胸高斷面積トヨリ求メ

一五 針葉樹ノ區分求積ハ地上1m、3m、5m等2m毎ニ直徑ヲ測定ス此處ニ地上1mト稱スルハ胸高帶ヨリ根株部へ0・2mヲトリタル位置ヲ以テ地上1mト看做シ此ノ點ヨリ2m毎ニトリタル位置ヲ夫々3m、5m等ノ位置トナスモノトス

梢頭部ノ長サカ1m以上2m以下ノ場合ハ最後ノ直徑測定個所ヨリ梢頭部ノ方ニ1mヲトリ其ノ位置ノ直徑ヲ測定シ梢頭部ノ材積算出ニ使用スル圓錐體ノ底面直徑トス梢頭部ノ長サカ1m以下ノ場合ハ最後ノ直徑測定個所ヨリ根株部ノ方ニ1mノ長サヲトリ其ノ位置ノ直徑ヲ測定シテ梢頭部圓錐體ノ底直徑トス此ノ場合ニハ彙ニ測定セシ最後ノ2m日ノ直徑ヲ區分求積用トシテ使用セサルコトニ留意スルヲ要ス

材積ハ「フーベル氏」ノ區分求積式ニ依ツテ求メタル主幹材積ト圓錐體ノ體積式ヨリ求メタル梢頭部材積トヲ合

計シテ示ス單位ハ m^3 單位以下三位ニ止メ以下四捨五入ス潤葉樹ノ區分求積ハ之ヲ第一種材及第二種材ニ區別シテ行フ第一種材トハ皮付直徑二〇・cm以上ノ太サヲ有スル部分第二種材トハ皮付直徑二〇・cm未滿七・cm以上ノ太サヲ有スル部分ニシテ直徑二〇・cm及七・cmヲ界トシテ根元ヨリ順次區分シタル名稱トス第一種材第二種材ハ各別ニ長サ2m毎ノ「フーベル氏」ノ區分求積式ニ依リ(二m未滿ノ端數ヲ生シタル時ハ其ノ端數部分ノ全長ト其ノ中央直徑ニ依リ)材積ヲ出シ此ノ第一種材及第二種材ノ材積ヲ合計シテ成材材積ヲ出ス單位ハ針葉樹ニ於ケル場合ニ同シ

一六 林分ノ總材積ハ直徑ノ測定値ニ依ツテ求メタル斷面積ヲ直徑階毎ニ集計シテ直徑階別ノ斷面積合計ヲ出シ之ニ前記標準木ノ調査ノ結果得タル其ノ階ノ形狀高ヲ乘シテ直徑階別ノ材積ヲ出シ之ヲ合計シテ林分ノ總材積ヲ出ス即チ

$$V_1 = G_1 \times \frac{V_1}{G_1} \quad V_2 = G_2 \times \frac{V_2}{G_2} \quad V = V_1 + V_2 + \dots$$

一七 林分ノ總材積算出ニ際シ標準木ノ伐採ヲ困難トスル場合ニハ事業用單木材積表ヲ用フルコトヲ得

事業用單木材積表ヲ用キタル場合ニハ其ノ種類名稱ヲ明記スヘシ

一八 同一林分ノ材積算出方法ハ調査期間中同一方法ニ依ルヘシ但シ已ムヲ得サル場合ニハ此ノ限リニアラス

同一調査期間中ニ於テ材積算出ノ方法ヲ變更シタル場合ニハ兩方法相互間ノ關係ヲ明ニシ併セテ算出方法ノ差異ニ依ル誤差ノ異動ヲ示スヘシ

一九 試驗地ノ立地ニ關スル記載ハ(A)位置 (B)氣候

(C)試驗地ノ氣候上ノ特殊現象 (D)土地條件ノ諸項ニ分チテ別項記載例(二)ニ示ス所ニ從ヒテ記錄ス

二〇 試驗地ノ來歴、經過要領觀察要領試驗擔任者ノ氏名及擔任期間等ハ別項記載例(三)ノ示ス所ニ準シテ記錄ス

二一 試驗成績ノ記錄及整理ハ別項記載例(四)―(一六)ノ示ス處ニ準シテ處理ス

二二 寫眞撮影ノ位置、供試土壤採取個所等定期ニ同一個所ニ於テ撮影採取調査等ヲ繰返ス要アルモノハ其ノ位置ヲ明示スルニ足ル可キ標柱ヲ建テ置ク事ヲ要ス

二三 定期調査以外ノ時期ニ於テ風倒枯損其ノ他ニ依リ伐採シタルモノハ其ノ都度胸高直徑樹高ヲ測定シ伐採年月及風倒ノ方向、枯損ノ原因等施業上參考トナル可キ記事ヲ附シテ記錄ス

第二 試驗ノ方法

I 人工植栽林A種收穫試驗

一 各種主要作業種ニ成ル可ク多數ノ試驗地ヲ設定ス一作業種ニ多數ノ試驗地ヲ設定シ得ル場合ハ試驗地ハ各地位ヲ網羅シ得ルカ如ク努ムヘシ若シ只一箇ノ試驗地ヲ設定シ得ルノミナル時ハ其ノ作業種ニ屬スル林分ヲ最モ能ク代表シ得ル林分内ニ設定ス可シ

二 本試驗地ノ施業ハ試驗地所屬ノ作業種ニ於ケル普通ノ施業法ニ準シテ施業スルモノトス

三 試驗地全部ニ互リ伐採木ヲ選定シ適宜ノ記號ヲ以テ之レヲ標示ス

四 標準地内ニ存スル林木ニ就テハ每木ニ就キ胸高直徑ノ測定幹級區分ヲナシ記載例(四)及(五)ノ如ク整理ス

五 標準地内ノ伐採木ハ其ノ全部ニ互リ胸高直徑、樹高ヲ測定シ針葉樹ノ場合ハ尙此ノ外ニ樹高ノ位置ノ

營林局署ニ於ケル林業試驗ニ關スル件

II 人工植栽林B種收穫試驗

一 試驗地トシテ各般ノ條件ヲ具備セル林地ヲ嚴選シ少數ノ試驗地ヲ設定ス

二 本試驗地ニハ標準區ト比較區トヲ併置ス標準區ハ前章人工植栽林A種收穫試驗ニ於テ規定セル所ニ依リ施業シ比較區ハ試驗地ノ現況ニ應ジ各種ノ作業ヲ比較研究スルモノトス

當初選定セシ作業ハ特別ノ場合ニ限り之ヲ變更スルコト

直徑ヲ測定ス

六 伐採木ノ樹高測定値ヲ基トシ(必要ニ應ジ殘存木ノ樹高ヲ立木ノ儘測定セシ結果ヲモ加ヘテ)各直徑ニ對スル樹高曲線ヲ畫キ直徑別平均樹高ヲ求ム樹高曲線ヲ畫クニ當リ立木ノ儘測定シテ得タル樹高ハ其ノ數値ニ括弧ヲ附シテ區別シ樹高曲線作製ニ便宜アラシムルヲ要ス(記載例七)

七 樹高ノ場合ニ於ケルカ如ク各直徑ニ對スル形狀商ノ曲線ヲ畫キ直徑別平均形狀商ヲ求ム(記載例八)

八 第一總說第一四項ニ掲ケタル所ニ從ヒ各直徑階ニ於テ標準木ヲ選定シ所定ノ調査及計算ヲナス(記載例九及一〇)

九 伐採木及殘存木ハ別箇ニ各直徑階毎ニ本數、斷面積合計、平均斷面積、中央木ノ直徑及高サ材積ヲ求ム又直徑階毎ノ本數斷面積ヲ集計シテ全林ノ本數斷面積合計ヲ求メ之ヨリ全林ノ中央木ノ直徑及高、材積、胸高形數形狀高ヲ求ム(記載例一一及一二)

一〇 實行總括表ヲ作製ス但シ試驗地ノ實際面積ノ儘及一ha當換算ノモノトニ様記載例(一三)及(一四)ニヨリ作製ス

- トヲ得
- 三 本試驗地ニ於テ調査ス可キ事項ハA種收穫試驗地ニ規定セルモノ及樹幹ノ完満度殘存木ハ樹高、枝下高、樹冠ノ擴張、植生調査、土性及材質ノ調査トス
 - 四 A種收穫試驗地ニ於ケルト同種ノ調査事項ハ同試驗地ニ於テ規定セル所ニ從テ調査取纏ヲナス
 - 五 樹冠ノ擴張調査ハ標準地内ニ面積〇.1haヲ畫シテ行フ但シ區域外ニ成立セル林木ノ樹冠カ區域内ニ侵入セルモノハ其ノ部分ノミ測定シ區域内ニ生立セル林木ニシテ區域外ニ其ノ樹冠ヲ擴張セルモノハ其ノ部分ヲ區別シテ測定シ置ク可シ
 - 六 植生調査ハ國有天然林調査方法書ヲ参照スヘシ
 - 七 土性ハ十年毎ニ之ヲ調査ス調査ハ次ノ諸項ニ亘リ森林土壤調査方法ヲ参照シテ之ヲ行フ
 - (一) 土壤粒子ノ組成
 - (二) 透水速度
 - (三) 土壤ノ容積重
 - (四) 含水量
 - (五) 壓結度
 - (六) 灼熱ノ損量
 - (七) 土壤ノ酸性度
 - (八) 土壤ノ化學的成分
 - 八 材質調査ノ爲標準木ノ中ヨリ林分ノ平均直徑ニ近似セル太サヲ有スルモノ及夫ヨリ遙ニ大ナルモノ及小ナルモノ各一本ヲ選ミ之ヲ供試原木トス
- 供試材ハ上記供試原木ニ於テ地上1.2mノ所ヨリ上方2mノ樹冠部ヲ玉切りテ調整ス若シ其ノ箇所ニ枝節其ノ他ノ瑕疵アル場合ハ之ヲ避ケテ玉切り其ノ採材位

- 置(地上高)ヲ明記ス
- 一 供試丸太ハ其ノ背腹ヲ通シテ胴割ヲナシ標準木番號ヲ附シ包裝ノ上運滞ナク之ヲ林業試驗場ニ送付ス可シ
 - 二 天然林A種收穫試驗地ニ於ケル各種主要作業種ニ就キ成ル可ク多數ノ試驗地ヲ設定ス
 - 三 試驗地ハ試驗地所屬ノ作業種ニ於テ現ニ採用セラレル施業法ニ據リ施業ス
 - 四 試驗地全部ニ亘リ施業法ノ指定スル所ニ據リ伐採木ヲ選定シ適宜ノ記號ヲ附シテ之ヲ標示ス
 - 五 標準地内ニ存スル胸高直徑7.0cm以上ノ林木ハ伐採前毎木ニ就キ胸高直徑ヲ測定ス但シ此ノ場合ニハ幹級區分ヲ行ハス
 - 六 殘存木ハ伐採後直ニ其ノ番號ヲ再査シ誤伐、伐り殘シ、損傷ノ有無等ヲ檢シ夫々適宜ノ處置ヲナシ前回ノ調査ヲ訂正ス可シ
 - 七 標準地内ノ伐採木ハ第一總説ニ於テ規定セル所ニ據リ樹高、形狀商ヲ測定シ此ノ結果ニ依ツテ直徑別平均樹高、直徑別平均形狀商ヲ求ム
 - 八 標準木ヲ選定シ第一總説ニ定ムル所ノ調査ヲ行フ但シ此ノ場合ハ特ニ伐根斷面ニ於ケル年輪數ノ外ニ伐根面中心部ニ於ケル年輪密度特ニ大ナル部分ヲ除キタル部分ニ存スル年輪數ヲモ算フ
 - 九 伐採木及殘存木ノ材積ヲ別個ニ總説一六ニ規定セル所ニ從ツテ求ム
 - 十 伐採木及殘存木ハ別個ニ直徑階別本數、斷面積、材積ヲ求メ尙之ヲ直徑級別ニ取纏メ各樹木級別ノ斷面積、材積ノ總斷面積、總材積ニ對スル百分率ヲ求ム(記載例

- 九 (一五) 生長量ノ計算ハ「ビオロー」氏ノ照査法ノ様式ニ依ル(記載例一六)
- IV 天然林B種收穫試驗
 - 一 各種主要作業種ニ就キ試驗地トシテ各般ノ條件ヲ具備セル林地ヲ嚴選シテ少數ノ試驗地ヲ設定ス
 - 二 本試驗地ニハ標準區ト比較區トヲ併置ス標準區ハ前章天然林A種收穫試驗ニ於テ規定セル所ニ依リ施業シ比較區ハ試驗地ノ現況ニ應シ各種ノ作業ヲ比較研究スルモノトス
 - 三 本試驗地ニ於テ調査ス可キ事項ハ天然林A種收穫試驗地ニ規定セルモノ及林況ヲ示スニ用フル縱斷面圖及水平面圖、樹冠ノ擴張、樹冠ノ完満度、植生、土性及材質トス
 - 四 縱斷面圖及水平面圖ハ地況ニ應シ標準地内ニ幅20m長サ適宜ノ調査帶一本又ハ二本ヲ設ケテ作製ス
 - 五 樹冠ノ擴張調査ハ各直徑階ニ於テ標準木五本乃至一〇本ヲ選定シ樹冠ノ投影圖ヲ作製シテ其ノ擴張面積ヲ測定シ(前項ノ水平面圖ヲ充當スル事ヲ得)之ニ依ツテ各直徑階ノ平均樹冠擴張面積ヲ求ム
 - 六 植生調査ハ國有天然林調査方法ヲ参照ス可シ
 - 七 土性調査ハ試驗地ノ設定當初及十年毎ニ人工植栽林B種收穫試驗ニ規程セル所ニ從ヒテ之ヲ行フ
 - 八 材質調査ハ人工植栽林B種收穫試驗ニ規定セル所ニ從ヒテ之ヲ行フ

(收穫試驗成績記載例別冊 10)

營林局署ニ於ケル林業試驗ニ關スル件

七 測量、境界査定、境界標

國有林野測量規程

明治三十三年九月二十九日
農商務省訓令第三十三號

- 第一條 測量ハ森林施業上必要ノ個所ヨリ之ヲ施行スヘシ
- 第二條 測量ヲ爲スニハ先ツ境界ヲ査定シ順次森林三角測量及周圍測量ヲ施行スヘシ但事宜ニ依リ境界査定前ニ森林三角測量ヲ爲スコトヲ得
- 第三條 周圍測量ハ境界査定ノ後遲滞ナク之ヲ施行シ已ムヲ得サル事由アルトキト雖一箇年ヲ超ユルコトヲ得ス
- 第四條 林野ノ地盤接續シテ一圃地ヲ爲スモノハ一箇所ト見做シ測量ヲ施行スヘシ但周圍測量ハ便宜ニ應シ分割シテ之ヲ施行スルコトヲ得
- 第五條 境界査定官吏ハ測量官吏目標ヲ設置シ又ハ支障木竹ヲ伐採セントスルトキハ豫メ其ノ土地若クハ木竹ノ所有者ニ通告シ其承諾ヲ得ヘシ國有林野内ニ於テ目標ヲ設置シ又ハ支障木竹ヲ伐採シタルトキハ其ノ種類及員數ヲ小林區署長ニ通知スヘシ
- 第六條 境界査定官吏ハ豫メ地租改正ノ當時及地租改正後土地丈量ノ際調製シタル書類圖面、官林臺帳、舊記、舊圖、其ノ他境界判定ノ資料トナルヘキ書類物件ヲ調製シ尙ホ實地ニ就キ境界ノ狀況、附近ノ地形、林相等ヲ觀察シテ境界査定ニ著手スヘシ

國有林野測量規程

- 第七條 境界査定官吏必要ト認ムルトキハ市町村長、地方廳吏員其他關係人ノ立會ヲ求ムヘシ
- 第八條 境界査定官吏必要ト認ムルトキハ市町村長、地方廳吏員其他關係人ノ立會ヲ求ムヘシ
- 第九條 境界査定官吏必要ト認ムルトキハ市町村長、地方廳吏員其他關係人ノ立會ヲ求ムヘシ
- 第十條 境界査定官吏必要ト認ムルトキハ市町村長、地方廳吏員其他關係人ノ立會ヲ求ムヘシ
- 第十一條 境界査定官吏必要ト認ムルトキハ市町村長、地方廳吏員其他關係人ノ立會ヲ求ムヘシ
- 第十二條 境界査定官吏必要ト認ムルトキハ市町村長、地方廳吏員其他關係人ノ立會ヲ求ムヘシ

國有林野 測量、境界査定、境界標

第十三條 境界査定官吏及測量官吏ハ毎月十日迄二前月作業ノ成績及經費ノ報告書ヲ作り之ヲ所屬上官ニ差出スヘシ

第十四條

境界査定圖、境界査定簿、三角測量成果表、三角網圖、周圍測量圖、境界簿、前條報告書ノ様式及測量内規ハ別ニ之ヲ定ム

附則

第十五條 本規定ハ明治三十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス明治二十三年訓令丙林第五〇九號官林境界測量内規及同年訓令第三七一號官林境界踏査内規ハ本規程施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

國有林野測量内規

明治三十三年九月 整第二〇八三號内訓

第一章 通則

第一條 國有林野ノ測量ハ境界査定、森林三角測量及周圍測量ニ區別シ國有林野測量規程第一條及第二條ノ順序ニ依リ施行スルモノトス

第二條 所屬上官ハ一地ニ於ケル境界査定又ハ一測量區ニ於ケル測量ノ事業終了シタルトキハ其ノ圖面及簿表ヲ對査シ成績ノ檢閲ヲ爲スヘシ

第三條 所屬上官ハ前條ノ圖面簿表及成績ノ正確ナルヲ認メタルトキハ三角測量成果表及三角網圖ノ副本、境界査定圖、境界査定簿、周圍測量圖及境界簿ノ正本ヲ大林區署ニ送付スヘシ但三角測量成果表及三角網圖ノ正本ハ農商務省ニ保管ス

第十四條 大林區署長ハ前條境界査定及周圍測量ノ圖及簿ノ謄本一通ヲ製シテ國有林野所管ノ小林區署ニ送付シ之ヲ保管セシムヘシ但謄本ハ墨水引美濃紙ヲ用フルコトヲ得

第十五條 國有林野測量規程第十三條ノ作業成績及經費ノ報告書ハ第一號書式ニ依ル

第二章 境界査定

第十六條 境界査定ハ國有林野ト隣接地トノ境界ヲ判別確定スルカ爲施行スルモノトス

第十七條 境界査定官吏ハ國有林野測量規程第五條ニ依リ境界判定ノ資料ヲ蒐集シ査定ニ著手ノ準備整ヒタルトキハ國有林野法施行規則第三條ニ依リ通告書ヲ送付シ隣接地所有者ノ立會ヲ求メテ査定ヲ施行ヘシ但隣接地所有者同規則第四條ニ依リ立會期日ノ延期ヲ出願シタルトキハ適宜其ノ期日ヲ定メテ更ニ立會ヲ爲サシムヘシ

第十八條 立會ヲ爲スヘキ者ハ概ネ左記各號ニ該當スルヲ要ス

- 一 他ノ官廳又ハ公署ノ主管ニ屬スル土地ハ當該官廳又ハ公署ノ吏員
二 府縣郡市町村其他法人ノ所有地ハ其代表者
三 團體又ハ數人ノ共有地ハ其管理人
四 神社ノ所有地ハ神官氏子(氏子ナキトキハ信徒)總代、寺院ノ所有地ハ住職及檀徒(檀徒ナキトキハ信徒)總代、佛堂ノ所有地ハ受持僧侶及信徒總代
五 一人ノ所有地ハ其ノ所有主
六 所有者ノ住所又ハ居所若クハ死亡跡相續人分明ナラサル土地ハ其ノ財產管理人

第十九條 境界査定官吏ハ國有林野測量規程第十條境界標ノ建設ヲ完了シタルトキハ大林區署長ニ其ノ旨ヲ報告スヘシ

第三章 森林三角測量

第一節 通則

第二十條 森林三角測量ハ周圍測量ノ骨格基礎ヲ構成シ國有林野ノ面積ヲ精確ニ算定スルカ爲施行スルモノトス

第二十一條 三角點ノ位置ハ直角縱橫線ヲ以テ之ヲ定ム但縱橫線ノ零點ハ測量スヘキ地方ニ從ヒ其測量實施ニ臨ミ特ニ之ヲ指定スヘシ

第二十二條 縱橫線ハ前條零點ヲ通過スル眞子午線上ニ其ノ橫線ヲ置キ零點ヨリ北方ニ向ヒタルモノヲ正トシ南方ニ向ヒタルモノヲ負トス縱線ハ橫軸ニ直交スル線上ニ於テ之ヲ度リ其ノ東方ニ向ヒタルモノヲ正トシ西方ニ向ヒタルモノヲ負トス

第二十三條 前項ニ依リ成形セル四個ノ象限ハ左ノ順次ニ並列ス

第一象限ハ北ヨリ東ニ至ル
第二象限ハ東ヨリ南ニ至ル
第三象限ハ南ヨリ西ニ至ル
第四象限ハ西ヨリ北ニ至ル

第二十四條 直角縱橫線ノ長ハ米突ヲ以テ單位トシ其以下珊瑚知米突迄算出スヘシ

第二十五條 同一ノ縱橫線式内ニ在リテハ同一點ニ對シ數種ノ縱橫線數價ヲ定ムルヲ得ス

第二十六條 三角組織ノ基礎

第二十七條 森林三角測量ハ陸地測量部ノ三角網組織散在スル地方ニ於テハ常ニ之ヲ準據シテ施行スヘシ

第二十八條 陸地測量部ノ測點散在セサル地方ニシテ事業ノ急施ヲ要スル場合ニ在リテハ第二十三條ノ範圍内ニ於テ適宜森林三角測量ヲ施行スルコトアルヘシ

第三節 三角點ノ種類及距離

境界査定官吏ハ土地ノ狀況其ノ他ノ事由ニ依リ已ムヲ得サル場合ハ境界標建設ノ幾分ヲ測量官吏ニ依託スルコトヲ得此ノ場合ニハ其旨報告書ニ附記スヘシ

第二十九條 大林區署長ハ前條ノ報告ニ依リ國有林野法施行規則第五條ノ境界査定終了ノ通告ヲ爲スヘシ國有林野測量規程第九條第二項ノ場合ハ證據書類ヲ審查シ正當ト認ムル所ニ依リ査定處分ヲ施行スヘシ但行政區界ノ判明セサルモノハ所屬上官ノ指揮ヲ受ケタル後其ノ處分ヲ施行スヘシ

第三十條 境界査定標ハ適宜ノ小杭ヲ用ヒ外面ニ番號側面ニ地種目、名稱、地番、地目、年月日、頂面ニハ境界標ノ方向ヲ記入スヘシ但必要ナシト認ムルトキハ番號及年月日ノミヲ記載スルニ止ムルコトヲ得

第三十一條 境界査定標ハ査定ヲ施行セル一團地ヲ通シテ第一號ヨリ順次番號ヲ附スヘシ但已ムヲ得サルトキハ一團地ノ境界線ヲ數區ニ分チ之カ各區ニ於テ第一號ヨリ順次番號ヲ付シ甲乙丙等ノ冠字ニ依リ各區ニ於ケル番號ノ區別ヲナスモ妨ナシ

第三十二條 前項第一號ニ充ツヘキ起點ハ境界線中ニ於テ可成行政區界又ハ天然界等ニ依リ最顯著ナル位置ヲ選ヒテ之ヲ設クヘシ

第三十三條 境界標ハ海邊ニアリテハ春分秋分最高潮ノ至ル處ニ之ヲ建設スヘシ

第三十四條 境界標ノ番號ハ境界査定標ノ番號ト一致スルヲ要ス

第三十五條 國有林野測量規程第十四條ノ境界査定圖及境界査定簿ハ第二號様式ニ依ル

國有林野測量内規

第二十三條 三角點ハ相互間距離ノ遠近ニ由テ主三角點、次三角點及補點ノ三種ニ區別ス

第二十四條 三角點ハ可成國有林野内ニ選擇スヘシ地形上前項ニ依リ難キ場合ハ其境界上又ハ力メテ之ニ近接シテ選線スヘシ但已ムラ得サル場合ハ其ノ境界外ニ選擇スルコトヲ得

第二十五條 三角測量ヲ實施セル地區ニ接シテ更ニ三角測量ヲ施行スルトキハ其ノ境界ニ近接シテ散在セル諸點ハ互ニ直接ニ視通竝關係ヲ有セシメ恰モ一聯ノ三角網ノ如クナラシムヘシ

第二十六條 主及次三角點竝補點ニハ堅實ノ標石(第一圖及第二圖)ヲ埋設シテ其ノ中心ヲ表示スヘシ

第二十七條 三角點ニハ番號、第四十三條ノ規標種類及其點ノ名稱ヲ付シテ之ヲ表示スヘシ

第二十八條 番號ハ測量官吏擔當ノ測量地區ヲ通シ亞拉比亞數字ヲ用ヒ順次之ヲ配付スヘシ但規標ニ釘附スル標札(第三圖)ハ日本數字ヲ用フルモノトス

第二十九條 測量點ノ番號ニハ測量官吏氏名ノ一字ヲ採リテ之ニ冠セシムヘシ

第三十條 三角點ノ冠字及番號ハ測量ノ際使用スル所ノ諸簿手控及圖面等ニ記入スヘシ

第三十一條 一測量地區内ニ於テ一度番號ヲ附シタル三角點ヲ他ノ測量地區内ニ使用スルモ其ノ番號ヲ改ムルヲ得ス

第三十二條 後年度ニ於テ前年度ニ決定シタル測量點ヲ用フルトキハ其決定年度ヲ亞拉比亞數字ニテ番號ノ右下部

ニ記入スヘシ

第三十三條 三角點ニハ附近著名ノ地名ヲ採リテ名稱ヲ付スヘシ

第三十四條 三角點ノ位置確定シタルトキハ測站簿(第三號樣式)ヲ調製スヘシ

第三十五條 三角點ヲ選定セシメハ豫メ在來ノ地圖ヲ繙閱シテ測量ヲ施行スヘキ全地域ノ地形ヲ察知シ尙實地ヲ巡視シテ三角網組織ノ順序目的ヲ豫定スヘシ

第三十六條 三角點ノ設置ニ適當ニシテ他ニ換ヘ難キ位置ナルモ立木等ニ蔽蔽セラレ他點トノ瞰望ヲ妨止セラルル場合ニハ之ヲ伐除シ若クハ至高ノ規標ヲ建設シテ其互視ヲ自在ナラシムヘシ

第三十七條 三角點ヲ選定シタルトキハ諸方ヨリ視別シ得ルカ爲紅白ノ標旗ヲ其ノ位置若クハ樹頭ニ建設シ之ニ番號ヲ付シタル小札(第四圖)ヲ付シ其ノ順次ヲ明カニスヘシ

第三十八條 標旗ハ使用ノ目的ニ從ヒ左ノ大小二種ニ區別ス

一 大標旗(第五圖) 主三角點ニ用ヒ上紅下白トス

二 小標旗(第六圖) 次三角點以下ニ用ヒ上白下紅トス

第三十九條 三角點ニ依テ成形スル三角形ハ可成等邊形ナラシムヘシ

地形上已ムラ得サル場合ニ於テハ三角形各角ノ制限ヲ約三十度以上百二十度以下トスルコトヲ得但次三角點及補點ニ在リテハ其ノ制限ヲ約二十度以上百四十度以下トスルコトヲ得

第四十條 三角點ヲ選定セシムルニハ第二十三條及第三十八條第一項ノ趣旨ニ基キ豫メ其ノ測量スヘキ地方ヲ經緯度或ハ縱橫線ニ由リ區劃シテ各一點ヲ配付スヘキ察方眼ヲ作リ既定點ノ經緯度若クハ縱橫線ニ由テ其ノ方眼中ニ既定點ノ位置ヲ認識スヘシ

第四十一條 選點圖ハ十萬分一ノ縮尺ヲ用ヒ圖式(第四號樣式)ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第四十二條 前項選點圖ハ測板(第五圖)ニ圖紙ヲ貼付シテ之ヲ製スヘシ

第四十三條 三角點ノ位置ヲ測板上ニ決定セシムルニハ三個以上ノ點ニ依リ前方交會或ハ後方交會ヲ混用スヘシ

第七節 規標

第四十三條 規標ハ使用ノ目的ニ從ヒ左ノ二種ニ區別ス

一 第一種規標(第七圖) 主及次三角點ニ用フ

二 第二種規標(第八圖) 主トシテ補點ニ用フ但時トシテ次三角點ニ用フルコトアルヘシ

第四十四條 規標各部ノ名稱ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 心釘 心柱ノ中心ニ垂直ニ打入セル頂釘ニシテ規標ノ中心ヲ表示スルモノ

二 心柱 心釘ヲ保持シテ垂直スルモノ

三 斜柱 錐體ヲ成形スル圓柱

四 小繫 心柱ノ下端ト斜柱トヲ結合スル十字材

五 覆板 錐體面ヲ成形スル板

六 根柱 斜柱ノ下部ニ釘著スル木片

七 標板 心柱ノ上部四面ヲ成形スル板

八 規板 心柱ニ十字形ニ釘著スル翼板

第四十五條 第一規標ハ普通左ニ示ス所ノ木材ヲ以テ造ル

國有林野測量內規

第四十六條 心柱ハ方約四寸長四尺乃至六尺ノ角材

二 斜柱ハ末口徑約二寸五分長約三間半ノ丸太

三 覆板及標板ハ幅約一尺厚約六分ノ板

第四十七條 第二種規標ハ普通左ニ示ス所ノ木材ヲ以テ造ルヘシ但シ心柱ハ錐體ノ内方ニ於テ十字形ノ小繫ヲ二個所ニ付著シテ固定スルモノトス

第四十八條 心柱ハ末口徑約二寸五分長約二間半ノ丸太規板ハ幅約一尺厚約六分ノ板

第四十九條 斜柱ノ下端ニ付著スヘキ根柱ハ徑約三寸長三尺ノ木材ヲ用フヘシ

第五十條 覆板、標板及規標ハ石灰若クハ穀灰ヲ水ニ溶解シ之ニ食鹽(右灰一升ニ)ヲ混合シタルモノヲ以テ塗色スヘシ

第五十一條 心柱ハ上半部ヲ前項ニ依リ下半部ヲ「コールター」ニテ塗色スヘシ

第五十二條 整置セサルヘカラサルトキハ第四十三條ノ規標ニ尙器械ヲ架載スヘキ標板(第七圖)竝觀測者ノ登ルヘキ測床ヲ適宜附設スルコトヲ得

第八節 角度測定法

第五十三條 水平角ハ經緯儀ヲ用ヒ方向觀測法ニ由テ測定スヘシ但水平角觀測ノ際之ト同時ニ各三角點間ノ頂天距離ヲ觀測スルヲ要ス

第五十四條 零方向ニ充ツヘキ點ハ太陽ノ昇降氣象ノ變動ニ際スルモ其觀測ノ全カラシムヘキ點ヲ求ムルカ爲可成北方ニ近接シ水平線上ニ在リテ他ノ障礙ヲ受ケス且距離ノ遠キニ過キサルモノヲ選用スヘシ

二九八

二九九

第五十二條 測回(望遠鏡ノ左右兩位置)ノ數ハ通常左ニ定ムル所

- 一 水平角觀測ハ三測回
- 二 頂天距離觀測ハ望遠鏡ノ左右兩位置ニ於テ各二回ツ

第五十三條 水平輪廓ノ分割誤差ヲ消除セシカ爲各測回毎

- 一 輪廓ヲ左ノ度數ニ隨テ旋動スヘシ
- 二 測回ニ在リテハ零度、六十度、百二十度但三測回以上

第五十四條 一測回ノ觀測ヲ終リタルトキハ望遠鏡ヲ當初

- 一 位置ニ轉シ零方向ニ充テタル點ヲ視準シ兩側微鏡ヲ讀
- 二 定シテ其測回中輪廓ニ移動ナキヤ否ヲ檢定スヘシ但望

第五十五條 經緯儀ハ之ヲ使用スルニ先テ各測回ニ於テ得

- 一 其ノ中心角ノ誤差限界ヲ檢定スヘシ
- 二 無テ測定スヘシ

第五十六條 視標ハ觀測實施中屢檢査ヲ行ヒ其ノ運動ノ有

- 一 無テ測定スヘシ
- 二 於テ精密ナル測定ヲ施シ視標中心ト標石中心トノ關係

第五十八條 觀測ノ成績ハ野外ニ於テ直チニ觀測手簿(第

五號樣式)ニ硬鉛筆ヲ以テ登載スヘシ若シ誤記シタルト

第五十九條 視準點ト中心點ト一致セサルトキハ外心觀測

第六十條 三角點ニ於テ之ニ關スル諸角ハ悉皆觀測ヲ遂ケ

第六十一條 野外ニ在リテ觀測事業ノ進ムニ從ヒ觀測手簿

第六十二條 三角差及二回以上得タル邊長ノ差ハ左ノ規定

- 一 依ルヘシ但已ムラ得サル場合ニ在リテ本項ニ依リ難キ
- 二 三角點ヲ決定セシカ爲組成セル邊長ノ差ハ主三角點

第六十三條 外心觀測ニ依テ得タル方向ヲ中心ニ化スル計

第六十四條 歸心角ハ主及次三角點ノ距離ニ在リテハ其外

第六十五條 第六十三條ノ樣式及第六十四條ノ規定ハ普通

第六十六條 第六十三條ニ依テ中心方向角(第六號樣式參

第六十七條 陸地測量部ノ三角點ニ附與シタル輿地學上ノ

第六十八條 新定三角點ノ直角縱橫線及高低差ノ計算法ハ

第六十九條 前條ノ確實ナル縱橫線ニ由テ算出スル方位角

第七十條 前條ノ確實ナル縱橫線ニ由テ算出スル方位角

第七十一條 三角網圖ノ計算ヲ完成シタルトキハ其ノ圖式

第七十二條 前條ノ三角網圖ハ五萬分一ノ縮尺ヲ用フヘシ

第七十三條 方向線ヲ三角網圖中ニ畫クニハ實線ヲ用ヒテ

第七十四條 三角網圖ニ用フル彩色ハ左ノ如シ

第七十五條 補點ハ主及次三角點ノミニ依リ周圍測量ヲ施

國有林野 測量、境界査定、境界標

林區署管轄區域ノ境界ニ在リテハ可成其ノ境界ニ選定シ
周圍測量ニ便ナラシムヘシ

第七十七條 補點ハ總テ次三角點ニ準ス

第四章 周圍測量

第一節 通則

第七十八條 周圍測量ハ國有林野ノ境界ヲ測定シ其ノ面積
ヲ算定スルカ爲施行スルモノトス

第七十九條 周圍測量ハ境界査定ノ結果ニ基キ境界線ヲ測
定シテ多角形ヲ成シスヘシ

第八十條 森林三角測量ヲ施行セル國有林野ノ周圍測量ハ
境界線上若クハ境界線附近ニ在ル三角點間ヲ一測量區ト
シテ其ノ測定及計算ヲ爲シ順次該國有林野ノ周圍全部ニ
及ホスヘシ

面積廣大ナラサル國有林野ハ森林三角測量ヲ省略シ直チ
ニ周圍測量ヲ施行スルコトヲ得但此場合ニハ其ノ施行ニ
際シ適宜ノ方法ニ依リ可成簡易ノ三角測量ヲ施行シテ其
ノ面積ノ正確ヲ期スルヲ要ス

第八十一條 角度測量ニハ經緯儀ヲ用フヘシ但施業上支障
ナシト認ムル場合ハ羅盤若クハ平板ヲ用フルコトヲ得
距離測定ニハ「スタヂヤ」法、竹尺若クハ測鏈ヲ用フヘ
シ但支距ノ場合ハ卷尺ヲ用フルコトヲ得

第八十二條 兩測量地界ヲ通過スル測線ノ存在スルトキハ
之ヲ共通シテ使用スルモノトス

前項ノ測線ニシテ本規定ニ依リ其縱橫線ヲ確定シタル既
定測線ナルトキハ其ノ測線及縱橫線ヲ保續シ更ニ測量ス
ヘキ測線ヲシテ之ニ接合セシムヘシ

第八十三條 三角點若クハ補點又ハ既定測點ニ接近シテ多
角線ヲ通過セシムル場合ハ該三角點若クハ補點又ハ既定

要ノ場合ニハ境界線ノ方分ヲ刻スヘシ但
必要ノ場合ニハ内面ニ番號ヲ刻スヘシ
(第九圖)

二 固定岩石
上面ヲ適宜平滑ニ削リ又ハ石面ノ平ナル
部分ニ十字形ヲ刻シテ中心ヲ表示シ側面
ニ山印ヲ刻スヘシ

三 木 標
耐久ノ木質ニシテ三寸角以上若クハ直徑
四寸以上ノ丸材長二尺五寸以上ノモノヲ
用ヒ内面ニ番號外面ニ山印ヲ刻シ頂面ニ
ハ中心ヲ表示シ其三分ノ二ヲ地中ニ埋ム
ヘシ且必要ノ場合ニハ頂面ニ釘ヲ打ちテ
境界線方向ヲ表示スヘシ

四 土 塚
又ハ石塚
適宜ノ大サニ設ケ且必要ノ場合ニハ其ノ
上ニ木標ヲ建設スヘシ

五 立 木
立木ヲ以テ境界標トナシタル場合ハ目通
ノ幹部周圍ヲ約五寸幅ニ剝皮シ白「ペン
キ」ヲ塗ルヘシ

第八十八條 將來紛議ヲ生シ易キ場所ニハ瓦片、硝子片、
木炭等ノ不刊物ヲ埋メ其ノ上ヲ可成石標ヲ用ヒテ境界標
ヲ設置スヘシ

第八十九條 測量施行上境界標間ニ測點ヲ設置スル場合ハ
便宜小杭ヲ用フヘシ

第九十條 境界點ヲ表示スルニ必要ノ場合ハ便宜豫備標ヲ
設置スヘシ

豫備標ハ元標ト互ニ相關係セシメテ其ノ方位、角度及距
離ヲ測定スヘシ

國有林野測量內規

測點ニ接合セシムヘシ
第八十四條 周圍測量施行ニ際シ境界上ノ狀態ヲ明カニス
ルカ爲左記各號ノ測定ヲ爲スヘシ

一 隣接スル縣、國、郡、市、町、村大字及官民有ノ地
目、地番ノ境界點

二 境界線上ニ在ル道路、河川、湖海等ノ位置、名稱並
市町村以上ノ行政區界但道路河川等ハ境界外ニ互リ
テ聯絡セル附近ノ狀況ヲ見取ニテ測定スヘシ

三 國有林野内ニ在ル道路、河川、湖沼、孕在地等ニシ
テ其ノ面積ヲ控除スヘキモノノ位置、名稱並市町村
以上ノ行政區界線但其ノ終始兩點ヲ既定ノ測點ト接
合セシムルヲ要ス

紛議ヲ生シ易キ境界ニシテ特ニ測設シタル證據線ノ指
道線又ハ豫備線

四 其ノ他境界線ノ内外ニ存在スル顯著ナル物體ノ位置
又ハ地方ノ狀況ニ依リ必要ト認ムル事項

第八十五條 境界標ハ境界査定標ニ基キ角度及邊長ノ測定
以前ニ於テ設置スヘシ但第八十七條ノ土塚又ハ石塚ハ測
定以後ニ於テ之ヲ設置スルモ妨ケナシ

第八十六條 境界標ハ必要ノ程度ニ應シ其ノ種類ヲ選擇シ
主要ノ境界點ニ之ヲ設置スヘシ

第八十七條 境界標ハ左ノ種類ニ區別ス但經何ノ上耐久ノ
物質ヲ以テ左記各號ノ境界標ニ代用スルコトヲ得

一 石 標
上頭部四寸角以上長二尺五寸以上ノ堅實
ナル石材又ハ略同形ノ天然石ヲ用ヒ其三
分ノ二ヲ地中ニ埋メ外面ニハ山印ヲ刻シ
頂面ニハ十字ヲ刻シテ中心ヲ表示シ且必

第九十一條 立木ヲ豫備標トスルトキハ目通ノ幹部周圍ヲ
約五寸幅ニ剝皮シ上白下黒ニ塗リ分ツヘシ

第三節 測點番號

第九十二條 測點ノ番號ハ境界査定表ノ番號並第九十三條
ニ依リ定メタル境界點ノ番號ヲ用フヘシ但測量上便宜ノ
爲臨時ニ設ケタル測點ノ番號ハabc等ヲ用ヒ其ノ右ノ
腰ニ後方測量點ノ番號ヲ附記スヘシ(例ハa15等)

第九十三條 國有林野ノ境界線中其ノ査定ナキ部分ニ付テ
ハ測量官吏ニ於テ適當ノ境界點ヲ定メ第十二號ノ但書ニ
準シ之ニ番號ヲ附スヘシ

第九十四條 (削除)

第九十五條 豫備標ノ番號ハ亞拉比亞數字ヲ用フヘシ
第四節 多角點ノ測定及其公差

第九十六條 測點ハ可成短ナラサル測線ヲ成シ且可成過
長測線ト過短測線トノ會交ヲ避ケテ選定スルヲ要ス但地
形上測量ニ便宜ノ爲測點ト境界點ト悉ク一致セサルモ妨
ケナシ

第九十七條 測點ハ可成測量器械据付ニ便宜ナル位置ニシ
テ測角ノ際測竿ノ下端ヲ視準シ得ル程度ニ於テ選定スル
ヲ要ス

第九十八條 地形狹長若クハ蜂腰狀ヲ成シタル部分ハ便宜
分割シテ測定スヘシ

第九十九條 測量施行三角點若クハ補點又ハ既定測點ニ接
合シタルトキハ其ノ點上ニ於テ其三角形又ハ既定測線ノ
一邊ト接合線トノ間角ヲ測定スヘシ

第一百條 多角形ノ邊長ハ前進及ヒ背進ニ依テ二回ノ測定ヲ

爲シ其ノ差第百三條ノ公差以内ニ在ルトキハ其中數ヲ採用スヘシ

第百一條 「スタヂヤ」法ニ依ル距離ハ測角ニ伴隨シテ讀定スヘシ

第百二條 距離ハ間ヲ以テ單位トシ其以下二位迄ヲ讀定スヘシ

第百三條 距離測定ノ公差ハ左ノ制限ヲ超過スルヲ得ス但シハ距離ヲ示ス

$0.01\sqrt{6.S+0.0075S^2}$

前項ノ公差ヲ超過シタル場合ハ再測スヘシ

第百四條 支距ハ十間ヲ超過スヘカラス

第百五條 測量器械ハ測量著手以前ニ於テ點檢シテ之ヲ整正スヘシ

第百六條 水平角ノ測定ハ一遊尺ノ讀定ヲ行ヒ正反兩位ノ觀測ニ依リ方向觀測法ヲ用フヘシ但羅盤測量法ヲ用フル場合ハ前視及後視ノ兩視準ヲ行ヒ其ノ中數ヲ採用スヘシ

前項ノ羅盤測量ニ在リテハ羅針ノ南北兩端ヲ讀定シテ以テ正位ノ觀測ヲ行フモノトス但時宜ニ依リ羅針ノ北端ヲ讀定シ正反兩位ノ觀測ヲ行フモ妨ケナシ

第百七條 高低角ハ前視ニ於テ一遊尺ノ讀定ニ依リ正反兩位ノ觀測ヲナシ其ノ中數ヲ採用スヘシ

第百八條 高低アル地形ニシテ施業上必要ト認ムル場合ニ依リテハ第百一條第二項但書ニ拘ハラス總テ其ノ高低角ヲ測定シ地形測量上ノ材料ニ供スヘシ

但轉鏡ヲ爲シ得サル測量器械例ヘハ「バンドメートル」

ノ類ヲ使用シテ羅盤測量法ヲ行フ場合ニ於テハ一遊尺ノ讀定ニ依リ前視及後視ノ兩觀測ヲ行ヒ其ノ中數ヲ採用スヘシ

第百九條 水平角ノ讀定ハ分位ニ其ノ中數ハ分以下少數一位ニ止ム但羅盤測量法ヲ用フル場合ニ於テ方位角ノ讀定及其ノ中數ハ一度ノ十分之一ニ止ム、高低角ノ讀定及其ノ中數ハ分位ニ止ム但羅盤測量法ヲ用フル場合ハ一度ノ十分一迄トス

第百十條 多角形ニ於ケル角度ノ公差ハ左ノ制限ヲ超過スルコトヲ得ス但ハ方向角ノ數ニシテ分ヲ以テ單位トス

0.1

前項ノ公差ヲ超過シタル場合ハ再測スヘシ

第五節 測量手簿
第百十一條 測量ノ成績ハ野外ニ於テ直ニ測量手簿(第十五號様式)ニ硬鉛筆ヲ以テ登載スヘシ若シ誤記シタルトキハ其ノ上ニ二線ヲ引キ傍ニ正誤シ決シテ抹殺スヘカラス

第百十二條 讀定角其ノ他總テ觀測ノ結果竝之ニ關聯スル記事ハ測量手簿ニ登載スヘシ

第六節 多角點縱橫線ノ計算及其ノ公差
第百十三條 森林三角測量ヲ施行セル國有林ニ於ケル多角點ノ直角縱橫線ノ計算ハ一ノ三角點縱橫線ヲ以テ計算ヲ始メ他ノ三角點縱橫線ヲ以テ之ヲ終ルヘシ

計算確定ノ多角點ニ依ルトキハ其ノ縱橫線ヲ用フルコト亦前項ニ同シ

第百十四條 三角點若クハ確定測點間ヲ連結スル多角線ニ依リ多角形ヲ成形シタル場合ハ該線ノ終始二點ニ於ケル

確定方位角ト對照シ其ノ誤差第百十條ノ公差以内ニアルトキハ之ヲ等分シテ其ノ各角ニ配付スヘシ

森林三角測量ヲ省略シ直チニ周圍測量ヲ施行シテ成形シタル多角形ノ內角總和ヲ其ノ固有角值ト對照シテ生シタル誤差ハ亦前項ニ依リ配付スヘシ

第百十五條 前條ニ依リ配付修正シタル各角ヲ以テ橫軸ニ對スル方位角ヲ誘求スヘシ

第百十六條 前條橫軸ニ對スル方位角ト多角形邊長二回ノ測定中數トニ依リテ縱橫線差ヲ計算シ之ヲ其ノ始點及終點ノ確定縱橫線差ト對照スヘシ

第百十七條 縱橫線閉塞差 $S = \sqrt{f_1^2 + f_2^2}$ ハ左ノ公差ヲ超過スルヲ得ス但シハ總距離 f ノ縱線差 f_1 ハ橫線差ヲ示ス

$0.01\sqrt{6(S) + 0.0075(S)^2}$

前項ノ公差ヲ超過シタル場合ハ再測スヘシ

第百十八條 前條公差以内縱橫線誤差ハ距離ニ比例シテ可成縱橫線差上ニ分配スヘシ

第百十九條 縱橫線計算竝水平距離計算ニ用フル三角函數ノ眞數ハ小數四位、對數ハ小數五位ニ止ム但縱橫線計算ノ場合ニ於ケル方位角ハ分位ニ止ム經緯觀測ヲ行フ場合ニ於テ其水平距離計算ハ時宜ニ依リ高低角ヲ一度ノ十分ノ一ニ止ムルコトヲ得

第百二十條 多角點縱橫線計算ハ第十六號様式ニ依ルヘシ

第百二十一條 森林三角測量ヲ省略セル地區ニ在リテハ計算ニ要スル爲多角形ノ一角點ニ於テ子午線方向ヲ測定シ之ニ基キテ多角形ノ各角ヲ方位角ニ改算スヘシ

第七節 面積ノ計算
第百二十二條 國有林野ノ面積ハ左ノ區別ニ依リテ計算ス

國有林野測量內規

一 經緯儀測量法ニ依リテ測量シタルモノハ經緯距法(第十七號様式)

二 羅盤測量法ニ依リテ測量シタルモノハ經緯距法若クハ「フランドル」

三 平板測量法ニ依リテ測量シタルモノハ「フランドル」

第百二十三條ノ二 經緯距法ニ依リ面積ヲ計算スル場合ニ於テハ市街地並三角測量面積ヲ除クノ外縱橫線ヲ小數一位ニ止ムヘシ

第百二十四條 支距面積若クハ第九十八條第二項ノ切離部面積ハ直角三角形、梯形等ノ求積法ニ依リテ算出シ幹部ノ面積ト加減シテ國有林ノ面積ヲ求ムヘシ

第百二十五條 前條ノ計算ハ第十八號様式ニ依ルヘシ

第百二十六條 製圖ハ經緯距法(第十七號様式參照)ニ依リ製スヘシ但羅盤測量法ニ依リテ測量シタルモノニシテ經緯距ヲ算出セサル場合及面積狭少ナル切離部等ニ在リテハ角度及邊長ニ依ルモ妨ケナシ

第百二十七條 製圖ノ縮尺ハ五千分ノ一ヲ用フヘシ但境界線短小ニシテ不判明ナル部分ヲ顯ハス場合ハ適宜ノ縮尺ヲ用フルコトヲ得

第百二十八條 圖面ヲ分チテ全圖及分圖ノ二種トス但前條但書ノ場合ハ圖幅ノ一隅ニ放大シテ之ヲ顯ハスヘシ

全圖ハ一國有林野若クハ數個所ヨリ成ル一團地ノ測量地

- 全部ヲ畫クモノトス但附近ニ散在スル飛地ニシテ其位置同一圖面ニ入ルヘキモノハ同圖幅中ニ畫クヲ要ス分圖ハ面積廣大ニシテ一圖幅ニ全部ヲ畫キ難キ場合ニ調製スルモノトス
- 第二百二十九條** 分圖ハ番號(第何片)ヲ付シ別ニ之ヲ合シテ二萬分一ノ全圖ヲ調製スヘシ
- 第三百十條** 圖面ハ長三尺幅二尺一寸六分ノ圖廓ヲ標準トシテ製圖スヘシ但製圖上ノ便宜ニ依リ伸縮スルハ此限ニアラス
- 第三百十一條** 圖面ハ森林圖式ニ準據シ尙圖式(第十九號)ニ依リ調製スヘシ
- 第三百十二條** 圖面ニハ第八十四條ニ依リ測定シタル結果ニ基キ左記各號ノ記載ヲ爲スヘシ
- 一 國有林野所在ノ國、郡、市、町、村、大字、國有林野名
 - 二 面積但分圖ハ其一片ニ記載ス
 - 三 縮尺及方位
 - 四 境界標、測點番號及支距符號
 - 五 境界線及其表示ニ必要ノ附屬測線
 - 六 測量區ニ關係ノ三角點及接合線
 - 七 境界線外ノ測線及豫備線
 - 八 境界上ニ在ル道路、河川、湖海等ノ位置、名稱並市町村以上ノ行政區界線
 - 九 境界線内ニアル道路、河川、湖沼、孕在地等ノ位置名稱並市町村以上ノ行政區界線
 - 十 隣接地ノ縣、國、郡、市、町、村大字及官民有地地目地番ノ名稱並其境界線
 - 十一 測量ノ年月日並測量官吏及製圖者ノ官氏名調印

國有林野境界査定手續

明治三十四年五月 林發第一八號達

- 第九節 境界簿**
- 第三百十三條** 境界簿(第二十號樣式)ハ測量手續、計算簿表及境界査定簿ニ依リ之ヲ調製シ其末尾ニ年月日ヲ記載シ調製者ノ記名調印ヲ要ス
- 第三百十四條** 境界簿ハ第二百二十八條第二項及第二十九條ノ全圖一枚ニ對スルモノヲ一冊トシテ調製スヘシ
- 第三百十五條** 境界簿ハ硬質紙ヲ用ヒ二枚ノ綴目ニハ測量官吏割印スヘシ
- 第五章 雜則**
- 第三百十六條** 境界査定官吏及測量官吏又ハ測量ノ器具器械等ノ名稱及員數ヲ帳簿(第二十一號樣式)ニ記載シ常ニ現品ト對査スヘシ
- 第三百十七條** 境界査定官吏及測量官吏ハ會計簿(第二十二號樣式)ヲ製シ經費受拂ノ都度記帳スヘシ
- 第三百十八條** 境界査定官吏及測量官吏ハ官廳若クハ官署又ハ人民トノ往復書類ハ其願末ヲ明カニシ一會計年度間ヲ一括トシ所屬上官ニ提出スヘシ但一會計年度末ニ至ルモ事業未決ノモノハ完結ノ都度提出スヘシ (樣式省略)
- 第一章 通則**
- 第一條** 大林區署長ハ國有林野測量規程(以下略)シテ單一

- 規程ト稱ス) 第一條ニ基キ毎年度ニ於テ境界査定ヲ施行スヘキ箇所ヲ選定シ境界査定豫定表(第一號樣式)ヲ調製シ前年度二月末日迄ニ報告スヘシ
- 前項ノ豫定箇所ニ變更増減ヲ爲シタルトキハ其ノ都度報告スヘシ
- 第二條** 大林區署長ハ境界査定ノ成績(第二號樣式一乃至三)ヲ翌年度四月三十日迄ニ報告スヘシ
- 第三條** 大林區署長ハ境界査定圖及境界査定簿ヲ檢閲シ其正確ヲ承認シタルトキハ國有林野法施行規則第五條ノ通告(第三號樣式)ヲ爲スヘシ
- 第四條** 大林區署長ハ境界査定圖及境界査定簿ヲ周圍測量官吏ニ送致シ周圍測量ノ用ニ供スヘシ
- 第五條** 大林區署長ハ境界査定圖、境界査定簿及査定通告ノ領收證書若クハ配達證明書ヲ整理保管スヘシ
- 第六條** 境界査定官吏ハ査定上必要ナル場合ハ小林區署員ニ立會ヲ求ムルコトヲ得
- 第七條** 境界査定官吏ハ境界査定ニ關シ大林區署管内ノ諸官衙公署ニ出張シ又ハ輕易若クハ緊急ナル事件ニ關シ文書ノ照會往復ヲ爲スコトヲ得但管外ノ出張及ヒ重要事件ノ往復ハ大林區署長ニ經伺ヲ要ス
- 第八條** 境界査定用ノ小杭ハ國有林野内ヨリ採取シテ使用スルコトヲ得
- 第九條** 規程第四條第一項ノ場合ニシテ補償ヲ要スルモノハ豫メ大林區署長ノ認可ヲ受クルヲ要ス
- 第十條** 境界査定ハ境界ノ豫備調査隣接地所有者ノ立會、境界ノ測定、圖面帳簿調製等ノ順序ニ之ヲ施行スヘシ
- 第二章 豫備調査**
- 第十一條** 規程第五條境界判定ノ資料ハ可成汎ク蒐集スル

- ハ勿論沿革、口碑、證言、舊慣、入會、縁故ノ關係等ヲ調査シテ慎重ニ査定シ其正確ヲ期スヘシ
- 國有林野ニ對シ前項ノ資料ニ供用セシ圖書ノ名稱ハ勿論調査ノ材料ヲ掲記シタル書類ヲ境界査定簿ニ添付スヘシ
- 第十二條** 境界査定官吏ハ前條ニ依リ書類物件ヲ調査シ隣接地所有者立會ニ先タチ實地ニ就キ境界ノ狀況ヲ明確ニ知了スルヲ要ス但境界明確ノモノハ省略スルコトヲ得
- 第三章 立會**
- 第十三條** 他ノ官廳若クハ公署ノ吏員ノ立會ヲ必要トスル境界査定ヲ施行スル場合ニ於テハ大林區署長ハ豫メ其ノ立會ニ付當該官廳若クハ公署ニ協議シ置クヘシ
- 第十四條** 國有林野法施行規則第三條ノ通告書(第四號樣式)ノ領收證書若クハ配達證明書及規程第六條ノ委任狀若クハ資格證明書ハ境界査定簿ニ添付スヘシ
- 第十五條** 隣接地所有者立會期日ノ延期ヲ出願シタル場合ニ於テ正當ノ事由アリト認メタル時ハ適宜其ノ期日ヲ定メテ更ニ立會ノ通告ヲ爲スヘシ
- 第十六條** 隣接地所有者境界査定官吏ノ査定ニ不服ヲ唱ヘ又ハ立會ヲ爲ササルトキハ正當ト認ムル所ニ依リ査定ヲ進行シ規程第九條第二項ノ取扱ヲ爲スヘシ但重大ノ關係アルモノハ査定ノ進行ヲ中止シ大林區署長ノ指揮ヲ受クヘシ
- 前項不服ヲ唱フルモノニ在リテハ其ノ主張スル境界線ト境界査定官吏ノ正當ト認ムルモノトヲ關係書類ニ掲記スルヲ要ス
- 第四章 境界ノ測定**
- 第十七條** 境界附近ニ在ル立木、岩石、其ノ他顯著ナル物體ニシテ境界證明上必要ナルモノハ其ノ位置ヲ測定シテ

圖簿ニ記載スルヲ要ス

第十八條 國有林野内に存在スルモ國有林野ノ地籍ニ屬セサル道路、河川等ニ付テハ其屬スル地籍ニ依リ其ノ形狀幅員ヲ定ムヘシ

第十九條 境界線ハ境界點ヲ見透シ得ル度ニ於テ刈開ケヘシ

第二十條 境界査定點ハ規程第八條ノ區別ニ依リ竝ニ國有林野測量内規(以下略シテ單ニ内規ト稱ス)第八十四條ヲ參酌シテ可成測量器械付ニ便ナル位置ヲ選定スヘシ前項ニ背カサル限リハ可成短線ヲ避クルノ主意ヲ以テ之ヲ選定スヘシ

第二十一條 境界線上ニ三角點又ハ顯著ナル岩石其ノ他ノ物體在ルトキハ境界點ニ使用スヘシ

第二十二條 境界點ノ位置不明ナルノ虞アルカ又ハ境界標ヲ設置シ難キトキハ安全ナル位置ヲ選ビ固定岩石、石標又ハ立木等ヲ用ヒテ豫備標ヲ設ケヘシ

第二十三條 境界線ハ携帶圖板、磁針器、間繩等ニ依リ其ノ方位及ヒ距離ヲ測定スヘシ

第二十四條 境界點ノ位置容易ニ知ラシ得ル場合ニシテ且一箇所ニ於テ周圍測量ニ著手申ノトキハ前條ノ測定ヲ省略シ周圍測量官吏ニ委嘱スルコトヲ得

第二十五條 境界標ハ規程第十條ニ依リ境界査定標ニ基キ

第五節 境界査定標境界標及番號

孕在地ハ別ニ番號ヲ設ケテ之ヲ付スヘシ

第六章 製圖及帳簿

第三十條 圖面ハ方位及延長ニ依リ之ヲ畫クモノトス但周圍測量官吏ニ於テ測量シタル場合ニ於テハ角度ヲ用フルコトヲ妨ケス

第三十一條 製圖ハ縮尺ハ二千五百分ノ一トス但境界線著シク短小ニシテ不判明ナル場合又ハ其ノ著シク長大ニシテ判明ナル場合ハ適宜ノ縮尺ヲ用フルコトヲ得

第三十二條 製圖用紙ハ攀水引美濃紙トス

第三十三條 製圖ハ内規第百二十九條乃至第百三十二條ヲ準用ス但第百二十九條ニ萬分一全圖ヲ要セス

第三十四條 境界査定簿ハ内規第百三十三條乃至第百三十五條ヲ準用ス

(様式別冊 一一)

御料地ト國有林野トノ境界測量

取扱ノ件

御料地ト國有林野トノ境界測量ノ義ハ從來各自施行致居リタルモ自今重複測量ノ手數ヲ省キ互ニ前者ノ設置シタル點及成果ヲ使用スルノ件ニ付別紙甲號ノ通宮内大臣ヨリ協議有之乙號ノ通回答相成候條自然交渉有之ヘクニ付差支ナキ様致度依命此段及通牒候也

(別紙)

(甲號)

國有林野境界査定手續 御料地ト國有林野トノ境界測量取扱ノ件

左記ノ事項ヲ參酌シテ之ヲ建設スヘシ

一 境界標紛失ノ虞アル場合ハ相當保護ノ設備ヲ爲シテ之ヲ建設ス

二 境界線顯著ナル地物ニ依リ容易ニ移動湮滅ノ虞ナキ箇所ヨリ成ル場合ハ其終始點及其ノ中間ハ凡五町ニ付一點ノ割合ヲ以テ建設ス

三 河川、道路等國有林野地籍外ニ屬スルモノニシテ其境界線ヲ横斷スル場合ハ兩側ニ建設ス但其幅二間以内ノモノハ片側ニ建設ス

第二十六條 重要ナル境界點ニハ石標又ハ固定岩石ヲ使用スヘシ但土地ノ狀況ニ依リ之ヲ得難キトキハ經伺ノ上他ノ耐久ノ物質ヲ以テ代用スルコトヲ得

第二十七條 前條ニ依リ石標類ヲ建設スル點ハ概ネ左ノ各號ニ依ル但境界標二十個ヲ建設スル間ニ於テ之ニ該當スルモノナキトキハ特ニ一個ヲ建設スルヲ要ス

一 境界ノ起點

二 境界線上ニ在ル縣、國、郡、市、町、村大字界

三 顯著ナル河川、道路、溝渠、分水嶺等ノ終始點

四 境界線ノ甚シキ屈折點

五 紛議ヲ生スル虞アル點但土地ノ事情ニ依リ内規第八十八條ノ設備ヲ爲スヘシ

六 前各號ノ外境界保存上重要ト認ムル點

第二十八條 境界標ハ内規第八十七條ノ種類ニ依リ其中心ヲ境界點ニ一致セシメ垂直ニ建設スヘシ

第二十九條 番號ハ起點ヲ第一號トシ順次之ヲ付ス但一直線内ニ於テ所有主、地番、地目ノ異リタル場合ニハ(イロハ)ヲ用フ

宮内大臣

御料局三十四條七一三九號

御料地ト國有林野トノ境界測量ノ義ハ從來兩者ニ於テ各自施行致居候處右ハ相互重複ノ事業ニ屬シ候ニ付自今便宜ノ爲メ一方ニ於テ施行濟ノ箇所ハ他ノ一方ニ於テハ實地ノ測量ヲ省キ前者ノ設置シタル點及其成果ヲ既定件トシテ相用度而シテ右御同意ノ上ハ界標設置ノ方法及ヒ其他ハ相互左ノ條項ニ依リ候事ニ致度此段及協議候也

明治三十五年一月十三日

農商務大臣宛

追而御料局地方部局名並其管轄區域ハ客年三月二十日附第二六三號照會ニ依リ御承知相成度候也

一 御料局地方部局又ハ大林區署ニ於テ御料地ト國有林野トノ境界ヲ査定セントスル場合ハ其著手ヨリ凡ソ十五日以前ニ於テ他ノ一方ヘ其旨ヲ通知シ立會ヲ請求スル事、査定ノ後新ニ界標ヲ増置スル場合亦同シ

二 御料地ト國有林野トノ終始ノ界點ニハ石標ヲ設置スル事

三 御料地ト國有林野トノ界線ト國、郡、市、町、村、界線トノ觸接點、交叉點並ニ分水嶺境界線ノ終始點ニハ石標又ハ其他ノ堅固ナル界標ヲ設置スル事

四 第二項第三項及其他ノ保存點ノ前後界點中ノ一點ニハ其保存點ニ設置スヘキ界標ト同種類ノ界標ヲ設置スル事

五 前項ノ場合ニ於テ其保存點ト前後界點トノ距離極メテ接近セル場合ハ保存點ヨリ見透シ得ヘキ他ノ界點ヲ選ム事

六 測量著手ノ時期ハ著手前ニ於テ其終了ノ時期ハ終了

國有林野 測量、境界査定、境界標

- 七 測量終了ノ個所ニ對スル境界點間ノ方位及距離境界點ノ縱橫距(縱橫線)及高程三角點ノ成果(參謀部設置ニ係ルモノハ此限リニ在ラス)實測圖等其測量ノ成果ハ他ノ一方ノ請求ニ依リ之ヲ送付スル事
- 八 御料地ト國有林野トノ境界測量後他ノ一方ニ於テ其界線ニ繼續セル他ノ所有地トノ界線ヲ測定セントスル場合ハ前測量ニ於ケル既設點ノ成果ヲ其測量ノ基準トスル事

(乙號) 林第三三三號

明治三十五年一月十三日付御料局三十四第七一三九號ヲ以テ御料地ト國有林野トノ境界測量ハ互ニ前者ノ設置シタル點及其成果ヲ使用スルノ件御協議ノ趣了承異議無之候條此段及回答候也

明治三十五年二月 日

農商務大臣

宮内大臣宛

境界査定線改正ニ關スル件

明治三十六年二月 林發第一四七七號通牒

國有林野境界線改定ノ義ニ關シ自今左記ノ通取候條コトニ決定相成候條御了知相成度此段依命及内牒候也

處理方法

- 一 國有林野法施行以前ニ査定シタル境界線ハ隣接地所有者ニ於テ異議ナキ場合ノ外之レカ改定ヲ行ハサル

二 國有林野法ニ據リ査定シタル境界線ハ之ヲ改定セザル事

牧草ノ栽培若ハ收穫等ニ注意セシムルハ勿論尙地方代表者ヲシテ當該地ニ於ケル實驗ノ材料ヲ提供セシメ林區署吏員ト熟議ヲ遂クルヲ要ス

放牧限定地ノ決定ニ際シ放牧地ノ不足スルカ若ハ土地ノ狀況上止ムヲ得サル場合ニアリテハ慣行地中ニ於ケル成林地内ニモ放牧ヲ許可シ同一地域内ニ於テ林牧兩業ヲ營マルルコトアルヘシ

限定セラレタル放牧地ハ從來ノ如ク隔障物ヲ設ケルコトナク漫然之カ使用ヲ許ササルヲ以テ成ルヘク天然ノ地形ヲ利用シテ其ノ區域ヲ定メラルヘキモ特ニ奔逸ノ虞アル場合ニハ適當ナル隔障物ヲ設ケサルヘカラス而シテ之カ種類ニ付テハ成ルヘク經費ヲ要セスシテ永久的ノモノヲ選フヘク又之カ築設費用ハ官民共同シテ負擔スルコトトナリタルヲ以テ其ノ區域及保存ニ關シテハ林區署吏員ニ熟議ノ上決定スルヲ要ス

放牧限定地ノ決定ニ際シ馬匹一頭當リ所要面積ハ左ノ要領ニ依リ計算スルモノトス

- (一) 一馬一日當リ啖食草量ニ放牧日數ヲ乘シ標準地ノ食草量ニテ除シタルモノヲ啖食量ニ對スル一馬全放牧期ノ所要面積トス
- (二) 一馬一日當リ蹄傷草量ニ放牧日數ヲ乘シ標準地ノ總生草量ニテ除シタルモノヲ蹄傷量ニ對スル一馬全放牧期間ノ所要面積トス
- (三) 前二項ノ面積ヲ加ヘタルモノヲ一馬所要限定放牧地面積トス

一馬一日啖食草量及蹄傷草量ハ共ニ生草十貫匁宛トス

草ノ發生ハ地方ニ依リ區々ニテ其草量ヲ一定スルコト

八 國有林野畜産供用地

馬産ニ供用スヘキ國有林野ノ件

大正五年七月十五日馬發第一〇〇八號 各地方長官宛 馬政長官 通牒

馬産ニ供用セムトスル國有林野ニ關シ陸軍省ハ農商務省ト交渉ヲ重ネタル結果從來放牧又ハ探草ノ慣行アル國有林野ヲ林區署ニ於ケル施業林地ト馬産事業上必要ナル放牧並探草地トニ分割シ馬匹ハ其ノ現在數ヲ維持スルノ目的ヲ以テ右頭數中從來國有林野ニ依リ生産飼育シタル慣行アルモノノ爲限定地ヲ設ケラルルコトト相成候ニ付テハ別記各項ヲ一般ニ知悉セシメ林區署ニ於テ該供用地ノ限定ヲ爲スニ當リテハ熟議ヲ遂ケ遺憾ナキヲ期セシメラレ度又一旦限定地決定ノ上ハ慣行ニ他ノ國有林野ノ使用ヲ許サレサルヲ以テ從來ノ如ク林野ヲ飽漫ニ使用セシメヌ努メテ使用方法ノ改善及生草ノ改良増殖ヲ期スル様保護督勵セラレ永久ニ之ヲ利用シ得セシムル様特ニ御配慮相成度候也

別記

- 一 放牧並探草限定地ヲ決定スルニハ地方從來ノ慣行ヲ基礎トシ部落ノ遠近ト地勢トヲ顧慮シ成ルヘク地方人民ノ希望ヲ充タサルヲ管ナルモ林業ノ經營ハ逐年集約ニ進ムヲ以テ他日再ヒ此ノ限定地ヲ變更セムトスルハ容易ナラサルヘキニ付之カ決定ニ際シテハ成ルヘク地方廳吏員並町村吏員立會ノ上地形地質蟲害水利草質等馬廄ノ榮養發育ニ至大ノ關係ヲ有スル事項並野草ノ培養

馬産ニ供用スヘキ國有林野ノ件

國有林野 國有林野畜産供用地

能ハサルヲ以テ地方代表者ハ林區署吏員ト共ニ成ルヘク地方廳吏員及町村吏員立會ノ上左記二項ニ依リ實地調査ヲ行ヒ其ノ數量ヲ決定スルモノトス

(イ)草發生ノ異ナル地方毎ニ其限定セラレムトスル放牧地ニ就キ適當ナル面積ノ標準地ヲ選ミ其生草ヲ刈取リテ食草ト不食草トノ數量ヲ各別ニ計算ス

(ロ)野草收穫ハ開花時ニ於ケル草量ヲ基準トス

(ハ)不食用トハ概ネ羊齒類(わらび、ぜんまい、とくさノ類)菊科(よもぎ、あざみ、おみなへし、しおんぶき、あれぢのさくノ類)藜科(あかさノ類)繖形科(とくぜり、のだけノ類)毛茸科(とりかぶと、からまつさうノ類)燈心草科(みぜきしやうノ類)莎草科(ふとろ、すげノ各種、てんつきノ各種、かやつりノ各種)等ニ屬スル雜草トス

放牧期間ハ地方ニ依リ少キハ百日多キハ二百日以上ニ互リ區々ニシテ一定セサルモ此ノ期間ハ放牧地ノ保護上將來百五十日ヲ超過セシメサルヲ適當トス

放牧限定地トシテ使用ヲ許可セラルヘキ國有林野ノ面積ハ一馬所要放牧地面積ヲ算定シタル後之ニ放牧全頭數ヲ乘シタルモノトス

限定地ニ於ケル放牧頭數ノ最大限度ハ放牧地ノ荒廢ヲ防ク爲メ限定ニ際シテ決定セル頭數ヲ超セサルヲ要ス

探草限定地ノ決定ニ際シ馬匹一頭當リ所要面積ハ左ノ如ク計算スルモノトス

(一)一馬一日ノ啖食草量ハ舍飼日數ヲ乘シ標準地ノ食草量ニテ除シタルモノヲ啖食量ニ對スル一馬全舍飼期間ニ要スル面積トス

(二)一馬一日ノ敷草量ニ舍飼日數ヲ乘シ標準地ノ總生草

量ニテ除シタルモノヲ敷草量ニ對スル一馬全舍飼期間ニ要スル面積トス

(三)前二項ノ面積ヲ加ヘタルモノヲ一馬所要探草地ノ限定面積トス

一馬一日ノ啖食草量及敷草量ハ前記ノ如ク協定セラレタルモ穀皮、豆殼其ノ他ノ雜物ヲ供給スルトキハ之ヲ差引計算スルモノトス然レトモ馬匹ハ元來草食動物ニシテ草ヲ與ヘサレハ其素質ヲ著シク不良ナラシムルモノナルヲ以テ雜穀物ハ補食トシテ與フヘキハ當然トス

探草限定地ニ於ケル生草量ハ前記放牧限定地面積ノ計算ニ於ケルト同一要領ニ依リ實地調査ノ上決定セララルモノトス

探草限定地ニ充ツヘキ國有林野ノ面積ハ一馬所要探草地面積ヲ得タル後之ニ國有林野内ヨリ舍飼中ノ食草及敷草ヲ供給セル慣行アル馬匹全頭數ヲ乘シタルモノトス

放牧馬數ト舍飼馬數トハ各地毎ニ之ヲ實地ニ調査シ個々ニ區別シテ計算シ又他地方ヨリ預託サル馬匹モ其ノ慣行アルモノハ其ノ地方ノ實數中ニ加算シテ所要收野ヲ算定セラレ當歳ノ馬匹ハ二頭ヲ以テ一頭ニ算入セラルモノトス

放牧並探草地ヲ限定スル爲メ一馬一日當リ所要草量ハ前記ノ如ク定メラルルモ草質若ハ馬匹ノ種類等ニ依リ實際上過不足アル場合ニ於テハ其ノ草量ヲ相當修正セララル管ナルヲ以テ成ルヘク速ニ其ノ事實ヲ證明シ相當ノ手續ヲナスヲ要ス然ラサレハ放牧地ヲ荒廢ニ陥ラシメ又ハ舍飼期間馬匹ヲ甚シク疲瘠骨立セシメ其ノ發育ヲ阻害スルノ虞アレハナリ

九

町村有地又ハ民有地ニシテ現在産馬ニ使用スルモノハ放牧地タルト探草地タルトヲ問ハス産馬供用地トシテ之ヲ使用スルハ當然ニシテ其ノ不足ヲ國有林野ニ仰クヘキモノトス然レトモ個人有若ハ他町村民等ノ所有ニ依リ永久産馬ニ使用シ得ルノ確保ナキモノハ其ノ事實ヲ證明シテ之ヲ除外シ得ルモノトス又御料林野ニ關係アル地方ハ其ノ地方地區ノ決定ヲ待チテ國有林野ノ限定ヲ解決セラルルモノトス

各地ノ飼養慣習其他諸般ノ狀況ニ依リ所要面積算定ノ數字及放牧地ノ周圍ニ設ケル障礙物ニ對スル地元トノ協定條件ノ如キハ前記ノ如ク全國一律トナシ難キ場合アルヘシ

十

産馬地方ニ於ケル不要存置國有林野ハ格別ノ支障ナキ限リ要存置トナシ之ヲ使用セシメラルコトトナレリ然レトモ地元ニ於テ共有放牧地若ハ探草地トシテ特賣ヲ希望スルモノニ對シテハ成ルヘク其ノ出願ニ應ヒテラレヘキニ付林區署ノ都合ニ依リ拂下ケラルヘキ林野ニシテ產馬上必要ナルモノハナルヘク之ヲ買收シテ利用スルヲ要ス

十一

放牧地ニハ從來立木殆ト皆無ナリシモ斯クテハ風雨炎暑ヲ避ケル場所ナク昆蟲ハ益々其ノ威ヲ逞フシ無益ニ馬匹ヲ苦シムルヲ以テ適當ナル立木ヲ殘存シ若ハ新々ニ天然生ヲ發生セシムルヲ可トスルニ付立木數及其ノ位置(集合的又ハ散的)ハ限定ニ際シ林區署吏員ニ熟議シテ適當ニ定ムルヲ要ス

十二

放牧地ニアリテハ害蟲及病菌ヲ驅除スル等ノ爲メ相當ノ期間ニ於テ火入ヲ爲スノ必要アルトキハ許可セララルコトトナレリ然レトモ火入ハ大體ニ於テ草ノ發生

十三

馬産ニ供用スヘキ國有林野ノ件 國有林野中馬産供用地ノ件

十四

ヲ書スルヲ以テ決シテ猥リニ之ヲ行ハサルヲ要ス

從來國有林野ハ各馬毎ニ料金ヲ支拂ヒ年々之カ供用ヲ許可セラレアリシモ斯クテハ年々契約書ノ書換ヘニ無益ノ手續ト經費トヲ要スルヲ以テ限定地決定ト同時ニ長期繼續(十五ヶ年以内)ノ面積供用ニ改メ保護監督ノ便宜上成可ク町村ニ供用セシメラルル事トセリ

造林其ノ他政府ニ於テ事業ヲ施シタルカ爲メ近年放牧又ハ探草ノ慣行ヲ失ヒタル事實明瞭ナルモノニアリテハ地方ノ狀況ニ依リ特ニ慣行アリシ國有林野ヲ限定地トシテ其ノ使用ヲ許可セラルルカ又ハ他地方ニ預託ヲ承認セラルルヲ以テ事由ヲ具シ出願ノ手續ヲ爲スヲ要ス

國有林野中馬産供用地ノ件

大正五年八月三十日林第五五四號
關係地方長官宛 山林局長通知

國有林野中馬産供用地ノ件ニ付テハ多年馬政局トノ間ニ懸案ト相成居候處結局別紙甲、乙、丙號寫ノ通解決致此ノ旨各大林區署ヘモ夫々通知致置候ニ付御了知相成候様致度此段及通知候也

甲 號
馬發第七三二號
大正五年五月十三日

馬政長官

山林局長殿
本月十二日附林第五五四號ヲ以テ御回答相成候馬産供用地ノ儀ニ關シ附記御申越ノ件當局ニ於テ異存無之候條御了知

國有林野 國有林野畜産供用地

相成度候也

林第五五四號

大正五年五月十二日

山林局長

馬政長官殿

五月五日附馬發第六八三號ヲ以テ御照會相成候馬産供用地ノ件ニ付テハ左記條件ノ下ニ全部同意致候此段及回答候也
追テ放牧ノ爲ニハ現行法規ニ依リ長期繼續ノ使用ヲ許可スル儀ト承知相成度申添候

- 一 各地ノ飼養慣習其ノ他諸般ノ狀況ニヨリ所要面積算定ノ數字及貴照會第三項ノ隔障物設置ニ對スル地元トノ協定條件ノ如キハ必スシモ全國一律トナシ難キモノアルコト
- 二 放牧地及採草地ハ從來慣行アル地域中ニ於テ林業上特殊ノ必要アル場合ノ外相當ノ面積ヲ限定使用セシムルコト
- 三 放牧地及採草地ノ使用ハ從來ノ如ク鹿漫ナル取扱ヲナサシメテ努メテ使用方法ノ改善及生草ノ改良増殖ヲ期スル様十分督勵セラルコト
- 四 國土保安及地方維持ノ爲限定地ニ於ケル收容頭數ノ最大限度(限定地分割當時ノ頭數)ヲ定ムルコト
- 五 貴照會第九項ノ御料地ニ慣行アリタル頭數ハ依然御料地ニハ飼育シ得ル様措置セラルルヲ希望スルモ萬一非常ノ困難ヲ來スカ如キ場合ニハ此ノ際ニ限リ國有林野ノ慣行地中ニ於テ特ニ例外トシテ限定地ヲ設ケルコト

三二四

馬發第六八三號

大正五年五月五日

馬政長官

山林局長殿

馬匹放牧地等ノ件ニ關シ大正三年十月馬發第二二五八號照會ニ對シ同年十二月林第三六〇三號ヲ以テ御答相成候處其ノ後數回交渉ノ結果更ニ別記ノ通修正致候間至急何分ノ御回答相煩度此段御協議旁重テ及照會候也

- 一 馬匹ノ頭數ハ内地(北海道沖繩縣ヲ含ム)ニ於テ百五十八萬頭ヲ保持スルノ必要アルニ付右頭數中從來國有林野ニ依リ生産飼育シタル慣行アル分ハ依然國有林野ニ於テ之ヲ保持スルノ方針ヲ以テ處理セラレタキコト
- 二 限定セラルヘキ放牧地採草地ハ地方從來ノ慣行ヲ基礎トシ部落ノ遠近ト地勢トノ顧慮シ成ルヘク地方人民ノ希望ヲ充スヘク又土地ノ狀況ニ依リ若ハ放牧地ノ不足ナル場合ニ於テハ慣行地中混牧林業(成林地内ニ放牧ヲ許可スルコト)ノ方法ヲモ採用セラレタキコト
- 三 限定セラルヘキ放牧地ノ周圍ニ隔障物ヲ設ケラレントスルハ損害ヲ他ニ及ホササル爲止ムヲ得サル次第ナルヲ以テ成ルヘク天然ノ地形ヲ利用シテ其ノ區域ヲ定メラレタキコト
- 四 放牧地限定ノ爲馬匹一頭當リ所要面積ノ算定ハ左ノ各項ニ依ラレタキコト
(イ)放牧馬匹一頭一日ノ啖食草量及蹄傷草量ハ共ニ生草十貫匁トス

- (ロ)各地方ニ於ケル生草量ハ可成關係地方廳吏員町村吏員立會ノ上地方ノ異ナル毎ニ林區署吏員地方代表者ト共ニ實地ノ調査ヲ行ヒ其ノ數量ヲ決定スルモノトス
- (ハ)生草調査ニ於ケル野草收穫ノ時期ハ開花時ニ於テシ又食草ト不食草トヲ區別スルモノトス
- 五 採草地限定ノ爲馬匹一頭當リ所要面積ノ算定ハ左ノ各項ニ依ラレタキコト但シ左記ノ標準量ヨリ穀皮豆殼其ノ他雜物供給ノ量ヲ差引計算セラルルモノトス
(イ)舍飼馬一頭一日ノ啖食草量ハ生草十貫匁トシ放牧地ニ於ケルト同様採草地ノ草量モ亦實地ニ調査シテ決定スルモノトス
- 六 (ロ)數草ハ一頭一日生草五貫匁トス
放牧地採草地ヲ限定スル爲馬匹一頭一日ノ啖食草量、蹄傷草量及數草等ハ第四、第五項ノ如ク其ノ數量ヲ協定セラレタルモ實際上過不足明カナル場合ニ於テハ相當修正セラレタキコト
- 七 放牧馬數ト舍飼馬數トハ各地毎ニ之ヲ實地ニ調査シ箇々ニ區別シテ計算シ又地方ヨリ預託サル馬匹モ其ノ慣行アルモノハ其ノ地方ノ實地中ニ加算シテ所要牧野ヲ算定セラレ當歲ノ馬匹ハ二頭ヲ以テ一頭ニ計算セラレタキコト
- 八 採草限定地ハ將來野草ヲ培養シ牧草ヲ栽培シ得セシメ又收穫ヲ利便ナラシムル爲可成平坦地ヲ必要トスルヲ以テ借受人ト熟議ノ上決定セラレタキコト
- 九 町村有又ハ民有地ハ現在產馬ニ使用スルモノノミヲ供用地ト認メ國有林野ノ限定面積ヲ差引セラレ又御料地ニ關係アル地方ハ其ノ決定ヲ待テ國有林野ノ限定ヲ解

國有林野中馬産供用地ノ件

國有林野中馬産供用地ノ件

大正五年七月十一日
林第五五四號山林局長通牒

國有林野中放牧地採草地トシテ馬産ノ爲供用セシムル區域ノ分割ニ對シテハ豫メ其ノ主管廳ト協議中ノ處別紙甲號乃

三一五

國有林野 國有林野畜産供用地

至庚號書類ノ如ク往復ヲナシ協定ヲ遂ケタルニ付之カ調査ハ主トシテ乙丙號ノ趣旨ニ依リ林業ト馬産トノ調和ヲ圖リ兩者共遺憾ナク處理スルコトニ取扱相成度此段依命及通牒候也

甲 號 (前掲大正五年五月十三日馬發第七三二號)
乙 號 (前掲大正五年五月十二日林第五五四號)
丙 號 (前掲大正五年五月五日馬發第六八三號)
丁 號 (前掲大正五年五月五日馬發第六八三號)
林第五五四號
大正五年三月二十四日

陸軍大臣殿

農商務大臣

二月二十八日附陸普第五七八號ヲ以テ照會相成候馬匹放牧並採草地ニ關スル件ニ付テハ當省ニ於テモ極メテ重要ナル問題トシテ兼々林牧兩面ヨリ慎重ノ調査ヲ果テ產馬事業ヲシテ永遠ニ安固ナラシムルコトニ焦慮シ居ル義ニシテ全ク貴見ト御同感ノ次第ニ有之候尤之カ實施ニ付テハ各地ノ飼育慣習其他諸般ノ狀況ニ照シ適切ナラシムルコトヲ期セサルヘカヲサカ力故ニ所要面積算定ニ關スル數字ノ如キハ全國ヲ一律トスルハ却テ事實ニ於テ正鵠ヲ得サルモノアルヲ以テ其細目ニ至リテハ或ハ御意見ト一致シ難キモノ可有之ト存候得共要スルニ林牧兩業ノ圓滿ナル調和ヲ計リ斯業ノ前途ニ對シ專ラ實地ニ適合セシムルヲ主眼トシテ處理ノ見込ニ有之候尙御照會各項ハ去ル三年十月馬第二二五八號ヲ以テ馬政局ヨリ當省主務局迄申越サレタルモノト始メ同様ニシテ當省意見ハ其ノ際當該局長ヲシテ詳細回答セシメ候處ト別ニ異リタル廉無之候條右御了承相成候様致度此段及回答候也

戊 號

陸軍大臣殿
陸普第五七八號
大正五年二月二十八日

農商務大臣殿

陸軍大臣

牧野ノ產馬事業ニ必要ニシテ斯業ノ興廢ハ係リテ牧野ノ有無ニ存スルハ言フ俟タサル所ニ有之而シテ產馬地方ニ於テ從來慣用セル放牧採草地ハ國有林野其ノ大部ヲ占メ居候處是等地方ニ對シ林業經營上馬産ニ關スル使用地區ヲ限定可相成趣ニ候得共之カ爲產馬事業ニ支障ヲ生スルカ如キコト有之候ハハ斯業ノ前途ニ對シ憂慮ニ堪ヘサル次第ニ候條別紙各項御承認ノ上可然御取計相成候様致度此段御依頼旁及照會候也

記

- 一 產馬ノ爲使用スル放牧並採草地ハ成ルヘク少數ノ箇所ニ集メテ之ヲ限定セントスル御方針ノ由ナルモ斯クテハ同一ノ土地ヲ數多ノ町村又ハ部落ニテ共同使用セサルヲ得スシテ之カ爲某町村又ハ某部落ハ使用地域ニ甚々遠サカリ又共同使用ハ土地ノ保護監督等頗ル困難ニシテ粗漫ニ流レ易キヲ以テ特ニ之ヲ少數ノ箇所ニ集ムルカ如キコトナク地方從來ノ放牧又ハ採草地ノ慣行ヲ基礎トシ部落ノ遠近ト地勢トヲ顧慮シ成ルヘク地方人民ノ希望ヲ參酌シテ之ヲ選定セラレ又放牧地ノ不足スル場合若ハ土地ノ狀況等ニ依リテハ慣行地タリシ造林地内ニモ放牧ヲ得ルノ方法ヲ採用セララルコト
- 二 馬匹一頭ニ要スル放牧地面積ハ左ノ各項ニ依リ算定スルヲ承認セララルコト
- 一 放牧馬匹一頭一日ニ要スル啖食草量及蹄傷草量ハ共

五

一 數草ハ一頭一日生草八貫トシテ計算セララルコト
馬匹一頭一日ニ要スル啖食草量、蹄傷草量及數草等ハ前項ノ如ク計算セララルモ地質又ハ草質等ノ關係上過不足スルコト明ナル場合ニ於テハ限定地ノ面積ヲ相當修正セララルコト
放牧馬數ト舍飼馬數トハ各地毎ニ實地調査ノ上各別ニ計算シ又他地方馬匹ノ預託ヲ受ケテ放牧スルカ又ハ舍飼スル慣行アル地方ハ其ノ預託馬數ヲ當該地方ノ馬匹數ニ加算セララルコト但シ當該馬匹ハ二頭ヲ以テ一頭ノ割合ニ計算セララルコト
國有地ニ造林又ハ其ノ他ノ施設ヲ爲シタルカ爲放牧又ハ採草ノ慣行ヲ失ヒタル地方ニ對シテハ更ニ國有地ヲ產馬事業ノ爲限定セララルカ又ハ新ニ他地方へ預託シ得ルコトヲ認メララルコト

國有林野中馬産供用地ノ件

六

一 採草地ハ野草ヲ培養シ若ハ牧草ヲ栽培シ及其ノ採集ヲ容易ナラシムル爲成ルヘク平坦ニシテ利便ナル土地ヲ限定セララルコト
町村有又ハ共有ノ土地ハ現在產馬事業ノ爲使用スル面積ノミヲ馬産供用地ト認メテ產馬ノ爲限定スヘキ國有林野ノ面積ヲ査定セラレ又御料林野ニ付テハ國有林野同様に產馬供用地ヲ限定セラレントスル趣ナルヲ以テ御料林野トノ關係アル地方ハ其ノ限定ヲ待テ國有林野ヲ限定セララルコト

七

一 從來ノ放牧地ニハ殆ト立木ナキカ爲放牧馬ハ風雨炎暑及昆蟲ニ苦ミ居ルヲ以テ放牧地ニハ必適當ナル立木ヲ要スル次第ニ付限定セラレヘキ放牧地ニハ地方民ト熱議ノ上必要ナル立木ヲ殘存シ又ハ新ニ之ヲ發生セシメララルコト

八

一 放牧又ハ採草ノ慣行アル必要存置ノ國有林野ハ產馬事業ノ爲地元ニ於テ買受ヲ希望スルモノノ外ハ別段ノ支障ナキ限り要存置ニ改メ產馬事業ノ爲貸下ケラルコト

九

一 林野ノ火入ハ特定ノ場合ヲ除クノ外禁止セラレアルモ害蟲又ハ病菌ヲ驅除スル等ノ爲相當ノ時期ニ於テ火入ヲ爲スノ必要アルトキハ之ヲ許可セララルコト

十

一 從來產馬事業ノ爲使用セル國有林野ハ各馬毎ニ料金ヲ支拂ヒ年々使用ノ許可ヲ受ケルモ斯クテハ毎年願書等ノ書キ換ヘノ爲ニ手續ト經費トヲ要スルヲ以テ產馬事業ニ供用スル限定期決定ト同時ニ長期繼續ノ面積貸與ニ改メ成ルヘク町村ニ之ヲ貸與セララルコト

己 號

林第三六〇三號

大正三年十二月十五日

農商務省山林局長

馬政長官殿

十月六日附馬發第二二五八號ヲ以テ協議越サレタル馬四ノ放牧採草地ニ關スル件ハ別記ノ通ニテ御承知相成度此段及回答候也

追テ本件ハ専ラ青森大林區署管内ニ係ル解決事項ナルモ本主旨ハ他大林區署管内ニ於ケル產馬事業ニ關シテモ之ヲ標準トシテ處理可致積リニ付此儀豫テ御承知相成度ニ

記

- 一 放牧並採草限定地域ヲ小數ノ箇所ニ合同スル上ニ於テハ一般ニ關係部落ノ遠近慣行等ノ狀況ニ付充分考慮ノ上決定シタルモノナレトモ一面又林牧兩業ノ間其ノ永遠ノ調和ト安固ヲ企圖シタル爲一時御來示ノ如キ事情ヲ生スルコトアルハ或程度迄已ムヲ得サル現象ナリ尤調査十分ニ行届カサリシモノナキヲ保シ難キニ付若シ著シク不利不便ノモノアルニ於テハ適當ノ時機ニ於テ相當ノ修正ヲ加フルコトニ躊躇セス
- 二 拒馬ノ爲ニ天然地形ヲ利用シテ其ノ區域ヲ定ムルハ當局亦同感ナレトモ實際ニ於テハ斯クスルコト能ハサルモノアリ依テ特ニ奔逸ノ虞アル場所ハ官民協同ニテ相當ノ設備ヲナシ放牧上ノ善慣習ヲ誘致スルト同時ニ限定地外ノ損害ヲ輕減スルノ策ニ出テタキ主意ニシテ漫然當業者ニ堪ヘ得ヘカラサル負擔ヲ課スルモノニ無之要スルニ此等實施ノ方法程度ハ豫メ一律ヲ以テ推シ難キモノアレハ大林區署ト當業者トノ協定ニ委シテ其ノ方法ヲ講セシムルヲ以テ足レリトス
- 三 啖食量及蹄傷量ハ相當調査ノ上標準ヲ立テタルモノナ

レトモ事實ニ於テ萬一草量ノ不足スルコト明カナルモノアルニ至ラハ之カ相當ノ修正ヲ爲スヘシ尤曾テ御送付ニ及ヒタル調書ニ對シ爾來尙精査ヲ遂ケシメツツアレハ其結果放牧地ハ概シテ増加スヘキ見込ナルニ付差當リ諸單位ヲ更改シテ再調スルノ必要ヲ認メス
 半放牧ヲ以テ全舍飼若ハ全放牧ト看做スコトハ事實ニ遠サカルノ感アリ又半放牧ノ舍飼料ハ之ヲ計算シタルモノナリ
 生草量ノ調査ニ付縣官以下ノ立會ハ實際ニ於テ悉ク之ヲ行フハ不可能ノ見込ナルモ將來可成御意見ノ次第ニ則リ調査スルヲ期スヘシ
 調査時期以下ノ事ニ付テハ御協議ノ趣旨ニ副フ様取計フヘシ

- 四 前項ト同様ニ御承知相成リタシ尤舍飼中ハ穀皮豆殼其ノ他多少ノ雜食物ヲ加フルヲ以テ實際ニ於テ差シタル支障ナキ見込ナリ
- 五 馬匹ノ頭數ハ實地調査ノ上若シ相違セルモノアラハ相當ノ修正ヲ加フヘシ預託飼養ノ放牧頭數ハ從來慣行アルモノハ總テ加算シアリ
- 六 御料地並民有地ハ現在馬產上使用セルモノノミヲ計算シタルモノニシテ其ノ全部ヲ掲上シタルモノニハアラハス而シテ御料地ニ在リテハ從來ノ慣行ニヨル放牧頭數ハ依然御料地ニ放牧シ得ルモノトシテ計算スルコトニ致スヘシ
- 七 森林ノ事業上特別ノ支障ナキ限り可成御來意ノ趣ヲ參酌スヘシ

馬政長官

農商務省山林局長殿

疊ニ貴局ヨリ御回付ニ接シタル放牧採草地調査表ニ基キ實地調査ノ結果當局ノ意見並希望別記ノ通ニ候條此段及御協議候也

記

- 八 ナル問題ヲ生スルノミナラス折角林牧兩業ノ間永遠ニ涉ル安固ヲ期セントスル上ニ於テ彼此障害タルヘシ從テ本件ハ兼々御協議ニ及ヒタル通從來ノ慣行地域ニ限定シ置キ度シ
- 九 放牧地休養ノ目的ヲ以テ幾分ノ割増ヲ見込ムトスルモ現在ニ於テ第二項ノ如ク拒馬設備ニモ困難ヲ感セルノ事實ナレハ一定ノ地域ヲ區劃休養セシムルカ如キ到底行ハレ得ヘキニアラス結局薄ク廣ク連年使用スルニ止マルヘク旁實際ニ於テ目的ヲ達シ難キ感アリ尙林區署調査ニ於テモ此邊ニ付相當ノ注意ヲ拂ヒタル義ナレハ實行者ノ心掛如何ニ依リテハ多少休養ノ餘地アリト信ス
- 十 御協議ノ趣ハ當局亦同感ナルヲ以テ相當改善ノ手段ヲ執ルヘシ
- 十一 國有林野管理上格段ノ支障ナキ場合ニシテ資力アル地元ニ於テ買受希望アルモノノ外御來意ニ應シ差支ナシル所ニ依レハ強チ結果ヲ認メス寧ロ生草量ヲ増加シ草質ヲ改善セシメタル實例尠カラズ然レトモ害蟲又ハ病菌ヲ驅除シ畜類ノ刺傷ヲ豫防スル等ノ爲相當ノ時期ニ於テ火入ヲナス必要ヲ認メサルニアラス依テ三年ニ一回ト豫定セシ現實必要ノ時期ニ至リ火入ヲナスカ如キハ許可シ差支ナキ見込ナリ
- 十二 大體ニ於テ御希望ニ應スヘキ見込ナリ

庚 號

馬發第二二五八號

馬政長官殿 馬政長官殿

大正三年十月六日

國有林野中馬產供用地ノ件

- 一 放牧並採草限定地ハ成ルヘク小數ノ箇所ニ集メテ使用セシムル貴局ノ方針ハ林牧兩業ヲ全然區別スル爲並隔障物ノ距離ヲ減スル上ニ於テハ多少利便アルモ之カ爲メ數ヶ村若クハ數多ノ部落同一ノ放牧地若クハ採草地ヲ共同使用セサルヘカラスシテ往々甚々遠隔シ加之甚々困難ニシテ草ノ保護ハ殆ント不可能ナリ若シ之ヲ分割使用セシメントセハ時トシテ放牧地區ヲ小ナラシメ天然放牧ノ利益ヲ害スルヲ免レサルニ至ルヲ以テ強テ之ヲ小數箇所ニ集ムルカ如キコトナク地方民ノ希望ヲ參酌シ從來ノ慣行ヲ基礎トシ部落ノ遠近ト地勢トヲ顧慮シテ之ヲ選定シ又所謂混牧林業ノ方法ヲモ採用セラレンコトヲ望ム
- 二 放牧地ノ周圍ニハ拒馬ノ爲メ土壘、木柵、溝渠又ハ生垣等ヲ築設スルハ從來ノ如キ濫放牧ヲ避クル上ニ於テ必要アルハ勿論ナリト雖モ長距離ニ亘リ之ヲ永久ニ保存セシメント甚々困難ニシテ到底馬匹ノ脱出ヲ免レサルヲ以テ地方民ノ苦痛ヲ減センカ爲放牧地ノ境界ハ成ルヘク天然ノ地形ヲ利用シ得ル如ク選定セラレ又貴局新造林地ニ對シテハ馬匹ノ闖入ヲ除ク爲相當ノ隔障物ヲ築設セラレンコトヲ望ム
- 三 馬匹一頭當リ放牧面積ハ青森大林區署調査第二表ニ依

國有林野 國有林野畜産供用地

四

算出セラレ放牧期間馬匹一頭當り啖食量十貫蹄傷量十貫乃至十二貫トアルモ啖食量及蹄傷量ハ地方ニ依リ異ナルモノニアラサルヲ以テ總テ啖食量ハ十一貫(十貫乃至十二貫ノ平均)蹄傷量ハ十二貫トシテ計算セラレ...

五

一頭當り所要乾草量一貫五〇〇乃至三貫敷草一貫乃至二貫トセラレアリ此乾草量ニ就テハ曩ニ本局ヨリ二貫五〇〇乃至三貫トノ意見ヲ提出シタルモ現在産馬地方ノ草質不良ナルヲ以テ乾草三貫敷草若干(少ナクモ二貫以上)トシテ計算セラレタシ又一町歩ノ生草量ヲ放牧地ト同様各地方毎ニ實地調査シテ決定セラレ...

六

御料地モ亦全部之ヲ使用スルモノトシテ計上セラレアリ然ルニ此問題ハ如何ニ解決スルヤ不明ナルヲ以テ之ヲ除外シテ計算セラレ...

七

(小島谷、沼宮内ノ一部)其地方ト熟議ノ上成シ得ル限リ適當ナル平地ト變更セラレ...

八

採草地ニハ將來野草ノ改良、牧草並菽、芒等ノ培養ニヨリ其ノ收穫量ヲ増シ得ルノ見込アルモ放牧地ニ對シテハ之ヲ休養スルノ外他ニ良法ナキヲ以テ四年ニ一回休養シ得ル如ク面積ヲ割増セラレ...

九

國有林野中馬産供用地ノ件 不要存置林野ノ年期貸付ニ關スル件

十

從來産馬地方ニ於ケル不要存置ノ賣却セラレタルモノニシテ地方生産者町村若クハ部落ノ所有トナリタルモノ甚々少ナク其ノ大部ハ都會ノ富豪者ニ買收セラレ...

十一

産馬地方ニ於テハ火入ヲ嚴禁セラレ爲ニ著シク生草量ヲ減シ又昆蟲ノ發生夥シク牧畜業者ノ蒙リタル影響實ニ大ナリ故ニ將來ハ地方民ノ希望ヲ容レ三年ニ一回ノ火入ヲ貴局ニ於テ承認セラレ...

十二

從來國有林野ハ馬匹一頭五拾錢以内ノ料金ヲ支拂ヒ、個々ニ之カ使用ヲ許可セラレアリシモ斯クテ八年々契約書ノ書換ヘニ無益ノ手續ト經費トヲ要スルヲ以テ限定期ノ決定ト同時ニ五ヶ年ヲ繼續スル面積貸與ノ方法ニ改メ町村ニ貸付シ之ヲシテ自ラ保護監督ニ任セシメ...

不要存置林野ノ年期貸付ニ

關スル件

大正五年十二月四日 山第一五八五號山林局長通牒

不要存置林野ノ年期貸付ニ付テハ明治三十九年林發第三百三十三號内訓ノ趣モ有之候處永久馬産ノ爲所用セシムルモ

ノハ年明貸付ヲ爲シ追テ要存置ニ變更スルノ取扱ヲナシ差支無之但シ地元或ハ關係組合等カ近キ將來ニ買受ノ意思ヲ有スルモノニ對シテハ依然舊内訓第三ニ依ルコトト承知相成度爲念及通牒候也

馬産ニ供用スヘキ放牧限定地ノ
年期使用料金ニ關スル件

大正六年十二月二十六日
林第二五〇六號山林局長通牒

馬産ニ供用スヘキ放牧限定地ノ年期使用料金算定ニ付テハ客年八月林第二四七三號ヲ以テ内牒致置候處右料金ノ決定ニ際シ通牒ノ標準ト著シク懸隔セル歩合ヲ定メテ一律ニ適用算定ノ向モ有之右ハ畢竟林野ノ時價ニ關スル評定上ノ見解ヲ異ニスル結果ト認メ候條爾今放牧限定地ノ如キ施業ノ制限ヲ受クヘキ性質ノ林野ニ在リテハ單ニ比隣地ノ小面積國有林野ノ賣拂又ハ公私有林野ノ賣買價格ヲ參酌スルニ止メ主トシテ當該地方ニ於ケル從來ノ慣行狀態ニ重キヲ置キ適當ナル時價ヲ評定シ其三分五厘ニ依リ料金ヲ決定シ若シ其ノ結果ガ從來ノ料金ト多大ノ差異アル場合ハ御料及民間林野ノ放牧料等ヲ參酌シテ相當ニ加減ヲナシ決定相成度此段及内牒候也

牛馬放牧ノ爲ニスル國有林野
使用許可ノ件

大正六年六月九日林第一五五八號
秋田大林區署長宛山林局長通牒

調査シタルニ其後大正六年畜牛ノ放牧ニ關スル依命御通牒次第モ有之當署ニ於テハ地方畜産業助成ノ爲大體馬匹ト同様取扱フノ必要ヲ認メ各町村ニ存スル牛籍簿ヲ參酌シ現在頭數ヲ調査シテ其頭數ヲ定メ從來ノ許可區域ハ勿論最近許可ノ慣行ナキモ從來無願放牧採草ノ慣行顯著ナル地域ニ限リ之ヲ許容スルコトトシ其調査方法ハ大體馬匹ノ限定調査ニ準シ馬産用地ノ實地調査ハ客年五月ヨリ畜牛用地ノ調査ニ著手シ秋田岩手兩縣下ハ既ニ終了シ目下山形縣下ノ實地調査ニ著手シ秋田縣知事ヨリ當署調査ノ實況ハ現在畜牛頭數ノ標準トシ又之ニ應スル程度ニ止メントスルモ斯クテハ畜牛ノ頭數比年減小ノ結果現今ハ其極度ニ達シタル折柄ナレハ畜牛獎勵ハ全然將來ニ其望ミヲ絶タサルヘカラサルヲ虞ルルヲ以テ之カ調査ハ現在頭數ニ據ラヌ少クモ明治四十四年頃ノ頭數即現在ニ比シ約三倍ニ挽回増殖ノ餘裕ヲ見込ミ其所要面積ノ限定貨下ヲ希望スル旨農商務次官宛依頼セル由ヲ以テ相當配慮方申込候處右ハ本調査著手當時秋田縣下ノ當業者ニ現在頭數ヲ僞リ大面積ノ放牧地ヲ得ント企テ爲ニ調査上多大ナル手違ヲ生セシ事アリ當署ハ一層現在頭數ノ調査ヲ嚴重ニナシタルニ依リ調査頭數ニ手加減ヲ加ヘラレ度趣旨ヲ以テ申込タルモノニ有之當時縣當局ニ對シ各所一律ニ將來ノ増加頭數ヲ見込ムカキハ更ニ理由ナク只特殊ノ事情アル個所ニハ相當考慮ヲ加フヘキモ調査ノ基礎ハ現在ノ頭數ニ置カサルヲ得ス將來頭數ニ増加ヲ來タセル場合ハ更メテ相當考慮スヘキ旨説明シ當時諒解ヲ得タルモノニ有之依テ新方針ニ基キ爾來調査進行中ニ有之候尤モ本件調査確定ノ上ハ

馬産ニ供用スヘキ放牧限定地ノ年期使用料金ニ關スル件
馬産用採草限定地處理ノ件
馬産用限定地使用又ハ貸付ノ場合報告ノ件

牛馬放牧ノ爲ニスル國有林野ノ使用許可ハ明治三十一年十月戌第二二八號内訓ニ依リ處理相成候處爾今牛ノ放牧ニ關シテハ從來ノ慣行地域ニ限リ十ヶ年以内ニ於テ年期使用ヲ許可シ其料金ハ面積ニ依リ現在ノ放牧料ヲ參酌シ馬ノ放牧料ト均衡ヲ失セサル様適當ニ算定徵收相成度依命此段及通牒候也

畜牛放牧採草地調査ニ關スル件

大正八年十月二十二日山第一五一三號
秋田大林區署長宛 山林局長 回答

十月六日附八務第三八二八號ヲ以テ照會ニ係ル畜牛放牧採草地調査ノ件ハ左記ノ通取扱ハルル様致度此段回答ニ及ヒ候也

- 一 調査濟個所ヲ牛ノ爲ニ供用セシムルハ已ムヲ得サルモ馬産供用地ノ如ク永久的ニ限定ノ意思ヲ表示スルハ時機尙早シト被存候條御含置相成度
- 二 使用料金ハ馬ト異リ普通ノ經濟率ニヨリ算定徵集相成度
- 三 認容頭數、期間、其他ノ取扱ハ大正六年六月林第一五五八號通牒ノ通馬産供用地ニ準シ處理相成度

(大正八年十月六日務第三八二八號秋田大林區署長照會)
畜牛ノ放牧採草地ニ就キテハ大正五年其慣行地ノ大體ニ付

更ニ稟伺ノ上御決定ヲ仰ク等ニ有之候然ルニ過般各大林區署長林務課長打合會議ノ際牛放牧採草地ニ對スル貴局處理方針ハ前述ノ調査處理方針ト多少相違セルモノアル趣ニ付慣行地域認定程度及現在頭數以上認容スヘキカ等ニ付貴局御方針一應承知致度目下調査進行中ニシテ差懸リ居リ候ニ付取急御回示相煩度候也
當署從來ノ調査方法ニ依リ調査ヲ進ムルコトト致度右御含置相成度申添候也

馬産用採草限定地處理ノ件

大正十二年六月五日林第一四八六號
秋田大林區署長宛山林局長 通牒

客年九月林務課長會議ノ際及協議候馬産用採草限定地處理ノ件ハ馬匹放牧限定地同様十年以内ノ期間ヲ以テ漸次年期貸付ニ改メ依テ生草改良增收ヲ圖ラシメラルル様致度此段及通牒候也
追テ貸付料金ハ放牧限定地同様時價ノ三朱五厘ヲ標準トシテ從來ノ生草拂下代金等ヲ參酌決定相成可然申添候也

馬産用限定地使用又ハ貸付ノ
場合報告ノ件

大正十五年八月十五日
山第一〇九一號山林局長 通牒

馬産用限定地ノ年期使用又ハ年期貸付ヲ許可シタルモノニ

付テハ毎年九月末日迄ニ一ヶ年分ヲ取纏メ其ノ箇所、面積、放牧認容頭數、期間、料金及借受又ハ使用者ノ住所氏名等ヲ放牧地ト探草地トニ區分シ契約ノ異ナル毎ニ別項トシテ調査申報有之度尙大正十三年十二月二十日以後許可ノ分ハ本年九月末日迄ニ取纏メ申報有之度此段及通牒候也
追テ現在ノ馬産用限定地ノ府縣別總面積ヲ放牧地ト探草地トニ區分シ尙將來永ク混牧林業ヲ行フ林地アル場合ハ其ノ面積ヲモ調査ノ上本年九月末日迄ニ併テ申報有之度申添候也

馬産上必要ナル不要存置國有林野

賣拂處分方見合ニ關スル件

昭和三年三月十九日畜局第一一八八號
各地方長官宛(北海道ヲ除ク)畜産局長通牒

國有林野ニ屬シ原野狀態ヲナセル五十町歩以上ノ不要存置林野中馬産上ノ必要ニ基キ元馬政局トノ關係ニ依リ其處分ヲ見合セタルモノニシテ共ノ後管轄局ト地方廳ト協議ノ上異議ナキモノハ賣拂處分ヲ爲スモ差支ナキコトニ相成居候處其ノ處分ノ時期等妥當ヲ缺キ爲メニ拂下ノ結果或ハ地元民ニ過重ノ負擔ヲ課シ或ハ馬産上ノ使用困難ナルカ如キコト等有之候テハ賣拂處分見合セノ主旨ニ副ハサル義ニ候條右ニ關シ管轄局ヨリ協議アリタル場合ハ慎重地元ノ事情御取調ノ上馬産上支障アルトキハ當分賣拂見合セ方同局へ御申出相成テ得策ト被認候條右爲念及通牒候也

國有林野馬産限定地使用ニ關スル件

昭和四年四月二十四日
山第三五八號山林局長通牒

馬産用限定地ノ處理ニ關シ別紙甲號ノ通畜産局長ヨリ照會ニ付乙號ノ通回答致置候間右ニ御諒知ノ上相當措置相成度此段及通牒候也
甲 號

國有林野馬産限定地使用ニ關スル件

昭和四年三月二十日畜局第一三五三號
山林局長宛畜産局長照會

國有林野馬産限定地ニ關シテハ年來貴局ノ多大ナル配慮ヲ蒙リ馬産ノ維持振興上裨益スル所尠カラズ然ルニ右限定地ノ使用上管轄局ト使用者トノ意志充分ニ疏通セサル爲カ當業者ヨリ使用ノ困難ヲ訴フルコト有之特ニ左記事項ハ自今當業者ノ要望スル主要ナルモノト認メラレ候當局ニ於テハ限定地ノ改良、牧野ノ集約經營ニ付テハ其ノ促進ヲ圖ル爲大正十三年以來牧野改良獎勵金交付シ來リ民間團體亦銳意ノ力助成ニ努メ昨今稍其ノ曙光ヲ認メ候折柄貴局ノ妥當ナル處務ト相俟チテ益々國土經營馬事振興ニ資スルノ必要アリト認メ候ニ付テハ本件ニ關シテモ當業者ノ希望ヲ充分限定地使用ノ目的ヲ達成致度候條此際宜敷御配慮相煩度此段依頼旁々及照會候也
追テ本件ニ關シテハ貴局ノ處理方針ヲ限定地所在各縣へ通牒スルノ必要有之候條貴見御回示相煩度申添候

一 限定地上ニ於テ隔障物ノ設備、荊棘雜草ノ除去、火入

二

其ノ他ノ改良施設ヲ爲ス場合ハ一々管轄局ノ許可ヲ要シ而モ迅速ニ許可セラレシ往々施業ノ時期ヲ失シ使用ノ目的ヲ達スルコト能ハサル場合アル爲當業者ヲシテ改良ヲ躊躇セシムルノ素因トナルコト尠カラズ由來牧野改良事業ハ甚々困難ナルノミナラス經驗少キタメ官民特殊ノ努力ニ依ラサレハ其ノ目的ヲ達スルコト能ハサルモノト認ムルカ故ニ管轄局ニ於テモ改良ヲ促進スル様激勵セララルト共ニ民間ニ於テ施業スル場合ハ出來得ル限リ便宜ヲ與ヘラレ度
尙將來ニ於テハ牧野内ニ於テ地均シ、畜舎、看視舎、飲料場等ノ築設、灌溉排水、庇蔭樹保護、徑路開鑿等ノ改良施設モ之ヲ行フノ必要アルカ故ニ其ノ施設出願ニ對シテハ充分ノ便宜ヲ取計ハレ度
限定地ハ之ヲ使用スヘキ馬ノ頭數増加ノ爲其ノ面積ニ不足ヲ生スル場合ハ之カ増加ヲ認メラレシ之ニ反シ其ノ頭數減少ノ場合ハ其ノ面積ヲ縮小スルモ借受者ハ異議ヲ申立ツヘカラサル契約トナレルノミナラス岩手縣地方ニテハ面積縮小ノ目的ヲ以テ管轄局ニ於テ調査ヲ行ハレタリシコトアリト當業者ハ脅威ヲ感シタリ斯ノ如キニ於テハ限定地面積ヲ縮小スルノミニテ限定ノ目的ニ副ハサルカ故ニ牧野トシテ利用スルヲ適當トスル土地アルトキハ必要ニ應ジ之ヲ使用スルコトヲ得シメラレタリ又限定地ノ設定廢止及變更ニ關シテハ必ス縣畜産當局ニ合議スル様取計ハレ度
放牧地隔障物築造ノ際ハ其ノ國有林ニ接シタル境界ハ管轄局ト共同負擔ヲ爲スヘキ協定ナルモ管轄局ニ於テハ之ヲ實行セラレサルコトアリ又負擔割合當業者ニノミ多キコトアルヲ以テ將來ハ半額負擔ヲ勵行セラレ度

三

馬産上必要ナル不要存置國有林野賣拂處分見合ニ關スル件
國有林野馬産限定地使用ニ關スル件

四

限定地内ノ立木整理伐ハ山林當局作業上ノ都合ニテ一時之ヲ延期セララルハ止ムヲ得サルモ往々數年間放置シテ實際ノ使用ヲ困難ナラシムルコトアルカ故ニ成ルヘク迅速ニ整理ヲ實行セラレ度
又伐木ノ際庇蔭樹ノ保存等ニ顧慮セララルコト少キハ庇蔭樹育成ノ困難ナル事情上當業者ニ取リ苦痛ナルヲ以テ放牧地探草地共庇蔭樹保存並其ノ方法ニ付テハ適當ニ處置アリ度

五

從來ヨリ國有林野ヲ馬産ニ供用スル慣行アリシ土地ニシテ牧野トシテ限定ヲ受ケル條件ヲ具備セルニ拘ラス未タ限定ヲ取ケス單ニ使用又ハ下草拂下ヲ許可セララルニ止マレル所少カラズ群馬縣吾妻郡及利根郡地方ニ其ノ事例多シ斯ノ如キハ馬産ノ維持上遺憾ナルヲ以テ速ニ限定地ニ編入スル様取計ハレ度
限定地ノ設定換地其ノ他ノ處分ニ付テハ從來部落ノ遠近地勢等ヲ顧慮シ成ルヘク地方人民ノ希望ヲ充ササル趣旨ナルモ往々之ヲ顧慮セズ且地方廳吏員ノ立會ヲ求メスシテ決定セララルコトアリテ當業者ノ苦痛尠カラサルヲ以テ斯ノ如キ場合ニハ上記吏員立會合議ノ上前記ノ顧慮ノ下ニ決定ヲ爲ス様取計ハレ度

六

乙 號
國有林野馬産限定地使用ニ關スル件
昭和四年四月二十四日山第三五八號
畜産局長宛山林局長回答

三月二十日附四畜局第一三五三號ヲ以テ御照會ニ係ル頭記ノ件ハ左記ノ通御諒知相成度此段及回答候也
一 第一項ニ例示相成候施設事項ハ何レモ突發的ニ其ノ必

要ヲ生スルモノトハ認メラレシテ從テ管林署ニ充分ノ調査日子ヲ與フル爲前以テ願書ヲ提出シ就中火入ニ付テハ施行豫定日ヨリ少ク共二ヶ月以前ニ出願シ且可成管林署ノ指定スル期日ニ施行候様説示方御配慮相成度尙飲水場ノ築設、簡易ナル灌溉排水、荆棘雜草ノ除去ニ付テハ施行後ノ届出ニ契約ヲ改ムルコトハ支障無之候馬匹頭數ノ一時ノ減少ニヨリ限定地ノ面積ヲ縮少スルカ如キコトハ爲ササル方針ナルモ當業者ノ出願又ハ永年不使用ノ状態ニアルモノニ付テハ地方廳ニモ協議ノ上措置可致

放牧地ニ對スル隔障物ノ築設ニ付テハ大正五年馬政長官ニ回答ノ通必スシモ全國一律トナシ難キ場合アルヘキモ可成御希望ニ副フ様考慮可致

限定地上ノ立木ニ付テハ支障ナキ限り整理ヲ急キツツアルモ地方ニヨツテハ急速整理ヲ望ムス特ニ漸進的ニ處分セラレ度旨申出ツルモノモ有之旁地方ノ實際ニ適スル様處理可致又保存スヘキ庇蔭樹ニ付キテハ當業者ノ意見希望等ヲ參酌シテ處理シツツアルモ尙未整理ノ部分ニ付保存スル立木數、位置等ニ付希望ノ向ハ豫メ管林署ニ申出シメラルル様致度

御來示ノ如キ事實アリトハ認メサルモ若シ慣行地ニシテ限定未済ノモノアルニ於テハ限定地ニ編入スル様處理可致

御來示ニ副フ様處理可致

國有林野馬産限定地使用ニ關スル件

昭和四年八月三十一日畜産局 第一三五三號關係地方長官宛通牒

國有林野馬産限定地使用ニ關シ山林局長宛及照會置候處今般回答有之候ニ付照會事項並回答別紙ノ通り送付候條牧野事務參考ニ資セラレ度此段及通牒候也

照會事項 (前掲甲號 昭和四年三月二十日畜局第一三五三號畜産局長照會ノ通)

三 號畜産局長照會ノ通

回 答 (前掲乙號 昭和四年四月二十四日山第三五八號山林局長回答ノ通)

放牧採草地ノ施業計畫ニ關スル件

昭和十年七月十七日 山第二七五七號山林局長通牒

國有林内放牧採草地ノ施業計畫ニ付テハ國有林施業案規程ニ依ルノ外左記ニヨリ御取扱相成度此段及通牒候也

- 第一 手續ニ關スル事項
- 一 國有林内放牧採草地ノ施業計畫ニ付テハ特ニ「放牧(採草)地施業計畫説明書」及「放牧(採草)地施業計畫圖」(縮尺五千分ノ一)ヲ調製シ施業案ニ添付スルコト
 - 二 當該事業區ノ施業案檢訂ト分離シテ前項ノ計畫ヲ爲シ之レニ依リ既定計畫ニ變更ヲ來シタル場合ニハ一部修正ノ手續ヲ執ルコト
 - 三 放牧採草地ノ施業計畫ニ付テハ五ヶ年目ニ間檢訂ヲ爲ス

- 三 シ得ルコト
- 四 放牧採草地ノ施業計畫ヲ樹立シ又ハ變更ノ場合ハ府縣當局及使用者ノ意見ヲ參酌スルコト
- 五 放牧(採草)地施業計畫圖ニハ第七號ニ依ル各地域ノ區劃線ヲ記入シ其ノ内側ニ左ノ色彩ニ依ル輪廓ヲ施シ其ノ區劃ヲ明ニスルコト
- 六 放牧採草地ノ施業計畫ハ牧野組合ノ地區又ハ一使用者團體ノ使用地區毎ニ之ヲ爲スコト
- 七 放牧採草地ノ施業上其ノ内部ヲ草地、施設地域、樹林地ノ三種ニ區分シ各地域ノ分界ヲ成ル可ク明瞭ナラシメ適宜ノ標識ヲ設ケルコト但シ混牧林ニシテ草地地域ノ區劃ヲ示スコト困難ナル場合ニハ其ノ位置ヲ示スコト
- 八 草地地域トハ放牧採草上主トシテ草生ノ育成ヲ爲ス有陰又ハ無陰ノ地域ヲ謂フ
- 九 施設地域トハ牧舎其他建物敷地、牧草其ノ他栽培用地水飲場其ノ他ノ設備敷地、固定牧道敷地等放牧採草上必要ナル特別施設ヲ爲スヘキ用地ヲ謂フ
- 十 樹林地トハ水源涵養、土砂防止其ノ他國土保安上放牧家畜ノ生活並衛生上又ハ地力ノ維持、防風、隔障施設

九

- 一〇 設等ノ爲専ラ樹林ノ育成ヲ必要トスル地域及放牧採草ニ使用シ得サル爲樹林ヲ存置セシムヘキ地域ヲ謂フ
- 一一 放牧採草專用地上於ケル樹林地ノ面積ハ全面積ノ三割以内トシ實地ノ狀況ニ應ジ適宜決定スルコト
- 一二 混牧林内ニ於テ必要アル場合ハ馬立場又ハ各所ニ團狀草地ヲ配置セシメ其ノ合計面積ハ全面積ノ二割以内トシ適宜決定スルコト
- 一三 特別ノ事由アル場合ハ混牧林内ノ草地面積ノ歩合ヲ前項ノ標準ヨリ更ニ増加シ得ルコト
- 一四 放牧採草地内樹林地ノ森林造成ハ天然更新ヲ主トスルモ放牧採草上支障ナキ場合又ハ必要アル場合ニハ針葉樹ノ人工植栽ヲ爲スヲ妨ケサルコト
- 一五 樹林地域ニシテ現ニ樹林ヲ缺ク場合ニハ天然生樹木ノ育成ヲ圖リ特ニ放牧採草上急速樹林ノ造成ヲ必要トスル場合ニハ植栽ノ計畫ヲ樹ツルコト
- 一六 樹林地域内ノ樹林ニ對シテハ適當ノ森林施業法ヲ定メ植栽ノ計畫ヲ樹ツルコト
- 一七 前項ノ森林施業ハ樹林存置ノ目的ニ適合スルコトヲ主トシシテ必要シモ收穫ノ連年保續ヲ必要トセサルコト
- 一八 草地地域内ノ過剩木竹及施設地域上ノ支障木竹ニ付テハ整理伐ノ計畫ヲ樹テ改良事業進行ノ便ニ供スルコト
- 一九 整理伐ノ數量一時ノ激增シ當該事業區(又ハ伐採列區)ニ於ケル收穫量ノ均衡ヲ失スルコト甚シキ場合ニハ整理伐以外ノ收穫量ニ於テ適宜調節ヲ爲スコト
- 二〇 放牧採草限定地ノ現在面積使用ノ實狀ニ照シ過大ナルコト明カナル場合ニハ樹林地域面積ヲ増加シ土地利此ノ場合ニハ算定ノ基礎ヲ明確ニスルコト

九 林野臺帳

國有林野臺帳規程

明治三十九年九月二十一日
農省務省令第二十七號

- (改正) 明治四十四年二月農商務省令第九號
- 第一條 大林區署ハ國有林野ニ關シ左ノ臺帳ヲ備ヘ之ヲ保存整理スヘシ
 - 一 國有林野地籍臺帳 國有林野ノ地籍ニ關スル事項ヲ登錄スルモノトス
 - 二 部分林野臺帳 國カ分收權利ヲ有スル部分林ニ關スル事項ヲ登錄スルモノトス
 - 三 國有保安林臺帳 國有林野ノ保安林及國有地ニ於ケル部分林ノ保安林ニ關スル事項ヲ登錄スルモノトス
 - 四 保管林野臺帳 國有林野法第十七條又ハ社寺上地官林委託規則ニ依リ保管セシメタル國有林ニ關スル事項ヲ登錄スルモノトス
 - 五 委託林野臺帳 國有林野法第十八條ニ依リ保護ヲ委託シタル國有林野ニ關スル事項ヲ登錄スルモノトス
 - 六 官地民木林野臺帳 見繼山其ノ他慣行ニ因リ人民力國有林野ノ上ニ所有スル木竹ニ關スル事項ヲ登錄スルモノトス
 - 七 國有林野年期貸付臺帳 國有林野ニ設定セル無地代ノ地上權又ハ無料年期貸付ニ關スル事項ヲ登錄スルモノトス

- 八 國有林野年期使用許可臺帳 國有林野ノ無料年期使用ニ關スル事項ヲ登錄スルモノトス
 - 九 國有林野濼約開墾拂下臺帳 開墾成效ノ條件ニ依ル國有林野ノ濼約拂下ニ關スル事項ヲ登錄スルモノトス
- 第二條 國有林野地籍臺帳、部分林野臺帳及國有保安林臺帳ハ各郡市毎ニ之ヲ調製シ各町村毎ニ順次之ニ登錄スヘシ
- 前項以外ノ臺帳ハ小林區署ノ管轄區域毎ニ之ヲ調製スヘシ
- 臺帳ニ登錄スヘキ林野若ハ事件ノ數僅少ナル場合其ノ他已ムヲ得サル事由アル場合ニ於テハ前二項ノ例ニ依ラサルコトヲ得
- 第三條 臺帳ニ付本規程ニ様式ノ定アルモノハ其様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ
 - 第四條 國有林野地籍臺帳ハ森林、原野及森林附屬地ニ分チ各別ニ之ヲ調製シ左ノ事項ヲ記載スヘシ
 - 一 記入番號
 - 二 林野ノ所在、字、地番
 - 三 林野ノ面積
- 第五條 部分林野臺帳ハ國有地、公有地、社寺有地及私有地ニ分チ各別ニ之ヲ調製シ左ノ事項ヲ記載スヘシ
 - 一 記入番號
 - 二 部分林ノ所在、字
 - 三 部分林ノ面積
 - 四 造林者ノ氏名又ハ名稱及住所
 - 五 部分林設定ノ年月日
 - 六 存續期間

- 七 伐期
 - 八 收益分收ノ割合
 - 九 樹木ノ種類及數
- 第六條 造林者ノ權利ノ處分及其ノ事由
- 第七條 國有保安林臺帳ハ國有林野、國有地ノ部分林ニ分チ各別ニ之ヲ調製シ左ノ事項ヲ記載スヘシ
- 一 記入番號
 - 二 保安林ノ所在、字、地番
 - 三 地目
 - 四 種類
 - 五 普通、禁伐ノ別
 - 六 國有林野地籍臺帳面積
 - 七 保安林面積(訂正面積)
 - 八 地勢
 - 九 地質
 - 十 林況
 - 十一 利害區域
 - 十二 申請者
 - 十三 編入年月日
 - 十四 禁伐若ハ制限ノ決定年月日

第七條

- 一 保管林野臺帳ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
 - 一 記入番號
 - 二 保管林ノ所在、字
 - 三 林別
 - 四 國有林野地籍臺帳面積
 - 五 保管林面積
 - 六 期間
 - 七 保管區域内生立木竹ノ種類及數
- 國有林野臺帳規程

- 八 看守者ノ數
 - 九 保管者ノ名稱、住所
 - 十 許可ノ年月日
 - 十一 指令番號
- 第八條 委託林野臺帳ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
- 一 記入番號
 - 二 委託林野ノ所在、字
 - 三 林別
 - 四 國有林野地籍臺帳面積
 - 五 委託面積
 - 六 期間
 - 七 讓與スヘキ產物ノ種類及數量
 - 八 看守者ノ數
 - 九 受託者ノ氏名又ハ名稱及住所
 - 十 許可ノ年月日
 - 十一 指令番號

第九條

- 一 官地民木林野臺帳ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
- 一 記入番號
- 二 官地民木林ノ所在、字、地番
- 三 林別
- 四 國有林野地籍臺帳面積
- 五 貸渡又ハ地上權設定區域ノ面積
- 六 期間
- 七 樹木ノ種類及數
- 八 成立ノ原因
- 九 貸賃又ハ地代ヲ徵收スルモノハ其ノ年額

國有林野 林野臺帳

十一 樹木所有者ノ氏名又ハ名稱及住所
成立ノ年月日

第十二 指令番號
國有林野年期貸付臺帳ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 記入番號
貸渡又ハ地上權設定林野ノ所在、字

二 林別
國有林野地籍臺帳面積

三 國有林野地籍臺帳面積
貸渡又ハ地上權設定面積

四 用途
(削除)

五 期間
使用收益ニ對スル特殊ノ條件又ハ制限

六 借地人ノ氏名又ハ名稱及住所

七 許可ノ年月日

八 指令番號

第十一條 國有林野年期使用許可臺帳ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 記入番號

二 使用林野ノ所在、字

三 林別
國有林野地籍臺帳面積

四 國有林野地籍臺帳面積
使用目的

五 使用目的
(削除)

六 期間
使用ニ對スル特殊ノ條件又ハ制限

七 使用者ノ氏名又ハ名稱及住所

八 使用ニ對スル特殊ノ條件又ハ制限

九 使用者ノ氏名又ハ名稱及住所

十 使用ニ對スル特殊ノ條件又ハ制限

十一 許可ノ年月日

第十二條 國有林野豫約開墾拂下臺帳ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 記入番號
拂下豫約地ノ所在、字、地番

二 地目
事業ノ目的

三 國有林野地籍臺帳面積
豫約地面積(目的地及附屬地ニ區分ス)

四 一段步當リ及總額代金

五 期間
豫約者ノ氏名又ハ名稱及住所

六 豫約許可ノ年月日及指令番號

七 拂下許諾處分年月日及指令番號

八 拂下面積及返地面積

第十三條 臺帳ニハ參考又ハ摘要ノ欄ヲ設ケ前數條ニ定ムルモノヲ除クノ外參考上必要ナル事項ヲ記載スヘシ

第十四條 臺帳ニ記載スル事項ハ左ノ例ニ依リ之ヲ記載スヘシ

一 林別ノ欄ニハ供用林、保安林、又ハ原野ノ別ヲ記載スヘシ

二 登錄又ハ記載スヘキ林野カ國有林野地籍臺帳ニ登錄シタル林野ノ一部ナルトキハ其ノ旨ヲ記載スヘシ

三 期間ハ其ノ始期及終期ヲ記載スヘシ

四 登錄又ハ記載スヘキ林野ノ面積カ實測面積ニシテ國有林野地籍臺帳面積ト異ナル場合ニ於テハ之ヲ併記スヘシ

五 登錄又ハ記載スヘキ林野ノ面積カ實測面積ニシテ國有林野地籍臺帳面積ト異ナル場合ニ於テハ之ヲ併記スヘシ

六 登錄又ハ記載スヘキ林野ノ面積カ實測面積ニシテ國有林野地籍臺帳面積ト異ナル場合ニ於テハ之ヲ併記スヘシ

七 登錄又ハ記載スヘキ林野ノ面積カ實測面積ニシテ國有林野地籍臺帳面積ト異ナル場合ニ於テハ之ヲ併記スヘシ

八 登錄又ハ記載スヘキ林野ノ面積カ實測面積ニシテ國有林野地籍臺帳面積ト異ナル場合ニ於テハ之ヲ併記スヘシ

九 登錄又ハ記載スヘキ林野ノ面積カ實測面積ニシテ國有林野地籍臺帳面積ト異ナル場合ニ於テハ之ヲ併記スヘシ

十 登錄又ハ記載スヘキ林野ノ面積カ實測面積ニシテ國有林野地籍臺帳面積ト異ナル場合ニ於テハ之ヲ併記スヘシ

五 記載スヘキ當事者若ハ關係人ノ數多クシテ當該箇所ニ悉ク記入シ能ハサルトキハ何ノ某外何人ト記載シ其ノ總代ノ定アルトキハ其ノ氏名ヲ併記スヘシ此ノ場合ニ於テハ別ニ共同人名簿ヲ調製シ其ノ記入番號及總人員ヲ記載スヘシ

六 國有林野地籍臺帳中數筆ノ國有林野ヲ合シテ其ノ面積ヲ記載シタルモノニシテ各筆ノ面積ヲ記載スルノ必要アルモノハ事故摘要欄内ニ之ヲ記載スヘシ

七 國有林野地籍臺帳中舊簿面記事欄ニハ舊藩以來ノ沿革慣行等ノ如キ舊簿面ニ記載セル事項ニシテ特ニ記載シ置ク必要ヲ認ムルモノヲ掲グヘシ

八 新ニ國有林野ニ編入シタルモノヲ國有林野地籍臺帳ニ登錄スル場合ニ於テ民有地ノ買受若ハ交換等ニ因ルモノナルトキハ其ノ登記ノ年月日、地種組替ニ因ルモノナルトキハ其實地受領ノ年月日、國有林野ノ離權ヲ登錄スル場合ニ於テ地種組替ニ因ルモノナルトキハ引渡ノ年月日、其ノ他ノ原因ニ因ルモノナルトキハ其ノ指令ノ年月日、番號ヲ事故摘要欄内ニ記載スヘシ

九 國有林野地籍臺帳ニ登錄シタル林野ヲ合併シタルトキハ其ノ初位ニ在ル林野ノ記入番號ノ左側ニ其合併シタル林野ノ記入番號並ニ合併ノ旨ヲ記載シ其ノ面積ヲ訂正シ其ノ合併シタル林野ノ登記ハ之ヲ刪除シ其ノ事由ヲ其ノ各林野ノ臺帳事故摘要欄内ニ記載スヘシ

十 貸地ノ用途ハ大林區統計報告様式ノ規定ニ準據シ之ヲ分類スヘシ

十一 本規程ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外臺帳ニ事由

國有林野臺帳規程

ヲ記載スル場合ニ於テ其ノ原因ノ名稱(指令決議又ハ契約等)及其ノ年月日ヲ記載スヘシ

第十五條 新ニ林野又ハ事件ヲ臺帳ニ登錄スルトキハ其ノ登錄ノ順序ニ從ヒ記入番號ヲ記載スヘシ

第十六條 臺帳ニ登錄又ハ記載シタル事項ノ變更、消滅アリタルトキ又ハ其ノ誤記ヲ發見シタルトキハ其ノ都度之ヲ訂正若ハ刪除スヘシ

第十七條 新ニ林野若ハ事件ヲ臺帳ニ登錄シ又ハ之ヲ訂正若ハ刪除シタルトキハ其ノ年月日及事由ヲ記載シ其ノ官廳ノ通知ニ因ルモノハ尙其ノ通知年月日及番號ヲ適宜ノ箇所ニ記載シ主任官吏之ニ捺印スヘシ

第十八條 前項ニ依リ臺帳ヲ刪除若ハ訂正スルトキハ全部刪除ノ場合ニ在リテハ欄外其ノ他適宜ノ場所ニ「刪除」ノ印ヲ捺捺シ一部ノ刪除又ハ訂正ノ場合ニ在リテハ原記載ヲ明瞭ニ存シ其ノ上ニ朱ノ二線ヲ劃スヘシ

第十九條 臺帳中該當欄ニ登錄又ハ記載ノ餘白ナキニ至リタルトキハ其ノ用紙記入番號ノ左側ニ第一ト記シ別帳新用紙ニ前用紙ノ記入番號ヲ轉寫シ其ノ左側ニ第二ト記シ之ニ順次登錄又ハ記載ヲ爲スヘシ前用紙中尙餘白アルモノニ在リテハ仍之ニ登錄又ハ記載ヲ爲スヘシ

第二十條 前項ノ規定ハ第三以下ノ繼續用紙ヲ設ケル場合ニ之ヲ準用ス但シ其ノ繼續用紙アル帳簿中記載シ得ヘキ餘紙アルトキハ其ノ帳簿ニ之ヲ記載スヘシ

第二十一條 臺帳ハ一冊毎ニ其ノ末尾ニ面積ノ合計ヲ附スヘシ前項面積ニ異動ヲ生シタルトキハ每會計年度末之ヲ修正スヘシ

第二十二條 臺帳ニシテ登錄箇所數多キモノハ冊首其ノ他適宜ノ所ニ索引ヲ設ケヘシ但シ已ムヲ得サル場合ニ於テハ

國有林野 林野臺帳

此ノ限ニ在ラス
第二十一條 大林區署ニ於テ新ニ臺帳ニ登錄シ又ハ之ヲ訂
正若ハ删除シタルトキハ遲滞ナク之ヲ小林區署ニ通知ス
ヘシ

第二十二條 小林區署ニハ大林區署ニ備フル臺帳ノ其ノ管
轄區域内ニ於ケル林野ニ係ル部分ノ複本ヲ備ヘ前各條ノ
規定ヲ準用シ之ヲ保存整理スヘシ

第二十三條 明治三十年農商務省訓令第三十三號保安林簿
規程明治三十五年農商務省訓令第十三號國有林野地籍臺
帳規程ハ之ヲ廢止ス

第二十四條 從來備ヘアル臺帳ハ當分ノ内之ヲ本規程ニ定
ムル臺帳ニ代用スルコトヲ得但シ其ノ記載事項ハ本規定
ノ定ムル所ニ依ルヘシ
森林法施行以前編入ニ係ル保安林ヲ登錄シタル假臺帳ハ
保安林取扱心得第二十七條ノ調査終了迄本規程ニ定ムル
臺帳ニ代用スルモノトス
(樣式別冊 一一一)

國有林野地籍臺帳整理手續

明治四十三年五月
林發第二六七九號山林局長通牒

國有林野ノ實測完成ニ伴ヒ地籍臺帳面積ノ訂正字地番等ノ
整理ヲ爲シ以テ臺帳ノ完備ヲ期スルハ林野ノ管理上最モ緊
要ノ義ニ付實測確定ノ箇所ヨリ順次左記ノ手續ニ準據シ整
理相成度
追テ臺帳ノ整理ハ左記手續中第一項乃至第五項ニ依ル整

理ハ急速之ヲ行ヒ以テ地籍臺帳ニ依リ直ニ管理林野ノ實
測面積ヲ明瞭ナラシメ然ル後漸次第六項以下ノ整理ヲ遂
ケラレ度
右依命通牒ス

- 一 要存置林野地籍臺帳整理手續
面積ニ訂正スヘシ但シ實測濟ノモノニシテ未ダ面積
ノ訂正ナキモノハ速ニ訂正ノ手續ヲ爲スヘシ
- 二 以上ノ町村又ハ大字ニ跨ル團地ニシテ分測ヲ爲シ
タルモノハ其分測シタルモノヲ各一號トシテ臺帳ニ
登錄スヘシ
- 三 前項ノ場合ニ於テハ事故摘要欄ニ其關聯スル團地國
有林野地籍臺帳ノ丁數及記入番號ヲ付記シ關係團地
ノ所在面積等ノ明瞭ヲ期スヘシ
- 四 地籍臺帳ノ登錄二號以上ニ跨ル林野ヲ合測シタルト
キハ地籍臺帳規程樣式ノ注意事項ニ準據シ整理スヘシ
- 五 地籍臺帳ニ登錄シタル林野ノ實測圖ニハ其臺帳ノ記
入番號ヲ付記シ臺帳ト圖面ト對照ニ便ナラシムヘシ
- 六 地籍臺帳ニ登錄シタル林野ノ字ハ漸次一定シタル地
方慣用ノ字又ハ團地名ニ改ムルコトヲ要ス
- 七 字名ノ改正ニ付テハ明治二十六年內務省訓令第二二號
(別記)訓令第三號ニ依リ地方長官ニ協議スヘシ
- 八 前數項ノ場合ニ於テ一字中數箇ノ地番アルモノハ明
治三十九年林發第一一七號通牒ニ基キ地番合併ノ手
續ヲ爲スヘシ
- 九 地籍臺帳ニ補助簿ヲ設ケタルトキハ其補助簿ト臺帳
トノ關係ヲ明瞭ナラシムル爲メ適當ノ符號ヲ付スヘ
シ

右

(別記)

市町村内地ノ字名改稱變更ニ關スル規程

(明治二十六年內務
省訓第二二號訓令)

從來公稱スル市町村内地ノ字名ハ明治十四年第八十三號
公達ノ趣旨ニ依リ容易ニ改稱變更スヘキモノニアラサルモ
已ムヲ得サル事實アリテ改稱變更ヲ必要トスルモノニ限リ
左ノ規程ニ依リ取扱フヘシ

- 一 市町村内地ノ大字名 市町村制施行ノ際分合シタル舊町村名從前獨
立市町村内地ノ支那又ハ其組下屬ノ部等ノ總稱
市內從來ノ町名ヲ改稱シ又ハ其區域ノ變更ヲ要スル
トキハ市町村會之ヲ議決シ府縣知事ノ許可ヲ受ケ
シ但シ町村ニ屬スルモノハ郡長ヲ經由シ郡長ハ意見
ヲ副申スヘシ
- 二 市町村内地ノ小字名 市町村内地ノ改稱シ又ハ其區域ノ變更
ヲ要スルトキハ關係アル地主ノ意見ヲ聞キ市町村會
之ヲ議決シ府縣知事ノ許可ヲ要クヘシ但シ町村ニ屬ス
ルモノハ郡長ヲ經由シ郡長ハ意見ヲ副申スヘシ
- 三 前項ノ場合ニ於テ其區域全部カ國有林野ニ屬スルト
キハ府縣知事之ヲ處分シ若其區域カ國有林野ノ外民
有地ニ屬スルトキハ關係アル市町村會及民有地主ノ
意見ヲ聞キ府縣知事之ヲ處分スヘシ但本項ノ處分ハ
直ニ之ヲ關係市町村ニ通知スヘシ(明治四十一年七月二十四
日內務省訓令第六一三號
追加)
- 四 水面埋立地其他新開地等新ニ字名稱ヲ付スルトキハ
第二項ノ例ニ依ルヘシ
- 五 市町村ノ境界ニ關スル爭論ノ裁決及民事訴訟ノ判決
國有林野地籍臺帳整理手續 地番分合ニ關スル標準ノ件

右

地番分合ニ關スル標準ノ件

明治三十九年五月
林發第一一七號山林局長通牒

- 一 實測濟林野ニシテ地番分合ノ必要アルトキハ左記ノ標準ニ
依リ貴署限リ御取扱相成度此段及通牒候也
- 二 地番ノ分合ヲ爲スハ實地ノ形勢ニ鑑ミ可成地物ヲ利
用シテ紛雜不明ニ陥ルノ虞ナキ地點ヲ撰定スヘシ
- 三 地番ノ分合ハ天然ノ地形ニ依リテ之ヲ爲スヘキハ勿
論ナリト雖モ爲ニ一地番ノ區域ヲシテ過大ナラシメ
若クハ狭少ニ失ヒシメサルヤウ注意スヘシ
- 四 地番ハ其分合ノ結果混亂紛糾ヲ來ササルヤウ注意ス
ヘシ
- 五 將來民有トナス豫定地ニ係ル場合ニ於テハ左ノ條件
ニ遵フヘシ
分筆當初一筆タリシトキノ番號ニ一二三等ノ符號ヲ

國有林野 林野臺帳

附加シ各筆ノ番號トナスコト但本番ニ符號アル土地ヲ分割スルトキハ其第一筆ニハ當初ノ番號ヲ存シ他ノ各筆ニハ本番ノ符號ヲ順次増加シタル番號ヲ附スルコト
合筆合併前ノ土地番號中首位ニ在ルモノヲ以テ該地ノ番號ト爲スコト
稅務署ニ請求シテ地番ヲ付シタル各筆ノ土地ヲ合併スルトキハ其旨稅務署ニ通知スヘシ

國有林野臺帳及圖面謄本、抄本

明治三十八年十二月二十三日
農商務省令第三十號

下付規程

- 第一條 國有林野臺帳若ハ其ノ圖面又ハ國有林野實測圖ノ謄本又ハ抄本ノ下付ヲ受クムトスル者ハ其事由ヲ示シテ大林區署長ニ出願スヘシ
- 第二條 前條ノ出願ニ付テハ左ニ掲クル手数料ヲ納付スヘシ
 - 一 國有林野臺帳ノ謄本又ハ抄本ハ臺帳一記入番號ニ付金十錢
 - 二 國有林野臺帳圖面ノ謄本又ハ抄本ハ一枚ニ付金十錢以上金一圓以下ニ於テ謄寫ノ難易ニ從ヒ大林區署長ノ定ムル金額
 - 三 國有林野實測圖ノ謄本又ハ抄本ハ一枚ニ付金五十錢以上金十圓以下ニ於テ謄寫ノ難易ニ從ヒ大林區署長ノ定ムル金額
- 第三條 前條規定ハ官吏又ハ公吏カ政府ノ利益ノ爲ニ其ノ

職務ヲ以テ請求スル場合ニハ之ヲ適用セス

造林臺帳規程

明治四十二年六月九日
農商務省訓令第二十三號

(改正) 明治四三年六月農商務省訓令第一五號、大正三年三月第三號、四年六月第四號

- 第一條 林區署ハ左ノ區分ニ從ヒ造林臺帳ヲ備ヘ之ヲ保存整理スヘシ
 - 一 造林事業ニ付テハ小林區署ニ於テ其ノ正本ヲ調製整理シ其ノ副本ヲ大林區署ニ備附ヘシ
 - 二 土木事業ニ付テハ大林區署ニ於テ其ノ正本ヲ調製整理シ其ノ副本ヲ關係小林區署ニ備附ヘシ
- 第二條 造林臺帳ハ左ノ九種ニ別チ別記様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ
 - 一 人工植栽臺帳
 - 二 天然生育臺帳
 - 三 砂防植栽臺帳
 - 四 苗木養成臺帳
 - 五 保護設備臺帳
 - 六 林道臺帳
 - 七 河川臺帳
 - 八 貯木場臺帳
 - 九 雜工臺帳
- 第三條 造林臺帳ハ左記各號ノ區分ニ依リ之ヲ整理スヘシ
 - 一 造林撫育ニシテ從來臺帳ニ記載ナキ植栽地ニ對スルモノ又ハ從來備ヘアル臺帳ニ記載ノ餘地ナキモノニ在リテハ前項各號ノ外別ニ造林撫育臺帳ヲ調製スヘシ

- 一 人工植栽、天然生育、砂防植栽及保護設備ハ事業區(事業區ナキ場合ハ豫察事業區、豫察事業區ナキ場合ハ國地)毎ニ各別冊トス但シ事業區ニシテ二以上ノ小林區署管轄區域ニ跨ル場合ニ於テハ各管轄區域ニ屬スル部分毎ニ別冊トス
- 二 苗木養成ハ苗圃毎ニ別冊トス
- 三 貯木場及雜工ハ小林區ヲ通シテ各別冊トス
- 四 林道及河川ハ輸送ノ連絡アル一線路毎ニ步道ハ事業區毎ニ各別冊トス但シ同一河川ニシテ名稱ヲ異ニスルモノニ在リテハ其ノ名稱ノ異ナル毎ニ別冊ト爲スコトヲ得
- 第五條 林道及河川ノ雜ハ各別冊トス
- 第六條 造林臺帳ハ保護設備中臨時防火線及雜ヲ除クノ外左記各號ノ區分ニ依リ各紙葉ヲ別チ逐年記入スルモノトス
- 第七條 人工植栽、天然生育及砂防植栽ハ事業區所及著手年度
- 第八條 保護設備、貯木場及雜工ハ箇所
- 第九條 苗木養成ハ播種年度及樹種
- 第十條 林道ハ幹線及各支線
- 第十一條 河川ハ本流及各支流
- 第十二條 林道及河川ノ雜ハ種類
- 第十三條 保護設備中臨時防火線及雜ニ在リテハ特ニ紙葉ヲ別タス施行ノ順序ニ依リ逐次記載スルモノトス
- 第十四條 造林臺帳ハ豫定ノ事業成功ノ都度記載スルモノトス
- 第十五條 造林臺帳ニハ苗圃及貯木場ニ限リ箇所毎ニ平面圖ヲ添附シ其ノ他ハ每冊ニ位置圖ヲ添附スヘシ

國有林野臺帳及圖面謄本、抄本下付規程 造林臺帳規程

(様式別冊) 1111

造林臺帳樣式記載例

明治四十二年六月九日
林第三三六八號山林局長通牒

(改正) 大正三年三月林第九六八號、四年六月第一六一三號

- 人口植栽臺帳
- 一 國有林名ハ事業地二字以上ニ跨ル場合ハ其ノ主ナル國有林名ヲ冠シテ外何々トスルコト
 - 二 林班小班カ二箇以上ニ跨ル場合ハ其ノ班名ヲ列記スルコト
 - 三 種類欄ハ事業豫定案ノ目別トシ且補植手入等ハ各回数別トスルコト
 - 四 混浴林ヲ作ル目的ヲ以テ二回ニ分割シテ新植ヲ行フトキハ作業名ヲ欄外ニ記載シ置クコト但シ新植樹種ト異リタル樹種ヲ以テ補植ヲ行フ場合ハ此ノ限ニアラス
 - 五 事業ヲ實行シタルトキハ經費ヲ要セサルモノト雖モ臺帳ニ登載シ其ノ事由ヲ明記スルコト
 - 六 直接林地ニ播種シタルモノハ新植ニ準スルコト
 - 七 本數欄ニハ樹種毎ニ本數ヲ列記シ養成苗木ハ朱書シ購入苗木ハ墨書スルコト但シ枝打ニシテ施行本數不明ナル場合ハ之ヲ省略スルコトヲ得
 - 八 苗木養成費ハ苗木代欄ニ朱書スルコト
 - 九 二箇以上ノ種類ヲ同時ニ實行シ經費ヲ區別スル能ハサル場合ハ其種類ヲ種類欄各行ニ列記シ經費ハ之ヲ合記スルコト
 - 十 其他欄ニハ下刈、枝打、間伐費等一事業地ニ特定附隨シタルモノヲ記入シ其ノ用途ヲ摘要欄ニ記載ス

十九 造林事業ニ共通使用シタル經費ハ別ニ左表ヲ調製シテ便宜人工植栽臺帳ニ附屬セシメ逐年之ヲ記入スルコト

年度	旅費	雇員給	計	備考
.....

- 二十 成果表ニ掲上報告シタルトキハ年度成果報告書ノ印ヲ成績調査欄ニ捺捺シ其ノ年度ヲ記入スルコト
- 天然生育臺帳
 - 一 天然生育ニ於テ萌芽林成育ノ場合ハ種類欄ニ萌芽ト記載シ其ノ事由ヲ摘要欄ニ記載スルコト
 - 二 前號ノ外人工植栽臺帳ニ準シテ記載スルモノトスルコト
- 砂防植栽臺帳
 - 一 砂防工又ハ其ノ修繕ニ關スル工種ハ樹種欄ニ記載スルコト
 - 二 前號工種ノ面積、延長等ハ本數欄ニ記載シ其ノ名稱單位ヲ右肩ニ附記スルコト
 - 三 前各號ノ外人工植栽臺帳ノ記載例ヲ準用スルコト
- 苗木養成臺帳
 - 一 種子ニシテ一部ハ購入シ一部ハ採取シタルモノナルトキハ其ノ數量産地等ハ摘要欄ニ各詳記スルコト
 - 一ノ二 種類欄ハ事業豫定案ノ目別トシ且床替ハ各回数別トスルコト但シ雜ノ目ヲ設ケ其ノ之ニ屬スル諸經費ハ各目ノ經費欄ニ配算記入スルコト
 - 二 面積欄ニハ施業地域ノ面積ヲ記入スルコト但シ道路、溝渠等附屬地面積ヲ記入スルニ及ハス
 - 三 苗木購入代ハ種子代欄ニ記載スルコト

造林臺帳樣式記載例

- 十一 造林上ノ經過ヲ明ニスヘキモノ又ハ參考トナルヘキ事項ハ摘要欄ニ記載スルコト
- 十二 (刪除)
- 十三 人工植栽、成林撫育ノ各事業完了シタル毎ニ合計ヲ附シ更ニ種類別再掲(經費内課トモ)ヲ爲シ一町歩當經費ヲ摘要欄ニ記載スルコト
- 十四 臺帳ハ成林撫育終了迄記入スルモノトス
- 十五 事業(新植、補植等)ノ實行カニ二箇年度ニ跨リ又ハ一事項(地拵、苗木購入等)終了毎ニ記入スルニ及ハス事業成功ノ後始メテ臺帳ニ登載スルモノトス
- 十六 臺帳ハ新ニ登載スル毎ニ番號ヲ附スルコト
- 十七 事業完了前ニ於テ火災其ノ他ノ事故ニ依リ全部改植(一部ノ改植ハ補植ト看做ス)ノ必要生シタルトキハ其ノ事由ヲ詳細朱書シテ登載ヲ打切り更ニ前各號ノ記載ヲ爲スコト但シ一部ノ改植ニシテ補植ト看做ス能ハサルモノニ付テハ面積ニ應シ適宜按分シテ本數、經費等登載事項ヲ更正整理シ摘要欄ニ其ノ事由ヲ詳記スルコト
- 十八 臺帳ハ每冊ニ便宜索引ヲ附シ且別ニ左ノ新植面積現計表ヲ調製添附シテ便宜ニ資セシムルコト

年度	新植面積	改植(其他)ノ事故ニ依リ現計	現計	備考
元
二	大正元年度末現計

- 四 苗木養成ヲ終リタルトキハ其ノ末尾ニ再掲ヲ爲シ種類毎ニ養成苗數、一升苗數、千本經費、養成年間ヲ記載スルコト但シ稚苗ノ一部ヲ讓與シ若ハ他ノ苗圃ニ移植シタルモノナルトキハ之ニ屬スル分ヲ除キテ養成苗數其ノ他ヲ算出スルコト
- 四ノ二 稚苗ノ讓與ヲ受ケ若ハ苗圃ヨリ移植シタル場合ニ於テハ其ノ讓與若ハ移植前ノ養成ニ付前各號ニ準シテ各相當欄ニ朱書シ稚苗ノ一部又ハ全部ヲ讓與若ハ他ノ苗圃ニ移シタルトキハ其ノ數量及之ニ屬スル經費等適宜摘要欄ニ詳記スルコト
- 五 前各號ノ外人工植栽記載例中五、十五、十六、二十ハ本樣式ニ準用スルコト
- 六 臺帳ニハ每冊ノ初ニ左ノ苗圃面積異動調ヲ附スルコト

苗圃面積異動調

年度	現	在內			使用	別	備考
		國有林	森林	其他			
年度	年度	年度	年度	年度	年度	年度	年度
特別	特別	特別	特別	特別	特別	特別	特別
年度	年度	年度	年度	年度	年度	年度	年度
特別	特別	特別	特別	特別	特別	特別	特別

注意
各年度ノ増減欄ニハ當該年度ノ一箇年ヲ合セ記載シ其年度内時々ノ増減ニ係ルモノハ備考欄ニ記載スルコト
苗圃所在ノ郡、市町村名ヲ備考欄ニ記載スルコト

保護設備臺帳

國有林野 林野臺帳

- 一 位置欄ニハ防火線ノ起終兩點ノ字名ヲ記載スルコト
 - 二 雜費アルトキハ其ノ用途ハ備考欄ニ記載スルコト
 - 三 防火線ノ通過セル主ナル地名ハ備考欄ニ記載スルコト
 - 四 幅員其ノ他ニ異動ヲ生シタル場合ハ其ノ結果ヲ相當欄ニ記載シ尙備考ニ事由ヲ記載スルコト
 - 五 事業區界ニ築設セル防火線ハ便宜主要ト認メタル事業區ノ臺帳ニ記載シ其ノ備考ニ事由ヲ記載スルコト
 - 六 造林地巡守給其ノ他ノ雜ハ臨時防火線ノ雜費欄ニ記入シ其ノ關係國有林名ヲ位置欄ニ記載スルコト
 - 七 前各號ノ外必要ト認メタルモ又ハ參考トナルヘキ事項ハ備考欄ニ記載スルコト
 - 八 人工植栽臺帳ノ記載例中三、五、十五、十六ハ本臺帳ニ準用スルコト
 - 九 記載事項ヲ變更若ハ加除セムトスルトキハ原數字ニ朱ヲ以テ括弧ヲ附シ其ノ結果ヲ記載スルコト
- 成林撫育臺帳**
- 一 規定第一條第二項ニ該當スルモノハ本様式ニ依リテ記載スルコト
 - 二 林地面積ニハ撫育ヲ施行スヘキ區域面積ヲ記載スルコト
 - 三 本數欄ニハ施行本數ヲ記載シ摘要欄ニ現在本數(概略數)ヲ記載スルコト但シ全部ノ枝打ニシテ施行本數不明ナル場合ハ之ヲ省略スルコトヲ得
 - 四 年度ハ新植シタル年度ヲ記入スルコト但シ新植年度不明ノ場合ハ年度ノ行ニ林齡約何年ト記入スルコト
 - 五 始テ成林撫育ヲ行フトキハ其ノ林木ノ現狀並施業ノ

林道臺帳

- 一 欄外ニ番號、林道名稱及線名、管轄小林區及所在地、豫定ノ運搬量及運搬費ヲ記載スルコト
 - 二 所在地ハ林道所在地ヲ最モ普通ニ知リ得ヘキ地方名又ハ事業區名等ヲ以テ記載スルコト
 - 三 實行年度欄ニ記載スヘキ年度ニシテ繰越ニ依リ二年度以上ニ跨リタルトキハ各年度ヲ列記スルコト
 - 四 豫定案總括表記入番號ニシテ豫定案年度ト實行年度ト同シカラサルモノハ記入番號ノ左肩ニ其ノ記入番號ノ豫定案年度ヲ記載スルコト
 - 五 修繕事業ノ如キ位置ノ記載ナキモ能ク其ノ位置ヲ知リ得ヘキ場合ニ在リテハ位置ノ記載ヲ要セス
 - 六 新設欄ノ内勾配ハ運搬ノ方向ニ順ヒ測リタルモノトス
 - 七 土木事業ニ共通使用シタル經費ニ付テハ人工植栽臺帳記載例中十九ヲ準用シ便宜之ヲ林道臺帳ニ屬セシムルコト但シ測量製圖器械ノ種別、數量、經費等ハ林道臺帳雜ノ部様式ニ依リ尙別ニ詳細記載ヲ要ス
 - 八 保護設備臺帳ノ記載例中九ハ本臺帳ニ準用ス
 - 九 人工植栽(天然生育、砂防植栽、成林撫育)成果表
- 一 本表ハ府縣別ニ同一樹種毎ニ集合記載スルコト但シ混淆植栽シタルモノハ樹種名ヲ列記スルコト

三二

著手年度ノ異リタルモノヲ集合シタルトキハ其ノ年度ヲ著手年度欄ニ列記スルコト

補植、手入等ノ回數異ナルモノヲ集合シタルトキハ回數欄ニ其ノ範圍ヲ記載スルコト

補植、手入等ニハ面積欄ノ記入ヲ爲ササルコト

保安林ヲ含ムトキハ其ノ面積、經費ヲ成林撫育完了ノ場合ニ於テハ當該箇所ノ現在本數ヲ備考欄ニ記載スルコト

四

成績狀況其ノ他參考タルヘキ事項ヲ備考欄ニ記載スルコト

樹種毎ニ計、府縣毎ニ合計、最尾ニ總計ヲ附シ面積、本數、經費合計、一町步當經費ヲ計上スルコト

五

前各號ノ外臺帳記載例ニ依リテ各欄ヲ記載スルコト

苗木養成成果表

一 本表ハ當年度ニ於テ全部ノ養成ヲ終リタルモノニ付播種養成、稚苗購入養成ノ各取扱別ニ同一樹種ヲ集合シテ其ノ成果ヲ記載スルコト但シ同一樹種ト雖稚苗ノ購入養成ニ係ルモノハ購入當時ノ床替回數別ニ區分シテ記載スルコト

二

施行年次ノ異ナリタルモノヲ集合シタルトキハ其ノ年次ヲ列記スルコト

各種類毎ニ一反步當經費ヲ算出シ且養成苗數アリタルトキハ之ヲ記入シテ其ノ千本當經費ヲ算出スルコト

三

据置培養ニ係ルモノハ其ノ年次ニ應シ床替回數別ニ準シテ記載スルコト

各種類毎ニ播種一升當面積、經費又ハ床替千本當面積、經費ヲ算出シテ當該備考欄ニ記載スルコト

四

脫落地處理ニ關スル件

五

各種類ノ記載ヲ終リタルトキハ面積、經費及養成苗數各欄ノ計ヲ爲シ一反步當經費及養成苗千本當面積、經費ヲ算出記入スルコト

播種養成、稚苗購入養成ノ各區別毎ニ合計最尾ニ總計ヲ附スルコト

前各號ノ外臺帳記載例ニ依リテ各欄ヲ記載スルコト

脫落地處理ニ關スル件

大正十三年五月十三日
林第四二七號山林局長通牒

脫落地處理ニ關シテハ大藏省ト別紙ノ通り照復ヲ重テ居リ候條右御含ミノ上可然處理相成度此段及通牒候也

追テ大藏省照會ニ對スル本省回答ノ理由ハ別紙説明ニ記載有之右御諒承相成度爲念申添候也

(別紙)
官回答)

大正十三年三月十一日林第四二七號大藏次官宛農商務次官回答)

大正十三年二月七日附藏第二七一號ヲ以テ森林原野ノ狀態ニアル脫落地ニ付御照會相成候處其ノ森林原野ノ現況ニアラ脱落地ハ國有林野ナルヲ以テ本省ノ主管ニ屬シ其ノ臺帳登錄並管理ノ事務ハ國有財產法第三條國有財產法施行令第四十四條ニ依リ本省大臣ノ主掌ス可キ事項ニ屬スル義ト思料候條御了知相成度此段及回答候也

別紙ノ通森林原野ノ狀態ニアル脫落地ハ國有財產法施行後ハ雜種財產トシテ大藏省ノ主管スヘキ筋合ノモノニ付脫落地ヲ發見シタル場合ニ於テハ大林區署長ニ於テ直チニ國有

林野臺帳ニ登錄スル從來ノ取扱ヲ改メ大藏省主管ノ雜種財...

參照條文

- (一)農商務省官制第一條 (二)國有土地森林原野下辰法...

(大正十三年二月七日藏第二七一號農商務次官宛大藏次...

同件

大正十四年七月十日 林第二四四〇號

(農林次官ヨリ大藏次官宛)

森林原野ノ狀況ニ在ル脫落地ノ處理ニ關シテハ大正十三年...

(熊本營林局長宛山林局長通牒)

六月十一日付林第四〇八七號ヲ以テ照會ニ係ル脫落地處理...

五月十三日付林第四二七號ヲ以テ及通牒置候處其後處理上...

(大正十四年六月十一日林第四〇八七號熊本營林局長照會)

脫落地ノ處理方ニ關シテハ大正十三年五月十三日付林第四...

脫落地處理ニ關スル件

所ノ如キハ疑フ餘地ナキ即法第二條第一項四號ノ所謂雜種...

(十三年八月九日付) 熊本稅務監督局照會

國有林野 林野臺帳

十三年林第二、五五七號受付

長崎縣南松浦郡福江町地内四筆 (十三年十二月十二日) 同上

十一年林第二、一八一號受付

熊本縣球磨郡四浦村地内一筆 (十一年十二月十六日) 同上

原野一、八〇〇〇

大藏省所管雜種財產トシテ登録見込ナルモ國有林野臺帳登録ノモト重複スルモノニアラサルカ取調方照會ノ脱落地八年林第二、一四五號受付

長崎縣西彼杵郡崎戸村地内六筆

山林原野現況地〇、〇八一四

十二年林第二、二八六號受付

西彼杵郡平島村地内三筆 (十二年十一月十日付長崎稅務署ヨリ來照)

十二年林第二、三三五號受付

同郡崎戸村郷ノ浦郷地内四筆 (十二年十一月十九日付同上)

原野ノ現況地反別不明

ノ數件ニ過キサル有様ニシテ熊本稅務監督局ニ於テハ前詳述セル見解ナルヲ以テ脱落地ノ現況カ森林ナルト將タ原野ナルトニ論ナク大藏省所管雜種財產トシテ臺帳ニ登録シツツアルモノナルニ依リ其登錄地ハ往々ニシテ國有林野臺帳既登錄ノ森林原野ト地籍重複シタルモノヲ生スルハ勢免レ

サル所ナルヲ以テ當方ニ於テモ豫テ御通牒ノ主旨ニ則リ說明シ協議スル所アリシモ各自上局ノ主旨ヲ體シテノ協議ナレハ遂ニ意見一致スルニ由ナカリシモノニ有之候
斯ノ如キ次第ナレハ前掲未決ニ係ル事按ハ勿論今後ノ處理ニ至リテモ亦圓滑ナル處理ヲ望ムハ頗ル至難ノ事ニ屬スヘク被存候
而シテ脱落地ノ有無ニ付テ考察スルニ元鹿兒島大林區署管内ニ於テハ去ル明治三十六年以降數年間ニ涉リ稍大規模ヲ以テ森林原野ニ屬スヘキ脱落地ノ調査ヲ行ヒタルモノニシテ乃チ其方法ハ本署員ヲ各地稅務署ニ派シ稅務署備付ノ土地臺帳ヲ一筆毎ニ査閱シ土地臺帳上缺番タルモノ竝ニ國有林野臺帳ニ登録セラレアルモノモ悉皆照會調査ヲ爲シ字圖ニ依リ其地番地目判明シ國有林野ニ屬スルモ臺帳ニ登録ナキモノハ其際林野臺帳ニ登録整理シタルモノナルヲ以テ今日ニ於テハ國有林野ニ屬スヘキ脱落地ハ其數至テ僅少ナルヘク被思料候モ元熊本大林區署管内ニ於テハ斯ノ如キ一齊ノ調査ヲ爲シタルコトナク處分調査細則ヲ以テ處分調査員ハ指定ヲ受ケタル地方ニ存在スル國有林野ニ屬スヘキ脱落地ハ同時ニ調査報告方ヲ規定シ以テ整理ヲ計リツツアリシモ未タ其目的ヲ達セサルコト遠ク從テ今後ノ處理ニ俟ツヘキモノ頗ル多カルヘキ見込ニ有之候
ニ現今地方官公衙又ハ團體個人等ニ於テハ脱落地ノ拂下希望アルモ其所管ハ或ハ稅務監督局ト云ヒ或ハ營林局ナリトモ云ヒ其何レナルヤニ惑ヒ爲メニ拂下ノ目的ヲ達スルニ於テハ其所管ノ何レナルヤハ敢テ關スル所ニアラサレハ兩局ニ對シ夫レ夫レ拂出願書ヲ提出スル爲數日ヲ隔テスシテ兩局署員ノ出張ヲ見ルコトアリ爲ニ益々其所管ニ付テ奇異ノ現象ヲ來スノ狀態ニ有之候以上縷述セル狀況ニ有之候ヘ

ハ農林省對大藏省間ニ於ケル法ノ見解ヲ一致セシメラレ以テ地方官署ニ對シ其取扱振ヲ示達セラルルニアラサレハ脱落地ノ處理進行上支障尠カラサル現況ニ有之候
如上ノ通ニ付今後處理ノ方針ニ付至急今一應何分ノ御回示相成候様致度此段及照會候也
追テ爾後ハ脱落地ノ現況ニ依リ當然森林原野ニ屬スヘキモノニシテ稅務監督局ト懸案外ノモノハ國有林野臺帳登錄ニ先チ稅務監督局ニ照會シタル先例ニ依ラス直ニ國有林野臺帳ニ登録スル意向ニ有之此段申添候也

同件

(大正十四年八月二十六日十三山第四六四號熊本營林局長宛山林局長回答)

七月二十七日附十三林第三八〇號ヲ以テ照會ニ係ル脱落地處理ノ件ハ左記ノ主旨ニ依リ處理相成可然此段及回答候也

記

- 一 長崎縣下ニ於ケル實例ノ場合ノ如ク改租圖ト字圖トノ對照上明ニ改租當時民有ト査定セラレタルコトヲ知リ得ヘキモノニ付テハ土地臺帳ノ登録漏トシテ民有ヲ認メ國有林野臺帳ニ登録セサルコトニ處理相成度
- 二 熊本縣下ノ實例ノ場合ノ如ク單ニ字圖上ノ地番ハ民有地ヲ分筆シタルモノノ如ク表示アルモ改租圖ト字圖トノ對照上明ニ脱落地ノ如ク認メラルモノニ付テハ地押調査當時ノ原因等詳調ノ上特ニ民有地臺帳ニ登録漏ト認メラル場合ノ外ハ國有林野(林野狀態ノモノニ限ル)ニ編入ノ見込ヲ以テ處理相成度

脱落地處理ニ關スル件

右 (大正十三年二月二十九日林第三八〇號 熊本大林區署長照會)

脱落地又ハ臺帳登錄洩レ地國有林野編入ニ關シ左記ノ疑義相生シ目下處分上差支居候事件モ有之候ニ付至急何分ノ御回示ニ接シ度此段及照會義也

記

改租處分ニ於テ民有ト決定シタル地域ヲ地押調査ノ際分割シテ二筆トナシ内一筆ハ元所有者名義ヲ以テ土地臺帳ニ登録シ他ノ一筆ハ字圖ニ地番及地目ヲ記載(又地番地目トモ記載ナキモノアリ)アルモ土地臺帳上缺番ニシテ現ニ無稅地ニ屬スルモノアリ斯ノ如キハ當時ノ書證ト實地トヲ對照シ事實ヲ審查シ何故之ヲ更正シタルヤヲ明ニシ以テ官民有ヲ決スヘキハ勿論ナレトモ其多クハ當時ノ事情不明ナリ此場合ニ於テ改租當時ノ所有者其ノ權利ヲ主張スルトキハ之ヲ承認スヘキモノナリヤ或ハ脱落地又ハ登錄洩レ地トシテ官有地ニ編入スヘキモノナリヤ今實例ヲ舉ケレハ
○番 右二個所ハ改租圖ニ於テ前者ハ九三四番貞兵エ山後者ハ九二〇番重右エ門山トシ民有地ト決定スルカ如ク認メラルルモ地押調査ニ當リテハ夫夫之ヲ分割シテ九三番、九三九番、及九二〇番イ九二〇番ノ各二筆トナシ九三四番九二〇番ハ改租當時ノ所有者名義ニテ土地臺帳ニ登録セラレタルモイ九三四番イ九二〇番ハ字圖ニ地番ヲ記載セルノミニテ土地臺帳上缺番トナレリ (添付圖參照)

國有林野 林野臺帳

元來明治八年地租改正事務局制定ノ地租處分假規則第一章第三條ニ依レハ地主一人ノ地ト雖道路ヲ隔テタル地ハ各別ニ取調ヘ一筆トナスヘカラストアリ之ヲ本實例ニ對照セハ道路ヲ挾ミタル本個所ノ如キヲ一筆ニ調査スルノ謂レナキニ拘ラス改租圖ニ於テ一筆トナリ居ルハ改租圖ノ調製ヲ誤リタルモノニシテ地押調査ノ際イラ冠セル地番ハ改租當時ノ誤謬ヲ訂正シタルモノニシテ當時ノ脫落地ト認ムヘキモ改租當時ノ調査ノ根本ニ於テ誤謬ナキ限り之ヲ官有ト認ムヘキ理由ナキヲ以テ地押調査ノ際臺帳登錄ヲ洩ラシタルモノニシテ民有脫落地トシテ取扱フヲ穩當ナリト認メラル

(ロ)熊本縣球磨郡山江村大字萬江字下小森一二三一番ノ一本個所ハ改租當時圖面ニ示ス如ク一二三一番トシ當時ノ書證ニ依リ明カニ民有タルヲ認メ得ヘキモ地押調査ニ際シ實際ノ地目ニ從ヒ田地主ト原野トニ區別シ田地一二三一番ヲ附シ原野ト同番ノ一トシ田地ノミ土地臺帳ニ登錄原野ハ缺番トナリ居レリ(添付圖參照) 本件ハ地押調査ノ際臺帳ノ登錄ヲ洩シタルモノニシテ改租當時ノ調査ニ誤謬ヲ發見シ得ス且官沒地又ハ獻上地ノ類ニモ非サルヲ以テ民有地ノ登錄洩レトシテ取扱フヲ穩當ナリトシ思料セラル

同件

以上

(昭和四年營管國第一八四三號各稅務監督局長宛大藏次官通牒) 臺帳ニ登錄漏トナリタル國有脫落地ノ處理方ニ關シ今般農林省ト協議ノ結果左記各項ニ依リ之ヲ處理スルコトニ協定

三四四

相成候ニ付テハ今後其ノ趣旨ニ依リ處理相成度此段及通牒候也

- 一 脫落地ニシテ森林原野ノ狀態ヲナシ且ツ營林財產タル國有林野中ニ介在スルモノハ農林省ノ所管トシテ農林省所屬官廳ニ於テ之ヲ發見シ又ハ其ノ届出ヲ受ケタルトキハ直ニ國有林野臺帳ニ登錄シ大藏省所屬官廳ニ於テ之ヲ發見シ又ハ其ノ届出ヲ受ケタルトキハ所轄稅務監督局長ヨリ直ニ所轄營林局長ニ其ノ旨通知シ所轄營林局長ハ之ヲ國有林野臺帳ニ登錄スルモノトス
- 二 脫落地ニシテ森林、原野ノ狀態ヲナシ且ツ營林財產タル國有林野ニ接續スルモノニ付テハ
 - (1) 農林省所屬官廳ニ於テ發見シ又ハ其ノ届出ヲ受ケタルトキハ之ヲ營林財產ト爲スノ必要アリヤ否ヤヲ調査シ其ノ必要アリト認ムルモノニ付テハ所轄營林局長ハ右ニ關シ所轄稅務監督局長ト協議シテ所屬ヲ決定シ其ノ必要ナキモノハ大藏省ノ所管ニ屬スルモノトシテ其ノ旨所轄稅務監督局長ニ通知シ夫々臺帳ニ登錄スルモノトス
 - (2) 大藏省所屬官廳ニ於テ發見シ又ハ其ノ届出ヲ受ケタルトキハ所轄稅務監督局長ハ之ヲ營林財產ト爲スノ必要アリヤ否ヤニ關シ所轄營林局長ト協議シ其ノ必要アリト認メラルモノハ之ヲ農林省ノ所轄トシ否ラサルモノハ大藏省ノ所管トシテ夫々臺帳ニ登錄スルモノトス
- 三 脫落地ニシテ森林原野ノ狀態ヲナシ營林財產タル國有林野ニ近接セルモノニ付テハ前項ニ準シ取扱フモノトス

- 四 前三項ニ該當セサル脫落地ハ總テ大藏省ノ所管トシ臺帳ニ登錄スルモノトス
 - 五 營林局又ハ營林署ト稅務監督局又ハ稅務署トノ間ニ於テハ所管臺帳ノ閱覽其ノ他ニ付便宜ヲ圖ルモノトス
- (昭和四年七月二十五日林第三〇〇五號各營林局長宛農林次官通牒)
- 臺帳ニ登錄漏トナリタル國有脫落地ノ處理方ニ關シ今般大藏省ト協議ノ結果左記各項ニ依リ處理スルコトニ協定相成候ニ付テハ今後其ノ趣旨ニ依リ處理相成度此段及通牒候也
- 記
- 左記各項ハ右ト同文ニ付省略

脫落地處理ニ關スル件

十 登記

大林區署不動産登記方ノ件

明治二十二年十二月二十六日
農商務省訓令 第四十二號

各大林區署ニ於テ不動産^{地所家ノ類}ノ登記ヲ要スルトキハ某大林區署用トシテ其登記ヲ求ムヘシ

官林及官有山林原野賣買讓與
交換ノ際登記取扱方ノ件

明治二十五年十二月戊第一三六號

(府縣 神奈川、愛知、大林區署宛通知)
(山梨ヲ除ク)

官林及官有山林原野ヲ賣買讓與若クハ交換スルニ當リ登記取扱方ノ件ニ付當省大臣ヨリ司法大臣ヘ照會相成候處別紙寫ノ通り夫々訓令置候旨回答有之候此段及通知候也

(別紙)
司法省第刑四三號訓令

地方裁判所、區裁判所、登記所

官林及官有山林原野ノ賣買讓與若クハ交換ノ場合ニ於ケル登記取扱方左ノ通心得ヘシ

第一 官林及官有山林原野ノ賣買讓與若クハ交換ニ付官廳ヨリ登記ヲ求ムルニ當リ實測段別ト臺帳反別ヲ併記シタ

ルトキハ實測反別ニ依リ登記ヲ爲シ其側ニ臺帳反別ヲ附記シ土地臺帳所管廳ニ登記濟ノ通知ヲ爲スニモ臺帳反別ヲ附記スヘシ
第二 前項ノ場合ニ於テ其物件已ニ登記簿ニ登載シアルトキハ同時ニ變更ノ登記ヲ爲シ更ニ一件トシテ取扱フヘシ
第三 官有山林原野ノ賣買讓與若クハ交換ニ付キ登記ヲ求ムルニ當リ臺帳段別ノミヲ記載シタル場合ニ於テハ臺帳反別ニ依リ登記ヲナスヘシ
第四 官林ヲ民有トナシタルニ依リ登記ノ求メアリタル場合ニ於テハ山林トシテ登記ヲ爲シ官有山林原野ヲ民有ト爲シタルニ依リ登記ヲ求メ而シテ新舊地目ヲ併記シタル場合ニ於テハ新地目ニ依リ登記ヲ爲シ土地臺帳所管廳ニ登記ノ通知ヲ爲スニハ舊地目ヲ附記スヘシ

國有林野所有權ノ保存及移轉

登記囑託書書式ノ件

明治三十七年十一月
林發第三八八號通知

(別冊 一四)

國有林野ノ所有權移轉又ハ既登記若ハ未登記土地ノ國有ト爲リタル場合ニ於ケル取扱方ノ件

明治三十九年七月
山受第一〇九七號山林局長通牒

國有林野ノ所有權移轉又ハ既登記若ハ未登記土地ノ國有ト爲リタル場合ニ於テハ左記ノ通御取扱相成可然此段及通牒候也

追テ三二年十二月林發第五九六二號三三年六月發第二三八號三七年六月林發第一一五號同年七月山受第一〇四六號同年十一月林發第四八九號ノ一各通牒ハ消滅ノ義ニ付念爲申添候

記

一 既登記又ハ未登記ノ國有林野ノ所有權移轉(拂下、讓與、下渡ニ因ル)又ハ未登記土地ノ國有トナリタル場合ニ於テハ所轄大林區署ノ通知ニ依リ土地臺帳ニ登錄スヘキ義ナルヲ以テ遺漏ナク所轄稅務署ニ其通知ヲ爲スヘシ

二 國有林野ノ拂下、讓與、下渡ニ係ルモノニシテ未登記ノ土地ニ對シテハ土地臺帳ノ謄本ヲ下附セラレサル儀ニ付豫メ保存登記ヲ爲スニ非サレハ將來登記ヲ了スヘキ途ナキヲ以テ右所有權移轉ノ場合ニ在リテハ豫メ保存登記ヲ爲スヘシ從テ將來拂下、讓與、下渡ヲ要スル見込ノモノハ便宜上先ツ以テ保存登記ヲ爲シ置カレ差支ナシ

三 未登記土地ノ國有トナリタル場合ニ於テハ前項ノ如ク將來登記ヲ了シ能ハサルカ如キ虞ナシト雖速ニ移轉登記ヲ終了スヘシ

四 (既登記土地ノ國有トナリタル場合ニ於テモ速ニ登記スヘキハ勿論ナリ)
前項登記ヲ了シタル土地ニシテ官用地ニ充ツルモノナルトキハ實測圖ヲ添付シ官用地組替方上申スヘシ

(明治四十三年十一月
山發第八六七號通牒改正)

大林區署不動産登記方ノ件 國有林野ノ所有權移轉又ハ既登記若ハ未登記土地ノ國有ト爲リタル場合ニ於ケル取扱方ノ件 三四七

五 地番ナキ國有林野ノ所有權移轉ノ場合ニ於テハ所轄稅務署ニ請求シ地番ヲ附セシメ之ニ依リテ登記ヲ囑託スルモノトス
六 登記囑託ノ筆數ニ關シテハ年四回(三月、六月、九月、十二月)ニ前途三ヶ月間ニ於ケル登記囑託見込筆數ヲ郡市町村別ヲ以テ可成適實ニ調査シ豫メ當該地方裁判所ニ通知スヘシ

登錄稅收入印紙受拂簿設置ノ件

明治四十二年十一月
山發第九〇五號山林局長通牒

(別冊 一五)

國有地ヲ民有トスル場合登記方ノ件

大正元年十二月二十八日
會第五〇三號會計課長通牒

別紙大藏次官ノ照會ニ對シ内務次官ヨリ同省所管ノ分ハ可成來意ノ通可取扱旨回答相成候趣通知有之候條貴署ニ於テモ右旨趣ニ依リ取扱相成度依命此段及通牒候也

(別紙)
(大正元年十一月三十日往第一二四一六號照會)

國有地ノ取扱方ハ必シモ民有ト同一ナラサルニ依リ之カ民有ト爲リタルトキハ登記所ノ通知ハ土地臺帳ニ符合セサルコト有之右ノ場合ニ於テハ所有者ニ變更登記ヲ爲サシタルノ要有之官民ノ不便ヲ生スルニ依リ國有地ノ地目及地積ニシテ民有地ノ取扱方ト異ナルモノヲ民有ト爲ス

國有林野 登記

トキハ未登記ノ土地ハ民有地ノ取扱ニ準シ地目及地積ヲ定メ保存登記ヲ爲シ既登記ノ土地ハ未登記土地ノ例ニ依リ變更登記ヲ爲シタル上所有權移轉ノ登記ヲ爲スコトニ致度存候條御同意ノ上各省ニ御通牒相成候様致度此段及照會候也

未登記國有林野公共團體ニ拂下
箇所登記ニ關スル件

大正五年十二月二十八日
林第二四七九號山林局長通牒

(前掲一三四頁)

十一 統計報告

大林區署統計報告調製手續

明治三十年十二月十七日
農商務省訓令第三十四號
大林區署

第一章 總則

第一條 大林區署長ハ本手續ノ定ムル所ニ據リ統計報告ヲ精査調製シ各報告期迄ニ進達スヘシ
第二條 報告中面積、事業ノ實行、成績、被害、犯罪等ノ諸表ニハ前年度ト比較上増減ノ事由當年度ニ於ケル著名ノ記事ヲ大體ニ就テ説明シ又數字ノミニテハ意味ノ貫徹セサル事項ハ之ヲ備考ニ詳記スヘシ
第三條 各表中反別ハ歩ニ止メ(歩未滿切捨)木竹其他副産物ノ單位稱呼ハ明治二十四年四月戊第二一一號山林局長通達事業案編成手續ニ據ルヘシ
第四條 報告中掲載ノ事項ハ總テ當年度處分ニ屬スルモノニ限ル而シテ收入ニ屬スル處分ノ翌年度ニ繰越シ又ハ未收入トナル場合ハ左記ノ手續ヲ以テ報告スヘシ
報告書進達ノ後取消又ハ其他ノ事故ノ爲メ減額シ或ハ訂正増減ヲ要スヘキ場合或ハ前年度處分調定ノモノニシテ當年度ニ至リ實收入トナリ前年度又ハ前年度處分調定ノモノニシテ年度經過後決算期ニ至ルモ未收入ニシテ翌年度ニ繰越トナリシモノアルトキハ之ヲ附屬表トシ又ハ便宜表末ヘ事由ヲ付シテ別記シ報告期間ニ在テハ次期報告ノ際總括ニアツテハ同時ニ之ヲ報告スヘシ但總括進達後

大林區署統計報告調製手續

ニ至ツテ訂正ヲ要スヘキモノハ直チニ之ヲ追申スヘシ
第五條 面積ニ屬スル増減ハ本報告ヲ以テ國有林野臺帳ノ整理ヲ爲スカ故ニ編入ニ係ルモノハ臺帳及圖面其他ノ増減ハ圖面ヲ報告ニ添付スヘシ
但單ニ反別ノ増減ノミニ止マルモノハ圖面ノ添付ヲ要セ

第二章 面積

第六條 面積ニ屬スル表式ハ第一號ヨリ第十一號ニ至ルト一表トス其表中記載ノ概要ハ左ノ如シ
一 第一號 國有林別箇所面積 本表ニハ從來官林ノ名稱ヲ付セシ森林ノ現在面積ヲ記載スルモノニシテ表中保安林ノ欄ニハ從來保存林ノ名稱ヲ付セシ森林、供用林ノ欄ニハ從來供用林ノ名稱ヲ付セシ森林、部分林ノ欄ニハ明治十一年部分木仕付條例ニ據レル部分林ト慣行部分林トヲ包含セシムヘシ
國有林中ノ無立木地、荒廢地、伐採跡地ノ調ハ本表ニ準シ國名ノ下ニ種類別ノ欄ヲ設ケ別表ニ調製スヘシ
但本調ハ明治三十一年三月三十一日現在ヲ特ニ調査スルモノトス
二 第二號 保安林箇所面積 本表ニハ第一號表中保安林ノ類別ヲ記載スルモノニシテ類別ハ表式中記載ノ分類ニ依ルヘシ
三 第三號 部分林箇所面積 本表ニハ第一號表中部分林ノ部分別ヲ記載スヘシ
但慣行部分木即チ賣分山取分山衆力山等ハ各別行ニ記載スヘシ
四 第四號 上地林箇所面積及委託 本表ニハ舊社寺上地

林ノ箇所面積ト社寺上地林委託規則ニ依リ社寺へ委託セル森林トヲ記載スヘシ

第五號編入 本表ニハ他ノ官有地ヨリ編入又ハ民有地ヲ買入交換等ニ依リ國有林ニ編入セシモノヲ記載スヘシ而シテ買入ニ係ルモノハ地價評定價格、代價、交換ニ係ルモノハ評定價格ヲ記載シ他ノ官有地ヨリ編入シタルモノニシテ價格ナキモノハ其欄ニ一線ヲ畫スヘシ又保安林ニ編入セルモノハ直接損害價格ヲ掲クヘシ

第六號訂正増 本表ニハ實査又ハ誤記訂正等ノ爲面積ニ異動増ヲ生シタル者ヲ記載スヘシ

第七號增加總括 本表ニハ第五項ヨリ第六項ニ至ル諸表ノ一箇年度分ヲ總括シテ記載スヘシ

第八號離權 本表ニハ賣拂、交換、讓與及民有ノ證左ニ依リ民地ニ引戻セシモノ等ノ爲離權セシモノヲ記載スヘシ

但賣拂ニハ最低賣價、賣拂代價、交換ニハ評定價格、讓與ニハ見込價格ヲ記入シ契約上特別條件アルモノハ備考ニ之ヲ詳記スヘシ

第九號組替 本表ニハ國有林ヨリ他ノ官有地へ組替ヘシモノヲ記載スヘシ

第十號訂正減 本表ニハ實査又ハ誤記訂正等ノ爲土地ニ異動減ヲ生シタルモノヲ記載スヘシ

第十一號減少總括 本表ニハ第八項ヨリ第十項ニ至ル諸表ノ一箇年度分ヲ總括シテ記載スヘシ

第七條 面積ノ現在又ハ異動總括ニ在テハ全面積ヨリ分裂セシ箇數ヲ括弧ヲ付シテ箇所數ノ上行ニ記載スヘシ

第八條 第六條第五項ヨリ第十一項ニ屬スル諸表ハ保安林、供用林、部分林トモ各別表ニ調製スヘシ

第三章 事業

第九條 事業ニ屬スル表式ハ第十二號ヨリ第二十三號ニ至ル十二表トス其表中記載ノ概要ハ左ノ如シ

第十二號主產物賣拂 本表ニハ國有林ニ於ケル主產物ノ賣却處分ヲ了セルモノヲ記載スヘシ其記載方ハ左ノ如シ

大口取ハ喬林、矮林、竹林、雜、合計ノ五口ニ別チ喬林、矮林ニハ樹種竹林ニハ竹種ヲ明記シ雜ニハ枝條及蘆朶、根株、被害木、被害竹、障木、危險木等ヲ各分類シ合計ニハ以上四口ヲ類別シテ計ヲ掲ケ豫算内外ハ一筆毎ニ記入シ總計ノ次ニ豫算内外別、公特賣別、作業別ヲ掲ケ總括ニハ其類別ノ累計ヲ掲ケヘシ

第十三號副產物賣拂 本表ニハ國有林ニ於ケル副產物ノ賣却處分ヲ了セルモノヲ記載スルモノニシテ其記載方ハ左ノ如シ

副產物ノ種類別ハ事業案編製手續ニ定メタル類別ニ依リ總計ノ次ニハ豫算内外、公特賣別ヲ掲ケ總括ニハ其類別ノ累計ヲ掲ケヘシ而シテ副產物種類中ニ包含セルモノノ内特ニ地方ニ著名ノ產物又ハ收入金額ノ多キモノハ(假令(草葉中ニ包)含セル(草葉中ニ包)等)適宜抜擢シテ其名稱及代價ヲ備考ニ記入スヘシ

第十四號有料貸地 本表ニハ料金を徴收シ國有林ヲ貸與セルモノヲ記載スヘシ而シテ其類別ハ事業案編成手續ニ依リ總計ノ次ニ豫算内外ノ區別ヲ掲ケ總括ニハ其類別ノ累計ヲ掲ケヘシ

四 第十五號官行造林

本表ニハ官行事業ノ狀況ヲ詳記スヘシ而シテ製表ヲ別ツテ左ノ二表トス

(イ)官行造林事業實行 本表ニハ當年度内官行造林事業實行ノ經過ヲ事業箇所別ニ資材、製品ノ賣却、亡失、賣拂未済及當年度末ノ未製品ヲ區分シ之ニ要セシ經費ヲ各別ニ分配シテ記載スヘシ其詳細ノ記載方ハ本表式ノ備考ニ依リヘシ

(ロ)官行造林事業成績 本表ニハ官行造林事業ノ完了セシモノヲ事業箇所別ニ資材、製品及之ニ要セシ經費、差引損益ヲ記載スヘシ其詳細ノ記載方ハ本表式ノ備考ニ依リヘシ本表經費ノ細別ハ附屬表トシテ支出ノ事項別ニ逐次欄ヲ設ケテ明細ニ記載スヘシ

第十六號部分木分配 本表ニハ部分木仕付條例ニ據リ部分木ノ分配ヲ實行セルモノヲ記載スヘシ而シテ木ヲ以テ分配セルモノハ見積價格ヲ付シ金額ヲ以テ分配セルモノハ實收金額ヲ掲ケ各別ニ口取ヲ設ケヘシ

第十七號府縣別收入 本表ニハ現計額ヲ根據トシテ調製スヘシ

第十八號無料貸地 本表ニハ公共用又ハ森林經濟上ノ爲無料貸渡セシモノノ現在面積及其年度間ノ増減ヲ記載スヘシ

第十九號產物無料採取 本表ニハ造林手入又ハ森林保護ノ爲森林所在地ノ人民ニ無料採取ヲ許可セシ產物及見積價格ヲ記載スヘシ

第二十號造林實行 本表ヲ分チテ左ノ三表トス

(イ)新植及手入 本表ニハ當年度内新植及手入事業ヲ

實行セシモノヲ掲クヘシ而シテ人工植栽ニ係ル手入ト天然下種ニ係ル手入ヲ各區分スヘシ

養成苗木ノ數量、價格(朱書)ハ購入ノ分ト區別シテ△印ヲ數字ノ冒頭ニ記入スヘシ

新植、補植ノ欄官設苗圃ノ養成苗木、天然生苗木等ノ數量、價格(實費)ハ朱書シテ購入ノモノト區分スヘシ

手入ノ内植換ノモノアラハ補植ノ別行ニ記載スヘシ

(ロ)苗圃 本表ニハ當年度内ニ苗圃へ播種及床替ヲ實行セシモノヲ樹種別ニ記載スヘシ而シテ播種ノ手入ト床替ノ手入トヲ各區分スヘシ

購入又ハ山地ヨリ一時苗圃ニ移植スルモノハ床替ノ欄ニ記入スヘシ

苗圃ノ播種ニ於テ採取種子ノ數量、價格(實費)挿植ノ數量、價格(實費)ハ朱書シテ購入ノモノト區分スヘシ

(ハ)土工 本表ニハ土工ニ關スル事項ヲ記載スヘシ而シテ表中何々トアル欄ニハ砂防、堤防、溝渠等ヲ各名稱ヲ設ケテ列記スヘシ

右三表中事業上ノ都合ニ依リ前年度購入ノ物(苗木等)ヲハ當年度ニ繰越シテ使用セシモノアラハ數量及其買入價格ハ朱書シ當年度ニ於テ支拂ヒセシ金額ハ墨書スヘシ其當年度ニ購入セシモノハ次年度ニ繰越ス場合ニハ數量ヲ墨書シ金額ヲ朱書シ其事由ヲ備考ニ記載スヘシ

其年度ノ豫算ニシテ實行シ能ハサル箇所並其年度ノ豫算ニシテ翌年度へ繰越スヘキ箇所ハ其小林區名、豫算

記入番號、事業目的、目的細則(採伐跡地)、樹種、面積、數量、經費ニ別チ備考欄ヲ設ケ各別表ヲ調製シ造林實行表ノ附屬表トシテ同時ニ進達スヘシ

十 第二十一號苗木栽培成績 本表ニハ苗木栽培事業ノ完了セシモノヲ小林區別、樹種別ニ掲載スヘシ即チ當年度末ニ於ケル現況ヲ調査シ完了ト認メタル分ハ著手年度ニ溯テ之ヲ記載スヘシ而シテ苗木ノ枯損歩合ハ發生苗數ヲ基本トシテ算出スヘシ購入又ハ一時養成ノ爲山地ヨリ苗圃ニ假植セシモノノ成績ハ床替ノ欄ニ記載シ備考ニ之ヲ説明スヘシ

二 回床替以上ハ順次其欄ヲ増設シテ列記スヘシ採取種子ノ數量、價格(實費) 挿植ノ數量、價格(實費)等ハ朱書シテ購入ノモノト區別スヘシ

表中經費ノ欄ニハ肥料、器具等ヲ記載スヘシ

苗圃箇所ハ播種ト床替ト同一苗圃ニ於テ施行スルトキハ床替ノ箇所ハ記入スヘカラス

十一 第二十二號植栽成績 本表ニハ造林實行ノ結果造林ノ完了セシモノノ成績ヲ掲クヘシ故ニ新植、補植、手入トモ各年ヲ通シテ記載スルモノトス

苗木ノ内購入ニ係ルモノニシテ苗木價格ト運搬ト混算アルモノハ苗木價格ノ部ニ記入シ備考ニ之ヲ説明スヘシ

雜費ノ欄ハ種苗購買費、雇人料ノ外ニ要セシ經費ヲ記載スヘシ

枯損部合ハ天然火災、其他雜損ノモノヲ各部合別ニスヘシ而シテ此ノ類別ノ外他ニ著シキ部合ヲ占ムルモノアル場合ニハ名稱ヲ付シテ部合ヲ算出スヘシ

植栽ノ内天然下種ノ成績ハ補植ノ部ニ在ラズテハ補植

ノ欄ヨリ始メ(補植ハ補植ノ欄)、手入ニ止ルモノハ手入ノミ記載シ備考ニ之ヲ説明スヘシ

苗圃養成苗木、天然生苗木ノ數量、價格(實費)ハ朱書シテ購入ノモノト區別スヘシ

十二 第二十三號苗圃 本表ニハ苗木養成ノ爲使用スル苗圃ノ年度末現況ヲ現ハスヘシ又當年度間ニ使用セサル苗圃アラハ其旨備考ニ説明スヘシ

第十條 第九條中第一項主產物賣拂表ハ當該様式ニ準シ保安林、供用林、部分林、合計ヲ各別表ニ調製スヘシ又主產物ノ特賣ニ係ルモノハ其特賣ノ事由別ニ各口取ヲ設ケ種類、數量、金額ヲ區分セル附屬表ヲ調製スヘシ

第二項、第三項、第七項、第八項、第九項ノ(イ)(ハ)ノ諸表ハ保安林、供用林、合計ヲ大口取トシテ記載シ且第十一項ハ保安林、供用林、合計各別表ニ調製スヘシ

第四章 被害及犯罪

第十一條 被害及犯罪ニ屬スル表式ハ第二十四號ヨリ第二十九號ニ至ル六表トス其表中記載ノ概要ハ左ノ如シ

一 第二十四號被害 本表ニハ國有林ノ被害即チ風害、蟲害、水害、火災、盜伐、誤伐等ヲ細大漏サス掲載スヘシ

表中原品ノ價格ハ被害木竹、副產物等ノ原材積、數量ニ對スル價格ヲ記載シ、被害見積價格ハ直接損害ニ對スル見積價格ヲ記載シ現ニ存在セル被害ノ木竹又ハ副產物等ノ價格ハ現存價格ノ欄ニ記載スヘシ前年度被害ノ當年度ニ發見セシモノハ朱書スヘシ

被害慘狀ノ猛烈又ハ價格ノ多額ナルモノハ其小林區名、森林名、災別、被害面積、數量、被害見積價格及其狀況等ヲ説明シテ附屬表トスヘシ

二 第二十五號森林犯罪事故別 本表ニハ國有林ニ對スル犯罪者ヲ逮捕又ハ告訴、告發等ノ手續ヲ爲セルモノヲ記載スヘシ

表中其他ノ發見欄ニハ風聞又ハ森林内巡回ノ際其證據ヲ發見シタルモノ等ヲ記載スヘシ

前年度未決事件ニシテ法廷審理ノ結果又ハ當年度ニ於テ前年度關連ノ犯罪者ヲ發見シタル場合ニハ前年度ニ起リシ事件ニシテ前項ト同様ナルモノハ當年度ノ欄ニ(現行犯、告訴、告發、其他ノ發見)等括弧ヲ付シテ記載スヘシ

犯罪ノ件數ニシテ犯人不明ノモノハ總テ別行ニ記載スヘシ

三 第二十六號森林犯罪處分別 本表ニハ森林犯罪事件ノ裁判所ニ於テ處分結了セシモノヲ記載スヘシ

一 事件共犯ニ涉ルモノノ内 當年度ノ末ニ至リ裁判確定ノモノト未決ノモノトアルトキハ確定ノモノハ其件數ヲ處分名ノ欄ニ朱書シ未決ノモノハ確定ノモノハ其犯罪ノ件數ノミニテ犯人不明ノモノハ別行ニ記載スヘシ

四 第二十七號賠償 本表ニハ當年度間賠償處分ヲ實行セシモノヲ記載スヘシ

五 第二十八號辨償 前項賠償ノ表式ニ準スヘシ

但本表ニハ私訴要求ノ欄ヲ省クヘシ

第十二條 第十一條第一項ヨリ第三項ニ至ル三表ハ大口取ヲ保安林、供用林、合計ノ三口ニ區分シ第四項ヨリ第五項ニ至ル二表ハ保安林、供用林、合計ヲ別表ニ調製スヘシ

第五章 山林原野

大林區署統計報告調製手續

第十三條 從來府縣管理ノ山林原野ニシテ明治三十年十月本省訓令第二十七號ニ據リ大林區署所屬トナリシモノハ當分ノ内山林原野ヲ區分シ左ノ各表ヲ調製シテ進達スヘシ

但表中記載スヘキ事項ナキモノハ之ヲ省クヘシ

一 山林(原野)箇所面積 (本表以下八項ハ國有林ノ面積諸表ノ式ニ準スヘシ)

二 編入 (同斷)

三 訂正増 (同斷)

四 增加總括 (同斷)

五 離權 (同斷)

六 組替 (同斷)

七 訂正減 (同斷)

八 減少總括 (同斷)

九 主產物賣拂 (本表ハ國有林主產物賣拂表ニ準スヘシ)

十 副產物賣拂 (本表ハ國有林副產物賣拂表ニ準スヘシ)

十一 有料貸地 (本表ハ國有林有料貸地ニ準スヘシ)

十二 府縣區別收入 (本表ハ國有林府縣別收入ニ準スヘシ)

十三 無料貸地 (本表ハ國有林無料貸地表ニ準スヘシ)

十四 被害 (本表ハ國有林被害表ニ準スヘシ)

十五 賠償 (本表ハ國有林賠償表ニ準スヘシ)

國有林野 統計報告

十六 辨償

(本表ハ國有林辨償表ニ準スヘシ)

十七 拂下豫約貸地

本表ニハ山林原野ニ於ケル拂下豫約ノ貸地状況ヲ記載スルモノニシテ表式ハ左ノ二表トス(第二十九號表式)

- (イ) 拂下豫約貸地許可 本表ニハ當年度間拂下豫約ノ開墾ヲ許可セルモノヲ掲載スヘシ
(ロ) 拂下豫約貸地現況 本表ニハ當年度末ニ於ケル拂下豫約貸地ノ現況ヲ掲ケヘシ
而シテ當年度許可ノ欄ハ前表拂下豫約貸地表ト符合スルヲ要ス當年度除却ノ欄ハ離權表開墾成功賣拂ト符合スルヲ要ス但開墾未成功ニシテ返却ノモノアル場合ニハ本表除却ノ欄ニ合載ノ上拂下豫約貸地表ニ準シタル附屬表ヲ添付スヘシ

第六章 附則

- 第十四條 各表ニ定メタル事項ニシテ其期間報告スヘキ事項ナキトキハ其旨上申スヘシ
第十五條 製表用紙ハ厚質美濃ヲ用フ其寸法ハ横一尺三寸縦九寸トシ中央ニ六分乃至一寸ノ餘白ヲ存スヘシ
第十六條 報告書進達ノ際ハ目錄ヲ添フヘシ

大林區署統計報告様式

明治三十四年十一月二十日 農商務省訓令第二十七號

(別冊 一六)

林務報告例

明治四十二年十月 林第五四三三號訓令

(別冊 一七)

營林局統計書ノ改善ニ關スル件

昭和三年三月三十日 山第三八五號山林局長通牒

昭和二年十月開催ノ營林局林務課長事務打合會議ニ附議セラレタル營林局統計書ニ關スル件ニ付テハ今後左記ニ基キ御取扱相成様致度此段及通牒候也

- 一 營林局統計書ノ必須掲載事項別冊ノ様式ニ決定
二 營林局統計書ノ發刊期 毎會計年度終了ノ年ノ翌年一月ヨリ六月ニ至ル間ニ刊行スルコトニ決定
三 實施期 昭和三年度ノ事實ヨリ實行スルコトニ決定
(様式別冊 一八)

統計報告並統計書ニ改正度量衡法實施ノ件

昭和五年四月三十日 山第五二五號山林局長通牒

大正十三年十月二十日山第二〇三七號改正度量衡法實施ニ關スル件方針第五項中ノ統計報告並統計書ニ付テハ昭和四年年度分ノ事實ヨリ左記ニ依リ「メートル」法ヲ實施スルコトト相成候條右様御取扱相成度此段及通牒候也

一 營林局統計報告様式、國有林野一班掲載資料徴收ノ件其ノ他各種統計報告並統計書ニ定メアル從來ノ單位名稱ハ次ノ「メートル」法單位名稱ニ依ルコト

Table with columns for units: 度 (Length), 量 (Volume), 衡 (Weight). Includes terms like 町, 間, 坪, 方米, 立方メートル, etc.

統計數量換算ニ關スル件

昭和五年五月八日 山第五二五號山林局長通牒

四月三十日付山第五二五號ヲ以テ統計報告並統計書ニ改正度量衡法ヲ實施スルコト相成候結果從來ノ尺貫法單位ニ依レルモノニ付テハ此際メートル法單位ニ換算ヲ要シ候處該換算數値ハ極メテ煩雜ニシテ計算上桁數ヲ異ニスルニ因リ生スル差異ノ相當著シキ場合モ有之様被認候條統計報告並統計書ニ付テハ左記ニ依リ處理相成様致度此段申進候也

營林局統計書ノ改善ニ關スル件 統計報告並統計書ニ改正度量衡法實施ノ件

一 換算標準數値 町ヲヘクタールニ換算スル場合 〇、九一七三五五 坪ヲ平方米ニ 〇、三〇五八 間ヲ米ニ 一、八二八二八 尺ヲ米ニ 〇、三〇三〇三 材積石ヲ立方米ニ 〇、二七八二六五 棚ヲ層積立方米ニ 〇、二七三六四七 棚ヲ實積立方米ニ 一、九四七八五 三尺繩ヲ米東ニ 〇、八二四四六三 立坪ヲ立方米ニ 〇、一〇〇五五 升ヲ立ニ 一、八〇四 貫ヲ立ニ 三、七五

Table with columns for conversion: 換算標準數値, 乘數, 除數. Lists various units and their conversion factors.

事務取扱ニ關スル規則類報告ノ件

明治三十九年五月 林發第一四五號內訓

其ノ署ニ於テ當省令又ハ當省訓令ニ施行スル爲定ムル規程其ノ他總テ事務取扱ニ關シ定ムル規則手續ノ類ハ制定ノ都度遲滞ナク之ヲ報告スヘシ

國有林野下辰行政訴訟事件ニ關シ行政裁判所ヨリ直接書類圖簿等提出方照會相成タル場合ハ一應其内容ヲ審査スルノ必要有之義ニ付爾來必ス當局ヲ經由スルコトニ處理相成度且ツ其ノ旨所管各小林區署ヘモ内達方取計相成様致度

十三 被害

被害面積調査方ノ件

大正七年十二月七日
山第一九〇五號山林局長通牒

國有林野被害報告ノ被害面積ハ爾後左記ノ標準ニ依リ調査
揭上相成度此段及通牒候也
追テ造林地ニ係ル被害ノ苗木數、被害價額並枝條、根株
ノ被害數量、被害價額ハ用材、薪材ノ各欄ニ相當別記相
成度申添候

記

- 一 被害物件ノ所在相近接シ群狀若ハ團狀ヲ爲ス箇所ニ係
ルトキハ其ノ區域面積ヲ計算スルコト
- 二 被害物件點狀ニ散在スルトキハ其占領面積ヲ計算スル
コト
- 三 火災又ハ崩壞ノ被害ハ土地ノ素質ニ損害ナシト雖モ產
物ニ損害アリタル場合ハ被害區域ノ全面積ヲ計算スル
コト

水災被害報告ノ際木材流散ノ爲メ 生セル被害程度ヲモ報告方ノ件

大正二年九月八日
林第三五五一號山林局長通牒

暴風雨等ニ原因シ官行斫伐材其ノ他ノ貯材流散スルモノ近
被害面積調査方ノ件

來著ルシク増加致候ニ付テハ自然右木材流散ノ爲メ河川沿
岸ノ公私有地若クハ諸建設物ヲ損壞スルモノ多少有之ヘク
認メラレ候間自今水災被害報告ノ際ハ公私有地又ハ建設物
ノ被害程度ヲ併テ報告相成様致度此段及通牒候也
追テ右報告ノ際公私有地其他ノ建設物ニ損害ヲ與ヘタル
モノ無之場合ニ於テハ其ノ旨附記相成度爲念申添候也

第三編

公有林野官行造林

十三 海苔

海苔の調査大凡科

海苔は、藻類の一種で、食用に供する。日本には、古くから栽培されてきた。海苔の栽培は、海苔の種苗を採取し、それを海苔の苗床で育て、その後、海苔の苗を海苔の栽培地に移植する。海苔の栽培は、海苔の種苗の採取、苗床の管理、移植、収穫の順に進む。海苔の栽培は、海苔の種苗の採取、苗床の管理、移植、収穫の順に進む。海苔の栽培は、海苔の種苗の採取、苗床の管理、移植、収穫の順に進む。

海苔の栽培は、海苔の種苗の採取、苗床の管理、移植、収穫の順に進む。海苔の栽培は、海苔の種苗の採取、苗床の管理、移植、収穫の順に進む。海苔の栽培は、海苔の種苗の採取、苗床の管理、移植、収穫の順に進む。

第三編 公有林野官行造林

目次

- 公有林野官行造林法……………(大正九、法七)……………三六七
- 公有林野官行造林法施行令……………(大正九、勅四三六)……………三六七
- 公有林野官行造林法施行規則……………(大正九、農令三三)……………三六八
- 公有林野官行造林法施行手續……………(大正九、農訓九)……………三七〇
- 公有林野官行造林地ニ森林法ヲ適用スルノ件……………(大正九、農令三三)……………三七〇
- 公有林野官行造林事務取扱ニ關スル件……………(大正九、林三〇二通牒)……………三七一
- 公有林野官行造林地ノ森林組合地區編入ニ關スル件……………(大正二〇、山三二八回答)……………三七四
- 公有林野官行造林法施行規則第一條ノ取扱方ノ件……………(大正二〇、山二八八回答)……………三七五
- 公有林野官行造林事務打合會質疑事項……………(大正十四年四月大林區署長會議ノ際、山林局應答)……………三七五
- 公有林野官行造林課長會議ニ於テ採擇セラレタル事項ニ關スル件……………(大正二一、山三三三通牒)……………三七七
- 公有林野官行造林豫定地調ノ件……………三七七

第三編 公有林野官行造林 目次

- 公有林野官行造林豫定地選定ニ關スル件……………(大正九、山一四三三通牒)……………三六一
- 公有林野官行造林契約面積千町歩以上ノ場合打合ヲ要セザル件……………(大正二〇、山三〇八八通牒)……………三六一
- 公有林野官行造林豫定地選定ニ關スル件……………(大正二一、山二〇八四通牒)……………三六二
- 公有林野官行造林契約書案ニ關スル件……………(大正二〇、山三〇九〇回答)……………三六三
- 公有林野官行造林契約締結伺ノ件……………(大正九、山一九六六通牒)……………三六三
- 公有林野官行造林契約締結稟伺書ニ一町步當造林費及概算總額記載ノ件……………(大正二一、山二五九通牒)……………三六四
- 公有林野官行造林契約締結稟伺書添附圖面ニ關スル件……………(大正二四、九、七號外)……………三六五
- 同件……………(大正二四、一三、四回答)……………三六五
- 公有林野官行造林地追加及契約變更書案ニ關スル件……………(大正二一、山二五九通牒)……………三六五
- 公有林野官行造林契約解除又ハ變更契約ニ關シ報告方ノ件……………(昭和九、山二八六六通牒)……………三六六
- 公有林野官行造林地選定標準改正ニ關スル件……………(大正二五、林一〇六五通牒)……………三六七

三六三

第三編 公有林野官行造林 目次

○公有林野官行造林契約ヲ締結スベキ公有林野官ガ
數町村共有若ハ町村組合有ノモノニ係ルトキ處
理方ノ件……………(大正二、山三六通牒)…三六七

○公有林野官行造林豫定地中ノ市町村收益ノ幾部
ヲ部落又ハ部落民ニ分與スルノ定アルモノノ取
扱ニ關スル件……………(大正二、林九五通牒)…三六八

○同 件……………(大正二、林三七六通牒)…三六八

○同 件……………(大正二、林八四通牒)…三六八

○公有林野官行造林地分收歩合決定標準
(大正九年八月山林局ニ於テ公有林野官行)
造林事務協議會開催ノ際同局ヨリ提示……………三六九

○公有林野官行造林分收歩合算定中營業費ニ關ス
ル件……………(大正二、山一四二通牒)…三九〇

○櫟分收歩合計算法ニ關スル件……………(大正二、一三、二六號外)…三九〇

○公有林野官行造林契約ニ於ケル櫟分收歩合ノ標
準ニ關スル件……………(大正二、林九七通牒)…三九一

○公有林野官行造林法ニ依ル造林地ノ地上權登記
囑託書様式制定ノ件……………(大正九、山二九〇通牒)…三九五

○公有林野官行造林地地上權登記囑託書ニ關スル
件……………(大正二、山一五〇六通牒)…三九五

○公有林野官行造林法ニ依ル地上權登記囑託書添
件……………(大正二、林四六通牒)…四〇一

三六四

附書類ニ關スル件……………(大正二、山三三四通牒)…三九六

○公有林野官行造林法ニ依ル地上權設定登記囑託
ニ關スル件……………(大正二、山二〇四通牒)…三九六

○公有林野官行造林地地上權登記ニ關スル件
(大正四、山一六五通牒)……………三九八

○公有林野官行造林地地上權設定件數面積報告ノ
件……………(昭和三、山一九九通牒)…三九八

○公有林野官行造林豫定案中施業準備記載方ノ件
(大正二、山三二通牒)……………三九九

○公有林野官行造林土木豫定案及同總括表調製方
ノ件……………(大正二、山一八六通牒)…三九九

○大正十二年度以降植栽面積低減ノ件
(大正二、山一八〇三通牒)……………三九九

○公有林野官行造林案圖簿表謄本提出ニ關スル件
(大正二、林三六八五通牒)……………四〇〇

○公有林野官行造林實行簿記載方ニ關スル件
(大正二、山三六六通牒)……………四〇〇

○公有林野官行造林實行總括表調製ニ關スル件
(昭和九、山二七九通牒)……………四〇〇

○公有林野官行造林年度別植栽計畫表調製方ノ件
(大正二、山一八六通牒)……………四〇一

○公有林野官行造林苗圃事業實行ニ關スル件
(大正二、林四六通牒)……………四〇一

○公有林野官行造林簡易道路ニ關スル件
(昭和八、山一七〇通牒)……………四〇一

○公有林野官行造林簡易道路ノ實行ニ關スル件
(昭和九、山二七九通牒)……………四〇二

○枯損報告ノ様式ニ關スル件(大正二、山二〇三通牒)……………四〇二

○公有林野官行造林施業計畫ニ關スル件
(大正二〇、山一四六六通牒)……………四〇三

○公有林野官行造林地ノ施業計畫ニ關スル件
(大正三、山八六〇通牒)……………四〇四

○公有林野官行造林臺帳様式改正ノ件
(大正二、林四〇四通牒)……………四〇四

○公有林野官行造林臺帳様式記載例
(大正二、山三二四六通牒)……………四〇五

○公有林野官行造林地公租免除ニ關スル件
(大正二、山六八通牒)……………四〇五

○公有林野官行造林條例ニ關スル件
(昭和六、山四四通牒)……………四〇五

○公有林野官行造林事務ニ從事スル府縣駐在員ニ
關スル件……………(大正九、秘親六〇七)…四〇七

○同 件……………(大正二五、山一〇四七通牒)…四〇七

○公有林野官行造林地ノ境界標建設ニ關スル件
(大正二五、山一〇四七通牒)……………四〇七

第三編 公有林野官行造林 目次

第三編 公有林野官行造林

公有林野官行造林法

大正九年七月二十七日
法律第七號

公有林野官行造林法

第一條 國ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ公共團體トノ契約ニ基キ收益ヲ分收スルノ條件ヲ以テ公有林野ニ造林ヲ爲スコトヲ得

第二條 前條ノ規定ニ依ル造林ニ係ル樹木ハ國ト公共團體トノ共有トシ其ノ持分ハ收益分收ノ歩合ニ均シキモノトス

第三條 第二百五十六條ノ規定ハ前項ノ樹木ニ付之ヲ適用セ

第三條 國ハ第一條ノ規定ニ依リ造林ヲ爲ス公有林野ニ同條ノ契約ノ存續期間中地上權ヲ有ス

第四條 公共團體ハ第一條ノ規定ニ依リ造林ヲ爲ス公有林野ニハ第二條ノ規定ニ依ル持分ヲ處分スル場合ニ於テハ國ノ承認ヲ受クヘシ

第五條 第一條ノ規定ニ依リ造林ヲ爲ス公有林野ノ產物ニ關スル權利ニシテ國ニ屬スルモノハ勅令ノ定ムル所ニ依リ當該公共團體ニ之ヲ讓與スルコトヲ得

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正九年九月勅令第四百二十五號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行）

公有林野官行造林法 公有林野官行造林法施行令

公有林野官行造林法施行令

大正九年九月二十五日
勅令第四百二十六號

公有林野官行造林法施行令

第一條 國ハ造林地ノ植樹、補植、手入、防火線ノ設置其ノ他造林ニ必要ナル行爲ヲ爲ス

第二條 公共團體ハ造林地保護ノ爲左ノ事項ヲ行フノ義務ヲ負フ

- 一 火災ノ豫防及消防
- 二 盜伐、誤伐、侵墾其ノ他ノ加害行爲ノ豫防及防止
- 三 有害鳥獸ノ驅除
- 四 境界標其ノ他ノ標識ノ保存
- 五 大林區署長ノ指定ニ依リ看守人ヲ配置スルコト

第三條 公共團體ハ左ノ產物ヲ採取スルコトヲ得

- 一 下草、落葉及落枝
- 二 樹實及菌蕈ノ類
- 三 手入ノ爲伐除スル枝條ノ類
- 四 植樹後二十年內ニ於テ手入ノ爲伐採スル樹木

第四條 造林著手後天然ニ生シタル樹木ハ之ヲ造林契約ニ依リ造林ニ係ル樹木ト看做ス造林著手前ヨリ存スル樹木ニシテ造林ニ係ル樹木ト共ニ生育セシムルモノ亦同シ

第五條 根株ハ別段ノ契約アル場合ヲ除クノ外公共團體ノ所有トス

第六條 造林地ノ收益分收ノ歩合ハ國及公共團體各十分ノ五ヲ標準トシ地代、造林費其ノ他造林契約ノ實行ニ要スル費用ヲ參酌シテ之ヲ定ム

三六七

公有林野官行造林

- 一 注意
用紙西ノ内紙
帳ノ記入番號ヲ附シ、帳下圖面トノ對照ニ便ナラシムヘシ
- 二 本帳ハ一契約毎ニ之ヲ調製シ、大字、字、地番ニ以上ナルトキハ造林地所在欄ニハ何大字何字何番外何筆ト記載シ、裏面内譯欄ニ之ヲ列記スヘシ、但シ實測面積ハ園地毎ニ合併記入スヘシ

郡(市)村(町)	大字	字	地	番	臺帳面積	實測面積

公有林野官行造林法施行手續

大正九年十月一日 農商務省訓令第九號

(改正) 大正十三年十月農商務省訓令第八號
公有林野官行造林法施行手續ノ通定ム
公有林野官行造林法施行手續
第一條 大林區署長造林契約ヲ締結セムトスルトキハ面積、植栽豫定樹種、植栽豫定期間、存續期間及收益分收ノ歩合ヲ具シテ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
造林契約ヲ締結シタルトキハ大林區署長ハ之ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

公有林野官行造林地ニ付森林法ヲ適用スルノ件

大正九年九月三十日 農商務省令第三十三號

公有林野官行造林法ニ依ル造林地ニ付テハ森林法第十八條第二項及國ト樹木ヲ共有スル者ノ持分ノ限度ニ於テ森林法第二十八條乃至第三十條ノ規定ヲ適用スルノ外森林法中國有林ニ關スル規定ヲ適用ス

附則
本令ハ公有林野官行造林法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(大正九年十月一日ヨリ施行)

公有林野官行造林事務取扱ニ關スル件

大正九年十一月四日 林第三一〇一號

各府縣知事宛山林局長通牒
今般公有林野官行造林法施行相成候處右官行造林ノ施行ハ公有林野ノ統一、入會整理、管理區分、財產監督等諸般ノ事項ニ於テ貴官主掌ノ事務ト至大ノ關係有之候條之カ施行ニ關シテハ大林區署長ト遺憾ナキ協定ヲ遂ケ其ノ目的ヲ達成スルニ努メラレ度尙貴廳主管ノ事項ニ付テハ大體左記各事項ニ依リ處理相成度依命此段及通牒候也
追テ本件實行ニ關シテハ大林區署長ニ別紙ノ通牒致置候條右御參照相成度申添候也(別紙ハ後出大林區署長宛通牒ノ通)

- 一 官行造林ハ市町村有又ハ其ノ組合有林野ニシテ入會ノ關係整理セラレ、管理區分確定シタルモノニ付實行スル方針ニ付部落有林野ノ統一、入會ノ整理及管理區分ニ付テハ一層其ノ促進ニ努ムルコト
- 二 公有林野官行造林地ニ關シテハ森林法中管林監督ノ規定ニ依リ定メタル施業案又ハ施業要領等ハ造林契約カ效力ヲ生シタル日ヨリ消滅スルモノトシテ取扱フコト

公有林野官行造林法施行手續 公有林野官行造林地ニ付森林法ヲ適用スルノ件 三七一

- 三 造林地ノ施業計畫ハ貴官ニ協議ノ上大林區署長ニ於テ決定スルコト
- 四 造林地ノ選定ニ關シテハ別紙大林區署長宛通牒ニ掲ケル標準ニ依ルコト
- 五 造林地又ハ樹木ノ持分ノ處分ハ公有林野官行造林法ノ精神ニ鑑ミ公有林野ノ管理經營上萬已ムヲ得サル場合ノ外之ヲ承認セサル方針ナリ假令已ムヲ得サル事由ニ因リ右讓渡ヲ承認シタル場合ト雖林地保護ノ義務及產物採取ノ權利ハ依然地元の市町村ニ存續セシムルコト造林地ノ管理上最モ必要ナル事柄ナルヲ以テ造林地又ハ樹木ノ持分ノ處分ニ付テハ右趣旨ヲ貫徹スル方針ヲ採ルコト

大林區署長宛山林局長通牒

公有林野官行造林法施行相成候ニ付テハ左記各項ニ依リ處理相成度依命此段及通牒候也
追テ本件實行ニ關シテ地方長官ニ別紙ノ通牒致置候條右御合ノ上地方長官ト遺憾ナキ協定ヲ遂ケル様致度申添候也(別紙ハ前掲地方長官宛通牒ノ通)

- 一 造林地選定ノ標準ハ別紙第一號ニ依ルコト
- 二 造林契約ノ條項ハ大體別紙第二號ニ依ルコト
- 三 造林地又ハ樹木ノ持分ノ處分ハ之ヲ承認セサル原則トシ公有林野ノ管理經營上萬已ムヲ得サル場合ニ限リ本局ニ打合ノ上承認スルコト此ノ場合ニ於テ造林地保護ノ義務及產物採取ノ權利ハ依然市町村ニ存置セシムル方針ニ依ルコト
- 四 施業計畫ニ關シテハ左ノ通取扱フコト

公有林野官行造林

- イ 施業計畫書ハ公有林野官行造林案(以下單ニ官行)ト稱シ先以テ別紙第三號様式ニ依ル造林基案及第四號ニ依ル官行造林案說明書ヲ調製スルコト
- ロ 造林地ノ研伐ニ關スル計畫ハ此際編成スルニ及ハス將來收入開伐期ノ到來ニ際シ研伐基案(様式ハ追テ之ヲ定ム)ヲ調製スルコト
- ハ 造林基案ノ第一次檢訂ハ右研伐基案ノ編成ト同時ニ行フコト但シ施業計畫ニ著シキ變更ヲ加フルノ要アルトキハ臨時檢訂ヲ施行スルコト
- ニ 造林地ニ對シテハ基本圖及林相圖ニ代ヘ五千分ノ一ノ縮尺ヲ以テ公有林野官行造林圖ヲ作製スルコト、必要ナル場合ニハ位置圖ヲ添付スルコト
- ホ 造林地ニ對シテハ施業沿革史ノミヲ調製シ照査簿ヲ要セサルコト
- ヘ (大正一三年一月七日林第三八八五號山林局長依命通牒ニヨリ削除)
- ト 官行造林案編成及造林地測量ニ要スル經費ハ便宜造林豫定案ニ「施業準備」ノ一項ヲ附加シテ掲上スルコト
- 五 國有林野事業規程第七條ニ依リ總括表進達ノ場合ハ當分ノ内豫定案ヲ添付スルコト
- 六 造林基案ハ別紙第五號様式ニ依リ調製スルコト苗木養成臺帳ニ付テハ造林臺帳規程第二條第四號ヲ準用スルコト
- 七 公有林野官行造林署ノ處務ニ付テハ小林區署處務規程ヲ準用スルコト

- 公有林野官行造林地選定標準
- 公有林野官行造林地ノ選定ハ當分左記ノ標準ニ依ルコトトシ其ノ適用ニ關スル疑義ハ本局ニ打合ヲ要ス
- 一 選定スヘキ林野ノ種類ハ左ノ各號ニ該當スルモノタルコト
- イ 市町村又ハ其ノ組合ノ所有ニ屬スル林野ニシテ入會ノ慣行解消セラレ管理區分確定シタルモノ
- ロ 未タ入會整理管理區分ヲ完了セサル市町村有又ハ其ノ組合有林野ニシテ近キ將來ニ於テ其ノ完了ヲ見ルヘキモノ
- ハ 部落有林野ニシテ近キ將來ニ於テ市町村有ニ統一セラレ入會整理及管理區分ヲ了スヘキモノ
- ニ 選定ノ順序ハ無立木地多クシテ比較的市町村ノ資力乏シク官行造林ニ依ルニ非サレハ徹底的ニ其ノ造林ヲ達成シ難キ地方ヨリ順次造林ニ著手スルノ方針ヲ以テスルコト
- 三 面積ノ最低限ハ一市町村内ノ一團地見込五十町歩トスルコト但シ其附近ニ存在スル團地ニシテ經營上不便ナラサルモノハ便宜併合スルコトヲ得
- 四 造林地ハ從來ノ無立木地(散生地ニシテ疎密度二割ヲ超エサルモノ)ハ之ヲ無立木地ト看做ス)タルヘキコト團地ニ介在若ハ孕在シ又ハ之ニ接續スル立木地ニシテ操業上相互便宜トスルモノハ之ヲ造林地ニ併合スルコトヲ妨ケス
- 五 左ノ各項ニ該當スル箇所ハ之ヲ除外スルコト
- イ 保安林及治水其ノ他國土保安上重要ノ關係アリト認ムル箇所
- ロ 市町村ノ資力ヲ以テ造林シ得ヘキ箇所

- ハ 春梁地、隈笹類密生地、砂地、石礫地、荒廢地、過度ノ乾濕地其ノ他造林ノ容易ナラサル箇所
- ニ 隔絶散在在地、火災其ノ他ノ危害最モ甚シト認ムル箇所等管理保護ノ困難ナル箇所
- ホ 官行造林ヲ爲スニ於テハ當初其ノ林野ヲ賣拂ヒタル趣旨ト矛盾スル虞アル國有林野拂下箇所

第二號

公有林野官行造林契約案

國 郡市 町村大字 字 番

臺帳面積 (何外幾字何番外幾筆)

一 實測(見込)面積 何程

別紙圖面ノ通

植栽豫定期間 自 至 年間

伐採豫定期間 自 至 年間

收益分收ノ歩合 自 至 年間

存續期間 自 至 年間

(市町村ノ所有トシテ造林地ニ存置スル樹木ノ種類及本數但シ別紙圖面ノ通)

公有林野官行造林事務取扱ニ關スル件

- ヲ領收シ置クモノトス
- 一 造林地ノ施業計畫ハ國之ヲ定ムルコト
- 二 植栽豫定期間及伐採豫定期間ハ施業上ノ必要ニ因リ實行ニ多少延長又ハ短縮アルモ市町村ニ於テ異議ナキコト
- 三 造林地ノ諸稅ハ市町村ニ於テ之ヲ負擔スヘキコト
- 四 市町村又ハ其ノ住民造林地保護ノ義務履行ニ付當該官廳ノ指揮ニ從ハサルトキハ當該官廳ハ市町村ニ代リ必要ト認ムル事項ヲ施行シ其ノ費用ヲ市町村ヨリ徵收スルモ異議ナキコト
- 五 造林地ノ產物採取ニ付林區署ニ於テ期間ヲ定メタル場合ニ於テ市町村力其ノ期間内ニ產物ノ採取ヲ爲ササルトキハ其ノ權利ヲ拋棄シタルモノト看做サルルコトアルモ異議ナキコト
- 六 公有林野官行造林法施行令第十二條ノ規定ニ依リ大林區署長ニ於テ契約ヲ解除シタルトキハ第十三條ノ規定ニ依リ收益ノ分收又ハ第九條ノ規定ニ依リ分收ヲ爲スノ外市町村ハ國ニ對シ何等ノ補償ヲ請求セサルコト
- 七 將來公有林野官行造林法施行令又ハ公有林野官行造林法施行規則ノ改正アルトキハ市町村ハ之ヲ遵守スヘキコト
- 八 造林地ニ存在スル在來樹ハ當該官廳ノ指定スル期間内ニ之ヲ收去スヘキコト若之ヲ收去セサルトキハ拋棄シ
- 九 造林地ニ存在スル在來樹ハ當該官廳ノ指定スル期間内ニ之ヲ收去スヘキコト若之ヲ收去セサルトキハ拋棄シ